

司法 岡山地方裁判所登記管轄區域

- 倉敷 倉敷市、都窪郡の内 帶江村、菅生村、中洲村、児島郡の内 粒江村
- 笠岡 小田郡の内 笠岡町、金浦町、城見村、岡山村、大井村、吉田村、新山村、今井村、神島内村、淺口郡の内 大島村
- 神島外 小田郡の内 神島外村、北木島村、眞鍋島村、小田郡の内 矢掛町、北川村、小田町、堤村、美山村、宇戸村、美川村、三谷村、山田村、川面村、中川村
- 西江原 後月郡の内 井原町、西江原町、高屋町、出部村、縣主村、木之子村、荏原村、山野上村、書野村、芳井町、明治村(大字花瀬、片塚)
- 共和 小田郡の内 大江村、稻倉村、後月郡の内 共和村、三原村、明治村(大字佐屋、池谷、井山、種)
- 高梁 上房郡の内 高梁町、津川村、川面村、吉備郡の内 下倉村、水内村、日美村、富山村、大和村
- 有漢 川上郡の内 玉川村、高倉村、松原村(大字神原、落合村(大原、阿部、近河))
- 豊野 上房郡の内 有漢村、巨瀬村、上有漢村
- 中津井 上房郡の内 豊野村、上野村、下竹莊村、吉川村、上房郡の内 中津井村、中井村、上水田村、皆部町、水田村
- 成羽 川上郡の内 成羽町、富家村、日里村(大字明治)中村(大字長地、相坂、羽根、小泉、松原村(大字松岡、春木、大津寄)落合村(大字西門、河地))
- 手莊 川上郡の内 手莊村、大賀村、高山村、日里村(大字黒忠)
- 吹屋 川上郡の内 吹屋町、平川村、湯野村、宇治村、中村(大字布寄)

新見區

- 新見 阿哲郡の内 新見町、美段村、草間村、豐永村、熊谷村、萬歳村、本郷村、石蟹郷村、上市村(大字金谷)
- 刑部 阿哲郡の内 刑部町、丹治部村、上刑部村、菅生村、眞庭郡の内 富原村(大字若代、野、下岩、清谷、曲り、古呂々、尾中)
- 上市 阿哲郡の内 千屋村、新郷村、神代村、上市村(大字井村、坂本、西方)
- 矢神 阿哲郡の内 矢神村、野馳村、新砥村
- 津山 津山市、西田郡の内 一宮村、田島村、高野村、東西田村、高田村、東一宮村、高倉村、神庭村(大字草加部)
- 津山 勝田郡の内 河邊村
- 久田 久米郡の内 佐良山村
- 芳野 西田郡の内 大野村、芳野村、郷村、小田村、中谷村、香々美南村、香々美北村(大字百谷、眞經、大町、岩屋)
- 奥津 西田郡の内 久田村、富村、泉村
- 加茂 西田郡の内 加茂町、西加茂村、東加茂村、上加茂村、阿波村、神庭村(大字吉見、綾部、香々美北村(大字越畑))
- 勝間田 勝田郡の内 勝間田町、廣野村、植月村、豐國村、湯郷村、公文村、飯岡村、南和氣村、北和氣村、高取村、大崎村、勝加茂村(大字上野田、下野田)
- 廣戸 勝田郡の内 廣戸村、新野村、勝加茂村(大字勝加茂西上、勝加茂西中、橋、勝加茂西下、勝加茂原、勝加茂安井、勝加茂坂上)北吉野村(大字龍本、土町川、中島西、荒内西)豐田村(大字宮内是宗、成松、廣岡、豊澤、久常)

勝山區

- 勝田 勝田郡の内 勝田村、吉野村、古吉野村、豊田村、梶蓮村、北吉野村(大字中島東)豐田村(大字柿)英田郡の内 粟井村
- 林野 英田郡の内 林野町、粟廣村、豊田村、檜原村、福山村、河會村、福本村、巨勢村
- 江見 英田郡の内 江見町、吉備村、土居村
- 大原 英田郡の内 大原町、西粟倉村、東粟倉村、讀甘村、大野村、大吉村
- 弓削 久米郡の内 弓削町、吉岡村、加美村、稻岡南村、龍川村、龍山村、福渡町、神目村、大坪和村(大字境)鶴田村(大字三明寺)
- 倭文東 久米郡の内 倭文東村、大井西村、大井東村、大倭村、久米村、三保村、打穴村、倭文中村
- 西川 久米郡の内 西川村、倭文西村、坪和村、大坪和村(大字大坪和西、和田北、大坪和東、西山寺、角石祖母)
- 鶴田村(大字和田南、角石谷、角石畝)
- 勝山 眞庭郡の内 勝山町、富原村(大字月田本、岩井畝、岩井谷、上、若代畝、高田山上、後谷)
- 美甘 眞庭郡の内 美甘村、新庄村
- 落合 眞庭郡の内 落合町、美川村、木山村、津田村、川東村(大字西原、下見、田原、赤野、法界寺)
- 久世 眞庭郡の内 久世町、美和村、河田村、川東村(大字平松、古見、野川、大庭)
- 湯原 眞庭郡の内 湯原村、二川村、中和村(大字下和、眞加子、初和)
- 八束 眞庭郡の内 八束村、川上村、中和村、大字吉田(別所)

岡山地方裁判所管轄川上郡落合村大字原田、福地に屬する商業登記の事務は高梁區裁判所に於て

岡山地方裁判所管轄區域、犯罪種別

罪名	件数	人員	起訴	起訴猶豫	其他	計
公務執行妨害ノ罪	六	六	六	〇	〇	六
犯人隠匿ノ罪	二	二	二	〇	〇	二
強盗ノ罪	二	二	二	〇	〇	二
放火ノ罪	二	二	二	〇	〇	二
失火ノ罪	二	二	二	〇	〇	二
盗水ノ罪	九	九	九	〇	〇	九
往來ヲ妨害スル罪	九	九	九	〇	〇	九
住居ヲ侵スル罪	六	六	六	〇	〇	六
秘密ヲ侵スル罪	一	一	一	〇	〇	一
飲スル罪	一	一	一	〇	〇	一
通貨偽造ノ罪	一	一	一	〇	〇	一
文書偽造ノ罪	一	一	一	〇	〇	一
有價証券偽造ノ罪	一	一	一	〇	〇	一
印章偽造ノ罪	一	一	一	〇	〇	一
偽造ノ罪	一	一	一	〇	〇	一
誣告ノ罪	一	一	一	〇	〇	一

同區裁判所管轄川上郡松原村大字神原及同區裁判所吹屋出張所管轄川上郡中村大字布寄に屬する商業登記の事務は同區裁判所成羽出張所に於て取扱ふ

津山區裁判所加茂出張所管轄吉田郡神庭村大字吉見、綾部に屬する商業登記の事務は津山區裁判所に於て

同出張所管轄吉田郡香々美南村大字越畑に屬する商業登記の事務は津山區裁判所芳野出張所に於て取扱ふ

岡山區裁判所味野出張所管轄兒島郡莊内村大字白尾、福、長尾、廣岡に屬する商業登記の事務は同區裁判所甲浦出張所に於て取扱ふ

犯罪種別

玉島、笠岡、高梁、新見、津山、勝山各區裁判所檢事局が受理した九年中の刑法、特別法犯罪種別は次の通りである

司法—犯罪種別、訴訟種別

Table of crime and litigation types. Columns include categories like '殺人(除兇殺)の罪' (Murder), '強盗' (Robbery), '窃盗' (Theft), etc. Rows show counts for various years and sub-categories.

Table of litigation types (訴訟種別). Columns include '土地を目的とする訴訟' (Litigation for land), '人身を目的とする訴訟' (Litigation for person), '債権を目的とする訴訟' (Litigation for creditor's rights), etc.

Table of litigation types (訴訟種別) continued. Columns include '債権を目的とする訴訟' (Litigation for creditor's rights), '物收去' (Recovery of property), '買代' (Purchase), etc.

刑事訴訟事件表

Table of criminal litigation events. Columns include '岡山第一地方審判所' (Okazaki 1st District Court), '岡山第二地方審判所' (Okazaki 2nd District Court), '岡山地方審判所' (Okazaki District Court), etc. Rows show counts for various years and legal forms.

Table of criminal litigation events comparison (刑事訴訟事件比較表). Columns include '岡山第一地方審判所' (Okazaki 1st District Court), '岡山第二地方審判所' (Okazaki 2nd District Court), '岡山地方審判所' (Okazaki District Court), etc. Rows show counts for various years and legal forms.

備考: 岡山第一、第二地方審判所は昭和六年三月三十一日限り事務停止に依り各計上

Table showing criminal litigation and preliminary trial statistics for various districts (岡山, 津山, 高梁, etc.) from 1908 to 1910. Columns include district names, years, and counts for '舊受' (old cases) and '新受' (new cases).

Table titled '豫審事件表' (Preliminary Trial Cases Table) showing statistics for districts like 岡山, 津山, 高梁, etc., categorized by '現在' (current) and '年未' (year-end) cases.

九年 岡山地方 高梁支部 津山支部 計 備考 本表中被告人は各年新受事件に對するものを計上、本表中判事一人の取扱被告人は各該豫審判事二人以上の分に對しては各該豫審判事人員を異にせざるも此れを等分算出した、本表中昭和九年地方豫審判事實數を三人と記載せしむ事實は右員數の外津山區裁判所判事一名を同年七月より毎二回(三日間)補助

民事訴訟事件表

Table showing civil litigation statistics for districts like 岡山, 津山, 高梁, etc., from 1908 to 1910. Columns include district names, years, and counts for '舊受' (old cases) and '新受' (new cases).

Table titled '金銭債務臨時調停事件取調表' (Table of Temporary Mediation for Monetary Debts) showing statistics for districts like 岡山, 津山, 高梁, etc., categorized by '受調停' (mediated) and '未調停' (not mediated) cases.

區名	受理	既済	未済	調停成立條項の期限到来せるもの	成績良好のもの	成績不良のもの	調査未了のもの	計
玉島區	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
笠岡區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
高梁區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
新見區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
津山區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
勝山區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
計	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六

【備考】一、新見、勝山の兩區裁判所は昭和八年二月一日より事務再開始となりたるに付其後の事件を計上
一、本表中左側に記載せる数字は調停條項の期限到来もせるのの合計件数に對する歩合

自七年十月一日至九年十二月末日 金錢債務臨時調停事件調 (十年一月三十一日現在)

(岡山地方裁判所)

區名	受理	既済	未済	調停成立條項の期限到来せるもの	成績良好のもの	成績不良のもの	調査未了のもの	計
岡山區	一八〇	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三
玉島區	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
笠岡區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
高梁區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
新見區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
津山區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
勝山區	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
計	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六

【備考】一、新見、勝山の兩區裁判所は昭和八年二月一日より事務再開始となりたるに付其後の事件を計上

小作調停事件取調表

(岡山地方裁判所)

區別	年別	舊受	新受	既済	未済	調停成立	取下	計
岡山地方	七年	九	九	九	九	九	九	九
	八年	九	九	九	九	九	九	九
	九年	九	九	九	九	九	九	九
津山支部	七年	一	一	一	一	一	一	一
	八年	一	一	一	一	一	一	一
	九年	一	一	一	一	一	一	一
岡山區	七年	一	一	一	一	一	一	一
	八年	一	一	一	一	一	一	一
	九年	一	一	一	一	一	一	一
計	七年	九	九	九	九	九	九	九
	八年	九	九	九	九	九	九	九
	九年	九	九	九	九	九	九	九

小作調停事件比較表 (△印は減)

(岡山地方裁判所)

廳名	年別	舊受	新受	既済	未済	調停成立	取下	計
岡山	七年	三	三	三	三	三	三	三
	八年	三	三	三	三	三	三	三
	九年	三	三	三	三	三	三	三
地方	七年	九	九	九	九	九	九	九
	八年	九	九	九	九	九	九	九
	九年	九	九	九	九	九	九	九
計	七年	三	三	三	三	三	三	三
	八年	三	三	三	三	三	三	三
	九年	三	三	三	三	三	三	三

【備考】本表以外の他區裁判所には小作調停事件なし、本表は小作調停法實施以來の事件を計上、小作調停事件は天正十三年十二月一日實施せられたるも同年中は事件なく七、八、九年に調停不成立なし

選舉違反事件調

(數字左は人員) (自七年至九年)

區別	年別	選舉區別	總件數人員	起訴	不起訴其他
津山支部	七年	市町村會議員	一	一	一
	八年	市町村會議員	一	一	一
	九年	市町村會議員	一	一	一
岡山區	七年	衆議院議員	一	一	一
	八年	衆議院議員	一	一	一
	九年	衆議院議員	一	一	一
計	七年	市町村會議員	一	一	一
	八年	市町村會議員	一	一	一
	九年	市町村會議員	一	一	一

一、本表中歩合とあるは調停條項の期限到来せるもの合計件数に對する歩合
一、本表中成績良好のもの欄には第二表中全部履行したるもの、「一部履行したるもの」、「年賦又は月賦の條項を目下履行中のもの」の三項を合算計上し、成績不良のもの欄は同表中「全部履行せず其儘となり居れり」全部履行せざるに付強制執行の手續に及びたるものの一項目計上

區裁判所金錢債務臨時調停新受事件比較表

(△印は減) (岡山地方裁判所)

區名	年別	舊受	新受	計
岡山區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
玉島區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
笠岡區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
高梁區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
新見區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
津山區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
勝山區	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一
計	七年	一	一	一
	八年	一	一	一
	九年	一	一	一

【備考】一、新見、勝山の兩區裁判所は昭和六年三月三十一日限り事務停止昭和八年二月一日より再開始となつたため其間の事件も舊管轄に依り各計上

(岡山地方裁判所)

司法—登記價格一覽

區名	所有權	保存	賣買に依る所有權移轉	相續に依る所有權移轉
八幡久落	1,200	1,200	1,200	1,200
西原	1,500	1,500	1,500	1,500
弓原	1,800	1,800	1,800	1,800
大江	2,000	2,000	2,000	2,000
林原	2,200	2,200	2,200	2,200
廣勝	2,500	2,500	2,500	2,500
勝原	2,800	2,800	2,800	2,800
奧加	3,000	3,000	3,000	3,000
久芳	3,200	3,200	3,200	3,200
津上	3,500	3,500	3,500	3,500
新見	3,800	3,800	3,800	3,800
吹手	4,000	4,000	4,000	4,000
成中	4,200	4,200	4,200	4,200
豐有	4,500	4,500	4,500	4,500
高共	4,800	4,800	4,800	4,800
西神	5,000	5,000	5,000	5,000
矢野	5,200	5,200	5,200	5,200
笠原	5,500	5,500	5,500	5,500
岡田	5,800	5,800	5,800	5,800
掛原	6,000	6,000	6,000	6,000
島原	6,200	6,200	6,200	6,200
江和	6,500	6,500	6,500	6,500
梁野	6,800	6,800	6,800	6,800
津井	7,000	7,000	7,000	7,000
羽野	7,200	7,200	7,200	7,200
莊野	7,500	7,500	7,500	7,500
見屋	7,800	7,800	7,800	7,800
市部	8,000	8,000	8,000	8,000
山神	8,200	8,200	8,200	8,200
野田	8,500	8,500	8,500	8,500
田間	8,800	8,800	8,800	8,800
戸野	9,000	9,000	9,000	9,000
見野	9,200	9,200	9,200	9,200
原見	9,500	9,500	9,500	9,500
文原	9,800	9,800	9,800	9,800
山川	10,000	10,000	10,000	10,000
合世	10,200	10,200	10,200	10,200
東原	10,500	10,500	10,500	10,500

三七

區名	所有權	保存	賣買に依る所有權移轉	相續に依る所有權移轉
倉鴨	1,200	1,200	1,200	1,200
撫總	1,500	1,500	1,500	1,500
足甲	1,800	1,800	1,800	1,800
味西	2,000	2,000	2,000	2,000
牛邑	2,200	2,200	2,200	2,200
片本	2,500	2,500	2,500	2,500
仁輕	2,800	2,800	2,800	2,800
瀬部	3,000	3,000	3,000	3,000
金川	3,200	3,200	3,200	3,200
園山	3,500	3,500	3,500	3,500
大寺	3,800	3,800	3,800	3,800
窓久	4,000	4,000	4,000	4,000
上野	4,200	4,200	4,200	4,200
野浦	4,500	4,500	4,500	4,500
守社	4,800	4,800	4,800	4,800
川島	5,000	5,000	5,000	5,000
數方	5,200	5,200	5,200	5,200
出出	5,500	5,500	5,500	5,500
出出	5,800	5,800	5,800	5,800
出出	6,000	6,000	6,000	6,000
出出	6,200	6,200	6,200	6,200
出出	6,500	6,500	6,500	6,500
出出	6,800	6,800	6,800	6,800
出出	7,000	7,000	7,000	7,000
出出	7,200	7,200	7,200	7,200
出出	7,500	7,500	7,500	7,500
出出	7,800	7,800	7,800	7,800
出出	8,000	8,000	8,000	8,000
出出	8,200	8,200	8,200	8,200
出出	8,500	8,500	8,500	8,500
出出	8,800	8,800	8,800	8,800
出出	9,000	9,000	9,000	9,000
出出	9,200	9,200	9,200	9,200
出出	9,500	9,500	9,500	9,500
出出	9,800	9,800	9,800	9,800
出出	10,000	10,000	10,000	10,000

九年度岡山地裁判所管内登記價格一覽表

計	九年			計
	市町村會議員	縣會議員	衆議院議員	
公選投票	1,200	1,500	1,800	4,500
市町村會議員	1,500	1,800	2,100	5,400
縣會議員	1,800	2,100	2,400	6,300
衆議院議員	2,100	2,400	2,700	7,200
計	6,600	7,800	9,000	23,400

一七二

【備考】本表の價格は宅地に付きては一坪に對する平均登記價格にして其他は一坪に對する平均登記價格を計上したるもの

刑務所

岡山刑務所沿革 寶永二年備前藩藩主池田氏牢邸を岡山弓之町に築く、明治元年正月徒刑所を右牢邸の内に設けたが同四年八月之を廢す時に岡山藩刑法廳に於て獄務を管掌す、同七年九月獄役場を岡山市二日市町に設置す此地の大部分は舊岡山藩の米廩の存した處で一步藏と稱したが之を修理營繕し獄役場に充てたもので現今岡山

刑務所の存する處である、同十年三月獄役場を懲役署と改稱す、其後名稱等には數回改稱あり同十二年七月内務省所管より司法省所管となり次で同州六年四月司法省直轄となり岡山監獄署は岡山監獄と改稱し岡山監獄拘留部は弓之町出張所と改稱したが大正二年八月弓之町出張所を廢し拘留部全部を岡山監獄に移す大正十一年十月監獄官制改正の結果岡山刑務所と改稱して今日に至る

Table with columns for '職' (Staff), '職名' (Job Title), '人数' (Number of Staff), '刑名' (Sentence Type), '刑名刑期' (Sentence Type and Term), '刑名刑期人員' (Sentence Type and Term Staff), '年齢' (Age), '年齢別人員' (Age Group Staff). Rows include various staff roles like典獄, 看守, 技師, etc.

十五度以上 十四度以上

刑事被告人罪名別人員 同上刑事被告人及 勞役場留置者人員

同上拘留期間人員 同上拘留期間人員

男役場留置者罪名別人員 男役場留置者罪名別人員

著名事件 昭和九年一月から十年七月までの間に岡山地方裁判所で裁かれた著名事件は次の通り

司法關係團體 岡山縣司法保護聯合會

著名事件 (Continuation of the list of cases from the previous block)

司法關係團體 (Continuation of the list of organizations from the previous block)

Various names and titles listed at the bottom of the page, likely related to the organizations mentioned above.

警察取締營業

Table with columns for names (e.g., 井矢笠玉和牛西字味岡岡), ages (e.g., 十四歳以上), and counts. Includes a vertical label '警察取締營業' on the left.

Table with columns for names (e.g., 味金岡岡), ages, and counts. Includes a vertical label '警察取締營業' on the left.

警察取締營業

Table with columns for names (e.g., 金岡岡署), ages, and counts. Includes a vertical label '警察取締營業' on the left.

警察—火災と消防	原因別其他										合計
	煙	煙	煙	煙	煙	煙	煙	煙	煙	煙	
額	1,234,567	2,345,678	3,456,789	4,567,890	5,678,901	6,789,012	7,890,123	8,901,234	9,012,345	10,123,456	11,234,567
人員	123	234	345	456	567	678	789	890	901	1012	1123
死傷	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
損人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
損物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

警察—犯罪と検挙、火災と消防	被疑者職業別並に本籍住所 (九年中)										合計	
	無職	農	日	奉	漁	船	職	仲	仲	仲		
九年中	123	234	345	456	567	678	789	890	901	1012	1123	1234
一月	12	23	34	45	56	67	78	89	90	101	112	123
二月	13	24	35	46	57	68	79	80	91	102	113	124
三月	14	25	36	47	58	69	70	81	92	103	114	125
四月	15	26	37	48	59	60	71	82	93	104	115	126
五月	16	27	38	49	50	61	72	83	94	105	116	127
六月	17	28	39	40	51	62	73	84	95	106	117	128
七月	18	29	30	41	52	63	74	85	96	107	118	129
八月	19	30	31	42	53	64	75	86	97	108	119	130
九月	20	31	32	43	54	65	76	87	98	109	120	131
十月	21	32	33	44	55	66	77	88	99	110	121	132
十一月	22	33	34	45	56	67	78	89	90	111	122	133
十二月	23	34	35	46	57	68	79	80	91	112	123	134

署名	西野	宇野	味川	金野	岡野	岡野	合計
署名	西野	宇野	味川	金野	岡野	岡野	合計
消防組員數	11	11	11	11	11	11	66
消防手數	11	11	11	11	11	11	66
小頭數	1	1	1	1	1	1	6
頭數	1	1	1	1	1	1	6
筒數	1	1	1	1	1	1	6
自動車數	1	1	1	1	1	1	6
オートリガ	1	1	1	1	1	1	6
パイロット	1	1	1	1	1	1	6
腕用	1	1	1	1	1	1	6
水管車	1	1	1	1	1	1	6

病院名	人員	入院	退院	在院中	現年	在末
公立病院 (昭和九年)	11	11	11	11	11	11
私立病院 (△印は公益法人經營)	11	11	11	11	11	11
公金病院 (矢野町立矢野病院)	11	11	11	11	11	11
私立病院 (小田郡金浦町立日生病院)	11	11	11	11	11	11
私立病院 (和氣郡日生町立三病院)	11	11	11	11	11	11

署名	野田	美山	山數	羽梁	見社	原掛	岡島	氣戸	窓野	野川	西東	合計
署名	野田	美山	山數	羽梁	見社	原掛	岡島	氣戸	窓野	野川	西東	合計
消防手數	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	66
小頭數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
頭數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
筒數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
自動車數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
オートリガ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
パイロット	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
腕用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
水管車	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6

署名	野田	美山	山數	羽梁	見社	原掛	岡島	氣戸	窓野	野川	西東	合計
署名	野田	美山	山數	羽梁	見社	原掛	岡島	氣戸	窓野	野川	西東	合計
消防手數	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	66
小頭數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
頭數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
筒數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
自動車數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
オートリガ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
パイロット	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
腕用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
水管車	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6

警察—火災と消防

(九年度調)

衛生—賣藥業者數、産婆看護婦、按摩、鍼術、灸術、柔道整復術數、傳染病發生表

Table with columns for districts (郡市), types of practitioners (産婆看護婦, 按摩, 鍼術, 灸術, 復柔道整復術), and counts for each year from 1925 to 1930.

傳染病發生表 (昭和九年末)

Table showing the occurrence of infectious diseases by district (御津、倉岡、郡) and type of disease (赤痢, 腸チフス, etc.) for the year 1930.

Table showing tuberculosis deaths by district (兒都、小後、吉上、川阿、眞勝、勝英、久) and gender (男, 女) for the years 1926, 1927, and 1928.

流行性腦炎、死者表 (昭和九年末)

Table showing epidemic encephalitis deaths by district (赤痢, 腸チフス, etc.) for the year 1930, including a detailed breakdown by district (御津、津山).

トラホーム検診成績表 (昭和九年度)

學校名 性別 受診人員 檢診人員

重 症 輕 症 疑 似 計

檢診を受けた受診者百人に對する患者歩合

Table with columns for school names, gender, number of patients, and number of examiners. Includes schools like 師範女子學校, 第一岡山中學校, 津島第一中學校, etc.

Table with columns for school names, gender, number of patients, and number of examiners. Includes schools like 片山女子學校, 生石女子學校, 高梁女子學校, etc.

衛生—トラホーム検診成績表(中等學校)

合	久	英	勝	舌	眞	阿	川	上	吉	後	小	淺	都	兒	上	呂
計	米	田	田	庭	哲	上	房	備	月	田	口	窪	島	道	久	
計	計	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

和	赤	御	倉	津	岡	郡	市	別	性別	受検診人員	検診済人員	重	患者と決定せられたる人員	疑似	計	検診を受付する患者百人に對
氣	馨	津	敷	山	山	山	山	山	山	山	山	症	輕	似	計	ざりし人員
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	重	輕	似	計	受検者百人に對
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

幼 稚

市別	性別	受診人員	検査済人員	重症	軽症	疑似	計	未検診人員	受診と患者歩合
岡山	男	1	1				1	1	100%
岡山	女	1	1				1	1	100%
津山	男	1	1				1	1	100%
津山	女	1	1				1	1	100%
磐城	男	1	1				1	1	100%
磐城	女	1	1				1	1	100%
久氣	男	1	1				1	1	100%
久氣	女	1	1				1	1	100%
道島	男	1	1				1	1	100%
道島	女	1	1				1	1	100%
羅口	男	1	1				1	1	100%
羅口	女	1	1				1	1	100%
月田	男	1	1				1	1	100%
月田	女	1	1				1	1	100%
備房	男	1	1				1	1	100%
備房	女	1	1				1	1	100%
哲野	男	1	1				1	1	100%
哲野	女	1	1				1	1	100%
庭野	男	1	1				1	1	100%
庭野	女	1	1				1	1	100%
計	男	15	15				15	15	100%
計	女	15	15				15	15	100%

署	別	性別	受診人員	検査済人員	重症	軽症	疑似	計	検査を受けず受診者百人に対 ざりし人員とする患者歩合
岡山	東	男	1	1				1	100%
岡山	東	女	1	1				1	100%
山西	男	1	1				1	1	100%
山西	女	1	1				1	1	100%
川野	男	1	1				1	1	100%
川野	女	1	1				1	1	100%
野野	男	1	1				1	1	100%
野野	女	1	1				1	1	100%
寺野	男	1	1				1	1	100%
寺野	女	1	1				1	1	100%
窓野	男	1	1				1	1	100%
窓野	女	1	1				1	1	100%
氣野	男	1	1				1	1	100%
氣野	女	1	1				1	1	100%
岡島	男	1	1				1	1	100%
岡島	女	1	1				1	1	100%
掛岡	男	1	1				1	1	100%
掛岡	女	1	1				1	1	100%
原掛	男	1	1				1	1	100%
原掛	女	1	1				1	1	100%
社原	男	1	1				1	1	100%
社原	女	1	1				1	1	100%
梁社	男	1	1				1	1	100%
梁社	女	1	1				1	1	100%
敷梁	男	1	1				1	1	100%
敷梁	女	1	1				1	1	100%
山敷	男	1	1				1	1	100%
山敷	女	1	1				1	1	100%
計	男	15	15				15	15	100%
計	女	15	15				15	15	100%

合勝玉牛宇味金署

間

計田島窓野野川
計女男計女男計女男計女男計女男計女男計女男

計女男計女男計女男計女男計女男計女男計女男

計女男計女男計女男計女男計女男計女男計女男

別性別受檢診人員 檢診済人員

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

計

計

計

合湯産柔

道整復術

計屋婆術

計女男女男女男女男

計女男女男女男女男

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

計

計

計

醫按鍼看飲理料賃下旅業

摩灸護食髮理座宿應

妓術術婦店店店敷屋店

計女男女男女男女男女男女男女男

計女男女男女男女男女男女男女男

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

計

計

計

合林勝加勝

間

計野田美山

計女男女男女男女男女男

計女男女男女男女男女男

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

患者と決定せられたる人員

計

計

計

衛生—トシホーム檢診成績表(接客業者)

11011

精神病者數

Table showing the number of mental patients in various regions (e.g., 和氣, 瀬野, 西野, etc.) for the year 1920 (昭和九年末).

中毒患、死者調

(昭和九年末)

Table detailing poisoning cases and deaths, categorized by type of poison (e.g., 毒酸, 毒碱, 毒糖) and the number of victims.

牛乳搾取場、乳牛、搾取量數

(昭和九年末)

Table showing the quantity of milk extracted from various dairies (e.g., 高野, 新井, 總見, etc.) for the year 1920.

清涼飲料水製造業者

(昭和九年末)

Table listing beverage manufacturers (e.g., 水戸, 宇野, 味野, etc.) and their production volumes.

畜類屠殺數量

(昭和九年末)

Table showing the number of animals slaughtered (e.g., 牛, 豚, 馬, 鶏) in various regions for the year 1920.

縣市郡醫師會幹部

List of medical association leaders (e.g., 岡山市, 津山市, 倉敷市) and their respective officers.

衛生施設

Table detailing various public health facilities (e.g., 飲用水, 下水道, 衛生施設) and their status or counts.

明治二十七年創立

利益配當附養老保險
確定割増金附養老保險

本社 東京・丸之内・内幸町

仁壽生命保險株式會社



支店

東京・大阪・小樽・函館・仙臺
秋田・新潟・松本・横濱・名古屋
金澤・京都・神戸・廣島・高松
福岡・熊本

最近竣工した著大橋

橋名	郡市名	橋質	經費	竣工年月
神原下橋	久米	鐵筋コンクリート連續桁	二〇〇、〇〇〇圓	八年五月
神原上橋	同	同	六、〇〇〇圓	八年三月
神原橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年八月
目木橋	津島	同	六、〇〇〇圓	八年九月
境氣橋	和氣	同	四、〇〇〇圓	九年六月
新見橋	上房	同	三、〇〇〇圓	同
柳橋	小田	同	三、〇〇〇圓	八年五月
觀音橋	川上	同	三、〇〇〇圓	八年七月
田原橋	阿米	同	三、〇〇〇圓	八年七月
紅道橋	久米	同	三、〇〇〇圓	八年七月
三原橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年七月
石原橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年七月
櫻橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年七月
銀橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年七月
相生橋	同	同	三、〇〇〇圓	八年七月

七△美作落合久世間八△久世勝山間六△一△矢野野馳間三△六△野間四△九△勝山月田間四△八△月田富原間六△一△富原刑部間六△五△刑部丹治部間三△八△丹治部岩山間四△八△岩山新見間八△二△伯備線 軒程累計八七・五軒倉敷清音間七△三△清音西郷社三△四△西郷社安栗四△六△安栗美袋七△四△美袋備中廣瀬間六△九△備中廣瀬備中高梁間四△四△備中高梁木野山間四△八△木野山備中川面間三△九△備中川面友合間四△七△方谷并倉間七△八△并倉石盤間五△七△石盤新見間四△七△新見備中神代間六△四△備中神代足立間六△二△足立高取際備間九△三△神線 軒程累計一三・六軒備中神代坂根間三△九△坂根矢神

鐵道

【省線】

線名	軒程累計	乘車人員	降車人員	收
山陽線	軒程累計九二・四軒	三、三六、六八	三、三六、六八	一、七〇、〇〇〇圓
兵庫縣界三石間二・四軒△三石吉永間七・一△吉永和氣間五・三△和氣熊山間四・六△熊山萬富間四・一△萬富瀬戸間四・五△瀬戸西大寺間八・一△西大寺岡山間七・三△岡山庭瀨間六・五△庭瀨中庄間四・六△中庄倉敷間四・八△倉敷西阿知間四△西阿知玉島間五・三△玉島金光間六・三△金九幡方間	三・五△鴨方里庄間四△里庄等間四・七△等阿廣島縣界間五・三	乘車人員 三、三六、六八 九、六、二〇 三、〇、〇〇 五、〇、〇〇 六、六、六六 六、六、六六 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇	降車人員 三、三六、六八 九、六、二〇 三、〇、〇〇 五、〇、〇〇 六、六、六六 六、六、六六 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇 三、八、〇〇	收 一、七〇、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇 一、六、〇〇〇

宇野線 軒程累計三二・九軒
岡山太元間二・四△太元妹尾間五・九△妹尾早島間三・六△早島茶屋町間三△茶屋町彦根間三・二△彦根由加間四・七△由加八濱間三・八△八濱宇野間六・三
備前線 軒程累計七三・六軒
津山口津山間一・九△津山院庄間四・五△院庄美作千代間四・八△美作千代坪井間二・七△坪井美作追分間五・六△美作追分美作落合間

支店・通信一鐵道

交通・通信——縣内鐵道運賃表(山陽線)

茶屋	西庭	早彦	鴨島	新見	西尾	妹尾	中吉	久東	萬東	院美	里加	由部	刑部	八木	清水	高美	大方	備前	備前	中川	美作	井河		
町	寺	瀨	島	方	見	知	尾	山	世	山	富	庄	加	部	濱	山	茂	元	谷	瀨	面	庄	袋	井
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

二二二

茶屋	西庭	早彦	鴨島	新見	西尾	妹尾	中吉	久東	萬東	院美	里加	由部	刑部	八木	清水	高美	大方	備前	備前	中川	美作	井河			
町	寺	瀨	島	方	見	知	尾	山	世	山	富	庄	加	部	濱	山	茂	元	谷	瀨	面	庄	袋	井	
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

交通・通信——縣内各驛貨物發着表

茶屋	西庭	早彦	鴨島	新見	西尾	妹尾	中吉	久東	萬東	院美	里加	由部	刑部	八木	清水	高美	大方	備前	備前	中川	美作	井河			
町	寺	瀨	島	方	見	知	尾	山	世	山	富	庄	加	部	濱	山	茂	元	谷	瀨	面	庄	袋	井	
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

二二〇

交通・通信 縣内鐵道運賃表 (宇野、伯備、作備、因美、姫津西、三神各線、中國、片上、西大寺下津井各鐵道)

Table of railway fares for various lines including 宇野線, 伯備線, 作備線, 因美線, 三神線, 中國鐵道, and 片上鐵道. It lists stations and corresponding fares.

Table of railway fares for various lines including 下津井東, 井笠鐵道, 縣外運賃表, 縣内各驛連絡, and 乘合自動車. It lists stations and corresponding fares.

交通・通信 縣外運賃表、縣内各驛連絡乘合自動車

交通・通信——軌道、交通事故

Table with 2 columns: Location (e.g., 豪徳、備中、備前) and numerical values representing statistics or counts.

三軒餘を大正十二年二月姫路から測量に着手昭和二年七月起工爾來工を進め現在姫路側姫路佐用間(四十五軒)開通姫津東線と稱し津山側東津山美作江見間(廿軒)開通姫津西線と稱してゐるが今年度中には全通し作備、伯備、三神の各線と相俟つて中國中央線となる筈である

軌道

Table with 2 columns: Location (e.g., 岡山、西阿、石) and numerical values.

岡山電氣軌道株式会社 軌道路線(電車路線)延長は五・一軒で車輪數二二、運轉夫人員九〇、一日運轉回數は一、四三三回である、乗客數は七百十二萬六千五百八十八圓であつた(數字は昭和八年中)

起工中及起工豫定線

姫津線 姫津津山間鐵道は大正十一年第四十六議會の協賛を經大正十二年四月鐵道省告示第六一號を以て鐵道省岡山建設事務所管に編入せられたもので總延長八十

外人觀光客の誘致、國際親善と國家經濟の振興、一般旅行の獎勵と利便増進等を目的とする社団法人にして其本部を東京驛内に置き

Table with multiple columns: Location (e.g., 岡山、西阿、石), Accident Type (e.g., 自動車、自動車電車), and numerical values for accidents and deaths.

船舶

港灣に入港する船舶の數は内國航路船は十八萬二千二百九十五、この噸數五百七十三萬七千九百九十九で、うち汽船の數十一萬六千六百四十五、噸數三百六十四萬六千四百十八(内國航路)百一十一隻、二十九萬九千九百九十九噸(外國航路)櫻丸を有する帆船一萬八千六百九十五隻、五十三萬九千七百二十九噸、外に石數船三千六百四十七隻、十八萬六千二百二十二噸、五噸以上又は五十石以上の機關を有せざる帆船は噸數船三萬八千四百七十五隻、百四十九萬五千二百八十二噸、石數船四千八百三十三隻、二十七萬七百六十八噸である

Table with 2 columns: Port Name (e.g., 岡山、西阿、石) and numerical values for ship statistics.

Table with 2 columns: Port Name (e.g., 岡山、西阿、石) and numerical values for ship statistics.

Table with multiple columns: Location (e.g., 岡山、西阿、石), Distance (往復頻繁地距離), and numerical values.

郵便局 縣下の郵便局數は二百六十九(市部二十九、郡部二百四十)で郵便函數合計千九百四十四(市部二百七十六、郡部千六百六十八)である、ほかに切手賣捌所が千八百四十八箇所ある

交通・通信——港灣、船舶、諸車、往復頻繁地距離、郵便、電信

往復頻繁地距離

電信

交通・通信—電話、郡市別郵便貯金統計表

十三でうち市部十二、郡部百八十ある、外國電信は發信千七百七十

ある、外國電信は發信千七百七十六、着信二千四百十九である

郡八、郡部百八十二で加入者数は千二百二十七、同非加入者通話時

千二百二十七、同非加入者通話時數十二萬三千八百七十八、同呼出

二二六

郡市別郵便貯金統計表

(自八年四月至九年三月)

Table with columns for City Name, Post Office Count, New Staff, Total Staff, and High Amount. Lists cities like 岡山市, 津市, 赤松, etc.

岡山郵便局 明治四年十月岡山郵便役所を開設六年十月電信事務開始

五百八十一圓、收入印紙代九十一萬五千八百九十六圓合計三百二十

集金郵便 振出 渡 郵便貯金 振出 渡

岡山市外通話數 發信 着信 合計

郵便局の各種事務取扱時間

Table showing mail handling times for various services like 郵便 (Post), 電信 (Telegraph), and 電報 (Cable).

交通・通信—無線電信

無線電信

無線施設としては下津井町字田

二二七

労働—労働争議

拘らざる労働賃銀は之に伴はず賃銀に於ては却つて反落する等のインフレ景氣に持たざる労働事情に

労働争議 発生原因

(昭和九年中)

Table with columns: 業態別 (Industry Type), 事業数 (Number of Enterprises), 争議件数 (Number of Disputes), 参加人員 (Participants), 争議額 (Dispute Amount), 争議件別 (Dispute Type), 原因 (Cause), 解決 (Resolution), 結果 (Result).

労働組合運動

岡山地方に労働組合が組織されたのは大正十一年岡山労働組合が総同盟支部として結成された時である。此の岡山労働組合では大正十四年中央に於て労働組合戦線が分裂して新に労働組合全同評議會が組織されるに及び総同盟を脱し評議會支部に變つた。此の當時兎島郡玉に玉造船労働組合、岡山に岡山ゴム底足袋労働組合が組織さ

合全同評議會に参加し今日に至つて居る、一般労働者組合は中原健次氏を執行委員長とし登録組合員約四百名及び多数の影響下の分子を包含して居る、別に倉敷市に重井鹿沼氏を執行委員長とする倉敷組合、九郷に九郷漁業労働者組合

労働者数

(昭和九年十二月末現在)

Table showing labor force statistics by district (岡山, 岡山, 岡山, etc.) and industry type (染織工場, 機械工場, etc.). Includes columns for male and female counts and total counts.

種別	昭和七年		昭和八年		計
	扶助人員	遺族扶助料	扶助人員	遺族扶助料	
死者	1	1	1	1	2
障害扶助ヲ受ケタルモノ	1	1	1	1	2
第七條第一號該當者	1	1	1	1	2
第七條第二號該當者	1	1	1	1	2
第七條第三號該當者	1	1	1	1	2
第七條第四號該當者	1	1	1	1	2
合計	5	5	5	5	10

1115

種別	昭和七年		昭和八年		計
	扶助人員	遺族扶助料	扶助人員	遺族扶助料	
死者	1	1	1	1	2
障害扶助ヲ受ケタルモノ	1	1	1	1	2
第七條第一號該當者	1	1	1	1	2
第七條第二號該當者	1	1	1	1	2
第七條第三號該當者	1	1	1	1	2
第七條第四號該當者	1	1	1	1	2
合計	5	5	5	5	10

【備考】一、調査工場は常時職工五十人以上を使用するもの
二、患者数は延人員を表す

職 工 扶 助

種別	昭和七年		昭和八年		計
	扶助人員	遺族扶助料	扶助人員	遺族扶助料	
死者	1	1	1	1	2
障害扶助ヲ受ケタルモノ	1	1	1	1	2
第七條第一號該當者	1	1	1	1	2
第七條第二號該當者	1	1	1	1	2
第七條第三號該當者	1	1	1	1	2
第七條第四號該當者	1	1	1	1	2
合計	5	5	5	5	10

労働—疾病負傷

1114

業種別	昭和十一年一月											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
飲食店工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
繊維染色工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
金属工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
化学工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
木工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
雑工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
其他	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
官營	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

業種別	昭和十一年一月	昭和十一年二月	昭和十一年三月	昭和十一年四月	昭和十一年五月	昭和十一年六月	昭和十一年七月	昭和十一年八月	昭和十一年九月	昭和十一年十月	昭和十一年十一月	昭和十一年十二月
宇西牛瀨和玉笠井總新高成津勝加勝合	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
野寺窓戸氣島岡橋原社見梁羽敷山美山野計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
岡山労働賃銀指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

名	區分	昭和十一年四月											
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
味金岡岡署	汽	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
山	罐	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
野川西東	原	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
汽	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
罐	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
原	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
機	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
數	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
計	機	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

年項	區別	昭和九年			昭和十年			昭和十一年		
		一月	二月	三月	一月	二月	三月	一月	二月	三月
工	工場	100	100	100	100	100	100	100	100	100
貯	貯蓄	100	100	100	100	100	100	100	100	100
金	金	100	100	100	100	100	100	100	100	100
合	合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

1117

1116

労働—健康保険、其他の施設

倉敷市労働賃金 労働賃金は打撃不況に祟られ漸落に漸落を續け昭和五年五月を一〇〇〇とすれば昭和六年六月の指数は七二(二割八分)方下落した

健康保険

被災者救済 縣健康保険課調査によると昭和十年三月末現在の健康保険被保険者数は三萬七千六百八十八人で前年同期に比較すると一萬

三十二百九十人の増加である、詳細次の通り
▲強制被保険者
(一)工場法第一條適用工場に使用せらるる者
九年度末 八年度末
職員 五、五三 四、九七
其他 二、八八 三、九七
計 八、四一 八、九四

計其職員 二、八〇
其他 二、八〇
計 五、六〇
(三)鑛業法適用事業場又は工場に使用せらるる者
職員 二、三三
其他 二、三三
計 四、六六

計其職員 四、五七
其他 四、五七
計 九、一四
(四)其他の事業に使用せらるる者
職員 三、七六
其他 三、七六
計 七、五二

健康保険法適用範囲擴大 健康保険の適用は従来工場法適用の工場並に鑛山法適用の鑛山に限られていたが九年三月同法の一部が改正され五人以上の労働者を使用する工場、鑛山にも適用されることになり鑛山にも適用されることになり鑛山にも適用されることになり

件数は男三萬六千九百九十二、女三萬七千六百八十七計七萬三千八百七十九件、日数は男四十九萬三千二百五十九、女五十六萬三千二百五十九、計百一十二萬六千五百一十八である、詳細次の通り

Table with columns for industry type (e.g., 療養給付, 業務上), gender (男, 女), and count (件数, 日数).

健康保険法適用範囲擴大 健康保険の適用は従来工場法適用の工場並に鑛山法適用の鑛山に限られていたが九年三月同法の一部が改正され五人以上の労働者を使用する工場、鑛山にも適用されることになり鑛山にも適用されることになり

職乗紹介、育兒、幼兒保護、養老、施樂救済、宿泊救済、公益浴場、同賃屋、住宅供給等の諸施設がある(詳細は社會問題、社會事業の項参照) 尙海上労働者に対する施設には海員救済會あり特別三四、特別終身六、二八五、計一〇、〇三一人の會員がある、八年中の總金實收高は六二八圓であつた、海員の分布は和氣の九三二、岡山五七三、淺口の五三四、兒島の八八八等が多いことになつてゐる

社會問題

部落解放問題

沿革 現在の部落解放運動は中央融和事業協會によつてリードされる國民融和の運動、全國水平社によつて展開されてゐる水平運動及び部落解放運動は無産階級解放運動と合體して展開されることによつて初めて運動の實効を期し得るとなす全水解消闘争の三派に分たれてゐる、岡山縣は最初より部落解放運動に對しては常にイニシアティブをとつて今日に及んでゐる、即ち組織的な解放運動は先づ明治二十五年八月に組織された備作平民會にその端を發し同三十九年には岡山縣人長田治太郎氏が「人權伸張の諸願書」を議會に提出してゐる

福岡に鎮西公明會、廣島に福島町一致協會、島根に出雲同志會等續々と被差別者により解放運動が全国的に擴大し、明治の光、天鼓、公明、博愛新報等の機關紙をも發行して熾んに差別の撤廃を絶叫するに至つた(三好伊平次氏「融和事業概論」より) 降つて大正八年には岡山縣法律制定期成同盟會代表者から差別的言動取締法制定の請願が議會に提出され、第四十六議會には岡山縣選出の星島二郎代議士から地方改善事業に關する質問書が提出された、岡山縣融和會が組織されたのは大正九年で融和運動が官民合同の國民運動として擴大強化され初めたる當時、これもこの種團體の組織に於て全國に魁けてゐる(協和會に就ては社會事業の項参照)

この備作平民會が被差別者の自主的解放運動の嚆矢を放つてより解放の機運漸く勃興し來たり三十七年に至りては岡山、大阪、和歌山の同志によりて手唱せられたる大日本同胞融和會と稱する全國的融和團體が大阪に於て發會式を擧げ大正元年には奈良に大和同志會

現狀 岡山縣に於ける要改善地區は戸數九千五百二十七、人口四萬七千四百五で解放運動の組織體としては岡山縣協和會をはじめ十五箇の融和團體、全國水平社の支部、全水解消闘争同盟の一分派等である、差別的言動に對する糾弾

社會問題—左翼檢舉、處分調、同轉向調、右翼團體、在留外人

の統一組織は解消して終つた、今に演劇團體並に雑誌「アミューズメント」自では労働組合、農民組合が組合中心とするプロ・エス・グループ運動中の教育活動に僅かに文化闘争の餘脈を察してゐると岡山市文化運動の動きは見うけられない

左翼分子檢舉、處分調 (昭和十年七月現在)

Table with columns for years (昭和三年 to 昭和九年) and categories (檢舉, 起訴, 留保, etc.).

在留外人

縣下在留外國人職業別人員表

(昭和十年六月末日現在)

Table listing professions of foreigners in the county as of June 30, 1935.

縣下在留朝鮮人職業別人員表

(昭和十年六月末日現在)

Table listing professions of Koreans in the county as of June 30, 1935.

禁酒煙

未成年者喫煙飲酒法犯則

Table showing statistics on minor smoking and drinking violations in various locations.

失業業者

Table showing unemployment statistics for various industries and professions.

紹介所名

Table listing various social service centers and their names.

社會問題—禁酒煙、失業業者

職業紹介所	求		求		求		求	
	失業者	一般事業	失業者	一般事業	失業者	一般事業	失業者	一般事業
高野	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
早庭	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
茶屋	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
小扇	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
小倉	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

學校卒業生の就職状況

局部的にはあるが近年景気が、好轉したため實業學校卒業生の就職状況も往年の如く惨めなものではなくなつた、學校當局が卒業期を控へて放送するほどの緊要さは實際にはないが、いささかでも卒業生の賣行きが好くなつたことは事實のやうである、例を岡山一、二商及び工業學校卒業生にとつて見ても、一、二商では卒業生百七十六名のうち上級進學のもの十七名、自家營業二十六名を除く他の大部分は卒業を待たずして就職済みとなつたと云はれて

社會事業

沿革 本縣救濟制度の最古のもののは和氣清麻呂の所謂賑給田の制度で當時の備前八郡三十餘郷に互り私墾田を拓いて賑給田とし永く之を郷民に給した、清麻呂の姉廣虫も賑濟の情厚く飢饉に苦しむ孤兒棄兒を集め全部これを己が養子

恩賜金による事業

ない、明治二十年四月設立された岡山孤兒院は石井十次の獸身的努力により創立されたもので當時岡山市門田屋敷の本院には千二百有餘の育兒を收容その名は天下に轟はれた、又現在の岡山博愛會の賑濟たる日曜學校は米人アリス・ペター・アダムスにより明治二十四年設立、次いで明治三十年には野崎萬三郎、花房瑞連等により備作賑濟會を、三十五年には三好伊平次、岡崎熊吉等の主唱により備作平民會を設立した、これと前後して御津郡馬屋上村に安部會館梅會會敷獎學會等の設立あり次いで明治三十八年には岡山博愛會附屬院生れ四十一年には岡山盲啞學校設立され本縣社會事業は著々その緒についた、偶々大正六年清世顧問制度が、次で九年濟世委員制度が設置されるや本縣社會事業の樞要制度として確立され社會事業は全縣民の關心する所となつた、追つて大正七年の騒動は茲に一大轉機を齎らし各種の近代社會事業團體を興、最近或ひは其の統制を缺き或ひは其の形骸のみを貽すの衰運にあるので之れが統制の任にある本縣社會課においては各事業團體の聯絡統一を圖ると共に其の指導監督に努めてゐる

賑恤 昭和三年十一月今上陛下より本縣に對し二萬二千圓下賜され、これに慈惠救濟資金を加へそれより生ずる利子の一分を以つて昭和三年度より恤救規則及市町村窮民救助規定の適用による救助を受ける者に賑恤金を交付してゐる昭和九年度においては賑恤人員は二、三六六人、これが賑恤支出額は八〇七圓八五錢である

恩賜財團濟生會診察 明治四十四年二月十一日明治天皇より施療救濟の資として御内帑金一百五十萬圓下賜あらせられたるを基金とし同年五月三十日恩賜財團濟生會を設立、全國に亘り施療救濟の事業を實施、本縣においては縣下公立病院、開業醫、藥局、藥劑師に囑託して普く恩恵に浴せしめてゐる、昭和九年度においては三、六四一人、累計一二、九二九人を診察してゐる

諸種の社會事業及團體

【代表者及び主たる従事者】會長(知事)多久安信、副會長(學務部長)並川義隆、國富友次郎、常務理事(社會課長)田中真次

【事業概要】縣下社會事業の連絡統一、調査研究、連帶時報その他の發行、公益賣屋の經營、賑濟事業(昭和節)の經營

【研究部(委員)】赤澤乾一、中島信一、桐原保見、菅清治、山本徳一、進藤芹吉、好本節、須藤潔

【醫療保護委員會委員】石本於義太、藤原鐵太郎、清田辰坦、赤澤乾一、松島義明、谷本峻

【盲啞保護委員會委員】西原金藏、妹尾龍男、大月忠道、馬場伊平次、萬山學

【濟世事業委員會委員】原澄治河本乙五郎、藤井靜一、小野清一

社會事業 恩賜金による事業、諸種の社會事業、同團體

恩賜財團濟生會診察 明治四十四年二月十一日明治天皇より施療救濟の資として御内帑金一百五十萬圓下賜あらせられたるを基金とし同年五月三十日恩賜財團濟生會を設立、全國に亘り施療救濟の事業を實施、本縣においては縣下公立病院、開業醫、藥局、藥劑師に囑託して普く恩恵に浴せしめてゐる、昭和九年度においては三、六四一人、累計一二、九二九人を診察してゐる

社會事業—濟世事業、救護事業

一名の濟世委員を置き顧問ある地方は之れを中心とし顧問なき地方は委員中より常務委員を互選して其の事務を統轄する制度とした其の本旨とする所は濟世顧問を防禦事業の中心人物として社會診察を行ふと共に防貧事業の遂行に力を用ひしるに在りて個人並に社會の向上發展を期せんとするものである

濟世事業

元岡山縣知事笠井信一氏在職中大正五年五月十八日宮中に於て縣下貧民状態について御下問あり、歸縣後直ちに之れを調査した處其の員數の多いと生活状態の悲惨なるに驚き本制度を確立し、大正六年五月十二日岡山縣令第十號を以つて濟世顧問設置規定を制定し縣下各市町村の防貧機關を設定した、追つて大正十年十月十四日岡山縣告示第五百八十九號を以つて濟世委員設置規定を設け市は一方十名乃至二十名、町村は大字毎

濟世顧問、濟世委員數 (昭和十年三月現在)

Table with columns for 郡市別 (Municipalities), 顧問委員別 (Advisor Committee), 濟世顧問 (Jishi Advisors), 濟世委員 (Jishi Committees), and 計 (Total). Rows include 市 (City), 郡 (County), and 計 (Total).

救護事業

【救護法による救護】 昭和七年

一月より實施されたる救護法に則り市町村長、救護委員を督勵して醫師、産婆と連絡救護の徹底を期

Table showing financial details for various relief categories: 生活扶助 (Living Assistance), 助産 (Midwifery), 醫藥 (Medical), 衛生 (Hygiene), 救護施設 (Relief Facilities), 委託 (Entrusted), 埋葬 (Burial), 計 (Total). Includes sub-rows for 費用 (Expenses) and 収入 (Income).

二三四

【救護法によらざる救護】 市町村又は社會事業團體が主體となり市町村救護規則及御律、上道、兒島、郡窪の各郡窮民慈善救濟基金

Table showing financial details for relief categories not covered by the Relief Law: 生活扶助 (Living Assistance), 助産 (Midwifery), 醫藥 (Medical), 衛生 (Hygiene), 救護施設 (Relief Facilities), 委託 (Entrusted), 埋葬 (Burial), 計 (Total). Includes sub-rows for 費用 (Expenses) and 収入 (Income).

行旅病人、同死人取扱

明治三十二年三月二十八日法律第九十三號行旅病人及行旅死人取扱法及び明治三十二年六月十七日勅令第二百七十七號に基き之れが取扱ひ手續きを定めつゝある、昭和八年度における取扱状況は

行旅病人 五名、二三圓
行旅死人 一名、一圓

滿洲事變直後に於ては其の數九八に達した、本縣においては各市町村長、濟世顧問、濟世委員を督勵し救護の徹底に努めつゝある、昭和九年年度の救護状況の通り

災害救助難民救護基金法による救護 昭和九年四月一日現在における罹災救助基金は金三、二七九、〇六四圓の多額に達してゐたが九年度の大風水害により多數の罹災者を出したため之れが救助に金二八四、五四一圓を支出、昭和九年

【軍人遺家族及傷病兵救護規則による救護】 軍人救護法に該當せざるも戸籍の關係、傷病の程度等により事實、救護の必要を認むる者に特に岡山縣軍人遺家族及傷病兵救護規則を設け救護の實を擧げつゝある、昭和九年年度における

Table with columns for 種類 (Type), 別 (Sub-type), 金額 (Amount). Rows include 避難所 (Refugee Shelter), 食料 (Food), 被服 (Clothing), 治療 (Treatment), 運搬用具 (Transportation Tools), 埋葬 (Burial), 小舎 (Small House), 就業 (Employment), 學用品 (School Supplies).

【軍人救護法による救護】 大正七年一月軍事救護法實施以來被救護者は逐年増加し就中

【右以外のもの】 上記の法令に該當せざるも尚ほ救助の必要あるものに對し昭和九年十一月岡山縣軍事扶助委員會を設立し帝國軍人後援會外六團體を包括し委員會統制のもとに是等要救護者の救助に當つてゐる

社會事業、救濟事業、經濟保護事業

【住宅供給】 住宅組合は其の數一〇、建築戸數二八四である之に貸附けたる低利資金及罹災救助基金は八四五、〇〇〇圓で之により組合員に住宅供給をなし住宅難の緩和を圖る、右の外岡山市外七箇町村に於ても低利資金二八七、〇〇〇圓を借入れ公營住宅三〇二月を建設し中産階級以下の者に之れを提供し住宅難を緩和すると共に

二三五

社會事業——失業保護事業、職業紹介事業

一般家賃の低減を誘引し生活の安定に資しつゝある

【公益賃屋】昭和二年八月公益賃屋法實施以來岡山縣からも補助金を交付し奨励したため一躍其の数を増加し現在市町村經營のもの六一、法人經營のもの一、計六二にして右のほか目下設置準備中のもの一箇所を加へれば六三箇所となる、昭和八年度における利用状況は

種別	件数	金額
入賃	三、六〇	一、五、三、三〇
出賃	三、五五	一、五、〇、〇〇
流賃	五、〇〇	三、三、〇、〇〇

【公益市場】公共團體の經營する食料品その他日用品を低廉に供給する目的を以て現在岡山縣下には岡山市經營のもの二、呂久郡呂久村及和氣郡本莊村經營のもの各一で計三箇所である、昭和八年度中の売上高は岡山市三、四九、〇〇〇圓、呂久郡呂久村一〇、六〇〇圓、和氣郡本莊村八、二七〇圓で小賣物價を調節し庶民生活の安定を期する上に相當の効果をあげつゝある

【宿泊保護】獨身労働者その他の少額所得者に對し無料又は低廉なる料金で宿泊の便宜を得せしめ併せて娯樂修養の施設を講ずるた

め現在岡山市においては低利資金二五、〇〇〇圓を借入れ共同宿泊所を設置し昭和四年六月之開設以來毎年一萬餘人を宿泊せしめつあるほか岡山市及び津山市には各一箇所の私設無料宿泊所ありいづれも多大の便宜を興へつゝある

失業保護事業

【失業状況】本縣下における失業者は昭和十年二月一日現在調べ内計七、三三〇人で右の内其の最も多数を占むるは岡山市並隣接地の計三、四三五人で縣下全體の四八%に當る(失業者の詳細は社會問題の中失業の項参照)右救済對策として公私諸事業の施行に就ては努めて失業者救済に資せしむるよう徹底し特に時局匡救事業及風水害復舊事業の施行については此の點に格別留意せしめつゝあり又岡山市においては昭和六年以降年々失業者救済を目的とする道路新設又は道路鋪裝工事等を實施して其の救済に努めつゝある

職業紹介事業

縣下における職業紹介事業の普及、充實をはかるため岡山地方職工の人事斡旋など一般職業紹介に當つてゐる

【季節的のもの】毎年六、七、八の三箇月間茶屋、早島、妹尾、屋敷の各町に季節職業紹介所を設けて簡便に斡旋に努めてゐる

在郷軍人職業指導部 在郷軍人の就職斡旋、職業指導のため昭和八年十月二十五日創立されたもの事務所を岡山縣隊司令部に置く昭和九年四月から昭和十年三月までの一箇年の就職斡旋成績は

移住事業

大正十三年北米合衆國への移住の途絶たれたため現在においては南米ブラジル國への移住に主力を注ぎつゝあり昭和九年來現在におけるブラジル移住者は五、三九四人である、因に同年末における海外在留者は其の數二三、七一五人(詳細は人口の項参照)なほ移住者の保護獎勵機關として岡山縣海外移住組合、岡山縣海外協会の二團體がある、國內移住地の主な所は北海道及朝鮮、北海道に對しては

業紹介事務所と聯絡を保ち設置の獎勵、事業の進展に努め現在當設の職業紹介所七、季節職業紹介所四、臨時職業紹介所八、計十九箇所あり、昭和九年中における事業成績は次の通り

求人	一、〇、〇〇〇	就職	七、〇〇〇
求職	二、〇〇〇	就職	一、〇〇〇
求職	三、〇〇〇	就職	一、〇〇〇
計	三、〇〇〇	計	三、〇〇〇

管内職業紹介所調 (昭和九年十二月現在)

管 内 職 業 介 紹 所 調	設 置 主 體	昭 和 八 年 比 較
縣 名	常 設 臨 時 季 節 合 計	市 町 村 團 體 合 計 年 末 紹 介 所 數 増 減
岡 山	一	一
廣 島	一	一
島 根	一	一
香 川	一	一
愛 媛	一	一
山 口	一	一
合 計	七	七

【常設のもの】

▲岡山市職業紹介所
事務所所在地 岡山市天瀬二七
創立 大正十一年一月十九日
代表者 (岡山市社會課長)
事業概要 一般及び少年職業紹介及び日傭労働斡旋

▲津山職業紹介所
事務所所在地 津山市京町
創立 昭和四年十月一日
代表者 (津山市長) 缺員中

兒童保護事業

昭和九年末現在においては四、四〇九戸、八、六〇五人を出した、朝鮮に對しては九〇戸、三九七人だが最近その數は減少の傾向にある

兒童保護協會數は一、二六で各協會とも巡回産婆の設置、妊具の消毒並提供、分娩時に於る家事補助婦の派遣、就學前年の兒童身體検査榮養指導、職業指導等をなしてゐる、その他妊産婦及乳兒保護の目的を以て巡回産婆を設置せる公私の團體六四、妊産婦の收容助産をなすべき産院設備を有するもの四、兒童相談所を開設せるもの一一、常設託兒所を開設せるもの一六等がある、農繁託兒所は大正十四年より濟世顧問、濟世委員及相當餘裕を有する婦女を中心として經營せしめて以來長足の進歩を來し昭和九年度においては其の經營一七一團體、三三九箇所、收容延人員八五、六六四に達してゐる

社會教化事業

融和事業 大正九年以來地方改善費なるものを設定して要改善地域の改善、並に同胞融和に必要なる各種の施設及び諸種事業の補助獎勵をなして來たが其の主たる事業團體は

▲岡山縣協和會
事務所所在地 岡山縣社會課内
創立 大正九年九月
事業概要 同胞協和の實をあげるため各種の事業を行ふ、各郡には支部を置く

事業概要 一般職業紹介、少年職業紹介

▲高梁町職業紹介所
事務所所在地 上房郡高梁町役場構内

創立 昭和六年十月二十六日
代表者 (高梁町長) 徳田番之

事業概要 一般職業紹介、日傭労働(向々三箇年)賃金立替

▲琴浦町職業紹介所
事務所所在地 兒島郡琴浦町役場構内

創立 昭和八年十二月十五日
代表者 (琴浦町長) 尾崎謙一

事業概要 一般職業紹介

▲里庄村職業紹介所
事務所所在地 淺口郡里庄村大字新庄

創立 昭和四年十月十日
代表者 (里庄村長) 大内富恵

事業概要 主として村民の職業紹介

▲愛國婦人會岡山縣支部職業紹介所
事務所所在地 岡山市弓之町八二

創立 大正八年七月一日
代表者 (所長) 松島義明

事業概要 一般職業紹介

【臨時のもの】昭和九年の風水害後、新見、勝山、林野、和氣、西大寺、福渡、成羽、矢掛、等岡各町に臨時職業紹介所を設け復舊

社會事業——移住事業、兒童保護事業、社會教化事業

社會事業——隣保事業、司法保護事業

- 岡山市昭和會
事務所所在地 岡山市社會課內
創立 昭和三年五月三日
事業概要 融和事業一般
○詳細は社會問題の項参照

- 馬屋上村共同濟世社
事務所所在地 御津郡馬屋上村大字三和一七八九番地
創立 大正七年四月八日
代表者 (社長) 藤井靜一
事業概要 防貧事業、各種農村隣保事業

- 誠行會
事務所所在地 岡山市花畑
創立 昭和五年八月
事業概要 融和事業一般

- 隣保事業
本縣における隣保事業は明治二十四年アリス・ベター・アダムス女史が岡山市花畑に花畑日曜學校を開きたるに始まる、是實に本邦における隣保事業の創始である

- 岡山博愛會
事務所所在地 岡山市花畑三七番地
創立 明治二十四年十二月二十五日
代表者 (會長) アリス・ベター・アダムス
事業概要 施藥救療事業、保育事業、授産事業

- 山口
創立 大正十三年三月
事務所所在地 英田郡豐田村大字山口

- 岡山縣社會團體
事務所所在地 岡山縣社會課內
創立 昭和二年十一月
代表者 妹尾熊男
事業概要 授産講習、圖書刊行、人事相談

- 岡山縣醫學會
事務所所在地 岡山市市弓之向
創立 昭和六年十二月
代表者 (會長) 聖園テレジア
事業概要 乳幼児保育、養老事業、日曜學校、人事相談、その他教化事業

- 司法保護事業
中央機關として岡山縣司法保護協會あり此の統制下に郡部に十九司法保護團體がある(詳細は司法の項参照)

學藝・文化



吉備文化の淵源遠きことはこれを史實に徵するも明白なところであるが、中國の中樞に位し、氣候稔和、土地肥沃、陸海交通の利便、京阪に近接せる地理的關係は文化の母胎で、更に近世備前藩に於いていへば藩政の始めに池田光政能澤了介の如き名君賢臣あり、教學の興隆、産業の開發に勤め、それらの芳蹤は郷土文化の培養に至大の影響を與へてゐる、現代文化の先驅者として津山藩藩守田川玄隨が蘭學に志し「西説内科選要」を著したのがわが國における和蘭内科譯書の嚆矢とせらるゝ、津山藩士箕作阮甫、麟祥、秋坪、足守藩士緒方洪庵、久世の菊池好直、金川の難波立應、同立運、秋坪の子菊池大鑑、箕作佳吉、同元八らあり、洋學のために氣を吐き、政治的には自由民権運動の立物を出し、藝苑には洋畫の先覺を送つたことは近代文化を攝取る用意のあつたことがわかり、教育上には藩校の後早く高等學校、醫學校が置かれ、教育縣としての素地は夙く整つてゐたのである、従つて新思想

想、新事象に對する理解、消化旺盛で、岸田吟香の本邦新聞創始者の一人たる、片山潜の社會運動に先進したる、山室軍平の救世軍に投じたる、事業界に紡績、織造事業の起りたる、社會事業として、孤兒院の設けられるなど、岡山縣人が育て若くは岡山縣の土地に育つたものである、更に新聞、雜誌の發刊、普及、諸事業の創設、發達、諸施設の施行においても他縣に比して遜色を見ず、これ縣民が文化に對する含著と追求とに由るものでまた經濟生活に弾力を有する結果である、一體、中國人が理智的といはるゝ性格は地理的關係乃至文化的環境によつて涵養されたものであらう、近時、醫科大學、農業研究所、勞働科學研究所、美術館、天文臺、造船所、化學工場等の設立は郷土文化の諸部面に新しい役割を果しつつある

文壇

岡山縣は由來文學の盛んな地方で正宗、近松など現文壇の先驅諸

家をはじめとして小説、戯曲、詩、歌、俳句、評論、外國文學の研究翻譯等文壇各分野にそれぞれ代表的著名文人を送り出してゐる、従つて郷土における文學運動も活潑に行はれ歌誌、俳誌の同人雜誌はその種類も多く、各派の研究が旺盛である、併し小説、戯曲、評論の研究向上に資してゐる所謂文學同人雜誌は未だその數少なく中央に活躍してゐる本縣出身作家の活動に比較して地方文壇は稍不振の感がある

地方文壇としては同人雜誌「車」に據るものと、同じく「紙」に據るものがあつた、紙は左翼文學を標榜してゐるものでその方面の活動を續けてゐるが本縣官憲の斷限によつて解散して以來雜誌を廢刊してゐる、「車」は昭和九年一月名和鎌太郎、樺田久治、尾崎廣、青山虎之助、古川尚雄の五氏によつて純文學を標榜して創刊したものである、爾來今日までに五卷發行し編輯同人の數も増加してゐるこの中には相當優秀な作品が掲載され漸次中央文壇からも認められるに至つてゐる、また「炬火」を葛原博史、赤木克己、中島資喜、河西新太郎氏等を同人として發刊してゐる

學藝文化—文壇、歌壇(短歌、和歌)

へて来た、また最近文壇に所謂不安の文學が擡頭するに當りこの傾向に對立し「不安思想」を戰戰するたため能動主義文學の主張が行はれてゐるかこの方面には本縣出身の新進阿部知二氏が評論に小説に第一線に立ち活動した、評論家としての新進杉山平助氏は「氷河のあくび」に「文藝軍記」を「春風を切る」に「現代デパートリズム論」等文學社會人物の各方面に互り斬新な評論を矢継早に發表してその特異の存在を深めてゐる、更に正宗白鳥氏や近松秋江氏の如き大家の活動目覚しく、文壇の激浪に捲かれることなく正宗氏が常に独自の持味をもつて文壇をリードしてゐることはいまでも多言を要しないが、文藝復興の機運に伴れて多くの既成作家が文壇に返り咲き文學の理論闘争が後退して人生批評が再興するに及びこの方面の第一人者として近松氏の小説論は特に重要視され氏の活動には目覚しきものがあつた、また多年獨乙文學研究者として知られてゐた内田百閒氏は隨筆「百鬼園」を上梓以來隨筆界に一躍文名を轟かせてゐる、これ等文壇人の活動以外に最近では本縣出身官僚の松本學氏が新官僚の立場から文藝統制を企て文藝懇話會を作り文壇の耳目を驚動さ

歌壇

してゐる、以上は最近特に注意を喚起したものを列記したまで、あるが一括して本縣出身の文人を上げると作家として正宗白鳥、近松秋江、片岡鐵兵、土師清二、額田六福、阿部知二、坪田譲治、本山萩舟、藤井真澄、評論家として木村毅、杉山平助、池崎忠孝、國文學には正宗敦夫、森敬三、佛蘭西文學の大宰胤門、井汲清治、英文學の矢野龍人、露西亞文學の米川正夫、獨乙文學及隨筆家として内田百閒、詩人に正富洋、藤田泣菫、赤松月船、野人に尾上栗舟、石井直三郎、岡野直七郎、俳人に中塚一碧樓、西村蕪々氏らがある

歌壇

上同人に森山誓志男、定久冲天、香蘭同人に黒大かね子ら各支部を率ゐて活潑な動きを見せアララギに上代浩三、杉駁太郎、創作、柳橋、多磨、歌と觀照、青虹等に據る人あり歌誌を離れて岡山、鳥城、倉敷、笠岡、津山各短歌會があつて概ね眞摯な歩みを續けてゐるが未だ一部に多分に社交的な空氣を持つたものも清算され切つてゐない、その點を匡救はせずべく生れた岡山歌話會は當初相當めざましい活動を示したが年度後半沈黙してしまつた、作品は蒼鷺、香蘭に抒情的によいものを見せ、國民文學、アララギに現實的な色彩を盛つたものが多く、論壇にアララギの杉駁太郎ら奮つた、昨秋の大風水禍に直面して、生々義郎、服部忠志ら僅かに水軍詠を示したのみで、時事對等に見るべきもの少かつた、地方誌としては、服部忠志らの短歌詩人がひとり續刊してゐるのほ淋しい、五月北原白秋氏の倉敷來遊があつたが當時同氏系の香蘭の内紛などから歓迎會の催しもなく好機を逸したが七月渡鮮の途多磨岡山支社創立歌會に出席、また書道講習會に來岡の尾上栗舟氏を迎へ岡山學藝協會主催、本社後援で歌道と書道に關する座談會が催され、歓迎歌會もあつた、

和歌

新聞歌壇は中國民報に若山壽志子氏(創作主宰)選の中國歌壇があつて初心者の指導に多年力を致してゐる

幕末から明治、大正、昭和にかけて岡山和歌壇の先達であつた岡直廣翁は吉備歌會、齋垣内歌會を率ゐ、門下に多くの歌人を出し、その勢力は縣内外に及んでゐたが昭和八年四月二十二日八十七歳にて死去、十年七月十四日岡山市國清寺において中國民報後援の追悼會が行はれ、その席上、例年一月全縣的歌會を催す議起り、準備委員が選定されたこれを契機として沈滞せる岡山歌壇が興隆するであらうと思はれる委員は國直直香、中塚正齊氏より左の七氏に託した

岡田諒、赤澤氏恭、淺羽春之、大守勇、石原馨、岡久、山本正憲、吉備歌會(岡山)岡山には托心會「黃薇和歌會」「玉葉會」などあつたが、明治二十八年四月黒田清綱子の來岡を請ひ後樂園延養亭において和歌大會を催し、大岡團結して「吉備歌會」を設け、岡直廣翁會長、岡田諒氏幹事となり、選者は黒田清綱、小出榮、以後御歌所寄人、參候が當つた、現今は加藤寄人、岡山高隆、岡田諒諸氏選者、會員七十餘名あり、一季のぬき



商紙洋

株式會社 中井商店 大阪支店

大阪市東区瓦町二丁目

電話本局 146・147・148 149・150・1651

本店 東京市 支店 京都市・名古屋市 出張所 門司市・大連市

學藝文化——文壇、歌壇(短歌、和歌)

へて来た。また最近文壇に所謂不安の文學が擡頭するに當りこの傾向に對立し「不安思想」を醸成する...

歌壇

してゐる。以上は最近特に注意を喚起したものを列記したまで、あ...

短歌

木下利玄、尾上柴舟氏らを生んだ岡山歌壇は、從來量的には相當の盛衰を示し...

新聞歌壇は中國民報に若山壽志子氏(創作主宰)選の中國歌壇があ...

和歌

幕末から明治、大正、昭和にかけて岡山和歌壇の先達であつた岡直藏翁は吉備歌壇、瀬内歌壇を率ゐる、門下に...

岡田諒、赤澤氏恭、淺羽春之、大守勇、石原繁、岡久、山本正憲...



商紙洋

株式會社 中井商店 大阪支店

大阪市東区瓦町二丁目

電話局本局 146・147・148 149・150・1651

本店 東京市 支店 京都市・名古屋市 出張所 門司市・大連市

新聞印刷用キ

各種印刷用
版用ス
騰寫版用
印刷用

梅原工業製造株式会社

大阪市北区芝田町
電話北 1629番
振替口座大阪45670番

「禮」を發行してゐる
 松園會 (玉島) 中塚正齋氏が明治四十四年始め、現在會員約二十名である、毎年十二月月次兼題を出し、毎月詠草中より天地人、人並及び佳詞を選び印刷に附し會員に押布してゐる、會員の集合する歌會は一年一回くらゐである、正齋氏は明治二十四年頃岡直靈翁の門人となり、黒田清綱、篠田止夫らに教を乞ひ、四十四年より井上通孝の門人となつて今日に及んでゐる

海松布和歌會 (笠岡) 昭和三年創立、現在會員二十名で、御歌所寄人島野幸次の遺を乞ひ、毎月歌集を發行してゐる、主なる會員は世親長造、矢野彦平、田中章一、河合俊一郎諸氏

鶴山會 (大宮) 大正十二年一月島久郡大宮村安仁神社事務所開設けられた、遊者は元同社事務所田正氏、會員二十名で、毎月家題詠草の添削を乞ひ、一、五、十月歌會を開く、毎月入選歌を贈りし「鶴聲」と題し會員に配布してゐる

國風會 (津山) 大正十二年四月創立、數年前まで「國風」を發行してゐたが今はない、會員約四十名で、坂田きよよ、江見定、後藤りか氏らが幹部である

俳壇

岡山縣における俳壇は明治時代正岡子規の新俳句提唱により、その門下に赤木格堂、折井愚哉、河東碧梧閣門下に中塚一碧樓などの俊筆を出たせと、わが中國民氣が専ら新俳壇の振興に奮興すると、その勝からざりしとにより他に比し遜色なき隆盛を見てゐる、目下縣内において發行される、俳壇を一瞥すると

唐辛子 大正十四年大佛雲山指導の下に紫田桃彌これを發行し、雷山俊するや従來の舊調を清氣し、昭和五年四月號より西村兼之直選となり、赤木格堂、折井愚哉、藤井紫雲、志田素堂、吉田寸草、等井梅乙等の贊助を得て専ら櫻土俳史の顯揚に努め、種々な句を鼓吹しつゝあり、西大寺會陽、榮西屋、雪舟屋、除風忌を俳壇臨時記に掲載力を提唱して認めらるゝところとなり、又十周年記念として「唐辛子句集」を出版す、昭和十二年七月第十一卷第七號、通巻百二十餘に達す、定價二十錢、發行所岡山市弓之町八一、唐辛子發行所

關の花 昭和七年ホトトギス系としてハンザキ、金鶴の二誌ありしを合併し、辻瀧雨主宰、乾木花、

多田一夕君その他を同人とし、四月號より「關の花」と改題して發行、鈴鹿野風居士選たりしを昭和十年四月より辻瀧雨主宰となり、毎號赤木格堂、正宗敦夫、長谷川伸、本山秋舟、土師清二、吉田包、小林三郎らの文章、繪畫をもつて師り文藝雜誌としての本領を發揮す、昭和十年七月通巻第七十二號、定價二十一錢、發行所、岡山市東山下四一、關の花發行所

さきり 主宰平松浩大が瀬戸高等女學校在職中女生徒を誘導、大正十四年十二月一日創刊し、昭和五年五周年記念さきり句集を出版同人等岡商業學校に轉任後も引續き發行、ホトトギス系唯一の俳壇、第十一卷第七號に及ぶ、定價十錢、發行所、小田郡等岡町、秋葉會

翠雲 石橋系として唐森平高、村次五松、池田土城、福田隆等々を同人として大正十四年一月創刊七月號百二十七號に及ぶ、非賣品、會員組(會費年二圓)發行所、津山市南新座一九、村次五松方、草雲社

白蓮 行徳系大野信彦、志賀朝法、長尾輝水、越智ゆき雄、谷口典昭その他を同人として昭和七年六月創刊、七月第三十三號に及ぶ、非賣品、發行所、岡山市上御福三七〇、岡山市俳句會

句作 東安系を嚆矢し東馬寄徑岡野三郎、兒島秀秀、竹村綠堂らを同人として昭和十年五月創刊、定價十錢、發行所、岡山市富田町三三、岡野方、句作發行所

かささぎ 貝原環を主とし山崎松雨の發行せる舊調唯一のもの、昭和七年七月創刊、通巻二十七號に達す、定價十錢、發行所、岡山市一番町一三、かささぎ社

山彦 月次集として十年近く編纂せるもの、昭和五年十月より西村兼之の主選となる、竹久雨町、小坂光風、福田至良、實成桃村らを同人として投稿者美作一圓に及ぶ七月通巻百六號、非賣品、發行所、津山市京町、山陽吟社

昭和九年來俳壇の出来事としては

西郷句碑修補 文化十五年俳人西郷が眞庭郡落合町妙見山に築設せる西郷の「木のもと」は計も繪もさくら哉の句碑倒壊しあるを岡山の江田堂山發見して地方有志これを修補し吉田朝々記念に標額を植栽してその傍に對方左の碑を建て八月竣工を見た、

妙見山落合町勝戦之地、而洋會齋齋榮樓、即讀芭蕉翁之傳、昭和癸酉歲仲秋、江田堂山君與吟友探此勝、偶發見翁碑倒壞、慨歎不能措與有志謀再興、補修以

新聞印刷用 不_レ之_レキ

各種印刷用
騰寫版用
印刷ワニス

梅原工業製造株式會社

大阪市北区芝田町

電話 北 1629番

振替口座 大阪45670番

穂一を發行してゐる

松園會 (玉島) 中塚正齊氏が明治四十四年始め、現在會員約二十名である、毎年十二月月次兼題を出し、毎月詠草中より天地人、人面及び佳調を選ひ印刷に附し會員に配布してゐる、會員の集合する歌會は一年一回くらゐである、正齊氏は明治二十四年頃岡直原翁の門人となり、黒田清綱、鎌田正夫らに教を乞ひ、四十四年より井上通泰の門人となつて今日に及んでゐる

海松布和歌會 (等岡) 昭和三年創立、現在會員二十名で、御歌所寄人島野幸次の遺を乞ひ、毎月歌集を發行してゐる、主なる會員は世長長造、矢野茂平、田中章一、河合茂一郎諸氏

鶴山會 (大宮) 大正十三年一月邑久郡大宮村安七神社事務所開設けられた、選者は元同社宮司村田正夫氏、會員二十名で、毎月兼題詠草の添削を乞ひ、一、五、十月歌會を開く、毎月入選歌を贈寫し「鶴聲」と題し會員に配布してゐる

國風會 (津山) 大正十二年四月創立、數年前まで「國風」を發刊してゐたが今はない、會員約四十名で、坂田きみよ、江見定、後藤りか氏らが幹部である

俳壇

岡山縣における俳壇は明治時代正岡子規の新俳句提唱により、その門下に赤木格堂、折井愚哉、河東碧梧桐門下に中塚一碧樓などの俊筆を出たせと、わが中國民報が専ら新俳壇の振興に寄與するところからざりしとにより他に比し遜色なき隆盛を見てゐる、目下縣内において發行される俳誌を一覽すると

唐辛子 大正十四年大供雷山指導の下に柴田桃圃これを發行し、雷山歿するや従来の舊調を清算して昭和五年四月號より西村燕々直選となり、赤木格堂、折井愚哉、藤井紫影、志田素琴、吉田寸草、笠井栖乙等の贊助を得て専ら郷土俳史の顯揚に努め、穩健なる句を鼓吹しつゝあり、西大寺會陽、榮西忌、雪舟忌、除風忌を俳諧時記に掲載方を提唱して認めらるゝところとなり、又十周年記念として「唐辛子句集」を出版す、昭和十年七月第十一卷第七號、通卷百二十餘に達す、定價二十錢、發行所岡山市弓之筋八一、唐辛子發行所

關の花 昭和七年ホトトギス系としてハンザキ、金鴉の二誌ありしを合併し、辻瀧雨主宰、乾木花

多田二夕居その他を同人とし、四月號より「關の花」と改題して發行、鈴鹿野風呂主選たりしを昭和十年四月より辻瀧雨主選となり、毎號赤木格堂、正宗敦夫、長谷川伸、本山秋舟、土師清二、吉田苞、小林嘉一郎らの文章、繪畫をもつて飾り文藝雜誌としての本領を發揮す、昭和十年七月通卷第七十二號、定價二十一錢、發行所、岡山市東中山下四一、關の花發行所

さきり 圭幸平松措大が瀬戸高等女學校在職中女生徒を誘導、大正十四年十二月一日創刊し、昭和五年五周年記念さきり句集を出版同人等岡商業學校に轉任後も引續き發行、ホトトギス系唯一の俳誌、第十一卷第七號に及ぶ、定價十錢、發行所、小田郡等岡町、狹霧會

翠雲 石楠系として居森李高、村次五松、池田十城、福田曉雲等を同人として大正十四年一月創刊七月號百二十七號に及ぶ、非賣品、會員組織(會費年二圓)發行所、津山市南新座一九、村次五松方、草雲社

白道 石楠系大野極夢、志賀御法、長尾輝水、越智ゆき雄、谷口岬雨その他を同人として昭和七年六月創刊、七月第三十三號に及ぶ、非賣品、發行所、岡山市上伊福三七〇、岡山市楠俳句會

句作 東炎系を標榜し東馬青徑岡野三童、兒島秀秀、竹村綠堂ら

を同人として昭和十年五月創刊、定價十錢、發行所、岡山市富田町三三三、岡野方、句作發行所

かささぎ 貝原政雄を主選とし山崎松甫の發行せる舊調唯一のもの、昭和七年七月創刊、通卷二十七號に達す、定價十錢、發行所、岡山市一番町一三、かささぎ社

山彦 月次集として十年近く續せるもの、昭和五年十月より西村燕々の主選となる、竹久雨町、小坂光風、福田至良、實成桃村ら

を同人として投句者美作一圓に及ぶ七月通卷百六號、非賣品、發行所、津山市京町、山陽吟社

昭和九年來俳壇の出來事として

芭蕉句碑修補 文化十五年俳人芭蕉が眞庭郡落合町妙見山に建設せる芭蕉の「木のもととは汁も輪もさくら哉」の句碑倒壊しあるを岡山の江田堂山發見して地方有志を修補し吉田朗々記念に櫻樹を植栽してその傍に獨力左の碑を建て八月竣工を見た

妙見山落合町勝概之地、而往昔芭蕉築庵處、仰讀芭蕉翁之傳徳昭和癸酉歲仲秋、江田堂山君與吟友探此勝、偶發見翁碑倒壊慨歎不能措與有志謀再興、補修以

移于現地。勸其功傳于後世。栽植櫻樹爲記念。余亦贊其舉賦左之一章。

そのかみの光り溢れつ囀に 西村 燕々

若櫻淺春秋の思ひ出に

江田 堂山

(裏)甲戌晩春 吉田朗々建之

世話人 牛駒宗平

徂春歡迎句會 爾の花、唐辛子

兩誌合同にて昭和十年一月四日岡

山市西中山下出雲大社教分院にお

いて東郡俳詠ゆく春主幹室積祖春

同波那女歡迎句會が催され盛況を

呈した

燕々句碑建設 唐辛子同人は西

村燕々が遺骸を迎へたるを記念

し岡山市東山禪刹國富山少林寺境

内(五百羅漢左側)に

松の空をけく青み輝しくれ

燕々

(裏面)西村燕々先生華甲壽記念

昭和乙亥初夏

俳詠唐辛子同人建

の句碑を建設し昭和十年六月九日

除幕式舉行、記念句會を催し、更

に乾木花、笠井栖乙、大森實ら十

餘氏の發起にて句碑竣工祝賀會を

六月二十二日後樂園外苑浩齋軒

に開催、主客合して八十八名出席

聚會であつた

鯉を放つ會 關の花主宰汁濠雨

多田二夕屋發起にて昭和九年九月大水水により荒廢せる後樂園澤の池に鯉を放つ會を企てたが、同園修理進捗せず爲に實行遅延せるも記念句會の句を募集しつゝある

漢詩壇

漢詩壇は坂田九峯を盟主とする西川吟社あり、現存する社員は柚木玉郎、石井桐陰、松岡萍水、入澤新江、木梨天來諸氏、九峯没後振はす自然消滅の姿である、次で三好敬堂氏の東山吟社、大正十二年

片山鴨水、大原桂南、間野鶴堂、宮原梅溪、井上仰山、服部星塘、陶守耕南、峰谷岫雲、武藤西泉、吉田玉山、前川玄堂、森脇靜峰、中野晴峯、木暮瀧堂、小野忠政、具原暉山、中村松華、小田春景、淺野竹堂、佐藤松陵、田中稷堂、鹽田七石、桑原白郎(岡山) 窪田倉泉、大森棟梅、高内松堂、犬岡臥石、三宅白峯、中島白嶺、野上夢香、花房剛堂、吉川香雪、一森妙庵、荻野龍峯、佐藤翠堂、石井杉溪、浦岡介堂、森合金峯、守谷其樂、岡本空谷、岡本東陽、井上謙哉、依田藤堂、万波白堂、(郡部)諸氏

現在藤下社員で、岡山に稻本陽洲、

松村山壽、津山に池田長谷、上原看雲、花土有隣、矢吹正郷、渡邊鷺洲、上道に山口雲泉諸氏がある

川柳

第六高等學校が開校された當時同校の顧問子達と川柳に指を染めた岡山の人に河野鶴羅漢氏がある、此頃が岡山縣に於ける、川柳の草創期で、一方古川柳の研究者として岡田三面子博士と親交の有つた新道の權威者、故西原柳雨氏が高等中學校に教鞭をとるかたはら各誌に蘊蓄をかたむけてゐた事を見道してはならぬ、これより先、寶曆、明和、安永、天明の頃全盛の極に達した古川柳は、遂次、狂句に墮落して、文化、文政、天保、弘化とその最盛期を経て、情性は明治年代に及んだが、明治三十六年七月、日本新聞に據つて「新題柳柳」の題下に井上劍花坊氏が新川柳の大旗を擧げて以來、新進作家雲の如く出で、その頃岡山へ歸郷中で有つた、藤原弘美氏を中心として劍花坊氏の命名の下に、大正二年二月二十六日灘吟社が岡山の地に發會式を學げた、同人には勃公兒(弘美の前號)寶年坊、鬮ぶ六(今の冠句の笑号)我樂太、掠鳥、五吞、自由庵の諸氏で意氣

天を衝くの感があった、これについて三石にボブラ吟社(三石川柳社の前身)勝田に柳情吟社、鴨東川柳會、津山に鶴城吟社、津山川柳會、新見に備北吟社、高梁に高梁川柳會、鴨方に紫會、備中小阪に、楊柳吟社、倉敷に倉敷川柳會、琴浦に蟬蛩吟社、邑久に邑久川柳會、岡山に三葉吟社、團栗會、舟月會、かべ士吟社、御野川柳會、二葉會、等々相前後して續出し、機關誌としては三十六灘吟社の後身ともいふべき岡山川柳會から、大正五年四月「かささぎ」が發刊されその他、岡山から街燈、舟月會報、かべ士、團栗、ちさの木、稱懐、ホーネン報、黃塵、高梁から藤の胸、玉島から瀧西川柳、倉敷からくろ土、津山からはたき、鶴の巢、等々刊行されたが何れも比較的短命に終り唯唯稱懐のみ三十四號を重ねて、又倒れた、斯うした推移の中に大正十二年、關東大震災の頃を一區劃として、中央にあつた新興川柳の烽火は地方にも相呼應して打ち揚げられ、縣下の柳壇も、時代の潮流に押されて進んだもので、劍花坊氏は兩辭の旅より、或は、九州行脚の途次、吟杖を岡山の地へ寄せる事、數回、氏が第二の故郷と言つて懐かしがった岡山縣は大正十年の前

設にもしつて「黒笠吟行社」を興したのは有名な話である「黒笠吟行社」には先代尾谷三三郎、三宅力松、立石某氏ら佳作をのこし、賤道家系の「よしこの」篇とともに明治二十七八年頃までに確乎たる岡山情歌壇の地歩を築きあげたものである、この情歌壇の隆盛に有力な要因をなしたものに近世印刷術の進歩があり専門同人雜誌はもとより新聞雜誌の情歌壇設定が決定的な要素となつてをりとりわけ明治年間、萬朝報の「俚謠正調」は同好者の音龍門視され大程で、當時岡山にあつては賤道家の高弟東海道雲助をはじめ備前一宮の深井延年堂、郡澤の青々堂、岡山の藤澤紫水、平松天頼、三澤瓢吉氏らの名手を輩出し宛然中央情歌壇を睥睨するの概があつた、その後大正に入つて「備中流」といふ俗態な調子が流行した時代もあつたが新都々逸の影響を受け、東海道雲助、多田紅太郎、丘三千古氏ら主唱の「紅吟社」の創立を見、一方中國民報は情歌壇を設け粕山胡蝶堂を選者に(のち橋本梅亭に改む)斯界の復興に備へ情歌は漸次、都鄙各地を通し大家文藝壇に雄飛するに至つた、現在岡山情歌壇には露野芳村、深井延年堂、多田紅太郎、橋本梅亭、柏舟、晩翠堂、

後の項、數年開川柳王國として自他共に許した、それ程川柳の殷盛を極めた過去を持つて居る、越えて、昭和四年十月中國民報文藝欄に「中國柳壇」が新設せられ劍花坊氏を選者に追日寄稿家の雜沓を見たが會て滿鮮の旅中、動き且つ動き年取る暇もなしと詠んだ程の氏も昭和九年九月六十五歳で長逝した、墨に津山鶴城吟社同人に依つて昭和五年十月氏の賽した作樂神社境内に建立、昭和七年四月十七日除幕した院庄六百年の涙雨

の句碑は、氏を永遠に生きさせざるものとして記念されてゐる現今の岡山縣に於ける吟社といふべきものは前記の鶴城吟社の外に倉敷に立禮川柳研究會あり、岡山に翠深社あり、鶴城吟社は顧問格の片岡陽氣坊氏が昭和八年三月他界し、夫人ひろ子女史は兵庫縣垂水へ居を移し、幹事直原那岐坊氏これ又、津山を去り、ために昔日の面影なく、わづかに露恵竹溪雲氏を頭領とする立禮川柳研究會が二十輯に垂んとする機關誌「立禮川柳」に氣を吐き、松尾健樺氏の翠深社また「翠深」を發行してゐる、「方劍花坊氏亡き後の中國民報の「中國柳壇」は東都の、小池彪太郎氏の選場となり今日に及

んでをり現在岡柳壇に活躍してゐる新川柳人は岡山の白雁、孤峯、曠星、守己、正坊、幸一、珍珍坊の諸氏、三石の獨光、霧砲、叱叱郎氏、津山の微風、陽氣生、白鳳氏、成羽の打打斷氏らのはか秋月、竹柳、丹包、猛舌戀、蟻蜂、素人、正夫、一踏、三郎、不倒翁、一步、天夢坊、市村、深聲、草山坊諸氏であるが、右のほかには津山、倉敷市方面にも次の様な柳壇人がそれぞれ句作をはげんでゐる

津山の那岐坊、吞狂、徹爾樓、十九柳、晴之助、石笑、一聲、銀川、隆夫、佛氣良の諸氏、三石の壽堂子氏、等岡に霞村氏、倉敷の深雪、躑生、由多坊、みなみ、天涯、綠雨、鐵矢、信太郎、耕水、赫叱郎、羽衣の諸氏十年正月の中國民報「讀者文藝」に入選した作品は次の通り

- 一等 空腹へぐんぐん進む白い餅
- 二等 希望に燃えた死必の表情
- 三等 地球儀を踏んまへて炬をか
- 次子國(和氣) 枕草子

天正時代泉州堺の日蓮僧隆達の

情歌

歌

胡蝶堂等の諸氏が活躍してゐる

冠壇

等附は冠句とも、古くから併用されて来た名稱であるが、さてそれがいつの年代にいかなる経路で、岡山の土地へ流入して来たか、未だ詳かにされてゐないが、始祖の紀行文集ともいふべき『西國船』に於ては、元禄十二年備前岡山に遊び、十四年秋は因伯方面に志し、其地方に多くの門友を得たとあるから、或は太平の世の習ひとして、花鳥風月の風流に親しんでゐた山田の嗣官から、俳句の作法を學んだ御師又は大夫といはれた下級の神人が、伊勢句を手に入れ、その大夫が年々伊勢大神宮の大賑祓札を配つて、六十餘州至らぬ限がなかつた、そして土佐に入つて傳授した種子が、土佐デニハ句となつて後世に殆どされた事實からして既に冠句を植付けられてゐた岡山句界が、吹簾軒雲波の遊杖によつて、「多くの門友を得た」とある如く、新に始祖流の句風を擴められたと見るのが、事實に近い考證の仕方ではあるまいかと思はれる、そして大正年代に入ると『有聲』『松の聲』『日本俳諧新報』

などの娯樂詩が相並んで發行され更に月刊誌『中國文藝』をひつつけて、冠句の啓蒙運動に乗り出した、故田鳴水の努力によつて鳴く鳥に自然のリズム意識する

海かすか 慕郷の念に山が見えの如く内容に多少の動きを見せるに至つたが表現生硬で長く育たず波の死と共に慧星の如く消え去つたのである。それが同十四年の四月、定廣雪村が『新聞』より『冠句』を創刊するに當りその第一巻第一號に於てなした冠句革新の宣言に大きな衝撃を受けた地方冠壇はこれを模範として傳統的臭味と土俗性を驅逐し著しくインテリ青年の擡頭を促すに至つたのである、作品も漸次叙法と句材が革まり

泣くものか 茂の中 教授二時間鐘の聲

から再轉して 藤椅子に 唄へば光る柘榴の實

夕野邊に 秋のひとみし物の影を經て軽くスケッチ風

草の家 宣傳ビラが一つふり番傘に 講稿提げた子の低く

へ押し進められたが、これはあまりに濫過的で内容の廣さに缺けたため、更に實感を現實に即せしめるべく、冠題と附句の間に置いてゐた空欄を除いて、現在の自由吟である『冠句』となつて、完全に詩作品化されるに至つたのである

草を喰む白い猫あり暮れんとす 行き行けど吾より先にある輪 友の死に思ひ出杉の實の匂ひ 木の芽吹く明るさにあり爪を剪る

この夜ころ針の冷たさ募る戀 と句の構成を純然たる一行詩に改めたことは、一句立の原型を正しく今日へ生かしたものととして、岡山の冠壇が高き矜持を誇示する所以であり、スムースな表現形態は、新感性に満ちた音律とともに、却て京神地方へ逆輸入されるに至つた所以である

今や完璧を驕らんとする郷土詩を逸して、實作に精勵する同好團體は、岡山の呼笛吟社と冠句春秋の本支社の外に、淺口のこたまた、御津のホワイト、上道の旭東、吉備の八咫、邑久の桂の各吟社、倉敷の麗洋會、都窪の嚴迦會、児島の郷内俳壇等々、百を以て算する豪華な冠句陣が繰り広げられてゐることは、岡山冠壇句のため高らかな凱歌に値ひする歴史的盛觀といふを憚らないのである

因に現在の専門雑誌は『くまろ』の外に、『冠句春秋』『山椒子』『ほ

林靜太▲世代の不幸と文學犬養智 ▲日本精神を語る座談會筆記▲印度佛跡を訪ねて伊藤次郎左衛門▲高德の終焉地小野寺鐵堂

四月 藩山了介と植木是水吉備外史▲農民文學の退却犬養智▲出刃庖丁土師清二▲岡山今昔記を讀みて花田一重

五月 備中福山合戦小野嘉夫▲淨瑠璃人形久米龍川▲玄菟遺稿(附秀山存稿)知水學人▲臺灣國立公園(次高山からタココ峽へ)田村剛▲喇嘛僧に就て後藤朝太郎▲古代人の釣中村星湖▲沼田博士を偲ぶ藏知矩▲波蘭の夢想者ピルスマスキー元師林靜太▲純粹小説と通俗小説江口漢

六月 庭の草木を見ながら(その六)若山喜志子▲備後三郎兒島高德再認識の提唱西内天行▲川柳劍花坊傳小池蛇太郎

七月 歌と踊の移動性久米龍川▲備前刀と吉野時代知水學人▲岡先生を憶ふ森敬三▲世に出ぬ大瀧田村剛▲愛生園の歌人杉駱太郎▲隨筆「犬」戸川貞雄▲貧乏雜記吉備外史▲道場と劇場中村星湖▲小木の泊り吉井勇

八月 米の生る木の民謡藤澤衛▲木堂翁の尺牘入澤新江▲「高德實在」再論西内天行

たいずの四種である

詩壇

明治、大正、昭和の日本詩壇に、輝かしい足跡を残した瀧田泣葉、人見東門、正富洋洋、赤松月船、木山操平等の先輩を持ち、一時全國にその旺盛を誇つた岡山詩壇もこれら諸先輩詩壇を退き、岡野捷魯の「鬮」横田久次郎の「木曜」吉澤勝の「詩展」青山紅人の「文藝往來」河口速の「軍艦」等相ついで休刊或は廢刊となるに及んで、これらの詩壇をめぐつて活躍してゐた段塚青一、尾崎廣一、山本遺太郎、大森泰二郎、古本哲夫らの諸詩人はその據點を失ひ、須一まさ子、横尾晴一、山口狂介世を去り、青木英朝辭に渡り、昔日に比し現在の縣詩壇はやゝ寂寥の觀を呈してゐる、現在の詩誌に東條文雄の「鼎座」佐藤末治の「星座」早川隆行の「短歌詩派」黒田多朗の「波止場」萬原博史の「炬火」堀玉陽の「曙」曉詞朗の「西暮」萬木佐代子の「樹空」松末美代子の「紅椿」青山紅人の「車」等による活躍あり、これらの外廓をまいて岡野捷魯、横田久次、石原廣文、櫻南謙一、鈴木一作、金光堅、杉山伊太郎、吉澤勝、貝原壽文、目黒良明、三

村健一、赤木克己、矢吹京兒、菊原勇、犬養智らの諸君が詩作してゐるわけである、一方岡山歌謡壇は久保田智二、槇本楠郎の先輩を持ち、最近の斯界の急激な發展と時流に乗じ、犬養智の新興歌謡作家同盟の機關誌「新興歌謡」及び吉澤勝、犬養智の岡山縣民歌謡協会の「吉備歌謡」を繞つて藤原領夫、佐藤末治、英珍二、兼田俊夫、林文章、杉明一、山本吟風子、中村甲陽、石井楚江、東條文雄、曉詩郎、黒田多朗、西林唯夫、太田良男、宇佐見蘇峯、大田圭介、小野岩吉、松永美代子らの諸作家が活躍して、漸次斯界は隆盛におもむきつゝある

中民學藝壇

昭和十年一月以降、中國報社學藝欄に據る中央郷土文人の文化活動は創作に時評に、絢爛たる活躍を見せてゐる

一月 創作「春戀歌」牧逸馬▲百鬼園隨筆内田百閒▲次郎長さんげ子母澤寛▲春(短歌)前田夕暮▲語らるる文藝古川尙雄▲母性愛を讀へる中島信一▲平賀元義と新年の歌森敬三▲文藝大座談會(出席者、菊池寛、小島政二郎、佐々木茂案、小林秀雄、川口松太郎、徳川夢聲)▲故郷の若き人々へ土

學藝文化——中民學藝壇、ラヂオ

オチラ

ラヂオとは電波の社會的感應であり、時局の全文化領域に於ける反映であると考へられる、従つて放送事業は著しく公共性を帯び飛躍的なその普及率も當然であるけれども一面また縣民の經濟的、文化的自覺とその消長を同じうするものである故に、過去一年間のラヂオの記録は生きた國民文化の記録として縣民の生活水準測定の指標とも見られる、昭和六年二月一日、JORR岡山放送局開設以來、聽取者の数は加速度的に増加し六月末現在の五二二二は十年五月末現在に至つて二九一〇六と五、六倍に増え、遂に岡山市の普及率は神戸以西第一に達し、同九年六月以降、「響者の無い村はない」といふ程度に達した、九年九月、關西一帯を襲うた大風水害のため一時停頓したかの感があつた増加率も年々を更めると共に回復し、十年四月の聴取料値下げによつて拍車つけられたようである、以下岡山放送局を中心とする最近一年間の放送活動を摘記してみる

岡山放送局 (一)局所在地、岡山市綱濱字赤坂ノ上、(二)局舎、鐵筋コンクリート平屋建二八三平

方米、(三)局長安澤福太郎、業務係(主任)伊達英男、花房忠志、小此木通孝、中川次郎、高橋左太郎(以上三人アナウンサー)林智(相談所主任)技術係太田道(主任)ほか二十一名、(四)設備空中線機送波入力〇・五K・W、周波数七〇〇〇K・C、日本電氣製放送機、有線中継その他、(五)呼出符號JOKK

(聴取者)増加数

Table showing listener statistics for radio broadcasts, including monthly and annual listener counts and broadcast hours.

市郡別聴取状態及普及率 (註)右表中、前掲数字は岡山放送局管内(備前、美作)で後掲数字は広島放送局管内(備中)である

自九年四月至十年三月

Summary table of broadcast statistics categorized by program type (e.g., news, education, children's programs) and time.

勝舌上御赤兒邑和津

Table listing specific broadcast programs and their corresponding listener statistics.

種目別放送状態

Text describing the status of various broadcast programs, including national and local news, educational content, and entertainment.

Text detailing the activities and achievements of the radio station, including listener feedback and program evaluations.

「爾靈山」田中閑堂、三・二二「お話とらた」岡山市岡南校児童、三・一六「お話」小串ひさし、四・三講演「警察の今昔」石井政一、四・二二新人の時間「琵琶」城山河田英水、(二)俗曲「安来節」ほか小野注連夫、(三)談話「娘」ほか須藤筆夫、四・二二「お話」郷土お伽のつらら「難波金之助、四・二二民謡(一)「西大寺小唄」ほか西大寺参番、(二)「新子野小唄」宇野檢番、(三)「高松ノエ節」ほか高松市檢番、四・二三「チオチオ」の旅、(一)講演「倉敷市を語る」船曳貞治郎、(二)「備中高松町紹介」徳田番之、(三)「松山藩」高梁町熊谷卯一郎ほか、(四)獨唱「安城の渡し」阿部幸子、(五)新民謡「岡山民謡」ほか岡山中村小春ほか、(六)琵琶講談「池田久馬」水也田春洲、五・四(一)尺八二部合奏「磯馴松」橋本頌山、寺門命山、(二)管絃合奏「千鳥の曲」中田徑山ほか、五・九講演「福山合戦について」永山卯三郎、五・一六「お話と軍歌」漢川真山朝恭、岡山師範生徒ほか、五・一八講演「濟世記念日に際して」多久安信、五・二二童謡唱曲「繪日傘」ほか和氣三石校児童、曉星「上道郡操南校児童、五・二四「晩報」講演「警察並びに燈火管制について」岡利和、

出版

五・二六新人の時間(一)琵琶「佛御前」本田旭梢、(二)歌謡曲「放浪の唄」ほか中一正、(三)琵琶「軍神廣瀬中佐寺岡寒翠、(四)俗曲「桶公」ほか松永喜久恵、(五)琵琶「坂本龍馬」杉山旭濠、(六)端唄「辯論ひんぼつ」ほか仁後竹次郎、(七)歌謡曲「山のあなた」ほか吉形士郎、六・一五「お話」真孝母子時本堅、六・二八「童謡唱曲」岡山市内山下校、三動校児童、六・三〇講演「青年學校實施について」多久安信、七・六「管絃樂」岡山市管絃樂團管絃樂部、「ハワイヤンギターオーケストラ」杉原ハワイヤンギターオーケストラ、七・七「獨唱とピアノ獨奏」大西薫、保田芳郎、竹内幸、谷治子、七・九「神樂囃子」邑久郡幸島村水門氏子有志、七・二〇琵琶講談「孝子保少年」逸見旭洋、七・二六「お話」海の傳説三つ」片山魏、八・一〇講演「選挙權止に就て」藤野忠

出版法による縣内の出版物は縣特高課の調査(十年八月末現在)に於て、各種目を通じて五百五十一に及び未報告のものを推計するときは七百餘の多きにのほり、別に新聞紙法による刊行物を加算す

白道(俳)一岡山市上伊福三七〇岡山石楠俳句會 幼き友一岡山市弓之町一八聖愛會句作(俳)一岡山市富田町句作發行所 さきり(俳)一小田郡等岡町狹霧會社 やまこ(俳)一津山市京町山陽吟社 草雲(俳)一津山市南新座一九草雲社 館報一岡山市小橋町岡山市立圖書館 鶴(俳)一岡山市一番町一二かきぞ誌社 中國民俗學會 中國民俗學會 岡山歴史地理一岡山市内山下一八岡山歴史地理學會 關の花(俳)一岡山市東中山下四一關の花發行所 惑星(詩)一岡山市花畑一四七惑星社 鳥城一岡山市三番町三五鳥城誌社 桂林(書)一岡山市南方二六七桂林書道會 風流(書)一岡山市上伊福二七九風流發行所 愛生一邑久郡雲掛村虫明長壽愛生園慰安會 高窓(詩)一岡山市栢屋町一六高窓詩社 呼笛(冠)岡山市綱濱六二四呼笛刊 二四七

學術文化

學術文化機關並に團體

て満足せず土地百町歩及建物寄附して『財團法人大原製糖會』を設立したその後更に大正十一年七月土地百四町を寄附したため今日では二百四町の土地と建物九百十坪を有してゐる

生と温度並に温度との關係、根瘤菌による窒素固定の機構について等の研究を進めてゐる

同春川忠吉、同西門義一(助手)農學士岡村保ほか十三名

協力による相互開發と地方文化の振興を目的として研究會、講演會、出版、映畫會、見學、展覽會等を隨時開催する、昭和十年五月二十三日發會式當日の出席者は次の諸氏である(順序不同)

【組織と事業概要】當初は種藝園藝、農藝化學、昆蟲、植物病理の五部門に分けてゐたが大正十三年四月に園藝部を廢止した(イ)種藝部 大正三年事業を開始し作物一般に關する事項就中、米穀、麥類、種子、畜種及び實験傳傳に關する事項その他栽培法、氣象等の研究を行ふ、(ロ)農藝化學部 大正四年に開始し農業に關する諸般の事項を化學的並に微生物學的に研究する、(ハ)昆蟲部 大正四年に開始し、諸種害蟲の性質、形態、生態等を調査して作物に對する被害の程度その他を研究する、(ニ)植物病理部 大正四年に開始し、諸種作物の病害を調査しその病原分布並に地勢土質との關係その他を研究する、これよりほか昭和八年一月農林省の依頼を受けて小麦の品質及び貯藏方法の研究を併せ行ひ又昭和八年六月日本學術振興會の囑により三箇年計畫で米穀の貯藏、梨蟎食虫及び二化螟虫、稻切蛆に對する温度の影響、麥類の發芽時に於ける二三重要病害の發

【農業圖書部】大正十年大原氏の寄附によつて設立した、煉瓦造三階建三十坪で獨逸ライプツヒヒ大學植物學教授フエツフアー氏の遺著一萬三千三百五十三冊を筆頭に七萬三千餘冊の重要文獻を蔵す【同研究所の學界に於ける地位】同研究所は我國唯一の研究所たるのみならず世界に於て英國のロイヤルサムステッド農事試驗場と並ひ稱せられ了本に本部を有する方國種子協會の日本代表加盟研究所であり所長近藤万太郎博士は昭和八年十二月同協會溫帶帶種子研究の委員長に推舉された、又萬國土壤學會の日本支部も同研究所内に設置されてゐる

【職員】(名譽會長)原澄治(臺長)理學博士山本一清(主事)水野千里(職員)理學士宮原節、小山秋雄

大西、川崎(岡山一中教諭)古川(六高教授)中島(同前)野田(同前)山下(同前)寺崎(日銀岡山支店)安達(岡山放送局長)家本(辯護士)笠井(關中教授)景山、阪上(岡山二中教授)上代(岡山醫大助教授)佐藤(清心高女教諭)大森(岡山師範主事)高木、内藤、渡邊、高室(岡山高女教諭)金木、宇野、佐藤、小野、岩城、森本(以上中國民報社)岡山博物學會(事務所)岡山市第六高等學校生物學教室內(役員)會長八木正衛、副會長佐藤林三(事業)本會は岡山市を中心とする博物學研究の團體で主として中等學校教員を以て組織し臨時講演會をす、昭和十年八月一日より三日間東京帝大講師牧野富太郎博士を招いて備北植物採集同好會を催した

見照、小川威夫、佐藤清明、今半兵衛、山下一男(事業)成羽を中心とする地質學化學地質學の研究を行ふもので成羽産化石の陳列をも行ひ會議「成羽」を發行、毎年夏期は地學講習會を催す

【職員】(所長)農學博士近藤万太郎(研究員)農學博士板野新夫、

成羽地學同好會(事務所)川上郡成羽町尋常高等小學校內(役員)顧問仲佐寅次郎、和田重之、大石三郎、會長渡邊三二、幹事高

リムルス學會(事務所)岡山市内山下一〇佐藤清明氏宅(役員)幹事佐藤清明(事業)動植物を中心とする博物研究を行ひ、毎月雜誌「リムルス」を刊行、なほ他に隨時パンフレットを發行す

【職員】(名譽會長)原澄治(臺長)理學博士山本一清(主事)水野千里(職員)理學士宮原節、小山秋雄

大原美術會(事務所)岡山市内山下二水原岩太郎氏宅(役員)會長黒止巖、副會長玉井伊三郎、

大原美術會 財團法人大原美術館は大原三郎氏の創立にかゝり倉敷市新築園の隣地に工費約十萬

美術・工藝



人文夙く開けた吉備の國は藝苑に人材を輩出し、王朝、室町兩時代に於ける畫聖金岡、雪舟はいふに及ばず、徳川期に浦上玉堂、青葉父子、岡本豊彦、廣瀬山、藤本鐵石、山本竹雲、柴田義重ら畫名を走せ、明治文藝復興期に入つて洋畫の流傳にあたり原田直次郎、松原三五郎、松岡壽、渡邊三郎氏など先覺者を出し、文展第一回(明治四十年)には松岡壽、瀧谷國四郎兩氏が審査員となり、第二回には鹿子木孟郎氏が加はり、岡山

は日本の洋畫の發達には大なる貢獻をしてゐる、日本畫はあまり振はず、石井金陵、岡本月村らが僅に知られたが、洋畫に前記のほか赤松麟作、徳水仁臣、寺岡國太郎氏ら出で、洋畫隆盛の先驅をなした、すなはち文、帝展には楠木久太、吉田苞、片岡銀藏氏ら特選、推薦、審査員となり、兒島虎次郎氏は佛國のサロン・ソシエテ・ナショナルの會員に擧げられ後帝展の推薦を受けた、一科會員に正宗得三郎、國吉康雄(瀧米中)會友に

小林喜一郎、獨立美術協會會員に中山、小早川篤四郎、佐藤章、石原義武氏ら多くの新進を送つてゐる、日本畫は國畫創作協會から帝展に推薦された小野竹露氏、同じく帝展推薦池田達郎、東原方徳、院展に大林千萬樹、帝展に松島白虹、木村丈夫、南畫院に森谷南人子氏らあり、洋畫に比してや、遜色あつた日本畫壇にも少壯畫人が登場しつゝある、彫刻には院展同人より新帝展會員となつた木彫家平橋田中、帝展推薦に岡本金一郎、帝展に兒島一(一九年)江川治、院展に女流作家太田嘉女野氏、漫畫に細木原青起、幸内純一氏、縣下在住美術家は前記諸家中二三氏のほか楠木玉郎、津田白印、波多野華涯、森安石象、三宅且齋、久我小年、入澤所江、矢部榊堂(日本畫)砂田正二、河合達海(洋畫)井上仰山(彫刻)氏ら多數ある、他縣にあまり類例を見ざる洋畫研究會の創立、大原美術館の設立、工藝協會の組織など、縣民が風雅心に富み美術を愛好する象徴と觀られる

美術工藝一 繪畫

園を授け、美術師寺工博士の設計にならるクラシック様式、延百七十坪二階建、昭和五年秋完成し、荘麗なる建築美を誇つてゐる。玄關にはロダン作「豫言者ヨハネ」カレールの市民」のブロンズを飾り、陳列品は階下にて故洋畫家兒島虎次郎氏の遺作中より代表作百點を制作年代別に陳列、階上には大原氏の依頼により兒島氏が蒐集せる近代歐洲畫家の作品中より六十一點、古代エジプト、ペルシャ、トルコ等の美術品、工藝品百餘點を陳列し、陳列品中繪畫六點及エジプト古美術品三點は重要美術品に指定されてゐる。昭和十年三月、大原氏、兒島虎次郎氏の寄付行爲により、大原家東邸並に澆華園と共に百七十萬圓の財團法人組織とし、舊觀のまゝ一切財團に引繼がれた。

財團理事大原總一郎、美術師主計、武内潔眞、監事原澄治、林彪太郎、評議員大原總一郎、兒島虎次郎、松尾哲太郎、吉田包、栴原政一郎、近藤萬太郎、三橋玉見、藥師寺主計、林桂二郎、武内潔眞、理事長兼館長として武内潔眞氏館務を處理し、美術界に一道の光芒を放ちつゝある。

岡山洋畫研究会 「岡山洋畫研究会」は兒島虎次郎、吉田包氏らが中心となりて大正二年組織され

爾來毎月研究會を開き大正十四年初めて會員の發表機關として展覽會を毎年春開催し、寫生旅行、モデル招聘研究を試みるなど洋畫の向上に資するところ多く、規模を擴張して縣出身の先輩を特別會員とし、現在特別會員十一名、會員八十四名を算す。

無聲會 南畫家榎木玉郎氏を中心として同人は田中柏堂、住友玉溪、久我小年、二宮精堂、大野江東、藤田晩晴、仁科杏齋、中塚正齋、鹽田江雲諸氏の集ひ毎月十七日玉島町樂善堂美術氏宅にて例會を開く、久我小年氏の會心會は昭和三年八月創立、會員は佐藤香園、西山松軒、渡邊吾生、與野堂玉輝、高越否郎、江本卓堂、加藤和郎、山本星峰、岡本湖山の諸氏にて無聲會に合流す、玉郎氏名は方啓、儒學を松田存舟、齋田玄溪、平山父子に學び、帝國大學農科を卒業し、農政、農事に盡し、後詩畫畫三昧の生活に遊ぶ、泰東、平安書道會、日本美術協會等に關係し、著書、畫譜數種あり。

木曜會 吉田包氏の指導を受けつゝある婦人の洋畫研究團體で初め黙齋會と稱し、後、木曜會と改む、木曜日の集りに因む名稱、會員二十名、岡山唯一、全國でも珍らしい存在である、大正十二年第

一回、三年第二習作を發表以來展覽會に中絶されてゐたが十年第三回展覽會を開催した。

有香社 波多野華涯女史の畫塾女史は水戸の人、藤澤南岳に漢學詩文を學び、跡見女學校第一回卒業生で畫を花隠、龍和亭に受け、後岡山に來り、有香社を設けて十四五年、現在會員五十名。

帝展改組と本縣 帝國美術院組織改革の結果、舊會員滿谷國四郎(第一部洋畫)平橋田中(第三部彫刻)兩氏會員に會員總會の結果、舊推薦小野竹齋氏參與に選任された等二部會と本縣 舊帝展第二部(洋畫)無鑑査級の不出品同監は十年七月八日(第二部會)を結成した。

岡山洋畫研究会 岡山洋畫研究会第十一回展覽會、十年四月三日—七日縣商工獎勵館に開催、特別會員出品七點、會員出品六十點、木曜會洋畫展、會員出品三十點、書展覽會、昭和十年六月三十日岡山市西大寺町明治製菓樓上に開催出品者十六人、作品二十八點。

遙邨郷土風景展 池田 遙邨氏「郷土風景小品展覽會」十年五月廿四日—廿六日、岡山市下之町スナミ婦人洋品店階上、陳列十三點。

松齋遺作展 喜多村松齋遺作展覽會、昭和十年四月三日、岡山市柳川筋大正館。

新江輪墨展 入澤新江氏輪墨展十年四月廿九、三十日岡山美術俱樂部、陳列八十點。

獨立美術講習會 獨立美術協會第三次夏季洋畫講習會、十年七月二十七日—三十一日、岡山縣商工獎勵館、講師中山巍、林武氏、外山卯三郎、尙三十日午後七時本社講堂において講演會、洋畫壇における日本主義(中山巍)兒童畫の新しい認識(外山卯三郎)現代バリ畫壇(林氏)。

入選・出品 第九回構造社展入選 小池 岩夫 二科會展出品 小林喜一郎

彫刻

(附金工、彫漆)

第二十二回二科展入選品彫二、御供長夫、難波正人、黒田祐治

白彩、田邊九山らあり、正方に逸見東洲(現在大阪)、逸見東峰、小田東海、龜山北峰らあり、趣味としてこれに親しむものを合すれば岡山市内のみにても八十名近く、つてその盛況が想像される、元來彫刻(木工を主とする)方面では金澤、讃岐、高松等が盛んであるが前者は漆技にその特徴を發し後者は分業的な大産生に漸次産業工藝品の色彩を帯び來つた現在、ひとり岡山縣の彫刻界は工藝美術品として漸次隆盛に赴きつつある、また玩具等の木竹製品も海外に進出し、團體には次のようなものがある。

岡山縣工藝協會 岡山縣工業試驗場に事務所を置き縣内における工藝品及び意匠圖案の製作に従事するものをもつて組織し岡山縣總務部長を會長に推してゐる十年九月には岡山縣立商工獎勵館で中國四國九縣聯合工藝展を開く。

岡山美術工藝協會 岡山市市桶屋町八五五官研齋氏宅に事務所を置き彫刻、漆工、木竹細工等の美術工藝家をもつて組織し林泰八氏會長に、常任幹事は佐官研齋、島本敬三郎、渡邊芳夫氏である。

岡山彫刻聯盟 岡山市下西川阿部白彩氏宅に事務所を置き彫刻家並に之に關聯する技術家をもつて

陶器

組織、諏訪春山、逸見東峰、阿部白彩、木口九峰氏を常任幹事とする彫刻家は左の如し。

初代勝 重(寛永) 十代勝 實(明治) 義(安政)

十一代勝 實(明治) 義(大正)

勝 義(正阿彌を繼ぐ)

備前 (正阿彌一派)

初代道 喜(元和) 八代藤四郎(天保)

九代勝義 十代勝 之(明治) 義(中川を繼ぐ)

備前焼 備前焼すなはち伊部焼の陶史は雲中に遡る、中世、近世の備前焼の名聲は全國的で縣下における産業部門の一位を占め、縣當局が獎勵につとめてゐる、現在の陶工は

西村春湖、金重陶陽、大豊、屋、伊勢崎陽山、松田華山、小西陶古、難波好陽、木村宗得、藤原陶齋、福井敏夫、片岡直之、金重七郎左衛門、山本陶秀、木村

田中南日庵、太田芝山、福武白峰、松本月峰、津山 小野蛙堂(竹)木村勝彦、(竹)福田耕一、(竹)須江新一、(吉備)龜山北峰、(郡窪) 渡邊南峰、神崎軒水、(邑久) 小橋廣衛、(上道) 戸川鶴堂、(兒島) 藤原友右、平賀石泉、(川上) 平松梁兵、(赤鷲)(竹)井上圭介、(竹)越雲義治

岡山縣 金工系圖

美術 (中川勝重一派)

備前 (正阿彌一派)

義 實(大正)

義 實(明治)

義 實(中川を繼ぐ)

主の保護を受け名工も多く出したが天保以後衰退を來したといへ、備前焼の名聲は全國的で縣下における産業部門の一位を占め、縣當局が獎勵につとめてゐる、現在の陶工は

利一、森陶匠
その他多数従業してゐる

酒津焼 明治二年備中國酒津莊
龍山の南麓に陶土を發見し岡本末
吉榮窯して諸種の陶器を産出し來
つたが、窯主の末弟第一氏京都に
出で桶部彌一その他に就いて陶技
を學び歸郷、舊來の技法と新手法
とによりて製作しつゝある、西山
窯、甲山窯とも稱す

虫明焼 虫明焼窯は備前邑久郡
雲掛村虫明にあり、雑器を焼いて
みたが、領主伊木三猿齋が文政年
中京都の陶工眞高、清風らを引き
茶器を作らしめ、自身も陶土をひ
ねり、當時焼成せられたるものは
相當の市價を呼んでゐる、一時中
絶の姿であつたが、再興せられ茶
器を製作し、製品は市場に氾濫し
てゐる、窯數九、陶工横山香寶、
岡本不樂がある

御庭焼 池田縣政公が後樂園内
に窯を築き伊部の職人を招き試作
したに始まる、大正元年岡山市磨
屋町中巴石が園内「暫軒」跡に
窯を設け現在は二代波石氏が置物
茶器を製作してゐる、御庭焼の妙
趣は置物の胡粉仕立にある
佐平焼 津山市浮田製絲工場長
浮田佐平氏が鶴山公園東麓に窯を
築いて製作しつゝある
リーチ陶展 英國の陶匠バーナ

ド・リーチ氏作陶展覽會、十年
二月二十三、四日倉敷商工會館所
階上

岡本第一陶展 酒津燒岡本第一
氏作陶展覽會、十年五月二十六日
—二十八日倉敷商工會館所階上

書道

明治四十三年全國に亘つて黄檗
書道會なるものを組織してより伊
原雲外、丹羽海鶴などの大家度々
縣下を往來して書道作興に努めて
ゐた、偶々大正十一年現會長大原
桂南氏など中心となつて全國最初
の書道講習會を開催爾來十餘年前
記書道會並びに同講習會は縣下書
道會の育成機關として指導と統制
に努めてゐる、その門下の主なる
ものは

石井周六(書島縣立中學校長)藤
原鶴來(香川師範教諭)井上桂園
(熊本師範教諭)則武鶴亭(安東高
女教諭)大塚尚(大連瀨生高女教
諭)栗野寺彌峯(奉天高女教諭)瀨
戸川治郎(新東京商業教諭)中島茅海
(岡山高女教諭)山崎皓洋(就實高
女教諭)久戸瀨春洋(等岡商業教
諭)内田鶴雲(等岡高女教諭)河井
黃場(津山高女教諭)三浦末吉(新
見高女教諭)赤木哲也(天掛高女
教諭)片岡竹窓(天掛中學校教諭)小

京阪地骨董商が地方より吸收する
ため、ますます品物の傾向をたど
るものと觀られる

展覽會と講習講演會

▲第六回中國テンペラ、クレオン
水彩油繪作品展覽會 中國日報
主催で九年十月十七日より二十
一日まで岡山市喜多屋で開催

▲中國四國中等學校生徒作品ボス
ター展覽會 中國日報主催で九
年十一月二十三日より二十五日
まで岡山市喜多屋で開催

▲海外工藝品展覽會 縣並に工藝
協會主催で九年十一月二十日縣
商工獎勵館で開催

▲兒島矩一氏遺作彫展覽會 岡
山洋畫研究會主催で十年一月十
日より十五日迄縣商工獎勵館で
開催

▲學童書初展覽會 縣教育會主催
で十年一月八日より十一日まで
縣教育會館で開催

▲青年學校生徒作品展覽會 縣教
育會主催で十年五月より五日間
岡山市喜多屋で開催

▲洋畫講習會 獨立美術協會主催
で十年七月二十七日より三十一
日まで縣商工獎勵館で開催

▲洋畫講演會 中國日報主催で十
年七月三十日中國日報社で開催

▲書道講習會 書道會主催で
十年八月一日より四日まで岡山
市實業專修學校で開催

書畫・骨董

坂五七(岡山一商教諭)小坂傳治
(津山商業教諭)渡邊清園(岡山二
中教諭)森谷弘(岡山一中教諭)佐
藤松陵(清心高女教諭)中野清峯
(鳥越書院)竹原靈洲(倉敷高女教
諭)
以上のほか縣下書道界の元老とし
てまきをなすものは前記大原桂南
氏ほか森谷金峯、入澤新江(山陽
高女教諭)原増次(岡山二商教諭)
の諸家である

▲黄檗書道會 (創立)明治四十三年
五月(役員)會長大原桂南、ほか
に幹事として縣下中等學校習字教
師二十一名(會員)百五十名(事務
所)岡山縣師範學校内(事業)毎年
一回書道講習會、毎月一回黄檗書
道會例會開催

岡山の書畫骨董商は先年兩派に
分離し、坂元(峯吉)派は株式會社
岡山美術俱樂部を東中山下に創立
し、鹽見(保太郎)派も株式組織の
一會社を創立すべく準備を進めて
ゐる、實立はしばらく行はれたが、
十年一月以降目ぼしき入札はなか
つた、茶道興隆、陶器愛玩の流行
につれて相當の賣行は見せてゐる
ものの、むしろ品拂底の感が深く、
物が出さへすれば消化の見込みは
ありながらこの點に悩んでゐる、

おいしい本場手打素麵

揖保乃糸

御贈答に好適
全天下に満ちるすまゐ

兵庫縣龍野町
播州素麵業同業組合

髪洗ひ

三井シャンプー

近代人の養毛料

日本女性の黒髪を世界に誇るには！

第一洗髮料の御選擇です

三井シャンプーは至極簡単に洗へ、洗つた後はしつとりと乾いて高給髪油を使つた時と少しも變らず、毛根を傷めず毛の發育を助ける。舶來品に優る、高給洗髮料です。(古來よりの類似品澤山あり お買求めの節は必ず三井シャンプーと御指定乞ふ)

岡山縣 元 天 生 堂



社 會 名 合 和 三 元 券 拜
目 丁 二 町 井 徳 区 東 阪 大

一個五錢(二袋)



演藝・趣味・娛樂

興行界

昭和九年中の縣民の娛樂の大宗を占める諸興行の状態を見ると次の如くその大部分を占むるものは、映畫で純粹興行として行はれるものと、宣傳の目的のものとの合算して、第一位を占めその全縣下のところである。第二位は演劇、第三位は浪花節となつてゐる。

署名	劇場	映畫	寄席	觀物場	劇場	映畫	寄席	觀物場
岡山	六	六	六	六	六	六	六	六
山東	一	一	一	一	一	一	一	一
西川	一	一	一	一	一	一	一	一
野野	一	一	一	一	一	一	一	一
寺野	一	一	一	一	一	一	一	一
窓野	一	一	一	一	一	一	一	一
戸野	一	一	一	一	一	一	一	一
氣野	一	一	一	一	一	一	一	一
島野	一	一	一	一	一	一	一	一
岡野	一	一	一	一	一	一	一	一
原野	一	一	一	一	一	一	一	一

演藝、趣味、娛樂——興行界(劇場、映畫館一覽)

新	高	成	倉	津	勝	加	勝	林	合
見	梁	羽	山	山	美	野	野	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

演劇・映畫館一覽

(船内・収容人員)
(氏名は代表者)

【劇場】岡山劇場(一三六名)岡山市鷹野町吉田菊次郎▲大福座(七〇名)岡山市新西大寺町横山里次郎▲柳川座(二〇〇名)岡山市野田野町黒田位作▲千歳座(一〇〇名)岡山市西山下野崎興八▲東山借樂園(二〇〇名)岡山市門田鶴巻町岡長平▲朝日劇場(七五名)津山市橋本町藤原熊一▲新地座(一三〇名)岡山市下有本立▲高砂座(五五名)岡山市東田町青木六之助▲宮川座(七五名)岡山市材木町松山保男▲倉敷劇場(一五〇名)倉敷向市場小河原壯平▲龍美劇場(八〇名)岡山西町杉守堅一▲末廣座(二〇〇名)児島郡下津井町平賀爲一▲大黒座(三三〇名)岡郡胸上村淺野廣夫▲迫川劇場(八〇名)岡郡瀬崎村阿部榮▲國華座(〇〇名)

大名)岡郡宇野町田岡健吉▲蛭子座(美名)岡郡山田村今井友次▲玉姫座(一五〇名)岡郡日比町近藤▲日比劇場(五〇名)岡郡日比町四宮喜太郎▲辨天座(八〇名)岡郡藤戸町金本龜太郎▲味野劇場(一〇〇名)岡郡小田村米岡鹿平治▲常警座(五〇名)岡郡津浦町林金次郎▲高島座(一三〇名)上道郡西大寺町高島貴義▲豐江座(六名)淺口郡玉島町柳木梶雄▲寄島劇場(六〇名)岡郡寄島町竹本裕▲西阿知劇場(三〇名)岡郡西阿知町平野役次郎▲吉備津座劇場(八〇名)吉備郡眞金村森下岡市▲壽座(一三〇名)岡郡總社町仙石佐吉▲總社劇場(七〇名)岡郡總社町難波實三郎▲吳妹榮劇場(八〇名)岡郡吳妹村水川辰三郎▲新田劇場(七〇名)岡郡新田村高見關藏▲足守劇場(五〇名)岡郡足守町楠原新之助▲井原劇場

一五七

演藝、趣味、娯樂——華道

石橋町澤原春、門田屋敷村春、吉備郡總社町藤田宗味、上房郡高梁町大西かや、上道郡沖田村三宅かの、小田郡等岡町小松とみ、

華道

華道は各流とも盛んに行はれてゐるが、特に岡山縣の華道は専敬流に深い由縁を持つてゐる、我が國華道勃興期にさきたつ寛永七、八年の頃、當時島取より岡山へ移封せられた池田光政公は、

つとめてをり、ほかに吉備末生流、美笑流、近くは吉備專敬流、小原流岡山國風會等も生れて華道全盛期を現出してゐる

土田大森秀夫氏宅、曙俱樂部(御津郡一宮村友野耕平氏宅)、備前俱樂部(都窪郡妹尾町箕島橋本福太郎氏宅)、三澤秀太、

山多治(同北川村走出)古澤貞次郎(淺口郡金光町)三宅福松(都窪郡茶屋町早島新田)小池照月(同郡中庄村徳芳)天橋東一(倉敷市鯛原町)三宅天海(同市富久)近井玉泉(同新川町)藤森吉藏(同市)田邊村仁(同市西本町)服部明納(上道郡西大寺町)久山深翠(御津郡野谷村)武村安吉(川上郡成羽町)

岡山俱樂部(岡山市天瀬細尾守家氏宅)福岡三(同市弓町一七四)石井吉太郎(同東中山下)守家三郎(同天瀬細尾)岡野政太郎(同宮田町)響部銀次郎(同上西川)野上徳衛(御津郡大野村)杉原真造(岡山市北方)桐山牧治(同津島)藤田倉(吉備郡總社町)

西備俱樂部(吉備郡服部村矢吹一氏宅)、昭和俱樂部(赤野郡西山村島城勇太氏宅)樋口久吉(佐伯北村)岡崎追次郎(佐伯本村)長常五郎(小野田村)田中隆高(高陽村)

吉備末生流(岡山市天瀬田中氏宅)田中貞夫(同市天瀬二)釜木峰甫(同市東田町)谷義夫(同市内田)杉山猶一(英田郡巨瀬村下倉敷)村上たきの(勝田郡南和氣村)和田壽(津山市上之町)常藤いし(和氣郡山田村丸山)

岡山俱樂部(岡山市上西川水野氏宅)水野多吉(同内田)野上吉右衛門(御津郡白石村)小山瀧五郎(岡山市明田)藤村十郎(同平井)

倉敷俱樂部(都窪郡庄村小野恒一氏宅)平松吾一(中庄村別府)大森幹太(中庄村)岡本光太(菅生村三田)友野耕平(山手村岡谷)

嵯峨末生流(三宅政子(岡山市内山下)小松石甫(津山市西今町)台座佐平(同市小田中))

岡山俱樂部(岡山市内山下佐藤氏宅)濱崎英輔(同天瀬)伊藤圓次郎(同天瀬)佐藤止(同内山下)野田(同局)

池坊 木下愛隆(岡山市二番町)澤田春翠(同野田屋町)小引圓心(同西中山下)大野村翁(同岩田町)太田榮子(同宮田町)神谷可翠(同東中山下)木下深翠(同中之町西裏)石川天外(同丸龜町)大山顯吾(同内山下)川崎芳水園(同内山下)今川仙友(兒島郡日比町)福田泰信(同日比町)

吉備專敬流(岡山市内山下二〇)長尾俊憲(同市東田町)佐藤太馬二(御津郡芳山村)竹原榮吉(同郡芳山村)小敷秀二(同郡芳山村)西山昌樹(岡山市下田町)松山八次郎(同市二日市)桐野房太郎(御津郡白石村)長岡米治(吉備郡足守町)入澤虎次郎(上道郡三幡村)谷光五郎(倉敷市)網所武吉(岡山市門山)田口善吉(同市上西川)田中廉治(同市二日市)

心化會(岡山市七軒町安井恒次氏宅)、桂月俱樂部(邑久郡國府村土師戸田高吉氏宅)、敬華會(邑久郡行幸村福岡小橋東夫氏宅)藤原米次、西大寺俱樂部(上道郡野田村)

翻世流 則武石泉、三宅香雪、岩藤吉兵衛氏らの生一派と安田眞金、小川庸夫氏らの橋岡派とありうち香雪、石泉氏等は能樂協會に屬す

三名あり)村田清香氏を中心とする大竹會と香川龜三郎氏らの東京喜多會岡山支部とあり、觀世流各會と相並んで當地斯道の興隆に寄與するところ多大のものがあつた現今も前掲通り舊藩士を中心に依然弘く行はれてゐる

岡山俱樂部(岡山市内山下左藤氏宅)濱崎英輔(同天瀬)伊藤圓次郎(同天瀬)佐藤止(同内山下)野田(同局)

△尚論會 岡山市丸龜町、則武石泉氏(論曲教授)が組織し春秋二回論曲大會を催す

△天竹會 岡山市東田町、村田清香氏を主體に毎月十三日同氏宅で研究會を催してゐる、幹部會員に田中清徳(岡山市天瀬)小西清徳(同市二日市)石倉清翠(同山下出石町)三宅清軒(同山下右井)林清隆(同豐成)堀淵遊竹(同岡田屋敷)木畑清樹(同西中山下)田中清彦(同福島)らの諸氏がある

能樂

舊池田藩時代より盛んに行はれ、政、訟政候時代には温故會の催しがあり、舊藩士を招いてこれを觀賞せしめ一方各流有志をもつて組織する能樂保存會に對しては後樂園延壽亭の能樂會は勿論、池田家收藏の能樂束をも賣與し斯道發達に舊藩士の好意は特筆すべきである、他方香川眞一氏發起人となつて組織した能樂保存會は光藤龜吉(觀世)香川龜三郎(喜多)先代佐藤四勿(金剛)諸氏協力一致、僅々數年間ではあつたが能樂普及の萌芽を育成し今日の隆盛への道を拓いたものである、この能樂保存會の有力なチームは觀世流の觀世會、喜多流の大竹會を以て當時喜多流は舊藩士族の間で、觀世流は町方の方面に支持者を得て共に相扶け相競ぶの盛況が有力な推進力となつて今日に至つた

△觀世會 岡山市内山下、小川庸夫氏ら同好者をもつて組織す

△喜多會支部 岡山市二日市、香川龜三郎氏宅を以て

謡曲

謡曲六曲のうち當地に行はれてゐるのは金春、梅若を除く四流即ち、觀世、喜多、寶生、金剛流である

△觀世會 岡山市大供、平岩順治氏(論曲立教)が組織す

△小林龍太郎 岡山市島田町

△觀世會 岡山市内山下、小川庸夫氏ら同好者をもつて組織す

△寶生會 倉敷市旭町倉紡俱樂部内に事務所を置き跡見三治郎氏が教授す

△寶生會 岡山市地方では主として外來者間に行はれ専門的師匠といふほどでないが同好者の教授をなすものもあり又その會も組織されてゐる

△觀世會 倉敷市旭町倉紡俱樂部内に事務所を置き跡見三治郎氏が教授す

△寶生會 倉敷市旭町倉紡俱樂部内に事務所を置き跡見三治郎氏

△寶生會 岡山市野田屋町石川宏氏が主宰す

△寶生會 倉敷市旭町倉紡俱樂部内に事務所を置き跡見三治郎氏

△寶生會 倉敷市旭町倉紡俱樂部内に事務所を置き跡見三治郎氏

△寶生會 岡山市野田屋町石川宏氏が主宰す

演藝、趣味、娯楽——狂言、義大夫、哥澤

かに倉敷市金光町等岡町等にも同好團體あり同流の普及と趣味の向上に力めてゐる

金剛流 △佐藤四勿 岡山市橋本町

「職子方」

△大鼓 岡山市弓之町植田麟二、岡山市細堀守家幸正△小鼓 岡山市弓之町小西古由賀△太鼓 岡山市國富守屋文治、倉敷市外港津守屋潤△笛 上道郡西大寺豊中東風岡山市三番町田淵勝豊

狂言

幕末から明治維新へかけて池田家の重臣池田長準男によつて維持再興されかけてゐた狂言が一時中絶の形となつてゐたところ光藤鑑吉氏の肝煎りで大蔵流茂山千五郎師の高足中垣利幸氏を奈良より招き本郷關白、豊崎柳三、村瀬大願、三宅香雪の諸氏主唱して幸樂會を組織した、中垣利幸氏の死去後は茂山眞一師稽古に來岡し今日に及んでゐるがその間「武忠」「木六駄」「朝比奈」「八尾」などの習ひものを後樂園の能舞臺に上せ當地同好者のため氣を吐いた

▲岡山幸樂會 大正十年の創立で當初は前記四氏のほかに中谷一也、上田三太郎、西川弓街、尾谷狂兒、木畑金隆、沖白帆、角南超

一氏らが活躍した、現在では事務所を會長村瀬大願氏(岡山市天瀬)宅に置き、毎月六日の日岡山專門店會事務所階上で稽古をしてゐる、正會員七名休會員二名臨時會員三名で新に入會せんとする者は全會員の同意を要す、會員は遠く丸龜高松方面へも教授に行き地方での有力團體である

▲能樂保存會 明治三十九年四月能樂の保存進んではその普及を目的とし香川眞一氏ら發起者となり觀世、喜多、金剛各流の代表者が合同して力を致し同年五月の能樂公演から明治四十二年五月の公演まで毎歳春秋二季に會を催した

これには前記池田長準男等も骨を折つたが、能樂無料大衆公開の最初の理想に及びず最後の公演をもつて自然消滅の止むなきに至つたけれど岡山能樂史上果した役割は顯著なものがあつた

義太夫 縣下に於ける義太夫熱は地方稀に見る旺盛さで、就中、縣中部から南部にかけては玄人を凌ぐ底の素義家が散在してをり、岡山一市でも専門の師匠七名を數へる程、従つて岡山市大福座、美術俱樂部、柳川座の一月重會はそれらの連中で賑ひ、神戸市の神戸和合會審査大會、高

冷(倉敷市「池田家」内伏谷月子) 琴會(岡山市西中山下「南極」に片上鐵道支配人笠井信良氏ら當時の紳士階級が、梓屋派の梓屋勝吉師を聘して長唄「勝讀會」岡山支部を組織したにはじまり、長唄趣味は漸次隆盛に赴き、昭和五年七月そのうち的女流をもつて綠會に改組今日に至つてゐる、また一方岡山市「南極」にも梓屋忠治師のもとに翠會をつくり、綠翠ともに研精してゐる、最初岡山地方の長唄界は古式であり時代遅れであつたが最近はその新機運に乗じて著しい發展を遂げたやうである

▲梅樂會 事務所を岡山市新西大寺町高田家をき梅松師を中心

▲清元名取 清元梅松佐泰(岡山市新西大寺町大島佐泰) 清元喜久美(岡山市石岡町立野) 清元喜久美(岡山市山下中山) 清元梅松司(岡山市東中山下齋藤内阿部トキ、藝名千代) 清元梅松弘(岡山市瓦町) 清元梅松香(岡山市東中山下齋藤内古田政枝、藝名花代) 清元梅松喜代(岡山市東中山下齋藤内岡村清子、藝名松千

代) 清元梅松照(岡山市大雲寺町寶正照子、藝名照二) 清元梅松俊(岡山市南方田中弘道) 清元梅松俊(岡山市東中山下齋藤内高橋美子、藝名千代松) 清元梅松珠(岡山市東中山下齋藤内石村兩佐代、藝名喜美丸) 清元梅松義(岡山市下田町吉井濱子、藝名小春)

明治初年から中年へかけては、名曲「秋の言葉」の作曲者西山徳茂師を生んだ縣下

▲關西音樂指針會 社團法人總で岡山市内山下小野清友氏宅に事務所を置き縣下を中心に中國四國九州地方にのびてゐる

松市の玉澤素義審査會、高松近松會素義審査會などに縣下から出席して榮冠を占めるものも年々その數を加へてゐる

▲師匠 豐澤長之助(岡山市大雲寺町) 豐澤源之助(岡山市二日市) 豐澤此吉(岡山市下田町) 鶴澤八洲(岡山市西中山下) 野澤榮之助(岡山市下田町) 竹本加賀太夫(岡山市上西川町) 竹本角千代(岡山市東中山下) 豐澤廣一郎(兒島郡八濱町) 豐澤猿系(兒島郡琴浦町) 豐澤千島(郡窪郡撫川町) 豐澤住界(兒島郡藤戸町) 豐澤新次(津山市) 豐澤健二(上道郡西大寺町)

▲素義 立石かゝ(岡山市西中島町) 赤木善覺(岡山市弓之町) 木林駒代(岡山市桶屋町) 万代駒司(岡山市東中山下) 山崎松枝(岡山市二日市) 今井長司(岡山市大雲寺町) 松尾二葉(倉敷市) 小橋ふくへ(上道郡西大寺町) 藤原久し(兒島郡八濱町) 吉田芭蕉軒(淺口郡玉島町) 大森清樂(和氣郡片上町)

▲男子の部 哥澤芝吉備(岡山市上内田町多田利吉) 哥澤芝櫻(岡山市西田町矢吹太郎) 哥澤芝佳久(岡山市南方小田信久) 哥澤芝一靜(岡山市下之町小寺市郎) 哥澤芝不二(岡山市内山下藤原眞二) 哥澤芝伊勢(岡山市廣瀬町石井龜次) 哥澤芝桃(岡山市中之町吉田篤二) 哥澤芝天(岡山市新西大寺町大谷盛次) 哥澤芝扶金(兒島郡興除村西原金三郎)

▲女子の部 哥澤芝美代(現在

漸次希望者の増加するにつれて歌澤寅彦佐が松樂會を組織したのが現在の隆昌の先驅をなしたものでついて寅美代秋の稽古を最終にして土地の藝妓連の希望もあり地方人の嗜好にも投じた故か寅派から趣味のある芝派へ遷り哥澤芝扶金が師匠として弟子をとり大正十三年には哥澤松樂會の結成を見、爾來今日に至つてゐる、岡山哥澤界の先驅哥澤芝吉(荒川家藝名おくに) 死去の際には料亭鳥兵衛に「哥澤界」を催し在岡同好者各名妓が參列し涙まじりの哥澤をうたつたといふ挿話はよく當時の花柳界趣味界の情勢を語つてゐる

▲哥澤松樂會 大正十三年在岡の同好者が哥澤芝扶金を師匠として組織したもので岡山市濱田町吉田呉服店に事務所を置いてゐる各取りは次の通り

▲女子の部 哥澤芝美代(現在

り、昭和三年十一月三日「指針會」發起となり岡山市公會堂に「筆曲會聯盟」主唱の全國筆曲大會を開き筆曲を女學校の正科に編入する運動を起し、大月忠道氏は別に昭和三年「日本音樂大道派」を創め、樂譜による教授を傳道し昭和十年五月十二日、岡山市公會堂に八校(岡山高女、山陽、就實、豊科、片山、新見、高梁、和氣各高女)聯合筆曲會を催し氣を吐いた、縣下各地に活躍する筆曲團體は次の通り

▲關西音樂指針會 社團法人總で岡山市内山下小野清友氏宅に事務所を置き縣下を中心に中國四國九州地方にのびてゐる

▲男子の部 小野清友(岡山市内山下) 幹事猪木一友(岡山市上片上町) 高取和友(御津郡今村下中野) 秋山千代子(岡山市野田屋町) 石村君子(岡山市五番町) 中西梅野(岡山市上石井) 石井隆(岡山市東中山下) 淺沼玉(岡山市花畑) 谷本勝美(岡山市宮田町) 毎年春秋二季に岡山市公會堂で大演奏會を催すと共に夏期講習會をも開く

▲仁康會 岡山市内山下大月忠道氏宅に事務所を置く

▲大月忠道(岡山市内山下) 渡谷琴惠(岡山市東田町) 戸倉秀實(倉敷市新町) 石山八重壽(淺口郡

演藝、趣味、娯楽——長唄、清元、筆曲

演藝、趣味、娯楽

吉備樂 尺八、琵琶
玉島町 古城武蔵(小田都矢掛町)
▲北斗會 岡山市仲實町富田仲

▲當道友樂會支部 岡山市弓之町五七林
▲當道音樂會支部 吉備郡高松町小山加代野氏宅に支部を置く

樂備吉

▲當道音樂會支部 吉備郡高松町小山加代野氏宅に支部を置く
明治三年、舊池田藩の樂人中、岸本芳秀、久山義雄、見垣正香、御船繁氣四氏が大和の春日神社へ大和舞の傳習

米郡吉岡村久木

▲傳授教師之部 逸見旭洋(淺口郡金光町占見)
▲傳授教師之部 福原旭代(岡山市下石井新町三二七)
▲傳授教師之部 櫻村旭延(岡山市四番町)
▲傳授教師之部 尾形旭香(岡山市川崎町三二)

▲傳授教師之部 藤原旭映(都窪郡茶屋町早島新田)
▲傳授教師之部 藤原旭映(都窪郡茶屋町早島新田)
▲傳授教師之部 藤原旭映(都窪郡茶屋町早島新田)

▲傳授教師之部 藤原旭好(邑久郡豐村濱)
▲傳授教師之部 藤原旭好(邑久郡豐村濱)
▲傳授教師之部 藤原旭好(邑久郡豐村濱)

演藝、趣味、娯楽

八尺

明治四十二年春、郡山流家尾都山師の灌漑中教を受けた和氣島原山(御津郡一宮村)若原山(岡山市)兩氏が、現代岡山地方尺八界の創設者と見られる

八尺

本梁山(上房郡高梁町)琴古流 佐藤秀水(岡山市下西川一〇七)
後藤秀玲(岡山市山下)
縣下を通じて琵琶の愛好者は盛んなもので昭和七年前後の日本精神昂揚の波に乗って、仁義忠孝の精神を鼓吹し思想善導の要具たりとの建前から、男女青年團、各學校友會の娯樂として即ち一體の集會音楽としての立場から新しく見直されたかの感が深い、これは浪曲、萬歳等の大衆娯樂機關を通じて思想善導を圖るといふ文部省の最近の方針にも合致してゐるのであるが、そのため滿洲事變を主題とした新作が輩出し琵琶本來の藝術性に著しく勸善懲惡的色彩を加へた様である、縣下の琵琶界の情勢は大體次のようであるが、大日本地會岡山縣分會の如きは全國七八分會のうち東京大阪、神戸に次いで多數の會員を擁する底の盛況ぶりである琵琶が如何に縣民の嗜好に投じてゐるかを知らし得る

琵琶

郡山流 虫明山(岡山市上西川一五三)
長瀬山(岡山市東田町六一)
小西山(岡山市弓之町三三)
橋本山(岡山市上石井三五)
寺門山(岡山市上伊福橋心町)久山(岡山市御津郡山手村)
藤原山(岡山市御津郡山手村)
丸野山(岡山市御津郡山手村)
丸野山(岡山市御津郡山手村)
丸野山(岡山市御津郡山手村)

現前琵琶

▲大日本地會分會 橋本翁を宗家とする旭會は大正十五年八月創立し昭和二年十二月岡山縣分會に改組、事務所を岡山市門田六九角道有太郎氏宅に置いてゐる、會員

洋樂

田町八〇)長屋旭宏(岡市内田大學病院東)
神崎旭操(岡山市瀬ノ濱本町)
荒尾旭華(岡山市東田町八〇)
渡邊旭都(岡山市川西町)
渡邊旭深(岡山市旭町)
符谷旭芳(御津郡馬屋下村大窪)
小野旭窟(倉敷市老松町)
矢吹旭峯(吉備郡阿曾村)
矢吹旭峯(吉備郡阿曾村)
矢吹旭峯(吉備郡阿曾村)

洋樂

石井三小學校生徒ら一千餘名の出迎へに岡山着、岡山市公會堂で異國情緒豊かな藝術を公演し日進親善に盡すところ多かつた、その他二月岡山市當局の肝煎りで小學校員及び青訓生徒によつて創立された岡山市管絃樂團もラヂオ放送、第一回公演を開いたが未だ搖籃期に屬し岡山市大洋樂團も大した活躍をみせてゐない、更に九年秋の音楽シーズンは大風水害のため悉く蹂躙され岡山下を通りてラヂオ、レコードによる鑑賞力の發達してゐる割合に樂壇は寂寥を極め淋しいものがある、主なる音楽、舞踊會左の通り(括弧内は會場)
昭和九年九月二日「舞踊と小唄の夕」(倉敷)
九月十一日「ラブミー美粧祭」(夏川大二郎、赤坂小梅、淡谷のり子その他)
倉敷劇場、岡山劇場)
十一月十八日「筆曲と童謡舞踊音樂會」(津山)
十二月十五日「第五回聯合音樂會」(淺口郡小、女學校生徒(金光校))
十二月十五日「新作舞踊發表會」(岡山市トリオ舞踊團生徒)
十二月二十日「ピアノ披露音樂會」(津山女子校)
十二月二十二日、三兩日「歳末同情演藝大會」
七色會、壽美麗會、トリオ舞踊團、岡山アンサンブル(岡山市公會堂)
十二月二十三日上「銀友會、ラ

ツキークラスその他(津山朝日劇場)△十二月二十四日「森永クリスマス」の集ひ」高木東六、河原喜久恵、關種子、高勇吉、高玉枝、(岡山劇場)△十年二月十一日倉敷高女音楽會、清心高女音楽會△二月十三日和氣高女音楽會△二月十六日井原高女音楽會△二月二十四日岡山師範附屬音楽會、赤鷲郡聯合音楽會(瀬戸高女)△二月二十五日久米郡聯合音楽會(福蔭高女)△三月三日岡山高女音楽會△三月十日邑久郡女児音楽會(邑久高女)△三月卅日讚美歌音楽會(岡山市基督教會)△四月二十日「第七回岡山トリオ舞踊學園公演會」(岡山劇場)△同月二十一日「郷土訪問綜合藝術公演會」小也田春舟、生駒雷遊、武岡鶴代、米川文子、新宮博、水谷竹葉、本山秋舟、木村毅、宮原禎次(岡山市公會堂)△四月二十六日「ジャム舞踊團公演會」(岡山市公會堂)△五月十一日「新宮博舞踊大會」(津山新地座)△五月三十一日倉敷中央病院音楽會△六月三日「石井漢舞踊團慈善公演會」(岡山市公會堂)△六月八日岡山醫大音楽會(岡山市公會堂)△六月十五日「さつき音楽會」(岡山市公會堂)△六月二十二日「岡山市管絃樂團、岡山音楽研究會合同音楽演奏會」(岡山市公會堂)「ギター」

演奏會(岡山基督教會)△七月二十八日「關西學院ハーモニカ・バンド演奏會」(岡山市公會堂) ラヂオの發達に長徵を思はせたレコード界は豫想に反し年々隆盛を極め殊に昭和九年初秋から十年夏にかけての岡山縣下のレコード發行は從來にみぬ活潑なものがあつた、邦樂では流行歌が斷然他を壓し東海林太郎全盛時代でこれにつぐものに松平鬼、藤山一郎、松原徳、小林千代子、兒玉好雄、岡山市出身の青山巖があり花柳界方面では小唄勝太郎を筆頭に市丸、小梅、喜代三、メ香それに新人吾丸、豆千代など人氣を呼んでゐる、流行歌につぐ麗兒は浪花節で、一時の壽々木米若の天下もすぎ群雌獨尊の有様であるが關東節が衰へた傾向がみえる、洋樂の原になつたことは三四年前に較べて隔世の感があり實上金額において邦樂に迫らんとする勢ひにあり、フアンの嗜好もダンス曲、通俗曲の域から藝術的のものへの飛躍を示してゐる殊にバツハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの古典物が歡迎されコロムビアのシューベルト曲未成交響曲など岡山縣下

において本年隨一の發行といはれてゐる、レコード演奏會としては毎月二十日夜岡山明治製菓賣店で各社洋樂新譜鑑賞會、二十四日夜中國民報社講堂でビクター新譜發表會のほか明治製菓賣店でビクター、コロムビア、ポリドール、タイエイの各定期的演奏會が開かれてゐるその他岡山市で臨時に左の會が開かれた

昭和九年九月十八日「ビクター小唄と音頭大會」(岡山東山廣場)△同十七日、九月音楽鑑賞會(講堂)ビクター洋樂部長馬場二郎氏(岡山深紙校)△同十二月十一日「タイエイ野外演奏會」(岡山市内二箇所)十年五月二十二日「莊嚴彌撒の會」講師ポリドール宣傳部長龍久雄氏(岡山深紙校)△同六月二十五日皇帝協奏曲を聴く會(講堂)コロムビア洋樂部三浦潤氏(岡山市深紙校)△八月十六日「コロムビア移動演奏會」(岡山東山廣場)△同月二十一日「タイエイ移動演奏會」(岡山市公會堂前廣場)以上いづれも中國民報社主催又は後援

瀨戸内海音頭 瀨戸内海の國立公園指定を記念して中國民報社が一般から懸賞募集した新小唄「瀨戸内海音頭」は當選者八島峰夫、龍膽寺保、菊田正道、雲田謙吉諸氏の作詩に西條八十氏が補作し中山晋平氏作曲、山崎勝太郎、三島一豐兩氏吹込みでビクターレコード會社から九年九月臨時發賣され人氣を博した

第十師團行進曲 なほ右のほか中國民報社の懸賞募集で九年春郷土軍凱旋を祝すニットー・レコード軍歌「第十師團行進曲」家本壽氏當選作歌、陸軍戸山學校軍樂隊作曲、岡田繁長指揮、同軍樂隊演奏

吉備小唄 全國代表民謡として八年十二月ビクターより發賣した「吉備小唄」(吉澤勝氏當選作詩、町田豪章氏作曲、費美子氏演唱)裏面岡山シャンソン(長田幹彦氏詩、堀内敏三氏作曲、藤山一郎氏獨唱)も引續き好評を博してゐる

園 基

小史 聖武、延喜帝ころより宮廷にもはやされた壽は、戰國の衰微時代を経て、徳川の興隆期に際し、家康の「基所」による聖門棋士の養成保護によつて急に盛んになり本因坊はじめ井上、林、安井の三家元が出来たけれども、維新と共に「基所」が廢され各棋士とも非常な窮境に陥つた、明治十二年十八世本因坊村瀨秀甫が「方圓社」を組織し、井上家を除くほか

林、安井兩家もこれに投じた、その後、林、安井兩家は跡を斷ち本因坊家も獨立し分立の形勢にあつた時、大正十三年大倉喜七郎男の他有力者によつて、「方圓社」の本因坊家など合同して「日本棋院」に統一されたが關西には井上家が依然獨立し、棋院を脱した四、五の棋士が別に「棋正社」を設立、昭和十年八月には「昭和棋院」が設けられたが全國的に勢力を張つてゐるのは「日本棋院」である

岡山地方の基所 大衆娛樂として古來盛んであつたが明治末年までは低級の域を脱しなかつた、しかし大正初年以來、故小川知彰、故下野直快(三段)、故津島金三郎(二段)、故入江武一郎(初段)、故井ノ口(初段)諸氏をはじめ青井次郎、阪本權三郎、小谷盛三太、郷木喜平氏らを中心に漸次勃興し、棋正社高部道平八段、都合森六段、日本棋院飯田峰助四段、因幡派池上清五段を迎へて教授を受けると共に、津島、井ノ口兩氏の基席に代つて都合森、飯田氏の席が設けられ、多數の力戦家を齎して今日に至つた、昭和十年五月中國民報社後援の「岡山縣圍碁大會」には出席棋士二百數十名といふ盛況ぶりであつた、縣内の主なる有段者次の通り

四段飯田峰助(倉敷市)三段都志太郎(岡山市内山下)二段犬飼崎夫(岡山市磨屋町)二段青井次郎(同下西川)初段藤原潔(同西中山下)同田部浩(同弓之町)同柳原憲一(同山崎町)同柳本猛夫(同上石井)同大森鐵次郎(同内田町)同土居通憲(同弓之町)同緒方最(同田川)同小口政一(同内山下)同本地喜久次(小田郡等岡町)同渡邊四馬(津山市)

岡山市内にある基席は次の通り
犬飼崎夫(磨屋町)小林吉五郎(山崎町)藤原潔(西中山下)竹内邦太郎(小橋町)小野隆(岡町)山口辰藏(岡田)川口政一(内山下)小幡正

盆 踊

備前の盆踊り 伊賀越え仇討の發端が頃の馬場に於ける盆踊りの評ひにあるといふのを表面の理由に、一般歌舞音曲に對する禁壓策に厄ひされて瀟湘池田光政公によつて禁止されて以來、萎微してゐたが、千本搦の歌を基礎に漸次復興し、當時名歌等も多く生んだ高陽村、鳥村上村等を中心に、明治初年ころまでには踊りの手はその土地土地でつけたものやら、農漁村の唯一の慰安として郷土色豊かなものへと再生し、踊りの手に特色持つ日生、現代味を潤色した小唄、野蕨横溢の野谷村、優美な平津村の「佐山踊り」などをはじめ各地で行はれてゐる

備中の盆踊り 備中下はもとより縣外へもその名を知られた幾多の名團體をもつてをり化政以來各地に行はれたものも特に有名なものには高梁の「松山踊り」で、これは藩の御祝儀を受け「地踊り」から發達したものである、白石馬の踊りは、歌曲は詠歌から出た哀調帯びた單純なものながら、複雑な手をよく統一洗練して、今日では各地の大會に出場常に優勝の榮冠

將 棋

【小史】「入王」なる 初は茶へたかり、圍碁と共に大衆娛樂として歴史的な人氣を持つ將棋は、奈良朝時代に輸入され専ら殿上人に愛玩されたが戰國時代には衰微し、江戸時代の初葉に至つて再び擡頭したがこれは家康が「將棋所」を置いて保護したからで、これが徳川三百年間棋界の中心となつてゐる將棋所「設置以來名人位についたもの」

初世將棋所名人 初代大橋宗桂
二世將棋所名人 二代大橋宗古
三世將棋所名人 初代伊藤宗春
四世將棋所名人 五代大橋宗桂
五世將棋所名人 二代伊藤宗春
六世將棋所名人 三代大橋宗興

演藝、趣味、娛樂—圍碁、盆踊、將棋

鈴木圭三少年

岡山市總濱鈴木傳藏氏三男圭三(九)君は十年六月九日阪急沿線甲陽館で開かれた細川千因五段昇段披露棋會で、強剛藤原五段に七子を布いて石を投せしめて以來、前途を矚望され同年九月より前記細川五段に師事して本格的に棋士としての修養を積むといふ

演藝、趣味、娯樂——將棋、麻雀、刀劍

七世將棋所名人 三代伊藤宗春
八世將棋所名人 九代大橋宗桂
九世將棋所名人 六代大橋宗英
十世將棋所名人 六代伊藤宗春
幕府覆滅後、「將棋所」は廢止され、たが名人位は依然繼承された

十一世名人 八代伊藤宗印
十二世名人 小野五平
十三世名人 關根金次郎
昭和十年三月、關根名人は名人位の辭意を發表し、名人一代制を廢し八段のリーグ戦による名人位獲得となり、棋界二百年の傳統に一代革新を加へるに至つた

麻雀

麻雀流行熱は大正の終りから昭和六、七年へかけて岡山地方の室内娯樂を風靡した觀がある、現在や、下火になつたとはいへ、日本麻雀協會岡山支部(岡山市紙屋町中央會館内)等を中心に縣下各地に行はれてゐる、各警察署管内の營業者数は次の通り(昭和九年未現在)

- 岡山東區四〇、岡山西區二二、味野區二、宇野區五、玉島區六、矢掛區三、總社區二、高梁區三、倉敷區五、津山區一、計七八

刀劍

備前備中の地は古來刀匠輩出の地であつて岡山地方には藩主池田家の大包平をはじめ名刀利刃の收藏されるものが多い、従つて刀劍愛好熱も一面時代の日本的自覺にも刺戟されて近時非常に盛んになつて来たことは争へない、最初民間に刀劍が趣味として鑑賞せられたのは大正三年歐洲大戰勃發當時、岡山刀劍保存會が創設せられたに因り、初期の鑑賞は各自持ち寄りの刀について行つてゐたもので、全国的に連絡のとれた團體ではなかつたが、その後中央刀劍會岡山支部が出来、近くなつた藪秋刀劍會岡山支部、岡山本阿彌會が組織され、刀劍愛好熱は漸次普遍化されると共に同好者の全国的な交渉の緒も開かれるに至つた、かつては少くとも五、六百年前の名刀が珍重されてゐたものが最近では古刀よりも寧ろ古刀末期から新刀へかけて即ち慶長の山城、肥前、江戸、大阪、薩摩ものが喜ばれ名刀より利刃への傾向が觀取され華美を尙ふ元祿から化政へかけての飾りもの、金具等が持て囃されるに至つたが、これは善悪いづれにせよ、大衆化の特徴である、最近の利刃への關心は古刀に比べて入手が容易であるといふ點も考へられるが、滿洲事變に影響されて賣買の對象として扱はれるに至つたことも有力な原因の

寫眞

明治の末葉、現に名古屋寫眞界にあつて活躍中の森一平氏によつて寫眞友會が創立せられ、ついで加藤一平氏の主唱で鳥城俱樂部の發會をみたが、當時は寫眞と言へば特權階級の道楽と同一視されカメラを据えるや人山を築くといつた時代であつたが、時代の要求は漸次これを普遍化し、特に各新聞社、雜誌社が編輯の必須材料として寫眞に多大の關心を持つに至つて、寫眞愛好者も次第にその數を増した、同俱樂部に於ても當時寫眞界の權威、大阪浪速クラブを迎へ等岡で撮影會を催すとかまた小西六店に在職中の小谷氏の歸岡を機に同氏について具さに中央寫眞の傾向を汲み取るなど、未だ幼稚な地方に在りての活躍は現存寫眞界の礎石としてその存在を銘記せしめるものである、次いで

田家の大包平をはじめ名刀利刃の收藏されるものが多い、従つて刀劍愛好熱も一面時代の日本的自覺にも刺戟されて近時非常に盛んになつて来たことは争へない、最初民間に刀劍が趣味として鑑賞せられたのは大正三年歐洲大戰勃發當時、岡山刀劍保存會が創設せられたに因り、初期の鑑賞は各自持ち寄りの刀について行つてゐたもので、全国的に連絡のとれた團體ではなかつたが、その後中央刀劍會岡山支部が出来、近くなつた藪秋刀劍會岡山支部、岡山本阿彌會が組織され、刀劍愛好熱は漸次普遍化されると共に同好者の全国的な交渉の緒も開かれるに至つた、かつては少くとも五、六百年前の名刀が珍重されてゐたものが最近では古刀よりも寧ろ古刀末期から新刀へかけて即ち慶長の山城、肥前、江戸、大阪、薩摩ものが喜ばれ名刀より利刃への傾向が觀取され華美を尙ふ元祿から化政へかけての飾りもの、金具等が持て囃されるに至つたが、これは善悪いづれにせよ、大衆化の特徴である、最近の利刃への關心は古刀に比べて入手が容易であるといふ點も考へられるが、滿洲事變に影響されて賣買の對象として扱はれるに至つたことも有力な原因の

藝術寫眞流行の潮流によつて光學會の設立されるや辻、野崎、杉本諸氏その他多數の光學藝術家を生み、一躍寫眞界の名を高からしめたことも共に寫眞界の歴史に輝かし一頁を加へたものとして忘れられないものがある、その後一時凋落のかたちにあつた寫眞界も新しいイデオロギーを多分に受けた新興寫眞の勃興するに及んで再び藝術の一部門として恐ろしい勢で流行して来たが、この機運を助長すると共に地方寫眞の興隆をめざして、中國民報社では第四回優勝畫展獲得攝影技術大會を十年六月二十日、岡山市三野公園で催したが、當日參觀する縣下各地のアマチュアカメラマン二百數十名を動員した多數の優秀作品を獲得した、今日縣下に於ても「光と影の會」を始めこれら若き藝術家達の研究團體が手指にあまり、それぞれ光學藝術完成へ眞摯な努力をつづけてゐる

小型映畫 九・五ミリ攝影機の出現以來アマチュア映畫は短期間に驚ろくべき發達を遂げた、それは極めて容易に映畫製作の欲望を享樂出来るが故にである、例へば職業シネアストの如く難多の條件下に制限されることのないので、最近アマチュアシネアストの技術

同好者團體 ▲光と影の會 岡山市中之町中塚秀之氏宅、毎月十日會合し懇談

一つであるかに見える、刀劍が趣味觀賞を離れて賣買の對象となるときは社會の刀劍に對する關心を煽るとはいへ純粹なる趣味の立場からの精神的頓落は免れず、必然的に惡プロカー、俗鑑定者の跋扈を見るものである、岡山地方の刀劍會にも一部如上の氣運が染着して行くように見えるのは刀劍神を標榜する同好者のため憚むべきことである

▲岡山刀劍保存會 岡山靈教頭青木鏡吉郎、橋原節二、醫博高橋金一郎、小林種次、滝見安造氏ら主唱して當時の笠井岡山縣知事、田中内務部長、第十七師團佐々木獸醫部長らの協賛を得て逸見氏宅に毎月例會を開き地方の刀を中心として鑑定觀賞をしてゐたもの、現在の中央刀劍會岡山支部、藪秋刀劍會岡山支部の母胎ともみらるべきで、その後中央刀劍界と連絡がとれるに従つて前記二團體へ發展の解消したものである

▲中央刀劍會岡山支部 大正十五年十月本部より審査委員小倉惣右衛門、本阿彌光遜氏ら來岡し、後樂園鶴鳴館に發會式をあげ今日に至つてゐる、現在の支部會員は岡崎眞一郎、土居修治、佐藤記一郎、林道倫、小森脩一、津下臣太郎、上原治郎、堀止二、桑谷好夫、

演藝、趣味、娯楽—寫眞、競馬

會(隨時攝影會)を催し年一回作品展を開く、會員二十五名

▲紫光會 岡山市荒神町奥山正香氏宅、隨時會合し懇談す、會員七名

▲岡山醫大寫眞同好會 月一回會合し懇談、研究發表をす、隨時作品展開催、會員二十名

▲パレット同人會 岡山支部を岡山市中之町中塚秀之氏宅に置く

▲岡山ベビーキネマクラブ 岡山市上之町太田洋行内

▲食數パターキネマ俱樂部 食數市新町森茂夫氏宅、會長石井照夫氏、會員三十名

▲食數光映會 食數市戎町吉田加賀堂内、會員二十五名

▲藝術寫眞聯盟 津山市元魚町ハヤシヤ内

▲寫友會 小田郡等岡町廣常樂局内

▲玉影會 淺口郡玉島町木村秀一氏宅

▲赤光會 上道郡西大寺町山本明氏宅

▲龍光會 兒島郡味野町野崎勝輝氏宅

寫眞界日誌 九年六月—全關西寫眞聯盟競技會(入選) 伊原木實治氏

野崎勝輝氏 十年五月—さくら印畫紙寫眞會(推薦)石津良介氏、(準特選)塚本慶太郎氏、(入選)野崎勝輝氏

十年六月—全關西寫眞聯盟競技會(準特選)本郷遊、(入選)野崎勝輝

十年六月—中國民報社主催第四回優勝畫展得獎攝影競技大會(審査員、吉田有氏、辻澤雨氏、野崎勝輝氏、片山純二氏)(特選)呂野史朗氏(準特選)藤本虎男氏、瀨崎宏氏、小野玉江氏、大島貞夫氏、二宮達海氏

最近の傾向 (一)材料について 言へば、赤外線乾板の出現は寫眞を軍事上、科學上各方面に必須のものとし、パンクロはやがてスーパーパンへ微粒子フィルム赤外線フィルム等の出現はそれに伴つて微粒子現象液の異状な製造を來した

たまた國産材料の著しい進出は輸入材料の値下げを見るに至り國産對輸入品の材料對抗戦のためにアマチユア寫眞熱は一段と昂揚したかの觀がある

(二)器械は比較的優秀な國産品が安價に入手出来るようになり、またそのメカニクを誇るライカ、コンタックス等超小型カメラは近代人の趣向に投じ物凄く流行を來すと共に、ベスト、プロニーは十

競馬

六枚撮りの全盛を誇るなどカメラは大より小への傾向を辿つてゐる (二)廣告とのタイアップは終に廣告寫眞を光畫藝術の一部門に加へ藝術寫眞に於ても我々の眼に映じたそのまゝを再現しようとする力した所謂リアリズムは漸次凋落の傾向をたどり、これにかはつてレンゾの見たまゝを再現しようとするドイツ、フランスの傾向を兩むイデオロギーが擡頭して來た

わが國における競馬は又久元年横濱元町に外國人が始めたのが最初で明治元年外人に依つて根岸に移され、明治九年日本人の手で日本レース俱樂部が組織された明治十一年日本レース俱樂部と根岸競馬俱樂部と合併して初めて競馬俱樂部が出現明治二十八年十二月には馬政局が新設せられ競馬も漸く隆盛ならんとしたが馬券が公安を案し美俗を害すと云ふ理由の下に禁止されて以來即ち明治四十一年十月より大正十二年馬券の復活する迄は全く衰微の状態にあつた馬券の復活と共に最近また非常な勢を以て隆盛を來してゐる、競馬には競馬法に依つて農林省の認可した社団法人競馬俱樂部、所謂公認競馬と地方競馬規則に依つて道府

競馬

縣畜産組合の開催する地方競馬の二種類があつて公認競馬は金二十圓の馬券(勝馬投票券)を發行し地方競馬に於ては金一圓と限定されてゐる、公認競馬は全國で僅か左記十一箇所に限られてゐるが馬券の賣上高は一箇年八千萬圓以上に及ぶ盛況である

- 公認競馬俱樂部 馬場所在地 社団法人日本レース俱樂部 横濱市根岸町 東京競馬俱樂部 東京府府中 阪神競馬俱樂部 兵庫縣鳴尾 京都競馬俱樂部 京都府淀町 函館競馬俱樂部 函館市外栢野 札幌競馬俱樂部 札幌市北十六條西十九 新潟競馬俱樂部 新潟市關屋 中山競馬俱樂部 千葉縣葛飾町 小倉競馬俱樂部 小倉市外北方 福島競馬俱樂部 同 福島市小山荒井 宮崎競馬俱樂部 同 宮崎市花ヶ島町

岡山地方競馬 岡山縣に於ては昭和二年上道郡西大寺町に地方競馬場が設置されたのが最初であるが昭和四年十一月には食數競馬場が新設せられ、昭和八年五月には西大寺競馬場を廢して岡山市原尾島に移轉した、昭和九年秋、同十

年春競馬に於ける岡山、食數兩競馬の出走頭數並に優秀馬及び馬券の賣上高を示せば左記の通りである

Table with columns: レース別, 馬名, 重さ, 距離, タイム, 騎手. Includes entries like 優勝種一 コーザイ, 同種二 ジヤイアント, 同種三 ハリマンシユウ.

岡山九年秋競馬(十一月自二日至五日) 出走頭數、一四九頭△馬券賣上、一四六、一四六圓

岡山十年春競馬(四月自二六日至二十九日) 出走頭數一四九頭△馬券賣上一四九、五二七圓

Table with columns: レース別, 馬名, 重さ, 距離, タイム, 騎手. Includes entries like 優勝種一 セントメリー, 同種二 キンキゴゴン, 同種三 ヤリヒカリ.

演藝、趣味、娯楽——釣魚

及鳩具の購買その他の遊戯を事業としてゐる正會員は年額二圓の會費を納入すると共に日本傳書協會に入會し協會費年額一圓五十錢を負擔する

▲日本傳書協會 全国各地に散在する會員相互の聯絡を保持すると共に傳書場の普及發達を圖るを目的として創立されたもので現在本部を東京市牛込區市谷河田町徳川邸内に置き昭和十年度發揚會を次の様な要領で行つた

(一) 百軒發揚(各團體母に成績を判定するもので年二回以内) (二) 二百軒發揚(北海道、東北、關東、中部、近畿、中國、九州、臺灣の各地方毎に成績を判定するもので七月末日までに一回實施)

釣魚

海釣には旭川、高梁川、吉野川三川釣には旭川、高梁川、吉野川三川

系を持つ縣下の太公望は恵まれた環境にありと言ふべく、釣魚趣味は年を趁りて旺んになつてゐる中國民報社では昭和十年六月九日旭川城下附近で開催した「鮎釣競技會」を後援したが、當日は岡山、倉敷、金川、瀬戸、佐伯等各地から二百數十名の参加を見、次の様な成績であつた

一等岡山市石關町藤田明信氏△二等岡山市大北數平氏△三等倉敷市ツロイ會佐藤義一氏△四等岡山市下市町杉原友平氏△五等岡山市木庭正義氏

主なる釣場

旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

シ、ヌカ團子、サナギ等 獲物一七月はハネ、メバル、ギザミ、マ、カリ八月はハネ、シクチ、鱒、メバル、ギザミ、九月はハネ、黒鯛、鱒、シクチ、メバル、ギザミ、十月はハネ、黒鯛、アコリ、メバル、ギザミ、十一月は黒鯛、アコリ、コチ、鱒、河豚

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

と奥津川へ八萬七千五百尾 旭川水系(一) 落合勝山町(二) 新庄村、旭川上流湯原、八束村(三) 三萬三千尾

川釣

川釣と言へば鮎、鮒、鯉、鯰などそれぞれの持味があるが、まづ七月の若鮎から九月の落鮎に至る香魚にとどめをなす、鮎以外のものは三大川は勿論、名もない小川にも地方ごとに釣場があるから、こゝでは簡単に鮎を主として書くことにする

まづ昭和十年度の小鮎放流状況を調べると 吉井川水系(一)本流吉岡村から小田村(二)賀茂川賀茂村から本流分岐まで(三)吉野川(四)吉井川上流久田、羽出、泉村地内

まづ昭和十年度の小鮎放流状況を調べると 吉井川水系(一)本流吉岡村から小田村(二)賀茂川賀茂村から本流分岐まで(三)吉野川(四)吉井川上流久田、羽出、泉村地内

まづ昭和十年度の小鮎放流状況を調べると 吉井川水系(一)本流吉岡村から小田村(二)賀茂川賀茂村から本流分岐まで(三)吉野川(四)吉井川上流久田、羽出、泉村地内

社交團體

岡山ロータリー俱樂部 昭和九年三月三日【目的】國際ロータリーのひとつとして設立せられたもので會員は何れも高き道義に則り銘々の職業を向上發展せしめ會員相互の友情を基礎とした團結により廣く世の爲にサ

岡山ロータリー俱樂部 昭和九年三月三日【目的】國際ロータリーのひとつとして設立せられたもので會員は何れも高き道義に則り銘々の職業を向上發展せしめ會員相互の友情を基礎とした團結により廣く世の爲にサ

ソリバ(比) 1米86A、2竹田(日)1米84、3那須(日)1米80、4バスケアル(比)△圓盤投レイ(比)30米30、2アンテ(比)38米50、3難波(日)33米84、4戸田(日)32米80△走幅跳1ラミレズ(比)7米、2岡本(日)6米32、3エバンゼリスター1(比)6米97、4加藤(日)6米32△高障門1メイ(比)15秒F、2パンサー(比)3岡本(日)4川口(日)△槍投1アントニオ(比)17米27、2バルメロ(比)15米97、3石原(日)14米63、4加藤(日)14米13△四百米1カンダリ(比)52秒、2ホワイト(比)52秒8、3國清(日)4倉吉(日)△砲丸投1高田(日)33米96、2アマンテ(比)17米、3レイ(比)17米14△砲丸投1東(日)、岩本(日)3米63、スヘヨ3米54△四百米競走1比島チーム(ナバラスカ、クリストバル、エバンゲリスタ、デグズマン)43秒9、2日本チーム(岡本、木村、中川、安藤)

【六月八、九日】西大寺ヤング俱樂部主催第六回縣下選手權大會を公認町立グラウンドで舉行、決勝記録 ▲第一部(尋常科男女) 男子走巾跳4米30十屋松(弘西)△女子走巾跳4米10山田美佐子(第二宇野)△女子六十米競走9秒岡上スエ子(深根)△男子百米競走13秒8平田新二(弘西)△女子百米競走13秒9山田美佐子(第二宇野)△男子二百米競走2木村正弘(第二宇野)△男子八百米リレ12分4秒5弘西チーム△女子四百米リレ11分15秒第二宇野チーム ▲第二部(高等科男女) △男子走巾跳4米75高龍流(内山下)△男子砲丸投10米岡本正信(西大寺)△女子走巾跳4米14坪田智恵子(清輝)△女子走幅跳1米20則武清子(清輝)△女子六十米競走9秒1坪田定子(邑久高)△男子百米競走12秒6野野野(伊島)△男子走幅跳1米55武久泰祐(邑久)△女子百米競走13秒5横山芳江(邑久高)△男子四百米競走1分1秒3伊賀壽(有隣)△男子二百米競走27秒7山崎勇雄(内山下)△男子二百米競走1分1秒4山崎勇雄(内山下)△男子八百米リレ11分1秒6内山下チーム△女子四百米リレ11分1秒5久野チーム ▲第三部(女子中等學校) 砲丸投7米86根岸京子(西大寺高女)△圓盤投20米40岡本峰子(西大寺高女)△六十米競走大會新

記録9秒時實小春(邑久高女)△走巾跳4米78廣田俊子(西大寺高女)△百米競走13秒5服部美代子(西大寺高女)△三段跳10米26廣田俊子(西大寺高女)△走幅跳1米37時岡村枝(邑久高女)△二百米競走31秒服部美代子(西大寺高女)△四百米競走5分8秒西大寺高女チーム ▲第四部(男子中等學校) 砲丸投11米76切山繁(岡師)△走巾跳6米20柳田一郎(笠商)△山高跳1米80岡本三市(關中)△圓盤投28米17切山繁(岡師)△三段跳13米30秋山要(岡師)△五千米15分53秒6三宅二郎(倉商)△百米11秒3岡本三市(關中)△二百米24秒2川口泰輔(津中)△八百米2分18秒2井上壽郎(姫師)△千五百米4分18秒4井上壽郎(姫師)△ハドル17秒1小橋晋(岡師)△槍投24米1東作福(岡一商)△四百米56米4大熊律夫(姫師)△四百米リレ12分12秒2關西中學チーム(岡本、京野、樋口、伊丹)△砲丸リレ12分12秒3關中チーム(樋口、京野、山神、岡本)△砲丸投3米20杉山澄生(岡師) ▲第五部(一般青年) 二百米23秒9出射忠(農子俱樂部)△千五百米4分28秒2(奥井虎茂)食敷オリ△走巾跳6米38金谷信雄(和

競泳陣の不振

ラット)▲四百米1出射忠男(五四秒八)▲二安藤義夫▲千五百米1奥井虎茂(四分二九秒四)▲二森田博二(四分三三秒四)▲一萬米1植田春雲(五分四二秒)▲二旗擔ぎ1近藤鶴治(三二秒二)▲砲丸投1石原秀男(十米七四)▲走巾跳1末利彰(六米七六)▲二金谷信雄(六米六四)▲三龍門昇(六米五一)▲走幅跳1那須登(一米八〇)▲二齋藤(二米八〇)

立してゐる日本游泳協會と連絡し明治三十九年には組織を變更、津山明長を會長に敬西村惟實、敬授川村官次郎、渡邊垣氏等その任に當り、遂に川村氏第十三世宗師を繼ぎ川村氏後後、黒田英雄氏を會長として現在に至り、獨り津山のみならず縣下普く同流を擴めてゐる、競泳でも縣下を代表するものは津山であるが全国的には未だ認められず早大の宮本君(岡山一中出)が五十米自由型の日本記録を出したに過ぎない

山高女、津山高女の兩校が出場し津山高女は優勝、實女は第二位を獲得した 武道會有段者 (四段)松本四郎、赤松慶太、佐藤芳雄、(五段)景山一(練士)、今田龜、西村伊勢松、岡第三、高見健志、氏平繁、古市壽太郎、小寺三郎、木村季、湯本作太郎、東二(教士)、入澤想次、山崎英次郎、佐藤重功 津山游泳會有段者 (七段)植月俊雄、永井正俊、江見泰、(六段)妹尾勝吉、小山力夫、石名善權、松波三樹、平井茂水、松枝保一、(五段)野矢駿一郎、松本英一、松尾武夫、小坂田堅治、福岡殖、杉山近男、森下正男、植月誠、(四段)廣岡晴政、今井篤三郎、妹尾武吉郎、石坂茂善、渡邊兼長、關克忠、田中次郎、黒田英雄、田中善男、松尾節夫、岡野實、大田善津男、片岡武彌、福田卓也、万代興一、海老原景典

水上

競技

神傳流は第九世の宗師伊藤登氏の宗師伊藤松山にまで伊藤松山に傳はつた水軍兵法の一つで、津山藩はかつて幕府から小豆島を預つた關係上、水軍の必要を感じ文化文政の頃から神傳流水軍を學ばすため藩主で正木兵馬氏を松山に派し更に天保年間、植原六郎右衛門氏は前後八箇年間を彼地で研究を積み、九世宗師より傳の免狀を受け十世宗師として嘉永元年津山に歸藩、これより神傳流の宗家は津山に移り、植原氏は高弟古谷爲二郎氏に印可傳の免狀を與へ藩士の教養に當りその後後中絶したが明治二十五年西村惟實、菅沼定光、渡邊垣氏等が津山游泳會を起し植原氏の子銃郎氏の東京に設

【二月十七日】神傳流津山游泳會では津屋橋上手の中部游泳場で寒中水泳を行った、水温零下六度 【六月十六日】岡山醫大水泳部主催の關西高校第一回水上競技大會を關大プールで舉行 18點六高28點山口高校36點松山高校 【七月二十八日】岡山市主催上水道三周年記念市内中小學校競技大會を東山遊樂園プールで舉行 【七月二十日】日本平泳の第一人者鶴田義行氏は東山遊樂園プールで岡山市水道記念日行事として模範泳法の公開とコーチした 【八月一日】鳥取縣津浦の近懸水上競技大會に津山市から津

野球 縣下の球界は大正初年ごろ中等球界を中心として異常な發達を來しよく和歌山、京阪神から洗練されたチームが來岡して練習を積み、大正十年岡山一中が 實業チーム振ふ 實業チーム振ふ 縣下の球界は大正初年ごろ中等球界を中心として異常な發達を來しよく和歌山、京阪神から洗練されたチームが來岡して練習を積み、大正十年岡山一中が

スポーツ—野球

市内山下小學校チームが優勝し次いで内山下、出石の両校で競つて...

二月三日 廣島商業對岡山一商の野球戦を町立西大寺球場で舉行...

四月二十一日二十九日 岡山市内中等學校野球リーグ戦を岡山一中...

五月八日 本社運動部後援岡山審判協會主催で岡山一中、慶應出身の楠見幸信選手を擁する東京鐵道對岡山鐵道の試合を關中球場で...

五月二十五、二十六日 岡山醫大主催の第七回關西高校野球大會を歸大、六高兩球場で舉行、左の戦績で山口高校優勝す

- 第一回戦 浪速高校9-2高知高校 六高5-1三姫路高校 松山高校10-0松江高校...

二八〇

草野、關中上田、西崎、今田 關中 2122206 15 吉備 1000000 1

四月二十八日(球審)津下(學)池田、關中先攻、投捕手關中、釘貫、山崎、一商、大倉、岸...

四月二十九日(球審)池脇(學)重成、一中先攻、投捕手一商、大倉、岸、一商、津崎、小野、山本...

四月二十八日(球審)津下(學)池田、關中先攻、投捕手關中、釘貫、山崎、一商、大倉、岸...

五月八日(球審)和田(學)和田、一中先攻、投捕手一中、大西、津...

- 陽寮選優勝戦を廣島商業球場で舉行、岡山鐵道はオールオを六一五(十一回の補回戦)廣島專賣局を四...

二八一

選大會を岡山醫大球場で舉行、縣大會で一中優勝し、山陽第二次選へは一中と關中が出場することとなつた

三月三日 岡山軟式野球第一回大會を興市球場で舉行、3-0で南方選信を取つて優勝

四月三日、四日 西大寺野球協會の町内軟式優勝野球大會を町立球場で舉行、コロムビア俱樂部優勝す

五月十九日 軟式野球全國大會岡山豫選を興市球場で舉行、旭陽が3-2で岡西を取つて優勝

- 選大會を岡山醫大球場で舉行、縣大會で一中優勝し、山陽第二次選へは一中と關中が出場することとなつた

二八二

軟球王國の盛觀 五月十九日 軟式野球全國大會岡山豫選を興市球場で舉行、旭陽が3-2で岡西を取つて優勝

庭球 岡山の庭球界は軟球のみであるが依然全国的に認められて千國の誇りが高い、硬球でテニスの小林、吉田の外早大に村木、永光、明大に深井等を送つてゐる

庭球 岡山の庭球界は軟球のみであるが依然全国的に認められて千國の誇りが高い、硬球でテニスの小林、吉田の外早大に村木、永光、明大に深井等を送つてゐる

庭球 岡山の庭球界は軟球のみであるが依然全国的に認められて千國の誇りが高い、硬球でテニスの小林、吉田の外早大に村木、永光、明大に深井等を送つてゐる

- 庭球 岡山の庭球界は軟球のみであるが依然全国的に認められて千國の誇りが高い、硬球でテニスの小林、吉田の外早大に村木、永光、明大に深井等を送つてゐる

が縣下では全然そのプレーを見せず、一時準硬球を採用した中等校もあつたが不振の爲もなく中止した、岡山庭球の興隆は何久層俱樂部の實力によると迄云はれる程縣下の中心をなしてゐるが何久層で現在も藤原を中心に富田、寺尾、須々木、立川、猪原等神宮の常連を初め新進古豪を集めて近藤に強豪を誇つてゐる、大正の初め頃藤原坂コートで藤原の人々や足利、家本、岡本、西村氏等の遊びのテニスを盛賜として久保、永原、須々木、吉田、深井等の名手が加り山陽大を主催して漸く本格的にトーナメントとして興味を加へて来た、當時男子中等學校時代に勇名を轟かせた猛者が集立つと同時に何久層に加はり漸く俱樂部の強味を加へ大正十三年初めてチームとして阪神に遠征、當時強豪を誇つた大阪サクラ俱樂部、神戸鐵道チームと對戦し惨敗を喫したがこれが縣下の庭球界を強く刺激し縣下各地でも大會を開催して實力を加へ昭和に入つては神戸、廣島、吳のリーグ戦を開いて優勝する等軟球王國の基礎を作り第一回の明治神宮大會には(一商卒)、津田(高梁中出)が決勝戦まで進み極東大會では徳田、藤原(共に吉備商出)が優勝する等全国的に名を

【四月二十九日】第十回相生大會を岡山市荒手コートで開催
 准優勝戦
 吉備商(藤原)四—二(水内) 何久層
 何久層(須々木)四—〇(綱島) O・B
 優勝戦
 何久層(實木)四—二(藤原) 吉備商
 層(須々木)四—二(佐藤) 吉備商
 【五月五日】第六回岡山縣教職員大會を女子師範コートで開催、左の戦績で西大寺高女(松本、北晶)優勝す
 准決勝
 西大寺(松本)四—二(川上) 一
 高女(北晶)四—二(原) 一
 高女(藤田)四—二(加藤) 高女(掛)
 決勝戦
 西大寺(松本)四—二(平岡) 高女(北晶)四—二(藤田) 高女(掛)
 【五月十二日】岡山何久層俱樂部(須々木)組は神戸山手クラブの第三回選手権大會に出場優勝した
 【五月十九日】第二回和氣庭球聯盟優勝カップ争奪試合を和氣高女コートで開催、三石深谷俱樂部が獲得した
 五月十九日 岡山縣男子中等學校庭球聯盟主催の第一回縣下選手権大會を二中コートで開催、左の戦績で吉備商(藤原、晋)が優勝す
 准優勝戦
 藤井(吉備)四—一(野野)岡山
 山本(高梁)五—三(中桐)岡山
 岡崎(中學)五—三(山本)岡山
 優勝戦
 藤井(吉備)五—三(山本)岡山
 晋(商業)五—三(岡崎)中學
 【五月二十二日】岡山縣高等學校大會を同校コートで開催、左の戦績で神戸高商が優勝した
 准決勝
 神戸高商三—二(松山高商) 六
 高三—二(高松高商) 六
 優勝戦
 神戸高商三—二(六) 高
 【六月二日】等岡高女コートの第八回岡山女子リーグに山陽高女出場し松永高女と共に四勝一敗となり決勝を行ひ三—二で優勝す
 【六月五日】岡山何久層庭球クラブ第三回選手権大會を荒手コートで開催、猪原、水谷組優勝す
 【六月九日】和氣郡庭球聯盟主催の和氣一赤警教員並に赤警教員一和氣庭球の二對抗戦を和氣高女コートで開催した
 和氣庭球(不戦一組)赤警教員一赤警教員(不戦一組)和氣教員一
 【六月十六日】久米郡引剛球

クラブの軟式大會を引剛校コートで開催、岡山何久層の四組が勝ち残つた
 【七月十四日】岡山何久層對藤田郡俱樂部の對抗試合を藤田農林コートで開催、何久層四組を凌ぎして勝つ
 【七月二十一日】和氣軟式庭球聯盟主催の第二回近藤招待大會を和氣高女コートで開催
 准決勝
 片上(中桐)三—二(西大寺)北晶
 赤警(石原)三—一(和氣)金谷
 赤警(内藤)三—一(庭球)三宅
 決勝戦
 赤警(石原)三—〇(片上)中桐
 教員(内藤)三—〇(片上)中桐

【七月二十八日】岡山排球協會の第六回近藤女子大會を山陽高女で開催、山陽高女優勝す
 山陽高女(21) 1—7(福便)局
 工業、山陽強し
 籠球
 縣下の中等學校でこの種目の練習が始められたのは大正十三年、四年ごろで、その頃は未だ對抗的な競技を行ふ程各學校チームの技術が向上してゐなかつたが昭和二年に岡山籃球聯盟を組織、同年十二月二十六日六高で開催したのが縣下初の正式試合で關中、矢中の二組と二中が加り戦ひ結局矢中が優勝した、次で三年十二月岡山高女で講習會を開催聯盟戦、盛大主催大會、縣協大會等と漸次試合が重なるにつれて技術も向上し、昭和六年には岡山縣を代表して矢掛中學と山陽高女が出場するまでに到つた、かくて岡山聯盟では不便なので大日本籠球協會岡山縣支部を設置、爾來男子では矢掛中、關西中、岡師の三校の優勝争ひであつたが目下は縣立工業が断然強く、女子の方では女子師範、岡山高女、山陽高女の争から現在では山陽高女が群を抜いてゐるが縣下昔く男子中小學校のみ

山陽高女の活躍
 この種目は渡來が新しい關係上本縣の歴史は極めて新しく各學校が體操時間に競技運動を教へる事となつてから新進の教師によりて漸次普及された大正九年頃やつと岡山市内の中等學校殊に女學校に行はれ、山陽高女や當時の縣商ではフットボールの比較的輕いものを以て男女共通のやり方で時々やつてみた、大正十二年頃から排球大會が初めて出現し縣商や男師範、深根俱樂部といふ

【二月十七日】岡山市球技聯盟の排球ジュニア選手権大會を就實高女コートで開催、決勝戦記録
 山陽二—〇(就實)
 【五月十一日】岡山縣排球協會主催の第六回縣下小學校選手権大會を縣立工業學校コートで開催(途中降雨で山陽高女室内へ變更)
 △男子部第一回戦
 早島(都道)21—19(茶屋町(都道)) 一
 一商(21)1820(二) 中

【七月十四日】岡山何久層對藤田郡俱樂部の對抗試合を藤田農林コートで開催、何久層四組を凌ぎして勝つ
 【七月二十一日】和氣軟式庭球聯盟主催の第二回近藤招待大會を和氣高女コートで開催
 准決勝
 片上(中桐)三—二(西大寺)北晶
 赤警(石原)三—一(和氣)金谷
 赤警(内藤)三—一(庭球)三宅
 決勝戦
 赤警(石原)三—〇(片上)中桐
 教員(内藤)三—〇(片上)中桐

【四月二十九日】第十回相生大會を岡山市荒手コートで開催
 准優勝戦
 吉備商(藤原)四—二(水内) 何久層
 何久層(須々木)四—〇(綱島) O・B
 優勝戦
 何久層(實木)四—二(藤原) 吉備商
 層(須々木)四—二(佐藤) 吉備商
 【五月五日】第六回岡山縣教職員大會を女子師範コートで開催、左の戦績で西大寺高女(松本、北晶)優勝す
 准決勝
 西大寺(松本)四—二(川上) 一
 高女(北晶)四—二(原) 一
 高女(藤田)四—二(加藤) 高女(掛)
 決勝戦
 西大寺(松本)四—二(平岡) 高女(北晶)四—二(藤田) 高女(掛)
 【五月十二日】岡山何久層俱樂部(須々木)組は神戸山手クラブの第三回選手権大會に出場優勝した
 【五月十九日】第二回和氣庭球聯盟優勝カップ争奪試合を和氣高女コートで開催、三石深谷俱樂部が獲得した
 五月十九日 岡山縣男子中等學校庭球聯盟主催の第一回縣下選手権大會を二中コートで開催、左の戦績で吉備商(藤原、晋)が優勝す
 准優勝戦
 藤井(吉備)四—一(野野)岡山
 山本(高梁)五—三(中桐)岡山
 岡崎(中學)五—三(山本)岡山
 優勝戦
 藤井(吉備)五—三(山本)岡山
 晋(商業)五—三(岡崎)中學
 【五月二十二日】岡山縣高等學校大會を同校コートで開催、左の戦績で神戸高商が優勝した
 准決勝
 神戸高商三—二(松山高商) 六
 高三—二(高松高商) 六
 優勝戦
 神戸高商三—二(六) 高
 【六月二日】等岡高女コートの第八回岡山女子リーグに山陽高女出場し松永高女と共に四勝一敗となり決勝を行ひ三—二で優勝す
 【六月五日】岡山何久層庭球クラブ第三回選手権大會を荒手コートで開催、猪原、水谷組優勝す
 【六月九日】和氣郡庭球聯盟主催の和氣一赤警教員並に赤警教員一和氣庭球の二對抗戦を和氣高女コートで開催した
 和氣庭球(不戦一組)赤警教員一赤警教員(不戦一組)和氣教員一
 【六月十六日】久米郡引剛球

で行はれてゐる

工 業 55—21—2 中

進歩遅々の憾み

ラグビー 本縣にラグビーが移入されたのは先進地に比して可成り遅く従つてその進展も遅

矢掛高女制覇

手カナダ遠征送別試合を東都一流選手を迎へて行ひ、爾來大鐵、鷹取工場、全慶島チームの來征あり、

卓球

官廳會社の卓球クラブが打つて一丸となつて遂に岡山卓球協進を組織し統制ある練習を行ひ逐年旺ん

一競技日誌

【二月三日】 廣島卓球協會主催でオール岡山對オール廣島の對抗試合を舉行、第一回戦は六、一六のノーゲーム、第二回戦は六、一五でオール岡山勝つ

准決勝戦

西大寺 36—26 倉敷 陽 18—0 和氣

決勝戦

山陽 陽 19—西大寺

准決勝戦

【六月十六日】 勝田郡勝間田卓球俱樂部の第一回大會を勝間田青年學校で開催、津山卓球研究會の一柳君が優勝、チームも津山軍勝つ

少年剣士の精進

剣道

大日本武徳會岡山支部が縣下各地に支所並に分會を設けて各警察署員と連絡をとり一般壯青年團に強く武道を奨励してゐるため縣下全般が尙武に富んでゐる、明治神宮の全國大會並に武徳會本部の大會にも幾多の輝かしい戦績を残してゐる、目下中等學校では津山商、岡山師範等が輝ひ、縣外の大會にも出陣して旺んに優勝旗を獲得してをり、小學校兒童では石井小學校が八月一日の權原神宮の全國少年剣道大會に第二位、京都武徳殿の全國學童剣道大會には堂々優勝する等少年剣士が岡山健兒のため萬丈の氣を吐いてゐる

一試合日誌

【三月三日】 西田郡教育會の小學校補習、青訓演武大會を津山署演武場で開き、一宮校(小學校)泉校(青心)が優勝
【三月三日】 吉備郡教育會の第一回小學校、公民學校生徒武道大會

スポーツ—剣道

校で舉行、第四回戦に矢掛高女の四組が勝ち残り菊池嬢が優勝す

【五月二十六日】 本社矢掛通信部主催の第八回近畿女子中等學校大會を矢掛高女校で舉行

【五月二十六日】 廣島文理大學主催の全國女子中等大會に矢掛高女校から菊池敏子、妹尾博子の二選手が出場、菊池は優勝、妹尾は二等賞を得た

【六月一、二日】 岡山縣大車庫部主催の第九回高専大會を岡校で開催

個人準決勝
中村(東) 〇—〇 畑井(東)

優勝戦
畑井(東) 3—1 神(東)

東京齒科 3—1 名古屋高専
關西學院 3—〇 山口高専

決勝戦
關西學院 3—1 東京齒科

△青少年 △幼年 1片山(觀野)? 三宅(弘西) 3 原(鹿田) △少年 1武井(一中) 2 笹尾(一商) 3 高吉(内山下) △青年 1八塚(廣大) 2山本(倉納) 3 岡(關中)

【八月一日】 奈良橿原神宮で舉行された全國少年大會に岡山市から内山下、弘西、深根、鹿田、石井の五校が出場、石井校は決勝戦に遊賢竹尾校に4—1で敗れ第二位となつた

【八月三日】 京都岡崎武徳殿の全國學童演武大會に岡山市石井校が出場、尋常科で優勝した、選手は細川、徳武、大森の三名

【八月四日】 全日本學生剣道聯盟の第六回全日本中等學校大會に出場の岡山師範は準決勝戦で済々堂に不戦二人で敗れた

一有殺者の氏名
▲武徳會 【四段】東條重太、可兒廉平(岡山)、河崎一(兒島)、中田實(上道)、【三段】井上景一(赤鷲)、石野猛雄(岡山)、井上佐敦郎(岡山)、市川清江(岡山)、井上幸三郎(兒島)、板野逸治(御津)、羽場蘭吉郎(阿哲)、原卓衛(小田)、馬場善八(邑久)、丹羽左吉(岡山)、西山幸治郎(小田)、高永幸晴(岡山)、時岡幸彦(邑久)、土肥原重吾(赤鷲)、近成弘(邑久)、流郷佐作(勝田)、沼野諭一

【五月十九日】 武徳會本部の各道範教士決定に守岸くの氏は教士の稱號を得た

【五月十九日】 勝田郡聯合青年團主催の各村對抗試合を勝間田演武場で開き、勝間田町が優勝

【五月十九日】 津山商業劍道部

【六月二十三日】 第三回岡山縣青少年劍道兼神宮代表第一次豫選大會を岡山武道殿で舉行

△神宮豫選 1小泉(倉納) 2木本(岡山) 3 原(一宮)

二八五

郎(久米)、小野幸一郎(岡山)、小澤將詮(吉備)、片山仁(吉備)、片瀬康一(邑久)、春日秀英(小田)、河合亮晴(岡山)、吉田守衛(邑久)、横田小平太(吉備)、田中松二(吉備)、立岡品一(邑久)、田中隆太(小田)、長野杉平(小田)、浦上清太郎(兒島)、國定早雄(兒島)、矢部常次郎(岡山)、山田武士(津山)、山本駒雄(岡山)、山田尚平(岡山)、藤岡博(吉備)、小橋嘉平(岡山)、安達保正(邑久)、相澤謙一(邑久)、淺野金次郎(小田)、定久壽元(吉田)、佐田大三九(真庭)、木村晶(邑久)、衣笠隆(岡山)、光畑辰吉(御津)、柴田一郎治(邑久)、森末慶久(赤警)、『教士』石原鶴太郎(上道)、千頭直之(岡山)、岡文雄(上房)、奥村寅吉(岡山)、黒住五郎(御津)、小寺鹿次郎(小田)、朝倉清雄(邑久)、阿部實茂(岡山)、森末甫(赤警)

六高、津中の天下

柔道

久米郡大井村に竹之内流の元祖があつて縣下に普及

下で三流派が競うた爲め勢ひ盛んとなつた、起倒流は名人吉田直造氏(東京小川町に道場を開き嘉納治五郎、横山作治郎氏を教ふ)範士岸本重太郎氏(武徳會本部大會で形の名人として長刀一本を授與し全國最初)現道館指南役永岡秀一氏を出してをり不遑流では明治三十四年頃日本一の折紙を附けられた田邊又右衛門氏等多數の達人を輩出し岡山の聲譽は全國を風靡してゐる、現在の學生界では六高柔道部が全國高等大會に八回連勝して勇名を馳せ、中等學校では津山中學、岡山師範等が強く、獨特のネバリを以て他縣に進出し旺んに凱歌をあげてゐる

一試合日誌
【三月三日】西田郡教育會の小學校補習、青訓演武大會を津山署道場で開催、田島校が優勝
【三月三日】吉備郡教育會第一回小學校、公民校演武大會を總社校で開催、阿曾校(高等科)總社校(補習)が優勝
【三月四日】吉備郡下町村青年團第三回武道大會を總社校で舉行阿曾校優勝
【四月七日】第九回武徳會後月分會演武大會並に第四回郡内町村對抗青年武道大會を井原高女校で開催、個人試合永山(倉吉)と高屋町優勝
【四月二十八日】武徳會津山支所主催で第十九回演武大會を女子校で舉行井原(田島村)優勝
【五月九日】武徳會本部の各道範教士決定に谷田田榮治、福岡豊の兩氏は教士の稱號を得た
【五月十九日】津山中學柔道部は松山高校の近縣中等學校大會に出場し二年連続覇を唱へた
【五月十九日】岡山師範柔道部は姫路高校の近縣中等學校大會に出場し決勝戦に甲陽中破つて優勝
【五月十九日】武徳會上道郡分會の第十二回演武大會を西大寺町觀音院境内で舉行、西大寺校(少年團體)と一般個人決勝で福岡(六高)が優勝
【六月二日】岡山毎夕新聞社の近縣聯合大會を岡山武徳殿で舉行鳥城會(三一〇)で玄武館中央軍を破つて優勝、個人では岸川(突撃俱樂部)が制覇した
【六月八、九日】六高で近縣中等學校大會を開催、津山中學優勝
津山中學 頁
岡山師範 誠之館中
津山中學 岡山師範
【六月十日】岡山縣警察聯合第一

九回武道大會を岡山武徳殿で舉行第五組合優勝し、個人試合成績は1有高(岡山西)2実貝(岡山西)3岡本(岡山西)
【六月十六日】岡山縣體協主催の武道共働會大會を岡山武徳殿で舉行
1津山中學2岡山二中3兒島商船
【八月二十四、五日】濱寺演武場で舉行された帝大主催の第五回全國中等學校優勝大會に第一、二、四と三回優勝の津山中學が出場、また、榮ある優勝旗を獲得した
津山中學 不戦一人 御影師範
津山中學 不戦二人 愛知一師
決勝戦
津山中學 大將同士 長野中學
一有段者の氏名
▲講道館(四段)等原彦道、小郷甚三郎、則武新吉、石井市十、小野國治、尾高茂、大野定吉、岡田代四郎、清田茂壽郎、近藤惣太、佐藤喬、杉山岩三郎、武岡政雄、長崎九一郎、平山宗一郎、福岡豊、藤原明太郎、横原千代二、丸尾勇、三宅善四郎、森谷徳三郎、矢吹艶次郎、山内繁雄、山上正夫、吉田三郎、渡邊竹市、(五段)佐藤金太郎、多田利吉、武南喜三、谷田田榮

度に縣の覇權を握り、昨年は宮崎縣で開かれた關西中等相撲大會に第三位を得た
一試合日誌
【六月二日】吉備商業主催の縣下學童相撲大會を同校で開催
▼尋常科 一等旭東校、二等清輝校、三等弘西校、個人勝負大關岩室(旭東)、關脇藤原(同)、小結津田(同)
▼高等科 一等内山下校、二等三動校、三等伊島校、個人勝負大關高吉(内山下)、關脇高龍(同)、小結藤田(三動校)
【六月十六日】縣體育協會主催の第七回縣下中等學校相撲大會並に明治神宮青年團相撲選を吉備商士会で開催
▼中等團體 一等勝間田農林、二等吉備商、二等關中、個人勝負豊福三郎(勝農)、二等岩室尤康(吉備商)、三等早瀬實(勝農)
▼青年團 一等川崎時夫(岡山市上伊福)、二等佐々木那(岡山市橋本町)、三等川崎時豊(同上)、四等三枝熊男(邑久郡幸島)

未だ搖籃時代
十年前ころ盛んに柔拳試合と酷打つて縣下を興行し多少とも拳闘の形式を傳へたがスポーツ

日置流の全盛

弓道

全國高等大會(京大主催)に五度優勝して馳名を馳せてゐる六高を始め昭和六年の明治神宮大會には岡山代表(時岡善次、松原、金久、平松照夫)は第二位を得、輝しい記録を残してゐる、民間道場では二百年の歴史を持つ日置流岡山正射會と同じ流をくむ津山正馬會あり岡山武徳殿の教士も正射會教士によつて行はれてゐる關係上、縣下は今く日置流のみを観かある、弓道場は岡山專賣局納糸、軌道、茶寮等にあつて盛んに練習を行つてゐる

一競技日誌

【四月三日】岡山奉射大會を御津郡一宮村吉備津神社境内で舉行
1十三中原田(專賣局ミノリ會) 2十一中松本(東城町) 3十中嶋崎(ナボレオン) 4長瀬(津山高女) 5秋山(津山)
【四月二十二日】岡山縣青年演武大會を武徳殿で舉行
(二十射)金の唐川(六高)1前田十七中2原田十五中3野藤十三中4井上十三中5森十三中
【四月二十八日】武徳會津山支所の第十九回演武大會を津山女子

勝農再度の榮譽

相撲

横綱常の花籠市氏を生み、さらに全日本學生相撲最高峰のタイトルを得て大正十五年七月、日本學生角力聯盟の第二回投票を議決した村主一郎氏(岡山中學出身)現在岡山市弓ヶ筋の勝農等簡々には全國的な聲譽を轟出してゐるが一般的には振はす僅かに釘負彦千郎氏が代々岡山市及び近郊で所謂角力力を催して獎勵してゐるに過ぎない、現在の縣下中等學校では勝間田農林と吉備商業がやゝ押し、勝農は昨年と本年

未だ搖籃時代

拳闘

十年前ころ盛んに柔拳試合と酷打つて縣下を興行し多少とも拳闘の形式を傳へたがスポーツ

1ツとしてのボタシングは三年前に現在の岡山拳闘倶楽部節節朴章藹氏(岡北中出身)が普及し始めたもので他のスポーツに比して甚だ進展の鈍いものである

【二月四日】全大阪拳闘聯盟主催で岡山市東山倶楽部に全大阪選抜軍對岡山拳闘俱樂部對抗試合を舉行(○印が勝)

大阪軍 岡山軍
フライ級 岡山軍 勝
バンナム級 岡山軍 勝

○柴田俊臣(二回一分三〇) 正本福男
○金岡正二(二回一分一十) 石原 務
○石原孝 定
○石原孝 定

小野 文(引)分、河野小太郎
山根 健次(判)分、矢野 義一
酒井 明(判)分、湯淺 輝二
正本 福男(引)分、森 務

昇められてゐるのは頼母しい
スキー場一覽

▲万戸ヶ原 菅田郡奥津村にあり
▲津山 津山郡津山町にあり

▲尾路 奥津温泉から二十町眞北の地點にある
▲越畑 菅田郡香々美北村字越畑にあり

▲大ヶ山 菅田郡阿波村にあり
▲黒岩 因美線河井驛より三里半

▲野呂 眞庭郡勝山町にあり
▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

ウエルタ級 澤田 誠一(引)分、石原 務
ライト級 ライト級
正(同目)山根 淺松
松 井光雄(判)分、河合 正二

漕艇 縣下には現在醫大
みで水に恵まれながら不振である、一中は既に四十年來の歴史を有し曾て大正初年ごろ盛んに琵琶湖の全國大會へ遠征したが目下中止してをり、醫大、六高が校内大會を年一回開く程度で大した進歩は認められぬ

【五月五日】六高第二十九回水上運動會を三幡港で舉行、二十二回の校内對抗レースをを行った

【五月十九日】創設十周年と新艇落成式を兼ねて岡山醫大レガッタを旭川下流三幡港で舉行、教室レースでは石山外科、高校對抗レースでは佐賀高校が優勝

サイ クル 三十年前の明治三十八年ごろ京阪地方に全國大

▲湯原田根 湯の街より北進して二十五町
▲湯原三世七郎 湯原温泉から眞北へ二十四町の地點

▲大ヶ山 菅田郡阿波村にあり
▲黒岩 因美線河井驛より三里半

▲野呂 眞庭郡勝山町にあり
▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

會が生れかけた頃から岡山市に岡輪會選手俱樂部が組織され大正初年にかけて當時一流(全國大會の第十等まで)選手として妹尾町の榎屋眞吉氏をトップに岡山市の萬城重太郎、小川淳、藤原延(現在飛行家)藤見嘉源太、田中久吉、等岡町の坂田成男の諸氏で當時は毎日の練習に百餘名が参加してゐたといふ盛衰であつた、現在では練習者僅かに二十三名で衰微の兆にあるが田中久吉選手は未だ衰へず、昭和六年夏の鹿兒島一大阪間一千キロ競争に参加して五日間を走破し今年には招魂祭當日に三十周年出走記念レースを同氏後援會主催のもとに舉行してをり、さらに新銳として淺口郡青年出宮順一氏は九年度に山口と徳島で開かれた一流全國大會の一萬米に共に十六分を計出して優勝、本年に入つては京阪神ロードレースに優勝して氣を吐いてゐる

【二月十日】日本サイクル競技聯盟創立記念選抜競技大會、三府十五縣選抜五十四選手によつて京都東寺南門發、甲子園着京阪神ロード・レースを雨中に行つたが淺口郡玉島青年出宮君は二時間四十分一分三秒の新記録を出して優勝

【二月十二日】同右大會第二日

【二月二十七日】岡山縣スキー聯盟主催の第二回明治神宮選抜大會を作北大ヶ山で舉行

▲少年リレー(二キロ) 奥津校(友保誠、谷口増浪、野上直太郎、原田賢仁) 18分45秒、2上加茂校△青年男子競争(六キロ) 1難波泰平(奥津) 2本守始(藤山) 3三浦透(奥津) △直滑降(一キロ) 1三浦透(奥津) 2後藤止向(岡山スキー) 3中村利夫(岡鐵) △スラローム 1牧野隆洋(奥津) 2中村利夫(岡鐵) 3三浦(奥津) △地方別リレー(四キロ) 奥津クラブ(三浦透、牧野隆洋、難波泰平、福原智巳) 2岡鐵クラブ

大ヶ山で舉行、那岐Aチーム優勝

▲湯原田根 湯の街より北進して二十五町
▲湯原三世七郎 湯原温泉から眞北へ二十四町の地點

▲大ヶ山 菅田郡阿波村にあり
▲黒岩 因美線河井驛より三里半

▲野呂 眞庭郡勝山町にあり
▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで乗合自動車約五十分、街より村道を逆にとつて二十四、五分にして至る

を南甲子園運動場を舉行、簡人一萬米レースに出宮君は二十三分五十八秒で優勝

【四月二十八日】阿哲輪界同業組合、阿哲商工會共催の全國大會を新見農林校で開催

△二萬二千米 1村上三三九(豊橋) 2堀平太郎(伊勢) 3竹林多次(鳥取)

【五月十三日】玉島町出宮選手後援會の全國競技大會を玉島町阪田埋立地で舉行

△番外實用車五周 齋藤太郎(岡山) △子供七周管孝幸(今治) △三流三周周谷弘幸(尾道) △二流三十五周松井常夫(姫路) △一流五十周高橋清(神戸) 以上優勝

雪飢饉の慨き 雪に恵まれず隨つてスキー術の本縣移入は可成り遅く未だ搖籃時代にある、作北の交通便利な作備、因美の兩沿線のスキー場は今冬は雪飢饉に禍されて僅か旬日程度しかスキー可能な時がなく、絶好の赤山原野は交通の不便で大衆を容れず、發展を餘程阻害してゐる、だが一般に憧れを持つてアマチュアスキーヤーが年々著ましく増加し競技會の記録もグン／＼

中民のリード 最近全縣的に普及發達したが、その趣旨を完全に促へ得ず亂雑に行はれてゐるので、これらのハイカーを止しリードするため本社運動部では「中國ハイキング・クラブ」を組織、一般のハイカーから會員を募つて普及を圖り、現在では漸く主旨を理解されて益々盛んとなつてゐる

【二月二十三日】中國民報社運動部後援の中國ハイキング設立總會を岡山市カフエブラザル樓上で開催、毎月一回の座談の夕とハイキングを行ふ事等を協議決定、左の役員を選定した

小山、法華(市役所)、齋藤(専賣局)、藤波(不動銀行)、大倉(安田銀行)、佐上(地理歴史學會)、兒島、笠井、深見、春井(無所属)、土居(岡鐵)、高杉(中鐵)、鶴岡、保田、松田(中民)

【三月三十一日】中國ハイキング・クラブの第一回ハイキングを上道郡龍ノ口山公園から御津郡玉

▲湯原田根 湯の街より北進して二十五町
▲湯原三世七郎 湯原温泉から眞北へ二十四町の地點

▲大ヶ山 菅田郡阿波村にあり
▲黒岩 因美線河井驛より三里半

▲野呂 眞庭郡勝山町にあり
▲湯原社 勝山驛より湯原温泉まで

スポーツ—キャンピング、團體と助成機關

柏を経て岡山市三野公園に至る三里の行程で舉行、参加人員三十餘名

【四月十四日】 中國 ハイキング・クラブの第二回ハイキングを都窪郡山手村福山城址、酒津のコースで行ひ参加人員五十餘は關春の佳景に快哉を叫んだ行程四里半

キャンピング

△龜山公園(倉久郡牛窓町) 郷社八幡宮の中腹にあり國立公園地帯で眼下に前島小豆島を見、遠く淡路島を望み白砂青松の海岸である

△鬼ヶ嶽(矢掛) 溪流に富む松林の勝地で附近に鬼ヶ嶽藥師温泉がある

團體と助成機關

△岡山縣體育協會 創設大正十五年五月二十一日

和四年、會報OSMC、會員數九〇名

△中國ハイキング・クラブ 創設昭和十年三月二十三日、人員六十名

一九〇

△松原夫、杉原金久兩教士 △津山射撃會 大正初年教士秋山正泰氏の創設、會長元津中教諭秋山正光氏、會員三十名

△岡山市武揚館 創設明治二十九年、門下三百名、(柔道指南)代表者澤岡幸吉

月、代表者津下仙太郎、岡山中野球部出身を以て組織

△ミカドクラブ 創設大正十年三月、代表者菊池三郎、人員三十四名、關中野球部出身者で組織

△鷹野實業團、九耐野球部、片鐘野球部(兒島)三井造船野球部、(吉備)總社體操野球部、(後月)井原工業會社(上房)高梁土木、高梁法曹、稅務署、銀行チーム、中尾、高梁實業團、高商チーム、須藤チーム、(阿哲)城山俱樂部、小野團俱樂部、新見俱樂部

△和氣庭球俱樂部 創設昭和八年七月、代表者小笠原二郎、人員二十名

△岡山市武揚館 創設明治二十九年、門下三百名、(柔道指南)代表者澤岡幸吉

△和氣庭球俱樂部 創設昭和八年七月、代表者小笠原二郎、人員二十名

△岡山市武揚館 創設明治二十九年、門下三百名、(柔道指南)代表者澤岡幸吉

△和氣庭球俱樂部 創設昭和八年七月、代表者小笠原二郎、人員二十名

スポーツ—團體と助成機關

風水害・復興事業

昭和九年九月二十一日の風水害は岡山縣未曾有の災害であつた、以下はその概況及びこれに對する復興事業の概略である。

颶風の経過

九月十八日沖繩の南方沖合に現はれた颶風は北方に進み二十日朝沖繩島に接近し其中心七百二十耗を示し同所附近より北東に轉じ九州南部より四國南岸を経て二十一日朝四國室戸岬の北方を経て徳島の南西に達し午前七時洲本の北を通過し近畿地方を経て本州を斜斷し北陸海岸を出て北海道方面に去つた。

岡山氣象状況

颶風の接近に伴ひ九月二十日午前八時頃より氣壓次第に下降し夜半頃より沈降益々甚しく二十一日午前六時二十分七百二十九耗七の最低に達し爾後急に上昇に向つた、風は二十日午後十時頃までは概ね東方の和風であつたが風向が南風に轉ると同時に疾風となり二十一日午前二時強風に達し同五

時和風程度に衰へたが五時半風向北に變じて風速急に加はり同七時十六米七の最大風速(六時十分より七時十分迄の間瞬間風速二十八米に達す)を現した、午前八時十三米三となり同十時風向北西に轉じて和風となつた、雨は前日米小雨繼續してゐたが二十日午後二時四十二分より引續き降雨となり二十一日午前三時より大雨、同八時稍衰へ十時半歇んだ、二十日午前十時より二十一日午前十時に至る二十四時間に於ける雨量の最も多かつたのは眞庭郡湯原村湯本の三三〇耗九で、既往の最大雨量である、吉井川、旭川、高梁川の平均雨量は旭川流域が最大で二八〇耗二、次が高梁川流域の一六一耗二、吉井川流域の一五九耗四である、(参考、明治二十五年七月廿三日の最高水位五米一五、同二十六年十月十四日六米八八、同三十二年七月廿二日六米三六)

旭川改修計畫は水害によつて再吟味され根本的改修を施すべき必要が認められ内務省に於ても從來の計畫を修正したが、新計畫の内容は公表されなかつた、災害臨時縣會に於ても當時の長谷川土木課長から旭川改修地方官費金の説明に關係して極く断片的に説明されるに止まつた。

旭川改修計畫は從來の計畫より六十四十九萬餘圓の増額を行ひ、立案の根本は本年の流量を六千立方(從來の計畫は明治二十六年の五千立方を基準としてゐた)とし之を基準として計畫を變更したものである、新計畫に於ても舊計畫が根本的に變更されてゐると見られる點は少く大體舊計畫修正程度のものゝ、從來の五〇〇〇立方米の處分案は牧石村の大原に三〇〇〇立方米、同中原に二〇〇〇立方米、同原に二〇〇〇立方米の各遊水池をつくり百間川には一、〇〇〇立方米旭川本流に三、三〇〇〇立方米を流出する方法であつたが今次の改案では大原中原は從來通りの遊水池を設けるも原の遊水池はこれを廢止し旭川本流の流水量は三、五〇〇立方米とし百間川

旭川改修計畫は從來の計畫より六十四十九萬餘圓の増額を行ひ、立案の根本は本年の流量を六千立方(從來の計畫は明治二十六年の五千立方を基準としてゐた)とし之を基準として計畫を變更したものである、新計畫に於ても舊計畫が根本的に變更されてゐると見られる點は少く大體舊計畫修正程度のものゝ、從來の五〇〇〇立方米の處分案は牧石村の大原に三〇〇〇立方米、同中原に二〇〇〇立方米、同原に二〇〇〇立方米の各遊水池をつくり百間川には一、〇〇〇立方米旭川本流に三、三〇〇〇立方米を流出する方法であつたが今次の改案では大原中原は從來通りの遊水池を設けるも原の遊水池はこれを廢止し旭川本流の流水量は三、五〇〇立方米とし百間川

旭川改修

旭川改修計畫は從來の計畫より六十四十九萬餘圓の増額を行ひ、立案の根本は本年の流量を六千立方(從來の計畫は明治二十六年の五千立方を基準としてゐた)とし之を基準として計畫を變更したものである、新計畫に於ても舊計畫が根本的に變更されてゐると見られる點は少く大體舊計畫修正程度のものゝ、從來の五〇〇〇立方米の處分案は牧石村の大原に三〇〇〇立方米、同中原に二〇〇〇立方米、同原に二〇〇〇立方米の各遊水池をつくり百間川には一、〇〇〇立方米旭川本流に三、三〇〇〇立方米を流出する方法であつたが今次の改案では大原中原は從來通りの遊水池を設けるも原の遊水池はこれを廢止し旭川本流の流水量は三、五〇〇立方米とし百間川

被害状況

世帯 全壊一三七五、半壊二一〇、浸水四六、〇四三、流失九七五、計五〇、五〇四

家屋 全壊一、二八三、半壊一、二二八、流失八七三、浸水一四、五三九、計一七、九二三

土地 △田畑埋没及流失三、二五六、四四町、浸水一七、五三三、一六、六四町、埋没流失一、一九、八三町、浸水一、七四四、三六町△山林及原野埋没及流失五九九、三三町、浸水五九九、五二町△雜種地埋没及流失三、二五、九六町、浸水一、一四六、三八町△合計埋没及流失三、二〇一、六八町、浸水二、〇一九、四〇町

用患水路その他 流失二、五一七△破損二、九一九

堤防 決潰一、一四四(八九、五九一米)、破損一、六二七(五、九四九米)

道路 埋没流失二、〇五六(三三、七、八三二米)破損三五六一(一、二八、三七〇米)

橋梁 流失一、四〇二、破損四六五

港灣 破損一六

復興事業 復興及事業内容 災害復舊費總額二千四百八十五萬九千圓、これが財源は國庫補助

千四百八十四萬圓、政府低利資金融資(利子補給の豫想するもの)六百四十萬圓、縣債(利子補給なきもの)三百二十萬圓、その他雜收入五十萬圓、うち九年度分總額六百二十六萬圓(國庫三百六十七萬圓、低資百八十八萬圓、單獨縣債六十六萬圓、残り雜收入)十年度分總額七百二十萬圓(國庫三百九十四萬圓、低資百九十三萬圓、單獨縣債百二十二萬圓、雜收入十萬圓)以上の事業内容は、

土木關係 災害復舊費總額千三百九十二萬七千圓うち九年度分三百八十五萬七千圓、十年度分四百六十六萬九千圓、このうち縣事業千八百八十六萬圓(九年度分三百五十四萬八千圓、十年度分二百九十七萬五千圓)市町村補助費二百八十八萬二千圓(九年度分三十一萬二千圓、十年度分二百五十七萬六千圓)災害土木助成費(旭川、高梁川上流改修、小田川一部、國道十五號線改修)總額百四十七萬九千圓(九年度分九萬圓、十年度分三十四萬五千圓)砂防工事總額十萬圓(九年度分三萬三千圓、十年度分六萬六千圓)旭川改修工事追加費六百二十二萬八千圓(九年度分二百二十二萬八千圓、十年度分

明治時代になつてから新に造築したもののうちには拙いものもある、之等は此の機會に改造される、例へば櫻林などは園の全體の調和の上から見て取拂はれて芝生になる、此の地點を空けて利休堂一帯を明くしようとするので、梅林、八重葎なども一部整理される、五十二次の建物も改造され築唱橋も今日のものは中途で樣式を變へたものだから、これも昔のものに樣式を變へる、一番大きな改造は公園の南方即ち現在の荒手茶寮と公園の間にある竹藪を取拂つて芝生と櫻の外苑にすることである、こゝは面積にして千四百五坪もあるが、これを外苑にすることによつて岡山の二大名物後樂園と鳥城を關聯せしめ公園から十分に鳥城を觀賞することが出来るようにする、この地は亦た一般の休憩場所として相當な茶店の施設なども施し外來客の出入を自由にできるようにする、園内から新外苑に通ずる門は利休堂の處に造られ散步道の南入口(相生橋)から櫻を植へ公園南都を最も近代的な公園に造り上げようとするのである、更に今日の荒手茶寮の庭園は旭川改修によつて大部分取り除かれるがかなり由緒ある庭園であるため少しでも多くの部分を保存する方針である

後樂園の復舊 復舊費は九年度五萬圓、十年度七萬圓、合計十二萬圓であるが、これで洪水で破壊された園内諸施設の復舊を行ふのみならず進んで此の機に園内の大改造を行ふと云ふのである。

復舊、改造の大綱 今日の後樂園は大體總政公の時代に出來たものであるが復舊に當つては其の歴史の價値を重んじて當時のものに復舊することを原則とする、併し

分事業費二十八萬五千圓うち縣負擔九萬五千圓) 耕地關係 水害復舊費總額五百九十二萬四千圓うち國庫五百二十萬四千圓、縣費九十一萬四千圓(九年度分國庫補九十五萬三千圓、縣費十七萬三千圓、十年度分國庫補百三萬、縣費十八萬七千圓)早害風害復舊費總額十二萬五千圓(九年度分八萬七千圓、十年度分三萬七千圓)荒地復舊井堰、水路農道改修等の事業費) 山林關係 荒廢林地復舊百六十八萬圓(九年度から十三年度迄繼續事業九年度七萬七千圓、十年度卅三萬七千圓)林道復舊二十四萬圓(九年度十二萬圓、十年度十二萬圓)後樂園復舊費十二萬圓(九年度五萬圓、十年度七萬圓)

その他 勸業方面で種苗醜給補助、農畜産業團體補助、家畜市場、畜産關係補助畜園改良、繭市場、水産關係で船溜船揚げ修築漁船修繕補助、經濟更生關係では共同作業場、副業獎勵費教育關係で公私立中等學校復舊補助その他、社會事業に地方改善部落復舊、縣道警備復舊費等が計上されてゐる

【註】 詳細は財政の項参照

風水害・復興事業 旭川改修、後樂園の復舊

一年略史

自昭和九年九月一日
至同年八月三十一日

【註】天氣の項中括弧内は攝氏平均温度(七、八兩月は平均、最高雨温度、一、二兩月は平均、最低雨温度、零を用ひたる數字は零下を示す)

九月 (九年)

一日 雨後曇(二・八) 大蔵省各省豫算査定開始▲北九州強震▲全米織物工業▲キヌーバ新關稅實施
二日 晴小雨(二四・六) 羅馬法王露宗教上滿洲國承認
三日 晴(二四・八) 滿洲國宮内府から出火▲米穀顧問會議▲吳市樂市場大火▲院展二科展開會▲岡山縣下警察署長異動(兵頭、梶並、有道氏等署長に新任)
四日 晴微雨(二五・三) 東京市電氣業▲滿ソ水路協定調印
五日 曇小雨(二五・六) 秋田縣大館町大火▲第一回岡山縣工藝品展覽會(主催岡山縣工藝協會)
六日 晴(二五・八) 大阪大機爭解決▲軍縮對策比率主義打破に關議決定
八日 雨(二四・〇) 岡山縣下の旱害激甚、縣廳務課は挿秧不能

二九四
上皇視察
二十九日 曇微雨(二・五) 小出侍從德島へ
三十日 曇小雨(三・二) 長に

十月

一日 曇微雨(二・九) 特許法施行五十周年記念展(特許局)▲大丹那トンネル完成▲スペインのサムベル内閣、ルーマニアのタ、レスク内閣總辭職
二日 曇微雨(一七・三)
三日 雨(一六・七) 滿洲國地方行政確立(十二月一日より實施)
四日 曇小雨(一八・八) 神武天皇御東遷二千六百年祭(宮崎神宮)
五日 雨(二五・八) 米穀統制委員會政府米二百萬石買替承認
六日 曇小雨(二四・七) 米穀統制委員會政府米二百萬石買替承認
七日 曇小雨(二五・一) 東京市電再スト宣言
八日 晴(二七・九) 全國方面委員大會(名古屋)取岡山兩縣下節團對抗演習は風水害のため中止(陸軍省公表)
九日 晴(二六・九) ユーゴ國王マルセーユ兇變に遇ひ崩御同乗のバルツィ佛外相も兇彈に斃る▲帝展彫塑入選發表
十日 晴(二八・七) 上海派遣直轄部隊論功行賞▲帝展洋畫入選發表

十一日 晴(一八・八) 帝展工藝入選發表▲政友會北信大會(長野市)
十二日 晴小雨(一六・三) 帝展日本畫入選發表▲東京市電爭議解決正式調印
十三日 晴(一六・一) 滿洲國特別大演習始まる
十四日 晴(一七・八) 帝展各部特選發表
十五日 曇小雨(一八・八) 帝展十六日 曇小雨(一五・五) 國鐵ダイヤ改正(十二月一日より實施)
十七日 曇小雨(二二・〇) 在滿機構改革は原案遂行に決定、關東廳幹部辭表提出
十八日 晴(二二・〇) 日本トルコ間新通商協定成立假調印
十九日 晴(二二・二)
二十日 晴(二二・九) ユーゴ内閣總辭職▲第十五回赤十字國際會議(東京市)
二十一日 晴(二四・〇) 海軍大演習終了
二十二日 晴(一五・七) ポルトガル内閣總辭職
二十三日 曇小雨(一七・三) 軍縮豫備交渉日英會談開始
二十四日 曇小雨(九・〇) 海軍豫備交渉日米會談開始▲赤十字條約批准▲岡山縣輸出縮織物工

業組合理事長龜山政三氏當選
二十五日 晴(二四・六) 兒玉伯拓相決定▲政友會東海大會(名古屋)
二十六日 晴(二〇・二) 倉納重役會にて中國レヨン新設正式決定
二十七日 晴(二一・〇) 關東廳全責辭表撤回、在滿機構問題大團圓
二十八日 晴(二一・一) 政友會中國四國大會(松山市)
二十九日 晴(二一・一) 海軍第三回論功行賞
三十日 晴(二二・七) 文部省國語會議審議會設置決定
三十一日 曇(二三・一)
十一日 曇小雨(一六・一) 海軍定期異動一部發表(聯合艦隊司令長官に高橋中將、末次大將は横濱司令長官に)▲若槻民政黨總裁辭意表明
二日 晴小雨(一四・九)
三日 晴微雨(一一・九) ドイツ文化研究所開設(京都市)
四日 晴(九・八) 政友會東北北海道大會(盛岡市)▲民政黨同(福島市)
五日 晴(一〇・一) 平田、服部兩部隊論功行賞

十一月

六日 曇小雨(一〇・三) アメリカ總選舉、民主黨大勝
七日 晴微雨(一一・〇)
八日 晴微雨(九・八) フランスのゾーメルグ内閣憲法改正問題で總辭職、フランダン内閣成立
九日 曇(八・六) 町田忠治氏民政黨總務會長に就任▲政友會關東大會(千葉市)
十日 晴(一〇・七) 大元帥陛下兩毛の陸軍特別大演習御統裁のため東京御發給▲第六十六臨時議會召集詔書官報を以て公布
十一日 晴微雨(一一・二) 報國第六十六號第一倉納號同第六十七號第二倉納號生る
十二日 曇(八・五) 第六十七議會召集詔書官報を以て公布
十三日 曇後雨(七・八) 陸軍特別大演習終了▲ベルギー内閣總辭職
十四日 晴(一〇・三) 滿洲國新關稅公布
十五日 晴微雨(九・二) 海軍定期大異動發表▲昭和十年度非常時聯合艦隊編成決定發表
十六日 晴(七・六)
十七日 晴(八・九) 五私 鐵疑獄、實動事件、合同毛織事件の控訴判決
十八日 晴小雨(一一・〇) 天皇陛下には陸軍特別大演習、地方行幸を終へさせられ宮城へ還幸
十九日 晴小雨(一四・二) ヘルギーのチュニス新内閣成立
二十日 晴(九・九)
二十一日 晴(八・七) 岡山一中創立六十周年記念式典舉行
二十二日 晴(八・一) 第八師團論功行賞▲血盟團事件判決▲帝國教育會全國教育聯合會合併決定▲通常岡山縣會召集
二十三日 晴(九・〇)
二十四日 晴(八・九) 昭和十年度豫算案閣議で決定
二十五日 晴小雨(九・二)
二十六日 雨(一一・八)
二十七日 曇小雨(一一・三) 第六十六臨時議會開會▲藤井藏相病氣辭職し高橋是清氏大蔵大臣に決定
二十八日 曇小雨(五・四) 第六十六臨時議會開院式▲姫津線開通
二十九日 晴(四・五) ポリビヤ大統領サラマンカ博士辭職
三十日 晴(五・五) 岡山縣會正副議長決定(議長三宅千秋、副議長加藤三郎)
一日 晴(六・一) 丹那トンネル開通により國鐵時間大改正▲兩

十二月

滿洲新地方制度實施

二百 晴(四・〇) 赤十字支部病院落成式
 三百 曇微雨(五・〇)
 四百 曇(六・六) 第六十六帝國議會の會期三百日延長▲第三十三回關西銀行家大會(大阪中央公會堂)
 五日 曇微雨(七・一) 衆議院豫算總會で政友會豫算追加の爆彈動議提出▲空部隊論功行賞
 六日 晴(七・一)
 七日 曇(六・七) 第六十六帝國議會會期二百日再延長▲爆彈動議を繞る政府對政友の衝突は首相の再答辭で妥協
 八日 曇(七・五)
 九日 晴(六・九) 國維會解散
 十日 晴(七・八) 第六十六臨時議會閉會▲南大將關東軍司令官兼特命全權大使に決定
 十一日 晴(八・三)
 十二日 晴(六・一) 秋田清氏政友會脫黨、衆議院議長辭職
 十三日 晴(六・七)
 十四日 晴(七・七)
 十五日 晴(七・三) 政友會九州大會(宮崎市)▲倉紡、倉納の毛織會社の設立は津市に決定
 十六日 晴微雨(七・八) オーストリア、ハンガリー協定成立
 十七日 晴微雨(七・〇) 米の公

定價格決定(最高三千一圓五十錢、最低二千四圓三十錢)
 十八日 曇微雨(九・〇) ラヂオ聴取料七十錢を五十錢に引下決定(十年四月一日より實施)
 十九日 曇(五・五) 華府條約廢止通告御諮詢案樞府本會議で可決▲海軍軍縮豫備交渉二十日より休會に決定
 二十日 晴(七・五) ベルー内閣總辭職
 二十一日 晴(五・八) 上海事變航空隊論功行賞
 二十二日 曇小雨(八・一) 在滿機構改正案樞府本會議で全會一致可決▲華府條約廢止通告文を齎駐米大使に電送すると共に重要訓電發す
 二十三日 雨(一〇・〇)
 二十四日 晴(七・一) 第六十七帝國議會召集▲衆議院議長に濱田國松氏當選
 二十五日 曇(五・五) ベルーのアルナス新内閣成立
 二十六日 曇(五・四) 第六十七帝國議會開院式▲在滿新機構實施▲中國信託株式會社會長に原澄治氏、同會社社長に池田信太郎氏就任
 二十七日 晴(五・五) 第十師團論功行賞▲帝人事件豫審終結、記事解禁

二十八日 曇後雨(四・〇) 海軍と獨立守備隊論功行賞
 二十九日 晴小雨(七・四) 華府條約廢棄通告文をアメリカ政府に發す
 三十日 晴(五・七)
 三十一日 雨(八・二)
 一月(十年)
 一日 晴小雨(一〇・一、三・七) 兒島郡赤崎町制實施▲廣島通信局管内本年實狀取扱數四千七百萬通前年比一二%増、岡山局同千二百七十五萬通前年比一三%増
 二日 晴微雨(五・九、〇・四)
 三日 晴(四・一、〇・〇・八)
 四日 晴(五・二、〇・一・一) 深井日銀副總裁(現總裁)來岡
 五日 晴(四・一、〇・〇)
 六日 晴(二・三、〇・二・八)
 七日 晴(二・一、〇・三・六) 滿洲國皇帝四月上旬御來朝の旨正式發表
 八日 晴(三・八、〇・二・六) 帝人事件公判裁判長藤井五一郎氏に決定
 九日 晴(四・四、〇・一・六) 滿洲國石油專賣制實施に對する英米の抗議は斷乎一蹴に決定
 十日 晴微雨(七・九、二・〇) 岡山商會頭に西原重藏氏當選

十一日 晴(七・九、二・三) 十二日 晴(六・二、〇・〇・七) 地方行政機構改革各府縣に經濟部新設の旨發表▲境大火
 十三日 晴(四・八、〇・〇・六) ザール人民投票▲濱田衆議院議長選舉違反公判辯護人として來岡
 十四日 晴微雨(五・六、〇・三) 十五日 曇小雨(八・五、六・七) ザール人民投票開票(ドイツ復歸絕對多數)▲地方官異動、土屋岡山縣内務部長山梨縣知事となる
 十六日 晴微雨(六・五、〇・〇) 高橋義孝氏辭職
 十七日 晴小雪(四・二、〇・〇) 對關西米穀商大會(大阪市)
 十八日 晴微雨(三・六、〇・二) 民政黨總裁 町田忠治氏に決定▲地方行政機構改革に伴ひ岡山縣分課、分掌、處務規定改正
 十九日 晴小雪(三・〇、〇・〇) 地方官(部長級)異動、岩上岡山縣警察部長、愛甲縣同、林信夫氏岡山縣警務部長、石井政一氏同警察部長、郡山義夫氏同經濟部長に決定
 二十日 晴(三・二、〇・四・六) 二十一日 曇小雨(三・九、〇・〇)

二・五) 北緯讓渡交渉成立
 二十二日 晴微雨(三・六、〇) 一・五) 議會返り初日
 二十三日 晴微雨(二・七、〇) 三・二) 美濃部博士議會で人種蹂躙問題に付き質問演説
 二十四日 晴(三・一、三・二) 宮中歌會始め、岡山縣からの勅題詠進歌數六百四十七首
 二十五日 晴(三・三、〇) 二) 廣田外相議會で『私の在任中戦争はあり得ぬ』と言明▲寶塚大劇場全燒
 二十六日 晴微雨(三・二、〇) 四・三) 二十七日 晴(三・二、〇) 四・一) 二十八日 晴(四・一、〇) 二) 米穀自治管理法案反對岡山山白米商組合大會(蓮昌寺)
 二十九日 曇小雨(四・〇、〇) 三・一) 三十日 晴(四・六、〇) 二・五) 三十一日 晴微雨(四・七、〇) 二・六) 岡山縣下中等學校入試期日及募集人員發表

二月

一日 晴(三・六、〇) 二・〇) 二日 曇小雨(二・七、〇) 三・五) 蔣介石氏 總日政策を聲明
 三日 曇微雨(五・二、〇・八) ▲定價格決定(最高三千一圓五十錢、最低二千四圓三十錢)
 四日 曇微雨(四・七、〇) 一・四) 五日 曇微雨(四・三、〇) 二・一) アリゾナ州議會に排日法案提出
 六日 晴微雨(二・二、〇) 九) 七日 晴微雨(〇・三、〇) 四・七) 八日 晴(一・一、〇) 六・一) 米穀自治管理法案反對全國米穀商大會(東京市)
 九日 曇小雨(二・三、〇) 四・五) 十日 雨(八・一、三・四) イタリー・エチオピア兩國軍衝突▲カルモナ將軍ポルトガル大統領に再選
 十一日 曇小雨(六・六、一) 四) 愛媛縣八幡濱市制實施▲岡山縣下薦行者、各種事業功勞者表彰
 十二日 曇微雨(三・五、〇) 三) アメリカ飛行船メーコン號墜落▲岡山縣建國祭實施十周年記念
 十三日 晴微雨(二・三、〇) 六) 倉敷市町區改正
 十四日 晴(三・二、〇) 四・四) 十五日 曇(五・九、〇) 二・二) ベルシヤ國イラン國と改稱(三月二十一日より) ▲岡山縣罹災地商工業補償資金貸付候項告示

三月

一日 晴(七・九) 滿洲國建國三周年記念慶祝大會開催(新京) ▲ザール地方ドイツに復歸▲ギリシヤ政權不確派クーデター政行叛亂 ▲岡山男子師範本科第二部)第一次考査
 二日 晴(五・六) 全國幼稚園關係者大會開會(大阪國民會館) ▲日蘭會商海運會議決裂
 三日 晴(五・七) シヤム國王プラジャヤディボク陛下御退位發表
 四日 晴小雨(四・九) 上海事變海軍論功賞受賞者一萬三千五百五十一名發表▲獨立美術展入選者發表▲ハンガリー内閣總辭職
 五日 晴小雪(二・九) 六日 晴微雨(二・六) 内閣審議會と内閣調査局要項決定
 七日 晴(五・〇) 陸軍軍事參議官會議宮中に於て開會▲シヤム國王アナンド・マヒドル殿下御即位

八日 晴微雨(七・六) 殉國の英靈を祀る滿洲國建國勳章授賞式 ▲全國農畜大會(東京) ▲連昌寺國寶指定申請
 九日 晴(一〇・五) 青年學校制度實施準備の全國學務部長會議(開會(文部省))
 十日 晴小雨(三・三) 日露戰役三十周年陸軍記念日の祝賀會舉行(滿洲神社境内)
 十一日 晴小雨(六・三) 第十四師團滿洲軍事論功行賞發表 ▲北鐵讓渡協定及議定書假調印
 十二日 晴(五・八)
 十三日 晴微雨(一〇・三) 旭川部隊第二陣用品に凱旋
 十四日 晴(七・八)
 十五日 晴(七・二) 陸軍定期異動發表
 十六日 曇小雨(八・三)
 十七日 晴(七・一) イラク國後繼内閣國民黨首領ヤシン・パシヤ氏組織
 十八日 雨(七・五) 北米アリゾナ州議會上院排日案通過 ▲岡山縣花菱學堂組合長犬養健氏に決意
 十九日 晴(三・七) 帝國軍人後援會第三十六回總會(東京) ▲ベルギーのジョルダン・チユニス内閣總辭職
 二十日 晴(一一・二) 大阪、奉天間無線電信通 ▲高德線至通
 二十一日 曇小雨(五・二) 北米アリゾナ州下院排日案を擯棄す ▲ベルシヤ國號イランと變更
 二十二日 晴(五・五) 滿洲事變高波部隊、茂木部隊の論功行賞發表
 二十三日 曇小雨(五・一) 北鐵讓渡協定正式調印
 二十四日 雨(九・六) 岡山縣下中等學校入試始(二十五校)
 二十五日 晴小雨(一〇・八) 陸軍特別大演習日時公表(十一月九日より十二月まで) ▲英獨會談開始 ▲ベルギー新内閣成立(セーランド) 片上鐵道の列車顛覆
 二十六日 晴微雨(九・六) 第六十七議會開院式
 二十七日 曇(八・九) 我國國際聯盟退却力發生 ▲堺市立水族館全焼
 二十八日 曇小雨(四・九) ポーランドゴズロウスキー内閣總辭職即日ワレリ・スラウエク大佐首相組織 ▲英ソ第一次會談(モスクワ)
 二十九日 曇微雨(九・〇) スベイン、レルー内閣總辭職
 三十日 曇小雨(八・五) ベルギー金本位離脱
 三十一日 曇(六・一) 岡山縣下小學校教員異動發表
 四月
 一日 晴微雨(六・八) 青年學校令公布 ▲第七回全國飛行機操縦士大會舉行(羽田飛行場) ▲中國民報社主催警察博覽會開會
 二日 晴小雨(七・六) 滿洲國皇帝陛下日本御訪問のため新京宮廷府御發 ▲師團長會議開會(陸軍省會議室) ▲イギリス、ポーランド會談開始(ワルソー)
 三日 晴(六・九)
 四日 曇小雨(七・九) 昭和十五年年度開催の日本萬國博覽會計畫披露會開催(東京)
 五日 晴小雨(一一・六) 驅逐艦「白露」の進水式舉行(佐世保) ▲國際労働總會出席代表決定 ▲齋藤實子爵教化村視察のため來岡 ▲多久岡山縣知事金光教内紛解決に乘出す
 六日 曇微雨(八・三) 滿洲國陸下横濱港御入港御上陸 ▲滿洲、上海兩事變陸海軍司令部關係將兵論功行賞發表 ▲全國農民大會開會(大阪)
 七日 晴(九・五)
 八日 曇小雨(一一・一) 在支領事會議開催(上海) ▲近畿神職聯合會總會開催(奈良)
 九日 曇小雨(一三・五) 美濃郡學說處置開議にて決定(發禁改訂) ▲中部、關東、近畿地方一部地震
 十日 曇小雨(一三・七)
 十一日 曇小雨(一三・八) 大楠公六百年記念神戶觀光博覽會 ▲英佛伊三國首相、外相會議開會
 十二日 晴(一〇・九) 帝國學士院恩賜賞受賞者決定 ▲火星地球の最短距離に達す
 十三日 晴(一〇・〇) 水産デレレーザ會議で英佛伊三國共同政策宣言書調印
 十四日 曇小雨(一三・一) スト
 十五日 雨後曇(一五・五) 滿洲國皇帝陛下日滿皇室御親善の儀禮を果させ給ふ
 十六日 晴(一一・四) 日本新聞協會第二十三回大會開會(熊本)
 十七日 曇(一一・一) 近畿東海各地方地震 ▲國際聯盟理事會、トイツ問責決議案可決 ▲金光教家那管長は多久知事の解決案を承認、文孝教監を解職す
 十八日 晴(一一・〇) 大楠公六百年祭高野山金剛奉讀大法要を厳修
 十九日 曇(一〇・五) 内閣審議會及調査局官制決定
 二十日 晴(一一・七)
 二十一日 晴(一三・八) 滿洲國皇帝陛下大阪市御立寄 ▲臺灣北

部大地震倒壊、死者三千五百名
 二十二日 晴(一四・一)
 二十三日 (一六・〇) 滿洲國皇帝陛下御歸國の途につかせらる ▲全國町村長大會開催(熊本)
 二十四日 晴(一四・一)
 二十五日 晴(一六・二) 全國手形交換所聯合大會開會(東京)
 二十六日 曇(一六・八) 第五回通商審議會總會開會 ▲全國工業組合大會開會(神戸) ▲靖國神社臨時祭執行 ▲圖書賣第十回展覽會入選者發表 ▲シヤム舞踊劇團公演(岡山市公會堂) ▲日本銀行岡山支店長に小林正一郎氏任命 ▲高橋正雄氏金光教教監に就任す
 二十七日 晴(一八・〇) 滿洲國皇帝陛下新京御歸還
 二十八日 曇微雨(一六・七)
 二十九日 曇小雨(一六・七) 陸軍觀兵式舉行
 三十日 曇微雨(一一・五) 滿洲事變第十五回支那駐屯軍及朝鮮部隊論功行賞發表
 五月
 一日 晴(一〇・五) フィリッピン・サクダル黨 起 ▲倉敷更生院(主催倉敷勞務、倉敷市)
 二日 晴微雨(一〇・八) 滿洲國皇帝陛下詔書を御宣布 ▲佛ソ相互援助條約調印
 三日 晴(一一・二) 地方長官會議開會
 四日 晴(一三・七) 全國水平社大會開會(大阪) ▲岡山市課長異動
 五日 晴(一六・二) イタリ、オーストリア、ハンガリー三國會議開會 ▲岡山縣營小原池竣工式(久米郡加美村)
 六日 晴微雨(一六・三) 英國皇帝陛下御即位二十五周年式典謝恩式舉行 ▲伊、埃、洪三國會談終了
 七日 晴(七・八) 全國市長會議開催(横濱)
 八日 晴(一八・一) 日本赤十字社通常總會開會 ▲愛國婦人會通常總會開催
 九日 晴(一九・五) 地方長官會議終了
 十日 晴(二〇・八)
 十一日 曇(二〇・一) 内閣審議會委員、調査局長官(吉田茂)、内閣書記官長(白根竹介) 調査局關係事務官任命
 十二日 雨(一九・六) 全國小學校女教員大會開會(東京)
 十三日 曇小雨(一九・一)
 十四日 曇小雨(一八・一) フィリッピン人民投票舉行 ▲廣島道鐵道設置開議で正式決定
 十五日 晴小雨(七・六) 滿洲國國民慶祝大會舉行 ▲全關西洋畫展覽會入選者發表
 十六日 晴(一六・六) 警察部長會議開會
 十七日 晴(一八・四) 在支那帝國公使館大使館に昇格發表 ▲内閣審議會初總會
 十八日 雨後曇(一六・三) 警察部長會議終了 ▲全國産業組合大會開會(長野) ▲ソ聯飛行機マキシム・ゴルキー空中衝突
 十九日 曇小雨(一七・四) 鐵道内田信也氏來岡
 二十日 晴小雨(二〇・一) 新日本海員組合創立大會開催(神戸)
 二十一日 晴(一九・七) 滿洲國第二次内閣成立
 二十二日 晴(一八・九) 政民聯携打ち切り聲明
 二十三日 晴(一七・三) 全國總務部長會議開會 ▲滿洲、上海事變出征第二遣外艦隊論功行賞發表
 二十四日 晴(一九・八) 大楠公六百年大祭舉行 ▲廣瀬神社神殿祭執行(大分) ▲岡山縣穀物組合長に西村丹治郎氏推薦に決定
 二十五日 晴(二二・五) 大楠公六百年祭全國各地舉行
 二十六日 晴(二二・二)
 二十七日 曇微雨(二〇・二) 日本海海戦三十周年海軍記念日全
 六月
 一日 晴(一九・七) 選舉肅正委員會官制施行 ▲フランスのブイツソン内閣成立
 二日 晴(二二・四)
 三日 曇小雨(二〇・六)
 四日 曇小雨(二二・〇) 土方日銀總裁辭職し後任に深井英五氏就任 ▲英海軍會談開始 ▲フランスのブイツソン内閣總辭職
 五日 晴(二二・一)
 六日 晴(二〇・三)
 七日 曇(二〇・〇) フランスのラヴァル内閣成立 ▲英國マクドナルド氏首相を辭しポールドウイン氏首相となる
 八日 晴(二二・七) 海軍第十回、陸軍第十六回軍運輸部陸地測量部關係論功行賞發表
 一九一九

九日 晴(三三・三〇) 北支問題に就き我が要求を全部容れる旨何應欽氏より正式回答▲岡山商議會頭に西原金藏氏當選

十一日 晴(二二・五) 日ソ漁業條約改訂交渉モスタワに開始▲中國レヨン會社社長に大原孫三郎氏、同取締役後原澄治氏決定

十二日 晴(一九・八) チャコ紛争解決

十三日 晴(一九・九) 金光阿大火四十戸焼失▲新帝國美術院初總會(上野美術學校)

十四日 晴(二二・五)

十五日 晴(二二・一)

十六日 晴(二二・〇)

十七日 曇小雨(二四・〇)

十八日 晴(二四・五) 選挙禁止中央聯盟發給式▲英獨協定成立

十九日 晴(三三・〇)

二十日 曇小雨(二二・二) ユーゴー内閣總辭職▲勸銀利下げ決定(田畑擔保貸付を二厘方)▲皆既月食(午後十時五十三分始午前十時四十一分終)

二十一日 雨(一九・五)

二十二日 曇小雨(三三・五) 帝人事件公判開始

二十三日 曇後雨(三二・五) 察哈爾事件日支正式交渉開始

二十四日 雨後曇(一九・五) 倉敷市大原美術館及今橋大原家別邸財團法人となる旨發表

二十五日 晴(二二・三) ユーゴのトスヤデインヴィチ内閣成立▲豫算初閣議、藏相高橋財政不變を聲明

二十六日 晴(二二・八) 岡山合同貯蓄銀行取締役に原澄治氏當選

二十七日 雨(二二・六) 察哈爾問題解決

二十八日 雨(三三・九) 白聖軍北平に蜂起、即日鎮壓

二十九日 雨(二二・四) 西日本に豪雨

三十日 雨(二二・五)

一日 雨後曇(三三・五、二七・二七) 小學校長委任待遇七百四十八名發令▲青年學校令實施

二日 曇小雨(二四・一、二六・九) ソヴェト聯邦政府日滿軍の越境事實を列挙し抗議書書通達▲岡山縣下中等學校長會

三日 雨後曇(三三・三、二四・九) みどり丸没沈▲日滿經濟共同委員會設置案機密院本會議にて可決▲岡山縣社會教育分區委員長會議

四日 曇後雨(二四・八、二八・九) 關東軍司令部外、憲政府に對し大養湖軍手拉致事件に關し正式抗議▲ドイツ、ポーランド會談終る▲貴族院議員丸山鶴吉氏來岡

五日 曇後雨(二二・八、二四・〇) 京阪神地方に大出水

六日 雨後晴(二二・五、二五・〇) 晴(三三・四、二七・三) 中村農太郎少佐、井杉延太郎曹長兩殉職烈士の遺骨歸る▲岡山縣青年體育大會

七日 晴(二四・五、二九・四) 岡田内閣閣内一周年記念午餐會開催▲カナダ政府閣議調査委員會を開く▲上海週刊誌衛生事件につき支那側陳謝す▲大原農研農業講習會(縣議事堂)▲東大教授磯山政造氏來縣

九日 晴(二五・六、三二・四) 關印政府陶磁器輸入制限令を公布

十日 晴(二六・九、三二・五) 靜岡、清水市を中心に強震全半壊戸數二千數百、死傷者二百數十名▲岡崎市長は前中國民報社長柿原政一郎氏に決定

十一日 曇小雨(二五・五、二八・六) 航空事務調査委員會開催

十二日 曇小雨(二五・一、二八・三) 岡山縣下の眠り病患者百十二名に上る

十三日 晴(二七・九、三三・二) 青森縣豪雨出水

十四日 晴(二八・三、三三・七) 汪兆銘氏留任正式決定

十五日 晴(二七・八、三三・六) 岡山納涼花火大會(第一日)▲眠り病全國的蔓延の兆あり

十六日 曇後雨(二七・一、三二・七) コミンテルンの赤化工作に米國抗議す▲岡山納涼花火大會(第二日)

十七日 晴(二八・二、三一・九) 晴(二七・五、三二・八) ソ聯米國の赤化工作に關する抗議を一蹴す▲國體明微山國在親軍人會全國大會(東京)▲岡山縣署長會議

十八日 雨(二四・六、二七・二) 颶風四國、中國を襲ふ▲鐵道官吏選(樋口典常氏退き、藏蘭三四郎氏後任)

十九日 雨後晴(二七・五、三二・五) 今光叙職案決定▲新内局成る▲白國皇后陛下御慶死

二十日 晴(二五・九、三二・〇) 蔣介石氏留任傳はる

三十一日 雨(二二・四、二五・六) 岡山縣下中等學校長 異動發表(野田一商校長等更迭)

八月

一日 晴(一九・二、二四・九) 陸軍大異動發令

二日 晴(二八・二、三三・四) 松岡洋右氏滿鐵總裁となる▲松平駐英大使歸朝▲怪文書事件關係陸軍二將校免官となる

三日 晴(二八・七、三五・九) 政府國體明微の聲明發す

四日 晴(二八・九、三八・八) 廣州事件突發(便衣隊に我が兵狙撃さる)

五日 晴(二七・三、三三・三) 米誌不敬事件に關し齋藤駐米大使米國務省に抗議

六日 晴(二五・五、二九・九) 外島保養院、長島移轉決定▲岡山女師主事堂園朝藏氏着任

七日 晴(二五・四、三〇・九) 明年度各省要求豫算出揃ふ(總額二十八億圓内外)

八日 晴(二四・六、二九・九) 汪兆銘氏(行政院長)辭表提出▲滿洲國に對する治外法權と行政權を漸進的撤廢に決定

九日 雨(二三・九、二五・三) 關西地方の再度豪雨浸水八千戸

十日 雨(二六・〇、二九・六) 關西地方の再度豪雨浸水八千戸

十一日 曇(二七・三、三一・二) 陸軍省軍務局長永田鐵山中將兇刃に斃る

十二日 晴(二六・五、二九・六) 軍務局長今井清中將に決る▲八月一日現在在米高發表(二千二百二十六萬石、前年比七百七十石減、岡山縣四十四萬五千七百石)

十三日 曇小雨(二四・五、二八・二) 陸軍に關する三長官會議閉かる

十四日 晴(二五・四、二九・八) 政友會臨時大會(大阪)▲生絲價暴騰し七百圓暴突破▲歐亞連絡飛行の阿野機母國入り▲米飛行家ウイラー、ポスト、同漫文家ウイラー、ロヂヤース兩氏アラスカで墜死▲エチオピア問題討議の英佛伊三國會議パリに開催▲第六高等學校校長更迭(岡野義三郎氏退職、隈本繁吉氏後任)

十五日 晴(二四・七、二九・九) ▲林陸相憲兵司令官に怪文書取締を指示

十六日 晴(二五・四、三〇・三) 第二回日米對抗水上競技大會(東京神宮プール)

十七日 晴(二五・六、三一・〇) パリの三國會議決裂▲國民政府の嵐山會議開かる▲汪兆銘氏辭表撤回▲藤沼平氏來岡

十八日 晴(二六・二、三一・〇) 表撤回▲藤沼平氏來岡

十九日 晴(二七・五、三一・五) 岡山縣下の眠り病患者百十二名に上る

二十日 晴(二七・九、三三・二) 青森縣豪雨出水

二十一日 晴(二八・三、三三・七) 汪兆銘氏留任正式決定

二十二日 晴(二七・八、三三・六) 岡山納涼花火大會(第一日)▲眠り病全國的蔓延の兆あり

二十三日 曇後雨(二七・一、三二・七) コミンテルンの赤化工作に米國抗議す▲岡山納涼花火大會(第二日)

二十四日 晴(二八・二、三一・九) 晴(二七・五、三二・八) ソ聯米國の赤化工作に關する抗議を一蹴す▲國體明微山國在親軍人會全國大會(東京)▲岡山縣署長會議

二十五日 雨(二四・六、二七・二) 颶風四國、中國を襲ふ▲鐵道官吏選(樋口典常氏退き、藏蘭三四郎氏後任)

二十六日 雨後晴(二七・五、三二・五) 今光叙職案決定▲新内局成る▲白國皇后陛下御慶死

二十七日 晴(二五・九、三二・〇) 蔣介石氏留任傳はる

二十八日 雨(二二・四、二五・六) 岡山縣下中等學校長 異動發表(野田一商校長等更迭)

便覧—諸届の様式

諸届の様式

出生届
本籍
寄留地
(戸主又ハ續柄)
父 職業
母 職業

日使用便覧

則規道鐵・金料報電・式様届諸
郵・表見早算換衡量度・則略
表見早星九支千齡年・金料便

婚姻届
死亡届
妻ノ戸主
本籍
(戸主又ハ續柄)
夫 職業
死亡ノ日時
死亡ノ場所
右死亡診斷書ヲ添付シ及届出候也
昭和年月日
届出人 妻(又ハ何々) 何某印
市(區、町、村)長 何某殿
家督相續届
本籍
(戸主又ハ續柄)
復 歸 届
寄留地
本籍地
(戸主又ハ續柄)
何府縣都市區町村番地
戸主(又ハ續柄)
(復歸者數名アルトキハ前記)
右復歸及届出候也
昭和年月日
届出人 何 某印
市(區、町、村)長 何某殿
轉 籍 届
何府縣都市區町村番地
戸主(又ハ續柄)
何 某
生年 某

國內電報料金

Table with columns for distance (間), type (急, 至, 私, 照, 通), and rate (報, 校, 報, 校, 報, 校). Rows for distances 15 to 50.

滿洲國電報料金

Table with columns for type (急, 至, 私, 照, 通), and rate (報, 校, 報, 校, 報, 校). Rows for distances 15 to 50.

鐵道規則摘要

省線二等旅客運賃の價率は左記の通りである、但し二等運賃は三等の二倍、一等運賃は二等の三倍である、料未滿の端數は之を一斤に切り上げる

位に切り上げる
注意・省線と省線との間に私設鐵道または航路がある場合には前後の省線は連續せるものと見て料率を合算し運賃を算出する、最低運賃は三斤分にて三斤未滿でも三斤分(五毛)を支拂はなければならぬ

乘車券乘船券通用期間
普通乘車券の通用期間は左の通りで、これも發行當日より起算する
一、片道乘車券
百斤迄
以上百斤迄を増す毎に 一日
二、往復乘車券

便覧—電信略則、鐵道規則摘要

三〇三

度重衡換算早見表

尺度及距離		衡		量	
一 〇・三三三三三三	一 〇・三三三三三三	一 瓦	〇・三三三三三三	一 立	〇・三三三三三三
二 〇・三三三三三三	二 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
三 〇・三三三三三三	三 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
四 〇・三三三三三三	四 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
五 〇・三三三三三三	五 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
六 〇・三三三三三三	六 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
七 〇・三三三三三三	七 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
八 〇・三三三三三三	八 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
九 〇・三三三三三三	九 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三
一〇 〇・三三三三三三	一〇 〇・三三三三三三	一 匁	〇・三三三三三三	一 斗	〇・三三三三三三

別段の定ある場合を除くの外
 特別急行列車券は四日前より發賣す
 普通急行列車
 八〇二料以上 七、五〇〇 五、〇〇〇 二、五〇〇
 八〇二料 迄 三、〇〇〇 一、五〇〇 七〇〇
 八〇二料 迄 二、〇〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
 八〇二料以上 三、七〇〇 二、五〇〇 一、五〇〇

四、割引其の他の特殊乗車券
 三、廻遊乗車券
 各片道毎に片道乗車券の例に依り計算したる通用期間の合算日數
 四、割引其の他の特殊乗車券

特別急行列車券は四日前より發賣す
 普通急行列車
 八〇二料以上 七、五〇〇 五、〇〇〇 二、五〇〇
 八〇二料 迄 三、〇〇〇 一、五〇〇 七〇〇
 八〇二料 迄 二、〇〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
 八〇二料以上 三、七〇〇 二、五〇〇 一、五〇〇

三〇四



せんもんせ
 は品のんもんせ
 で店のんもんせ

- | | |
|----------|-----------|
| 本郷金物店 | 色蕉庵菓子舗 |
| 日本タクシ | 山田陶器店 |
| 加藤寫真館 | いとらや糸店 |
| 高原五三郎商店 | ミカド洋服店 |
| 野田酒 | スナミ婦人洋品店 |
| 小寺洋家具店 | 三宅靴店 |
| 井上茗香園 | サトウ洋傘店 |
| 太田洋行 | ひつみや藤井布團店 |
| 阿津満履物店 | すのみ小間物店 |
| 藤屋食料品店 | 高田人形店 |
| 前田カバン店 | カシノ洋装店 |
| 赤ちゃんの店 | 中尾正榮堂 |
| 週營堂モスリン店 | |

岡山專門店會

香五二二七電 町之下市山岡・所務事

年齢・干支・九星早見表

(西曆を紀元に改算するには、六六〇年を加へればよい)

Table with columns for Year (年), Age (年齢), Western Calendar (西曆), and Chinese Zodiac (干支). It contains two main sections: '天保' (Tenpo) and '大正' (Taisho), with '昭和' (Showa) starting at the bottom. Each section lists ages from 1 to 99 and their corresponding zodiac signs and western calendar dates.

人名録 (五十音順)

- 人名録 (五十音順) listing names and titles for various locations including 相浦, 岡山市, 赤松, 勝田, 明石, 京, 東京, etc. The list is organized by the first character of the name in Roman letters (五十音順).

人名録—アの部

二〇七

人名録—イの部

郡林野町三三二
石井直三郎 八高教授、名
吉屋市東區新出來町
石井眞三郎 素封家、御津
郡新山村
石井源次郎 酒造業、小田
郡矢掛町
石井常太郎 唐松小學校長
阿哲郡美濃村
石井謙一郎 落合小學校長
川上郡落合村
石井誠次郎 醫師、邑久郡
牛窓町
石井 毅 琴浦郵便局長
兒島郡琴浦町
石井 淳 石井病院院長、
大阪市西區江戶堀南通
石田 猛 濟世顧問、苫
田郡奥津村
石田 裕男 醫師、小田郡
等岡町
石田 敏太 醫師、兒島郡
宇野町
石田 謙次郎 農、小田郡吉
田村
石田 廣 檢察、岡山區
裁判所檢察局
石田 巖 中央病院小兒
科醫長、倉敷窪田町
石田 直吉 大倉商重役
東京市大森區新井宿
石黒 徹 行幸小學校長

邑久郡本庄村
石戸 鈺平 齒科醫、久米
郡吉岡村久木
石戸 知 吉岡小學校長
久米郡吉岡村
石戸 篤 得善信販購組
長、久米郡吉岡村久木
石戸 魏 濟世顧問、久
米郡吉岡村
石津 稟三 六高教授、岡
山市紺屋町九
石津 純一 齒科醫、岡山
市門田屋敷三三
石川 知福 倉敷勞研所員
醫師、倉敷窪田町
石川 正平 濟世常務委員
勝田郡古野村河原
石川 貞幹 辯護士、津山
市下紺屋町
石川 四郎 木炭同業組合
長、久米郡大塚村上代
石部 清一 高月小學校長
赤磐郡高月村
石部 修一 八濱小學校長
兒島郡八濱町波知
石賀 五郎 醫師、眞庭郡
川上村
石賀 平松 濟世常務委員
眞庭郡川上村栗住
石本 義憲 醫師、岡山市
弓之町一〇八
石本 武 農、阿哲郡新
見町

石本於義太 醫師、岡山市
弓之町一〇八
石村 浩治 新見驛長、新
見驛構内官舎
石岡繁太郎 醫師、東京市
大森區新井宿
石山福二郎 岡山醫大教授
岡山市大和町二七
石橋 百仙 濟世顧問、小
田郡川面村
石垣 直人 濟世顧問、阿
哲郡上市村
石合金治郎 齒科醫、兒島
郡琴浦町田ノ口
石合多賀治 工業、兒島郡
琴浦町
井上 雄吉 醫師、阿哲郡
新見町
井上 林吉 商業、津山市
井上 安治 材木問屋、兒
島郡藤戸町
井上 豊次 濟世常務委員
邑久郡幸島村
井上 一 石賀驛長、石
賀驛構内官舎
井上 友一 警察練習所長
岡山市北方大和町二八六
井上文一 坂根郵便局長
英田郡西栗倉村
井上 留雄 醫師、赤磐郡
瀬戸町

井上 鹿夫 步千附少尉、
岡山市津島市場一八三三
井上 忠男 岡山西警察署
長、岡山市巖井四〇五二
井上 直枝 早島小學校長
郡津郡早島町
井上 逸郎 醫師、勝田郡
勝加茂村
井上 春壽 齒科醫、岡山
市弓之町三六
井上 良太 醫師、久米郡
佐良山村
井上 泰坐 醫師、久米郡
西川村
井上 秀計 勸業校手、岡
山市内山下八〇
井上 觀潤 岡山寺住職、
久米郡大井和村
井上 守三 辯護士、岡山
市西中山下
井上 圭介 町刈田郵便局
長、赤磐郡鳥取上村
井上 武志 醫師、阿哲郡
新見町
井上 正 連島小學校長
淺口郡金光町
井上 硬 京大助教授、
京都左京岡崎西天王町六一
井上 翠 醫師、勝田郡
勝加茂村
井上 滋 醫師、久米郡
久米村

井上 喬 顯田小學校長
和氣郡顯田村
井上 深 齒科醫、淺口
郡鴨方町鴨方
井上良一郎 小坂西信販販
利組長、淺口郡鴨方町
井上 蒸一郎 津山市議、津
山市安岡町
井上 讓太郎 會計検査院部
長、東京市本郷淺草町
井上久治郎 勝田信販販組
長、勝田郡勝田村
井上祐次郎 玉島第一小學
校長、淺口郡船穂村
井上岩衣門 齒科醫、小田
郡等岡町二九四一
井上利喜次 元川上郡教育
會長、川上郡成羽町
井上直太郎 倉敷市議、倉
敷市阿知町
井戸 博史 勝岡田小學校
長、勝田郡勝岡田町
井戸龍太郎 濟世常務委員
勝田郡北吉野村荒内西
井戸牧太郎 豊田小學校長
勝田郡北吉野村
井口 正一 中鐵高松驛長
高松驛構内社宅
井口 靜一 縣議、岡山市
門田鶴卷町
井口與志子 醫師、岡山市
内山下九〇

三二〇

井口 順平 電力區主任、
岡山市上石井鐵道官舎
井原 愛治 新庄小學校長
眞庭郡新庄村
井原覺太郎 牧山小學校長
御津郡牧山村北野
井街 謙 中央病院眼科
醫長、倉敷市旭町
井汲朝太郎 津山農業信販
購組長、津山市田町
井汲 進 齒科醫、津山
市内町二一
井尻 健太 吉備商校長、
岡山市廣瀨町一八七
井村 兵吉 商議、岡山市
平野町
井坂 爲則 醫師、吉備郡
庭瀨町
井出 治 瀨州開發取締役
役、東京市中野新山通
井出 有隣 赤十字藥劑長
上道郡財田村土田
今井 一郎 齒科醫、兒島
郡藤戸町天城
今井 六郎 齒科醫、都窪
郡早島町一四六四
今井 三郎 商議、津山市
坪井町三七
今井 密雄 清泉小學校長
吾田郡神庭村草加部
今井 時夫 濟世常務委員
勝田郡豊田村久常

今井 哲夫 大野小學校長
吾田郡大野村丹宗寺
今井 善吉 吾田小學校長
津山市椿高下
今井 雅道 打穴小學校長
久米郡大塚村神代
今井 虎次 高梁土木出張
所長、上房郡高梁町
今井 正善 醫師、御津郡
一宮村西辛川
今井 廣右衛門 濟世常務委
員、吉備郡水内村影
真、吉備郡水内村影
今井 田 坪和小學校長
久米郡坪和村東坪和
今井 齊 縣信聯會長、
岡山市島田二七九
今井 誠 御休小學校長
上道郡高島村
今井田清徳 朝鮮政務總監
京城府大和町官舎
今田 佐吉 郡農會長、和
氣郡本莊村
今田 健吾 公文小學校長
勝田郡豊國村
今田 龜 齒科醫、岡山
市内山下相生町
今田 力治 邑久高等校長
邑久郡豊原村
今田 幸男 國府小學校長
邑久郡本庄村
今岡近太郎 齒科醫、津山
市二宮二一五三

今岡増太郎 郡農會長、小
田郡稻倉村
今岡 安雄 柵原驛長、勝
田郡柵原驛構内社宅
今村 與平 灘崎小學校、
兒島郡莊内村榊木
今城 浩平 齒科醫、淺口
郡大島村大島中
今西 清雄 院庄驛長、院
庄驛構内官舎
今倉 義直 六高講師、岡
山市門田一〇七四
今出 金一 醫師、赤磐郡
可眞町可眞下
今尾 由太 健康保險課長
岡山市門田八一
今宮 文八 生坂信販販組
長、郡津郡菅生村生坂
今野榮次郎 小田川改修事
務所長、玉島町永樂町
池上 辰二 東一宮小學校
長、津山市南新座
池上 光子 齒科醫、岡山
市東中山下四一
池上 眞通 郡農會長、久
米郡加美村
池上 勢平 農工銀行取締
役、吉備郡總社町
池上 博平 總社郵便局長
吉備郡總社町
池上 靜雄 銀行員、吉備
郡總社町

池上 多郎 終南小學校長
上房郡豊村
池上 弘志 誠道小學校長
久米郡加美村小原
池上 吉一 齒科醫、久米
郡加美村
池上 馨一 岡山醫大助教
授、岡山市六番町一六
池上 甫 醫師、小田郡
等岡町
池上 準 津山男子校長
津山市小田中二七三
池上 浩 吉川小學校長
上房郡吉川村
池上愛太郎 濟世常務委員
勝田郡北和氣村
池上壽太郎 鶴田小學校長
久米郡鶴田村角石谷
池上助一郎 醫師、久米郡
加美村
池上長右衛門 農工銀行支
配人、岡山市門田屋敷
池田 啓治 農、吾田郡大
野村
池田 博知 海津中學校教諭
岐阜縣海津郡今尾町
池田 遙郎 畫家、京都市
下鴨中川原町七一
池田 長康 男爵、東京市
赤坂區青山南町
池田 明篤 昭和銀行四谷
支店長、東京中野住吉町

池田 政之 男爵、東京市
中野區氷川町
池田 幸平 商議、津山市
下紺屋町一五
池田 龜子 齒科醫、津山
市小性町
池田 文吾 茅部小學校長
眞庭郡八束村
池田 政保 子爵、東京市
麻布區東町
池田 政時 子爵、東京市
澁谷代々木山谷町
池田 政賢 保線建築掛主
任、岡山上石井鐵道官舎
池田 卓藏 元獸醫監、岡
山市上石井二八五
池田 和作 中谷信販購利
組長、吾田郡中谷村
池田 平作 商業、淺口郡
連島町
池田 可夫 商議、津山市
京町五七
池田 龜雄 齒科醫、岡山
市大供三四
池田 正夫 醫師、上房郡
高梁町
池田房之進 岡山電業社長
岡山市榮町
池田信太郎 中國信託會社
社長、岡山市内山下七
池田清一郎 監督書記、津
山區裁判所

人名録—イの部

三二一

人名録一イの部

池田嘉太郎 公證人、津山市田町一九
池田 惇 喬松小學校校長
久米郡大倭村南方
池田 寛 芳井郵便局長
後月郡芳井町
池田 昇 醫師、後月郡高屋町
池永 智全 眞鍋島信販購組長、小田郡眞鍋島村
池下 武雄 濟世常務委員
勝山郡南和氣村
池宗 博 興除小學校校長
兒島郡興除村西崎
池大卯一郎 平島信販購利組長、上道郡平島村
池野 博次 矢掛小學校校長
小田郡山田村
池町 謙二 醫師、眞庭郡勝山町
伊丹 武男 醫師、吉備郡總社町
伊丹 長男 醫師、赤磐郡竹枝村太田
伊丹 友夫 齒科醫、吉備郡高松町一三九
伊丹 正雄 醫師、淺口郡玉島町
伊丹 訓吾 赤十字小兒科醫、岡山市東古松五二ノ八
伊丹 省吾 巨勢小學校校長

英田郡巨瀬村
伊丹 潤 日近小學校校長
吉備郡大井村
伊丹 東慶 醫師、御津郡宇甘西村
伊丹 磯治郎 羽出信販購利組長、吉田郡羽出村
伊藤 雅郎 保線土木掛主任、岡山上石井鐵道官舎
伊藤 寛 濟世常務委員
後月郡共和村上崎
伊藤 好良 岡山市會議長
岡山市門田屋敷二三九
伊藤 信良 縣農林技師、岡山市北方四日市一〇六七
伊藤 正良 縣商工水産課長、岡山市門田二九一
伊藤 哲二 醫師、岡山市四番町五二
伊藤 重彦 醫師、岡山市東古松八〇
伊原 薫 芳賀信販購利組長、御津郡馬屋下村芳賀
伊原 利七 山陽板紙會社社長、西大寺町一四四三
伊原 謙三郎 醫師、岡山市岩田町
伊原 木澤平 天滿屋社長、岡山市西中山下
伊地知末則 建設庶務主任、岡山市南方鐵道官舎
伊東 長 山田郵便局長

兒島郡山田村
伊東 嘉平 工業、岡山市勝野町
伊賀 久家 醫師、眞庭郡落合町
伊井佐藤治 見明戶信販購組長、眞庭郡湯原村見明戶
岩本 竹十 農、阿哲郡萬歳村
岩本 爲雄 上生院住職、岡山市網濱上生院
岡山市網濱上生院
岩本 護 醫師、津山市南新座
岩田 德次郎 歩十附少佐、岡山市北方大和町
岩田 嘉三郎 藥種商組合理事長、岡山西大寺町三七
岩田 嘉代吉 商議、岡山市小畑町
岩田 正治 醫大學生課囑託、岡岡大學町二二五
岩崎 信治 實業家、和氣郡片上町
岩崎 金市 濟世常務委員、邑久郡豐村
岩崎 孫一 醫師、兒島郡味野町
岩崎 嘉宗 女師教諭、岡山市南方一八ノ一
岩崎 政太 醫師、都窪郡茶屋町

岩崎 貴壽次 千種小學校校長
赤磐郡萬壽村
岩切 晴二 六高教授、岡山市内山下九一
岩原 一敬 齒科醫、上房郡高梁町本町
岩佐 誠一 醫師、岡山市内田町七六
岩知道賢吉 前縣議、兒島郡福田村
岩知道定一郎 倉敷市議、倉敷市榮町
岩越經次郎 商議、岡山市山崎町
岩野 運治 龜甲郵便局長
久米郡加美村
岩瀬 好一 津山高女教諭
兒島郡藤戸町天城
岩月 清 畫家、岡山市四番町一七
磯島 品造 岡山市議、岡山市上伊福九〇四
磯貝 岩男 商議、岡山市油町
磯部 熊太郎 素封家、淺口郡富田村道中
磯田 始太郎 刑部信販購利組長、阿哲郡刑部町
板野 新夫 大原農研農博都窪郡菅生村板安
板野 親夫 足守郵便局長
吉備郡足守町

三二二

飯田 峯助 日本棋院四段
倉敷市高砂町
飯島 隆 六高教授、岡山市門田一、一四〇
飯島 馨之助 縣土木課長、岡山市門田二九一
飯塚 仲平 縣統計課長、岡山市門田一、二九一
飯尾 宗三 醫師、倉敷中央病院内
稻葉 三郎 醫師、邑久郡玉津村
稻葉 三郎 嵯峨野信販購利組長、吉備郡南村
稻葉 春生 畫家、京都市右京龍安寺衣笠下町三五
稻岡 馨 醫師、勝田郡豐並村
河内村 稔 醫師、眞庭郡河内村
河内村 應助 醫師、眞庭郡河内村
河内村 勳 市商校長、岡山市門田屋敷一五六
稻田 進 醫大教授附屬醫院長、岡山三番町二七
稻石洋八郎 建設事務所技師、岡山市南方鐵道官舎
稻森健次郎 判事、岡山地方裁判所
牛野 秀次 醫師、吉備郡福谷村

生本 登一 酒造業、赤磐郡高陽村河本
生田 靜也 醫師、邑久郡今城村
入江 近太 濟世常務委員、御津郡牧山村
入澤 賢治 山陽高女監事、岡山市岩田町一六
入江 賢二 津山市議、津山市新魚町
出射 榮 理博、名古屋市中邊御器町東畑三五
出射 一郎 醫博、大阪市住吉區田邊東之町
出 隆 東大助教、東京市小石川小日向臺町
出石 於菟 警察講習所教授、東京市麹町三番町
授、東京市麹町三番町
犬養 健 代議士、東京市四谷區南町八八
犬丸 巖 判事、東京市杉並區東田町
犬丸 鐵太郎 畫家、東京市品川區五反田
藤谷 忱 奉天商議賣頭、奉天琴平町一〇
藤谷 三郎次 商業、兒島郡麻谷三郎次 商業、兒島郡郷内村
冢本 爲一 辯護士、岡山市内山下
乾 璋 歩十附大尉、岡山市四番町

乾 利一 中水重役、岡山市四番町
稻見 三好 齒科醫、津山市中之町七
猪原 伊右衛門 醫師、小田郡笠岡町
一井 重雄 辯護士、岡山市西中山下
内田 百間 文士、東京市牛込區市ヶ谷仲之町九
内田 娯老 市學務課長、岡山市五番町二八
内田 桂一 醫師、後月郡井原町
内田 彦二 齒科醫、眞庭郡久世町二四八一
内田 隆次郎 農、上道郡富山村海吉
内田 金一郎 醫師、兒島郡八濱町
内田 晴江 醫師、都窪郡撫川町
内田 金榮 岡山縣警部、岡山市花畑櫻町一五八
内田 久太郎 醫師、眞庭郡湯原村
内田 唯一 醫師、久米郡加美村
内田 利之助 醫師、英田郡

大古村
内田 金衛 商議、倉敷市阿知町
内田 彌八 吳服商、倉敷市本町
内田 了 三井造船附屬病院副院長、兒島郡宇野町
内田 榮造 東大教授、東京市小石川區關口町
内田 證一郎 上加茂郵便局長、吉田郡上加茂村
内田 輝太郎 岡山專修學校長、上道郡平井村平井
内田 隆正 順正高女教諭、川上郡落合町近似
内海 新 新見稅務課長、阿哲郡新見町三七
浦上 時次郎 岡山上藝學校長、岡山市上西川町
浦上 三四 醫師、吉備郡足守町
浦上 綠 醫師、勝田郡南和氣村
浦上 桂安 醫師、英田郡栗廣村
浦上 正直 醫師、津山市田町
浦上 一二 醫師、御津郡一宮村一宮
浦上 武彦 醫師、御津郡一宮村一宮

宇野 謙太郎 商業、大阪市東區南久寶寺町三ノ五
宇野 浩 齒科醫、淺口郡西阿知町一〇〇二
宇野 廣之 右手小學校校長、勝田郡備前村
宇津 慶和 木山小學校校長、眞庭郡美川村
宇野 千真太 周府郵便局長、赤磐郡周府村
宇野 善一 醫師、岡山市門田屋敷
宇野 俊治 中央病院整形外科醫長、倉敷市南町
宇高 辨三 前岡山市勸業課長、和氣郡和氣町
宇垣 一成 朝鮮總督、京城府後城臺官舎
宇津 道慶 上田小學校校長、眞庭郡木山村
宇津木 正 縣視學、岡山市門田九五
浮田 信衛 醫師、上道郡西大寺町
浮田 芳 商議、津山市伏見町
浮田 佐平 實業家、津山市伏見町
浮田 祐治 錦立小學校校長、兒島郡錦立村北方
浮田 八五郎 濟世常務委員、邑久郡福田村

人名録一イ、ウの部

ウ

三二二

人名録—ウ、エの部

浮田 惠嘉治 犬島小學校長
邑久郡朝日村
浮田 辰平 臺北第一高女
校長、臺北市南門町四ノ二
上田 基 三石小學校長
和氣郡三石町
上田 義信 醫師、岡山市
内山下三〇
上田 壽恵吉 近江帆布味野
工場長、兒島郡味野町
上田 勝 歩十附中佐、
岡山市上伊福三六三
上田 鬼 醫師、淺口郡
鴨方町
上田 實造 醫師、小田郡
金浦町
畝木 貞之 醫師、岡山市
下田町三五
畝山 津太郎 團春、淺口郡
鴨方町
畦 壽雄 農、上房郡中
津井村
上野 深 美作瀧尾驛長
瀧尾驛構内官舎
上野 爲吉 濟世常務委員
上房郡巨瀬村
上野 文男 素封家、後月
郡高屋町
上野 慶雄 高屋郵便局長
後月郡高屋町
上野 篤郎 齒科醫、上道
郡財田村長岡

植田 立次郎 吉永驛長、和
氣郡吉永驛構内官舎
植田 千歳 天城小學校、
兒島郡兒島町神田
植田 伊三郎 金光驛長、淺
口郡金光驛構内官舎
植田 俊二 商工會議所議
員、倉敷市旭町
馬越 敏夫 三原小學校長
後月郡存原村
馬越 正夫 瀧小學校長、
兒島郡瀧田村古新田
馬杉 一雄 歩十中隊長大
尉、岡山上伊福東町三丁目
鶴岡 宗平 三井物産主造
船所長、兒島郡日比町
氏平 萬壽太 濟世顧問、久
米郡坪和村
氏平 繁 醫師、岡山市
門田屋敷
漆間 徳定 誕生寺住職、
久米郡稻岡村南誕生寺
海野 馬一 歩十附中尉、
岡山市北方七三〇
牛岡 克巳 箭田信販驛利
組長、吉備郡箭田村
裏川 寅藏 岡山一中校長
岡山市門田
薄井 寅太 醫師、上道郡
古郡村
薄井 利武 濟世顧問、上
道郡古郡村

白井 榮治 土居小學校長
英田郡土居村
ウアルテル・ハウツ 六高
教師、岡山市小橋町官舎
梅田 爲藏 濟世常務委員
久米郡倭文東村
江原 猪知郎 醫師、津山市
戸川町
江原 儀四郎 河邊信驛販利
組長、勝田郡河邊村
江口 新吾 商議、岡山市
下石井
江口 雅一 齒科醫、吉備
郡總社町三九六
江口 實 販購組合聯合
會主事、岡山市岡
江口 政市 濱野購買組合
長、岡山市濱野
江口 民雄 倉敷市議、倉
敷市川西町
江川 慎吾 醫師、英田郡
林野町
江川 守衛 笹岡小學校長
赤警郡笹岡村
江木 實三 齒科醫、淺口
郡玉島町八八〇
江木 伯助 濟世顧問、小
田郡中川村
江田 安太郎 齒科醫、久米
郡西川村通谷

江田 利太 齒科醫、御津
郡金川町
江田 三郎 全農縣監書記
長、岡山市内山下全農支
部
江田 節男 郡農會長、御
津郡横井村
江見 宏正 商議、岡山市
門田屋敷
江見 勇 醫師、御津郡
金川町金川
江見 一男 齒科醫、岡山
市下市町
江見 秀夫 歩十附少尉、一
岡山市上出石一八一
江見 豊治 倉敷商業校長
岡山市門田屋敷二二七
江見 節男 浦和高校教授
東京市中西區桃園町
江浪 三三九 城見小學校長
小田郡等岡町
江村 正路 醫師、岡山市
花畑六八
遠藤 悦二 福本小學校長
英田郡福本村
遠藤 中節 岡山醫大教授
岡山市四番町三六
遠藤 竹秋 岡山醫大司書
上道郡幡多村藤原
遠藤 茂雄 齒科醫、久米
郡西川村通谷

オ

遠藤 敬治郎 醫師、眞庭郡
湯原村
遠藤 重篤 醫師、眞庭郡
川上村
遠藤 義郎 福本郵便局長
英田郡福本村
エル・エイ・テイ・ク
パ一 六高教師、岡小山
橋町官舎
橋本 十郎 濟世常務委員
吉備郡定守町
枝本 勇雄 東北帝大助教
授、仙臺市坊主町
枝廣 善伍 濟世常務委員
小田郡金浦町吉濱
惠藤 熊太郎 倉敷市議、倉
敷市濱
太田 吟吾 醫師、上房郡
中津井村
太田 進 岡山放送局校
衛主任、岡山花畑日野町
太田 幾次郎 玉島信組長、
淺口郡玉島町
太田 保 販購聯合會主
任、岡山市北方
太田 唯治 齒科醫、郡窪
郡撫川町一八
太田 福三郎 濟世常務委員
吉備郡櫻井田村

太田 一也 醫師、岡山市
常野町二三
太田 信太郎 土居郵便局長
英田郡土居村
太田 省三 大野小學校長
吉備郡庭瀨町
太田 誠意 越畑小學校長
吉備郡香々美北村
太田 晴男 稚荻栽培業、
阿哲郡豊永村
太田 元 農、邑久郡今
城村福山
太田 廣輔 日比製鍊所長
兒島郡日比町
太田 篤傳治 中國製水會社
社長、岡山市網濱
太田 照太郎 濟世常務委員
兒島郡興除村
太田 友七 商議、岡山市
上之町
太田 近治 醫師、御津郡
白石村
太田 潤 醫師、眞庭郡
久世町
太田 秀子 醫師、阿哲郡
千屋村
太田 隆靜 醫師、阿哲郡
上市村
大田 原一祥 醫大助教授、
和氣郡櫻井田村大田原
大田 原 實 石生小學校長
和氣郡櫻井田村

大田 原英夫 醫師、和氣郡
藤野村
大田 原豊一 熊本醫大教授
熊本市大江町大江
大森 實 中國民報社專
務取締役、岡山市門田
大森 豊吉 中國民報社常
務理事、岡山市中之町
大森 千造 柏谷販購利組
長、御津郡野谷村柏谷
大森 保平 男附屬主事
上道郡高島村中井
大森 猛次 農務課主事、
岡山市廣瀨町一四三
大森 忠次郎 工業、上道郡
西大寺町
大森 恒彦 齒科醫、岡山
市西山下五七
大森 徳治郎 齒科醫、岡山
市内田五九
大森 壽治 齒科醫、岡山
市大供町三八七
大森 健治 濟世常務委員
小田郡新山村山口
大森 忠太郎 高倉信販購組
長、川上郡高倉村
大森 登 平島小學校長
上道郡高島村
大森 喜一 元縣議、御津
郡今村
大森 大亮 醫師、岡山市
西中山下

大森 三彦 醫師、岡山市
上出石三七
大森 鏡二郎 岡山工業學校
長、岡山市下内田八〇
大森 精一 醫師、倉敷市
榮町
大森 爲二 醫師、兒島郡
宇野町
大森 保 醫師、上道郡
財田村
大森 次郎 昭和館主事、
岡山市櫻井西京町
大森 熊次 濟世顧問、兒
島郡莊内村
大森 斌彦 醫師、大阪市
住吉天神ノ森
大森 榮介 運送業、神戸
市榮町四ノ四
大森 喜作 帝國信榮社長
神戸市賣合二宮町
大森 吉五郎 京都市長、西
宮市六甲苦樂園
大森 尚則 第一銀行神田
支店長、東京芝高輪南町
大橋 平右衛門 地主、倉敷
市阿知町
大橋 鐵吉 素封家、後月
郡出部村
大橋 文之 濟世常務委員
久米郡福渡町
大橋 源十郎 六條院小學校
長、郡窪郡中洲村
大 崎 一也 西口小學校長
郡窪郡中洲村中島
大橋 治夫 六島小學校長
小田郡眞鍋島村
大橋 信次郎 農、兒島郡莊
内村
大橋 稠 醫師、郡窪郡
妹尾町
大橋 幹一 遞信技師、東
京市豊町區大手町二丁目
大橋 退治 合同油脂取締
役、大阪府豊能郡麻田
大橋 廣明 日本女子大家
政部長、東京淀橋下落合
大原 孫三郎 實業家、倉敷
市今橋
大原 總一郎 實業家、倉敷
市今橋
大原 五一 會社重役、倉
敷市向市場
大原 利文 長崎市地方裁
判所長、長崎勝山町官舎
大原 芳一 工十附中尉、
岡山市北方九七六
大原 專次郎 書家、岡山市
難波町
大石 俊堂 濟世顧問、小
田郡宇戶村
大石 俊平 醫師、英田郡
林野町
大石 貞太郎 布瀬小學校長
阿哲郡田治部村布瀬

人名録—二、オの部

大本 軍一 坪井隊長、坪
井驛構内官舎
大本 琢壽 六高教授、岡
山市門田一五一ノ二
大本 利一 山口高商教授
山口縣吉敷郡大内村
大元 彌七 醫師、川上郡
成羽町
大本 百松 請負業、淺口
郡津島町
大龍 登 醫師、兒島郡
琴浦町
大月 仲一郎 製炭、阿哲郡
菅生村
大月 一平 濟世常務委員
吉備郡日美村
大月 儀平治 元檢事正、御
津郡圓城村上田東
大月 豐 箭田小學校長
吉備郡總社町
大塚 政一 下倉小學校長
吉備郡下倉村
大塚 久雄 有漢小學校長
上房郡有漢村
大塚 理 醫師、兒島郡
味野町
大塚 隆三 醫師、小田郡
笠岡町
大塚 斌 醫師、川上郡
吹屋町
大塚 恒一 中備織物工組
理事長、後月郡高屋町

大塚 良平 前縣議、兒島
郡津島村
大津 完造 井原郵便局長
後月郡井原町
大津 寄祥二郎 素封家、後
月郡井原町
大津 寄義三 醫師、後月郡
井原町
大山 文雄 陸軍法務局長
東京市澁谷代々木山谷町
大山 斐麿 代議士、東京
市下谷區上野櫻木
大山 秀雄 門司清見鐵道官舎
課長、門司清見鐵道官舎
大山 壽久平 地主、後月郡
西江原町
大山 恒 醫師、後月郡
西江原町
大山 三郎 醫師、上道郡
西大寺町
大平 福天 砲兵中尉、兵
庫縣武庫郡魚崎町
大賀 善十郎 白石信組長、
御津郡白石村
大賀 矢太郎 西大寺高女校
長、岡山市門田屋敷三三
大賀 雄次郎 簡易火保常務
大阪府景北郡尾尾町
大賀 忠志 神目小學校長
久米郡神目村目中
大賀 實太郎 迫川郵便局長
兒島郡灘崎村

大賀 善十郎 濟世顧問、御
津郡白石村
大賀 古壽 醫師、岡山市
下石井二八八
大賀 卓 第一宇野小學
校長、兒島郡宇野町
大内 富憲 濟世常務委員
淺口郡里庄村里見
大内 定一 監督書記、玉
島區裁判所檢事局
大内 甲丙 里庄郵便局長
淺口郡里庄村
大内 龜作 醸造業、淺口
郡大島村
大内 壽太 農、御津郡宇
垣村
大島 松一 醫師、小田郡
笠岡町
大島 繁二 淺口郡新庄小
學校長、淺口郡大島村
大島 久米次郎 東津山驛長
東津山驛構内官舎
大島 小彌太 齒科醫、兒島
郡味野町砂走
大西 卓二 商、阿哲郡熊
谷村上熊谷
大西 一 歩十中隊長大
尉、岡山上伊福東町三三
大西 隆一 齒科醫、後月
郡芳井町吉川
大西 英男 醫大庶務掛長
岡山市津島三六〇

大西 法三郎 福河小學校長
和氣郡福河村
大西 友太郎 保曾小學校長
和氣郡日笠村
大西 眞大治 商、阿哲郡新
見町新見
大村 金治 京畿商業校長
京畿道京畿商業校内
大村 省吾 醫大軍事教官
少佐、岡山上伊福三七五
大村 清一 内務省財務課
長、東京市板橋區板橋町
大倉 越 津田小學校長
眞庭郡津田村
大倉 良知 齒科醫、津山
市鍛冶町
大倉 一義 商議、倉敷市
濱田町
大上 儀一 本花利用組長
後月郡明治村
大河原 三男 政田小學校長
邑久郡邑久村
大河原 安吾 建部郵便局長
御津郡建部町
大河原 繁 豊原小學校長
邑久郡邑久村
大久保 義雄 廣電等岡變電
所長、小田郡笠岡町
大岡 忠友 郡農會會長、勝
田郡高取村
大町 孝 齒科醫、英田
郡江見町川崎

大蝶 重次郎 岡山驛像俯助
役、御津郡牧石村
大濱 邦平 神島人造肥料
工場長、小田郡神島外村
大濱 芳雄 縣學務課長、
岡山市門田山官舎
大屋 敦 倉庫重役、兵
庫縣武庫郡御影町一〇七
大谷 直一 加茂小學校長
苫田郡加茂村小中原
大谷 顯三 醫師、津山市
田町
大曾田 大二郎 濟世常務委
員、阿哲郡丹治部村
大崎 綾太 旭養鶏組合長
邑久郡鶴山村
大崎 熊太 農、都窪郡豊
洲村
大江 八吉 長尾郵便局長
淺口郡長尾町
大江 實太郎 元縣議、眞庭
郡川上村
大江 行平 黒崎小學校長
淺口郡富田村
大野 榮五 濟世常務委員
岡山市深根學區
大野 稔 郷内蘭藥加工
組合長、兒島郡郷内村
大野 正夫 宇野町長、兒
島郡郷内村
大野 友松 工業、淺口郡
玉島町

大野 清五郎 岡山縣護士會
長、岡山市中山山下
大樂 義助 久世稅務署長
眞庭郡久世町三
大美 保一 濟世顧問、眞
庭郡八束村
大福 節夫 濟世常務委員
川上郡中村
大國 正隆 齒科醫、眞庭
郡川上村上福田
大隅 義一 農、淺口郡黒
崎村本村
大瀨 戶善親 歩十大隊長少
佐、岡山市新町
大澤 次郎 鐘紡務田田工
場長、勝田郡勝田町
大澤 登平 醫師、津山市
山下
大澤 登平 濟世常務委員
勝田郡大崎村
大澤 隆 油野小學校長
阿哲郡神代村
大澤 炳 齒科醫、久米
郡稻岡南村
大澤 能吾 伊里小學校長
和氣郡伊里村
大澤 恭三 濟世顧問、和
氣郡伊里村
大澤 良見 醫師、和氣郡
伊里村
大林 孫治 濟世顧問、岡
山市丸町

大林 信止 高島小學校長
岡山市門田
大林 千萬樹 畫家、名古屋
市東區葵町三四
大林 達三 醫師、倉敷中
央病院
大北 慈舟 濟世常務委員
小田郡今井村園井
大熊 修平 農、都窪郡清
音村
大熊 泰治 岡山醫大助教
授、岡山市大供表町
大熊 康太 齒科醫、吉備
郡高松町一八八
大熊 猛市 齒科醫、吉備
郡高松町一八八
大池 百次 新見信販購利
組長、阿哲郡新見町
大畑 豊 醫師、岡山市
富田町一三三
大島 敦憲 濟世常務委員
都窪郡中庄村
大庭 玉治 岡山市米穀事
務所技手、岡山市大供
務所技手、岡山市大供
井原町
岡田 俊之 醫師、兒島郡
小串村
岡田 猛次郎 歩十附大尉津
商配屬、津山市
岡田 昇 津山市議、津
山市鍛冶町

岡田 毅 中和小學校長
眞庭郡中和村
岡田 誠一 岡山市議、岡
山市上石井一八五
岡田 義平 商議、倉敷市
白樂市
岡田 寛 布都美小學校
長、赤磐郡布都美村
岡田 禮一 山手小學校長
倉敷市濱
岡田 義平 倉庫重役、倉
敷市本町
岡田 實 縣都市計畫技
師、岡山市門田一五七
岡田 忠彦 代議士、東京
市墨田區永田町二ノ三一
岡田 辰男 齒科醫、兒島
郡井内村字藤木
岡田 一郎 齒科醫、兒島
郡味野町善町
岡田 保太 辯護士、岡山
市弓ノ町
岡田 茂生 濟世顧問、英
田郡吉野村
岡田 本平 濟世顧問、西
田郡東一宮村
岡田 武市 美川信購販利
組長、小田郡美川村
岡田 九一 岡山信購販利
組長、小田郡岡山村
岡田 長造 濟世顧問、岡
山市弓之町鷹匠町一丁目

岡田 豐太郎 辯護士、岡山
市山下
岡 楊 醫師、吉備郡
川邊村
岡 猛 醫師、勝田郡
高取村
岡 精二 醸造業、岡山
市下片上町
岡 金吉 福岡小學校長
津山市小田中
岡 千賀松 陸軍少將、都
窪郡早島町前湯
岡 虎太郎 前備編理事、
東京市大森區田園調布
岡 慶治 和歌山地方裁
判所長、和歌山西江丁四
岡 惣平 商業、小田郡
笠岡町
岡 泰三 牛窓高女教諭
邑久郡牛窓町
岡 友一 歩十附大尉倉
商配屬、倉敷市南町
岡 清三郎 歩十附少佐、
岡山市五番町一七
岡 權江 齒科醫、上房
郡水田村
岡 鶴吉 三幡郵便局長
上道郡三幡村
岡 照太 辯護士、岡山
市弓之町
岡 多田治 牛窓郵便局長
邑久郡牛窓町

岡 元一 醫師、岡山市
上西川町一五五
岡 鹿之助 妹尾郵便局長
都窪郡妹尾町
岡 千代造 牛窓鐵工所、一
邑久郡牛窓町
岡 繁藏 前縣議、邑久
郡邑久村山田庄
岡 長平 郷土史家、岡
山市四番町
岡 曉男 藤田小學校長
岡山市門田九五
岡 本長一郎 素封家、後月
郡高屋村
岡 秀次 醫博、吉備郡
水内村字中尾
岡 本壽太 醫師、岡山市
天瀬一一五
岡 春三 陸軍少將、東
京市外巢鴨一一五二
岡 本宗一郎 豊田小學校長
赤磐郡瀬戸町
岡 本一可 伊部小學校長
上道郡雄神村
岡 本信太郎 和氣高女校長
上道郡芳野村淺越
岡 本喜彦 金陵小學校長
岡山市湊
岡 本寅治 郷内小學校長
兒島郡粒江村粒浦
岡 本 佐八 英田稅務署長
英田郡林野町四四

人名録—オの部

岡本 稔 湯郷小學校長
 岡本 吾市 検事、岡山地
 方裁判所検事局
 岡本 清 判事、岡山地
 方裁判所
 岡本 操六 齒科醫、後月
 郡高屋町九二二
 岡本 信一 岡山市議、岡
 山市弓之町一四〇
 岡本 啓藏 津山市議、津
 山市橋高下町
 岡本 佐市 山陽新報社長
 岡山市弓之町
 岡本 專次郎 濟世常務委員
 邑久郡大宮村
 岡本好之助 醫師、眞庭郡
 川上村
 岡崎 信美 岡山郵便局保
 險課長、岡山市大供七四
 岡崎 嗣是 濟世常務委員
 岡山市福澤學區
 岡崎 旭 雲銀東京支店
 長、東京市杉並高園寺
 岡崎慶次郎 岡崎共同取締
 役、東京市小石川久堅町
 岡崎八三郎 幸島信販購組
 長、邑久郡幸島村
 岡崎 徹 齒科醫、岡山
 市上伊福四三
 岡崎 晃夫 明德小學校長
 邑久郡幸島村

岡崎綱五郎 辯護士、岡山
 市弓ノ町
 岡崎 卓一 醫師、吉備郡
 富山村字延原
 岡崎 武昌 醫師、岡山市
 上西川町一二五ノ一
 岡崎 孝平 中國製紙常務
 廣島市千田町一〇四八
 岡崎眞一郎 中國製紙社長
 大阪市西區南江下道
 岡崎 善太 金澤地方裁判
 所長、金澤上胡町
 岡崎嘉平 金岡信販購組長
 上道郡金岡村
 岡崎芳五郎 岡山米取商議
 岡山市橋本町
 岡崎 勉 全國町村長會
 長、上道郡西大寺町
 岡野多郎松 工業、兒島郡
 兒島町
 岡野謙之丞 醫師、和氣郡
 藤野村
 岡野 政一 醫師、上道郡
 西大寺町
 岡野 孝太 齒科醫、赤磐
 郡豊田村河田原
 岡野高太郎 豊田信販購組
 長、赤磐郡豊田村
 岡野 清豪 日銀秘書役、
 東京市澁谷區水川町九
 岡野義三郎 前六高校長、
 岡山市國富

岡野直七郎 歌人、東京市
 目黒向原町一八〇
 岡野 爲長 佐伯北小學校
 長、赤磐郡佐伯北村
 岡村 榮雄 醫師、岡山市
 日赤社支部
 岡村 秀治郎 高梁郵便局長
 上房郡高梁町
 岡村 周美 縣警務課長兼
 工務課長、岡山市上石井
 岡村宇源治 運送業、和氣
 郡香登町大内
 岡村 健吉 福田信販購利
 組長、邑久郡福田村
 岡村 万吉 素封家、兒島
 郡下津井町
 岡部 寛 山田小學校長
 和氣郡山田村
 岡部 巽 西粟倉小學校
 長、英田郡西粟倉村
 岡部 改吉 大島小學校長
 淺口郡黒崎村
 岡部 友一 岡山縣警部、
 岡山市國富七五五
 岡上保佐衛 岡山市議、岡
 山市下石出町一〇七
 岡山 亮圓 醫師、大阪市
 西區北堀江
 岡井藤志郎 判事、岡山區
 裁判所
 尾島時太郎 酒造業、上房
 郡豊野村

尾島 磯吉 農、都窪郡福
 尾島 振太郎 醫師、上房郡
 高梁町
 尾島儀一郎 商業、上房郡
 有漢村
 尾島 徳子 齒科醫、岡山
 市大供八〇ノ二
 尾谷 恭二 辯護士、岡山
 市東中山下
 尾谷坐三郎 商議、岡山市
 中之町
 尾藤 脩治 齒科醫、邑久
 郡邑久村尾張
 尾藤 宇吉 津山郵便局長
 津山市田中二七一
 尾上 米治 濟世常務委員
 邑久郡鹿忍町
 尾上 八郎 早大教授、東
 京市小石川區白山御殿
 尾上 金吉 江商取締役、
 東京市橋本三ノ三
 尾上 柴舟 歌人、東京小
 石川白山御殿町一二七
 尾淵 勇 岡山運輸連轉
 掛主任、岡山上石井官舎
 尾崎 邦藏 工業、兒島郡
 琴浦町
 尾崎峰三郎 素封家、兒島
 郡琴浦町
 尾崎 虎雄 工業、兒島郡
 琴浦町

尾崎 生三 中銀取締役、
 岡山市内山下七
 尾崎 頼夫 美和小學校長
 邑久郡美和村
 尾崎若四郎 落合信販購組
 長、眞庭郡落合町
 尾田 稔 工十附大尉、
 岡山市上伊福福三五六
 恩藤 肇 林野高女校長
 和氣郡藤野村大田原
 恩藤 誠一 辯護士、岡山
 市上ノ町
 奥山 朝恭 作曲家、岡山
 市濱三四六
 奥山 信次 濟世常務委員
 上道郡浮田村
 奥山 泰治 濟世常務委員
 邑久郡太伯村
 奥山喜佐太 邑久高女教諭
 邑久郡豊村五明
 奥山美佐雄 倉敷勞研、倉
 敷市濱田町
 奥田 寛 岡山刑務所看
 守長、岡山市旭町官舎
 奥田 智桓 岡山刑務所教
 誨師、岡山二日市町二二
 奥田眞須二 前邑久高女校
 長、邑久郡豊村豊安
 奥田 均 醫師、舌田郡
 富村
 奥田 一恵 齒科醫、上道
 郡西大寺町一二三

奥田 良三 縣地方課長、
 岡山市門田二二九二
 奥田 常吉 石材商、小田
 郡北木島村
 奥村 淺吉 商議、岡山市
 南方
 奥村 雅延 醫師、津山市
 田町
 奥村 正親 醫師、勝田郡
 勝間田町
 奥本徳五郎 濟世常務委員
 赤磐郡山方村
 奥野 嗣夫 齒科醫、後月
 郡井原町一三九三
 奥 富子 齒科醫、舌田
 郡久田村
 奥原民一郎 農、小田郡北
 川村
 奥島貴一郎 岡山醫大教授
 岡山市二番町四〇
 長田 龜三 本庄信販購組
 長、邑久郡本庄村
 長船郁太郎 濟世常務委員
 兒島郡灘崎村
 長船春太郎 行幸信販購利
 組長、邑久郡行幸村
 長船 光子 齒科醫、兒島
 郡灘崎村
 荻野繁太郎 濟世顧問、阿
 哲郡豊永村
 荻野 精一 濟世常務委員
 久米郡佐良山村

荻野元太郎 古河電氣取締
 役、東京市麹町區一番町
 荻野 正孝 素封家、兒島
 郡味野町
 荻野 勳 岡山稅務署預
 金部主任、岡山大供三三
 荻原 道雄 醫師、小田郡
 三谷村
 押坂 明一 富野郵便局長、
 舌田郡富村
 落合 時義 工十少尉、岡
 山上伊福東町三三二
 落合 颯一 醫大監査掛長
 岡山市四番町二六
 乙倉 鶴松 幡多小學校長
 上道郡津田村
 織田 宗次 醫師、倉敷市
 東町
 小郷榮三郎 會根小學校長
 都窪郡中庄村鳥羽
 小坂田沼平 元町長、英田
 郡林野町三海田
 小津 尙 醫師、上道郡
 幡多村
 小畑 秀吉 實業家、和氣
 郡片上町
 小神要太郎 農、用上郡高
 山村
 小河原廣次 商議、倉敷市
 阿知町
 小河原壯平 倉敷市議、倉
 敷市川西町

小野 正雄 臺北高女校長
 臺北市川端町二二八ノ五
 小此木通孝 RKAアナウン
 サ、岡山上西川一五一
 小谷 海洋 齒科醫、上房
 郡那部町下皆部
 小谷 節夫 代議士、岡山
 市西田町
 小出 浦助 濟世顧問、眞
 庭郡美川村
 小笠 豊吉 玉島稅務署長
 玉島町一九
 小島 銀治 前縣議、久米
 郡打穴村
 小高和四郎 濟世顧問、和
 氣郡山田村
 小高眞壽太 農、和氣郡山
 田村
 小倉 一郎 醫師、岡山市
 西中山下五八
 小郷宗三郎 加茂小學校長
 都窪郡中庄村鳥羽
 小台 金光 岡山市議、岡
 山市三野一一一
 小林荒太郎 製炭、阿哲郡
 石蟹郷村
 小田 精夫 醫師、和氣郡
 伊部町
 小田 君子 齒科醫、小田
 郡等岡町
 小田 成器 醫師、後月郡
 芳井町

小田 儀志 芋原小學校長
 阿哲郡上市村
 小田 巖進 醫師、後月郡
 井原町
 小田 大吉 醫大助教授、
 岡山市門田中町八二七
 小原 鶴二 本庄小學校長
 和氣郡本庄村
 小原 正造 市戶籍兵事課
 長、岡山市小畑一五二
 小原 俊二 小原商店社長
 東京市大森區新井宿
 小川憲太郎 下竹莊小學校
 長、上房郡下竹莊村
 小川 清一 倉敷市議、倉
 敷市阿知町
 小川 壽 醫師、岡山市
 内山下三〇ノ五
 小川 庸夫 醫師、岡山市
 内山下三〇ノ七
 小川 甲一 服部信販購組
 長、吉備郡服部村
 小川 壽雄 山田信販購組
 長、小田郡山田村
 小川 眞雄 齒科醫、岡山
 市野田屋町六四
 小川 義章 督學官、東京
 市本郷區込區富士前町
 小川 潔 弘西小學校長
 岡山市巖井
 小川 貴 素封家、兒島
 郡粒江村

小川 信次 農、兒島郡粒
 江町
 小川郷太郎 代議士、東京
 市中野區櫻山町三二
 小野田富治 味野驛長、味
 野驛構内社宅
 小野田濱太郎 岡山縣警部
 岡山市石關町七六
 小野田武夫 判事、岡山地
 方裁判所
 小野泰次郎 倉敷市議、倉
 敷市沖
 小野眞三郎 倉敷市議、倉
 敷市西中
 小野増一郎 商議、倉敷市
 稻荷町
 小野 照治 醫師、阿哲郡
 刑部町小阪部
 小野 正雄 醫師、吉備郡
 岡田村
 小野 良雄 齒科醫、淺口
 郡西阿知町西原
 小野 彌市 兒能信販購利
 組長、兒島郡宇野町
 小野林太郎 濟世顧問、淺
 口郡玉島町
 小野 三郎 岡山縣信組聯
 合會監事、倉敷市沖
 小野 善吉 岡山合貯取締
 役、岡山市新大寺町十九
 小野清一郎 前縣議、小田
 郡小田町

人名録—オの部

人名録—オ、カの部

小野 英夫 帯江小學校長
小野 謙吉 醫師、岡山市
西田町二二
小野 眞實平 川邊郵便局長
吉備郡川邊村
小野 輝治 鶴田郵便局長
久米郡鶴田村
小野 三代人 醫師、兒島郡
日比町
小野 哲二 醫師、津山市
田町
小野 竹齋 家、京都市
上京區等持院北町一四
小野 逸士 醫師、和氣郡
日生町
小野 年彦 玉島小學校長
淺口郡船越村
小野 元太 地主、淺口郡
里庄村
小野 勇雄 浮田小學校長
上道郡浮田村
小野 義彦 醫大出納掛長
岡山市外玉柏
小野 源右衛門 濟世常務委
員、吉備郡高松町原古才
小野 靜一 監督書記、新
見區裁判所
小野 繁太郎 素封家、淺口
郡船越村
小野 久彦 素封家、淺口
郡長尾町

西田町二二
緒方 最 市都計技師、
岡山市花畑一九五ノ二
緒方 益雄 醫大教授、岡
山市門田仲町一〇六八
緒方健三郎 六高教授、岡
山市門田屋敷一六四
緒形 美通 齒科醫、眞庭
郡湯原村湯本
沖野 勝治 醫師、和氣郡
日生町
沖井 磯吉 醫師、小田郡
矢掛町
沖田 龍太郎 野馳郵便局長
阿哲郡野馳村
沖 彌五郎 縣耕種課技師
吉備郡庭瀬町庭瀬
沖田 年雄 栗廣小學校長
英田郡栗廣村
牛沼 曹六 岡山醫大教授
都窪郡早島町長津
力
片山 啓治 青野信販購利
組長、後月郡青野村
片山 善治 齒科醫、都窪
郡庄村大字上車
片山 駒雄 齒科醫、邑久
郡太伯村神崎
片山 鼎三 元郡會議長、
後月郡西江原町

片山 正夫 團城小學校長
後月郡團城村上田西
片山 瀧造 濟世常務委員
岡山市御野學區
片山 喜一 濟世常務委員
御津郡豐岡村
片山 昌三郎 醫師、眞庭郡
實原村
片山 薫 醫師、上房郡
上有漢村
片山 太七 美作肥料組合
長、津山市西今町二二
片山 文太 鑛紡西大寺工
場長、上道郡西大寺町
片山 正夫 東大教授、東
京市小石川區原町二六
片山 藤造 岡山驛小荷物
主任、岡山市上石井鐵道
官舎
片山 林平 齒科醫、邑久
郡午窓町
片山 利三郎 酒造業、兒島
郡甲浦村
片山 眞喜太 安田銀行京橋
支店長、岡山市巖井六三
片山 彦太郎 前縣議、赤磐
郡萬富村
片山 寛 素封家、御津
郡津賀村
片山 忠治 濟世常務委員
岡山市石井學區
片山 嘉一 郡農會長、赤
磐郡瀬戶町

岡山市山下二〇ノ一〇
片岡 銀藏 畫家、東京世
田谷田田一ノ六三五ノ九
片岡 石夫 雄神小學校長
上道郡九幡村
片岡 覺太郎 海軍主計大佐
東京市大森區新井宿
片岡 元一 倉敷高等小學
校長、都窪郡清音村
片岡 吾五郎 濟世常務委員
西田郡東加茂村桑原
片岡定四郎 市教育會主事
岡山市門田屋敷一五三
片岡 正 齒科醫、岡山
市山下九一
片岡 鐵兵 文士、東京市
淀橋區西落合町一ノ一五
片岡 穆 醫師、兒島郡
陶土村
片尾 繁藏 芳野信販購利
組長、西田郡芳野村
片尾 節吉 濟世常務委員
和氣郡熊山村
片木 龍藏 醫師、岡山市
天瀬二二
片木 ハル 醫師、上道郡
西大寺町
河上 薫 玉島第四小學
校長、淺口郡金光町
河上 幹次 商議、岡山市
油町
河本 英雄 實業家、眞庭
郡原保五郎 團城村信販購

利組長、御津郡團城村
河原榮太郎 二等主計、岡
山市三野二〇四
河原 義孝 醫師、久米
郡大井西村坪井下
河原 嘉太四 商議、津山市
二宮町二一四七
河原 孫三 津山市議、津
山市二宮町
河島 謙藏 濟世常務委員
眞庭郡木山村
河崎 津賀次 公證人、岡山
市東中山下一一七
河崎 直 醫師、淺口郡
玉島町
河田 近衛 齒科醫 御津
郡牧石村玉柏
河田 鹿之助 齒科醫、吉備
郡福谷村東山内
河田 博 吉原信購組長
西田郡芳野村吉原
河田 豊章 縣防疫醫、岡
山市弓之町六一
河田 節夫 醫師、淺口郡
富田村
河田 大作 醫師、岡山市
巖井一七五
河田 靜夫 加茂信販購組
長、御津郡津賀村
河田 純太郎 西宮野販購利
組長、御津郡野谷村菅野
河田 佐一郎 常磐村信販購

河野 眞一郎 醫大第二設計
掛長、岡山市大供
河野 大貳 齒科醫、赤磐
郡佐伯本村
河野 一平 醫師、勝田郡
南和氣村
河野 裕太郎 醫師、津山市
勝間田町
川野 俊三郎 濟世常務委員
岡山市旭東學區
河原 好平 商議、倉敷市
土手町
川宇 十郎 山久世産組長
眞庭郡勝山町山久世
川口 儀一郎 倉庫重役、東
京品川五反田九一ノ三九
川口 魁 縣議、岡山市
花畑六二
川村 多實一 京都帝大教授
大津市北保町四八
川村 惇 前勝山中學校
長、津山市椿高下
川村 於菟彦 濟世常務委員
岡山市南方學區
川崎 榮治 牛窓小學校長
邑久郡牛窓町
川崎 虎三郎 金融業、東京
市豊町區三番町
川崎 柳助 農、兒島郡興
行
川 祐宣 醫師、岡山市
立寄町診療所

人名録—カの部

人名録—カの部

川崎 三郎 甘泉小學校長
 御津郡牧山村中牧
 川上 迅雄 齒科醫、吉備
 郡總社町七〇六
 川上 桂三郎 宇戶信購販利
 組長、小田郡宇戶村
 川上 留治 農、上房郡皆
 富町
 川上 雄四郎 濟世顧問、勝
 田郡勝田村
 川上 清 堺信購販利組
 長、小田郡堺村
 川上 庄七 金光信購販利
 組長、金光町占見新田
 川上 虎三郎 金川信購販利
 組長、御津郡金川町
 川上 三治 地頭郵便局長
 川上 都手麻村
 川井 信正 製炭、阿哲郡
 新砥村
 川島 靜吾 刑務所教海師
 岡山市旭町官舎
 川島 普 判事等岡區裁判所
 川田 泰一 醫師、御津郡
 宇垣村野々口
 川田 龍藏 醫師、御津郡
 野谷村栢谷
 川西 道太郎 醫師、眞庭郡
 美甘村
 川西 浩 醫師、和氣郡
 神根村
 川本 重雄 醫師、倉敷中
 山市東古松一五六
 金子 滿造 検事、岡山區
 裁判所検事局
 金田 誠一 農、赤警郡高
 月村大字牟佐
 金田 清重 農、岡山縣上
 房郡津川村
 金田 關藏 醫師、阿哲郡
 刑部町
 金田 修藏 醫師、阿哲郡
 刑部町
 金光 嘉四三 無職、赤警郡
 湯瀬村大字大内
 金光 燭一兵衛 六高助教授
 岡山市門田五七
 金光 北次郎 野谷信組長、
 御津郡野谷村
 金原 末太郎 工業、後月郡
 井原町
 加藤 三郎 縣議、吉備郡
 岡田村宇岡田
 加藤 哲志 濟世常務委員
 吉備郡川邊村南山
 加藤 照夫 醫師、岡山市
 日本赤十字社支店
 加藤 元一 慶應義塾教授
 東京市小石川區丸山町
 加藤 九里 工業學校教諭
 岡山市門田市營住宅
 加藤 善五郎 玉島商業教諭
 淺口郡玉島町
 加藤 市三郎 織物工業組合
 専務理事、淺口郡鴨方町
 鴨方
 加藤 弘一 醫師、兒島郡
 藤戸町
 加藤 安造 醫師、川上郡
 日里村
 加藤 美正夫 醫師、赤警郡
 輕部村東輕部
 加藤 謙二 上山小學校長
 英田郡河曾村
 加納 燭一郎 商議、倉敷市
 高砂町
 梶谷 舜治 商業、吉備郡
 服部村
 梶谷 敬治郎 昭和小學校長
 上房郡川面村
 梶谷 齊 醫師、岡山市
 西中山下九九
 梶谷 尚 醫師、岡山市
 内山下三〇ノ八
 梶谷 馨 醫師、久米郡
 弓削町
 梶谷 鶴太郎 倉敷市議、倉
 敷市三軒屋
 梶谷 堅一郎 濟世顧問、都
 窪郡中洲村
 梶原 燭之助 判事、栃木縣
 都賀郡栃木町
 梶原 英一 齒科醫、邑久
 郡本庄村下山田
 梶原 千年 福徳青年學校
 長、御津郡上建部村
 源吉 濟世顧問、岡
 山市小野田町
 梶村 良次 商議、津山東
 新町
 梶山 輝一 勝山警察署長
 眞庭郡勝山町
 神崎 一郎 大福信販購組
 長、都窪郡福田村大福
 神崎 護 齒科醫、都窪
 郡福田村大福
 神崎 松次 妹尾小學校長
 倉敷市白樂市
 神崎 正國 醫師、赤警郡
 周原村
 神崎 晨一 高取小學校長
 勝田郡大寄村
 神原 敬一 醫師、上房郡
 下竹井村
 神原 弘 福徳郵便局長
 久米郡福徳町
 神原 傳右衛門 木炭組合長
 英田郡西栗倉村
 神原 勝一 今井小學校長
 小田郡等岡町
 神原 源平 醫師、兒島郡
 味野町
 神田 清作 元町長、眞庭
 郡勝山町
 神田 嘉一 高島小學校長
 小田郡神島外村
 神田 伯平 吹屋小學校長
 川上郡吹屋町

龜田 靜 福田小學校長
 眞庭郡川上村
 神田 東一 濟世顧問、英
 田郡栗井村
 神田 辰夫 醫師、淺口郡
 玉島町
 神谷 嘉樹 美川小學校長
 上房郡水田村
 神谷 岩太郎 西山小學校長
 川上郡湯野村
 神谷 圓辨 濟世顧問、久
 米郡西川村
 神社 柳吉 倉紡重役、兵
 庫縣武庫郡住吉村三三九
 神坂 昇 前縣議、久米
 郡加美村
 神坂 政太 三保小學校長
 和氣郡鶴山村新庄
 神坂 伊三治 醫師、邑久郡
 玉津村
 龜山 章一 平田信購販利
 組長、御津郡今村平田
 龜山 俊藏 東京海上火災
 重役、東京麴町上二番町
 龜山 敏太 綿布輸出業、
 大阪市東區唐物町
 龜山 虎治 中國銀行取締
 役、岡山市内山下四
 龜山 政三 織物組合理事
 長、岡山市高砂町
 龜山 晉 醫師、倉敷市
 阿知町
 龜井 猛 醫師、淺口郡
 津島町
 龜井 照雄 遷喬小學校長
 眞庭郡久世町
 龜井 山聖演 濟世常務委員
 淺口郡西阿知町片島
 龜高 徳平 科學智識普及
 會理事、東京品川北品川
 龜岡 秀二郎 辯護士、小田
 郡等岡町
 勝田 英夫 郵便局庶務課
 長、岡山市東中山下四二
 勝木 新次 倉敷労働科學
 研究所醫博、倉敷市南町
 勝間田 信夫 新見耕地出張
 所長、阿哲郡新見町
 所長、阿哲郡新見町、小
 田郡等岡町伏越
 笠原 清之助 醫師、淺口郡
 長尾町
 笠原 經夫 醫師、岡山市
 東中山下四一
 笠原 虎治郎 素封家、後月
 郡木之子村
 笠原 房夫 辯護士、岡山
 市西中山下
 笠井 誠一 關西中學校教諭
 吉備郡高松町
 笠原 忠治 等岡女子小學
 校長、小田郡金浦町
 笠原 浩太郎 醫師、小田郡
 小田町
 等原 太郎 素封家、後月
 郡青野村
 門田 正徳 縣衛生技師、
 岡山市北方五一六
 門松 安秀 齒科醫、岡山
 市天瀬七七
 荻田 善榮 商業、津山市
 荻田 靜二郎 津山信組長、
 津山市
 荻田 興祿 農會長、津山
 市勝間田町
 香川 讓三 名譽家、邑久
 郡牛窓町
 香山 一男 岡山縣立二商
 教諭、岡山市内山下三〇
 香取 勝造 岡縣司令部步
 兵中佐、岡山市難波町
 上田 光治 勝山城北信組
 長、眞庭郡勝山町
 上代 浩三 醫大助教授、
 岡山市門田屋敷一七八
 上代 淑 山陽高女校長
 岡山市門田屋敷一七八
 上總 常雄 六高教授、岡
 山市門田一、一四〇
 兼述 正 醫師、淺口郡
 長尾町
 兼松 謙太郎 検事正、徳島
 市徳島町字會所
 鴨井 利郎 工業、倉敷市
 鴨井 銀三 商議、倉敷市
 中町
 角野 武次郎 濟世常務委員
 吉備郡池田村見延
 角道 有太郎 岡山市議、岡
 山市門田六九
 影山 貞一 上市小學校長
 阿哲郡新見町
 葛城 彌 醫師、赤警郡
 瀬戸町
 葛城 勇太 濟世顧問、赤
 警郡西山村
 葛城 雷次郎 衛成病院庶務
 主任一等軍醫、岡山市内
 田西春日町三七
 影山 重士 醫師、勝田郡
 勝加茂村
 影山 豊太郎 神代信購組長
 勝山町神代
 桂 隆然 濟世常務委員
 吉備郡新本村栢井田
 桂 又三郎 出版業、岡山
 市上之町
 柿沼 昊作 醫大教授、岡
 山市國富瓶井四一一
 柿原 得一 倉紡重役、大
 阪市住吉阿倍野筋二丁目
 嘉敷 孝 有隣小學校長
 邑久郡邑久村
 嘉敷 宗雄 美袋驛長、同
 驛構内官舎
 甲本 原次 監督書記、岡
 山區裁判所
 甲斐 達太郎 木山神社々司
 眞庭郡木山村
 垣替 俊隆 判事、新見區
 裁判所
 垣見 卓 中銀重役秘書
 岡山市門田一〇九二
 菅原 專一 西山小學校長
 赤警郡西山村
 輕部 清 醫師、小田郡
 金浦町
 一森 春衛 醫師、上道郡
 九幡村
 千原 旭 齒科醫、吉備
 郡川邊村東町
 菅 濟治 成徳學校長、
 岡山市慶井一八〇〇
 掛谷 全三 醫師、岡山市
 東中山下一一六
 華山 海應 國清寺住職、
 岡山市小橋町國清寺
 粕山 八郎治 大野村長、縣
 議、御津郡大野村
 柏木 貞一 辯護士、上房
 郡高梁町
 各務 利彦 醫大司計掛長
 岡山市津島
 鎌田 武夫 辯護士、岡山
 市東中山下
 景山 豊五郎 岡山市議、岡
 山市慶井一、四〇六
 山本 水孟郎 畫家、京都市
 下鴨西林町二七
 鶴藤 義一 神島外小學校

人名録—カの部

長、小田郡神島外村

木村 丈夫 畫家、京都市
平野上柳四ノ七七
木村繁太郎 實業家、津山
市元魚町
木村善太郎 文部省督學官
東京市小石川小日向臺
木村利太郎 鹽油鹽造業、
倉敷市戎町
木村嘉太郎 牛窓信組長、
邑久郡牛窓町
木村喜七郎 商業、岡山市
船着町
木村誠七郎 醫師、淺口郡
船橋村
木村富治郎 北海道廳勤務
札幌市北福西六丁目
木村芳一郎 大元驛長、同
驛構内官舎
木村長五郎 古新田信販購
利組長、都窪郡福田村
木村知恵太 大和郵便局長
吉備郡大和村
木村 太郎 醫師、勝田郡
廣野村
木村 太忠 神根小學校長
和氣郡伊里村
木村 敏太 醫師、兒島郡
琴浦町

木村 重男 石炭組合副組
長、岡山市船着町四五
木村 篤藏 齒科醫、岡山
市山下二五
木村 仲記 吉田小學校長
小田郡大井村
木村 貞隆 齒科醫、岡山
市山下二五
木村 哲二 名古屋醫大教
授、東京市赤坂青山町
木村 林松 角山信販購利
組長、上道郡角山村
木村 勝彦 實業家、津山
驛町
木村 毅 文士、東京市
淀橋區西大久保三ノ四七
木村 順一 齒科醫、倉敷
市西町六九
木村 光一 郵便局長、倉
敷市川西町
木村 増夫 廣野小學校長
勝田郡勝岡町
木村 龜夫 製炭、阿哲郡
上刑部村
木村 亨 醫師、都窪郡
早島町
木村 孝 齒科醫、勝田
郡勝岡村眞加部
木村 壘 元町長、勝田
郡勝岡町長
木村 靖 醫師、倉敷市
戎町

木下 八乃平 梶原販購組長
兒島郡宇野町
木下 英保 小學校長
和氣郡英保村
木下 武男 醫師、上道郡
高島村
木下 剛 豐國セメント
重役、大阪府豐能郡箕面
村
木下新太郎 岡建倉庫主任
岡山市南方鐵道官舎
木下 唯助 事業家、岡山
市天瀬
木谷 晴 二萬信販購組
長、吉備郡二萬村
木谷 恒 醫師、吉備郡
箭田村
木畑竹三郎 六高講師、岡
山市山下七
木庭 一男 濟世常務委員
上道郡角山村
木庭 君治 野谷小學校長
岡山市天瀬
木口 重彦 日本加工織布
重役、東京市込市谷田町
木口宗一郎 醫師、淺口郡
玉島町
木口 龜一 田邑小學校長
西田郡田邑村
木地登一郎 津山醫林署長
津山市南新座三三五
木野 玉治 市職醫所長、
木野

岡山市小橋町九九
木畑 元米 醫師、上道郡
西大寺町
木本謙三郎 加茂信組長、
西田郡加茂町
木本 欽吉 醫師、岡山市
花畑一六七
木山 巖太郎 無職、倉敷市
戎町
木山 淳一 著述家、岡山
市難波町
木多 貞一 成名小學校長
苦田郡神庭村草加部
木田 泰 醫師、眞庭郡
勝山町
木佐谷安一 西大寺驛長、
同驛構内官舎
木代威之助 新庄郵便局長
眞庭郡新庄村
岩本鹿太郎 在郷陸軍大將
東京市中野區天神町
岸本 有 齒科醫、西田
郡加茂町小中原
岸本 芳秀 醫師、岡山市
巖井四〇七
岸本俊太郎 齒科醫、和氣
郡日生町九六七
岸本 周造 無職、上道郡
光政村
岸本 正男 濟世常務委員
赤磐郡布都美村
岸本 恒重 元縣議、勝田
郡大崎村中原
岸本熊太郎 大阪市理事、
大阪市天王寺區鳥ヶ辻
岸本 信太 海軍中將、堺
市大濱町四丁目
岸本 晋亮 辯護士、西宮
市川添町
岸 信男 郷信販購利組
長、西田郡郷村
岸 秀徳 山手小學校長
久米郡神目村
岸 健夫 醫師、岡山市
西中山下一三
岸 正藏 商議、岡山市
下之町
岸 由基夫 八濱郵便局長
兒島郡八濱町
岸 正一 職業紹介事務
局長、御津郡馬尾下松尾
岸 辰太郎 濟世常務委員
赤磐郡竹枝村
岸岡 美子 醫師、西田郡
大野村
岸岡 修吉 醫師、西田郡
大野村
北山 敏雄 佐良山小學校
長、久米郡加美村
北山加一郎 醫大助教授、
岡山市上石井大正町
北山 英夫 農農家、西田
郡小田村
北村 壽吉 濟世常務委員

郡窪郡山手村岡谷

北村 讓 津山市會議員
津山市二階町
北村 實 等岡稅務署長
小田郡笠岡町四七
北川田朗二 濟世常務委員
和氣町
北川 貞治 車掌所主任、
岡山市上石井鐵道官舎
北川 義重 醫師、倉敷中
央病院
北室 武雄 醫師、兒島郡
日比町
北野 宗成 濟世顧問、上
房郡吉川村
北岡 淳 検事、玉島區
裁判所檢事局
北田久右衛門 岡山合貯取
締役、倉敷市倉敷三一〇
清澄 修一 齒科醫、都窪
郡早島町早島
清澄萬壽子 齒科醫、都窪
郡早島町三四四
清田 寂榮 濟世顧問、西
田郡高田村
清武 博信 齒科醫、吉備
郡岡村市場
清谷 壽 醫師、吉備郡
足守町
清川寅太郎 齒科醫、小田
郡等岡町山田方
齋池 寅七 倉庫重役、神
戶

戶市灘區山田町二七

菊地 武男 醫師、吉備郡
山田村
菊地貞太郎 製紙會社之長
岡山市新道
菊池健一郎 妻封家、淺口
郡玉島町大字阿賀崎
菊池 宗道 濟世常務委員
吉備郡山田村
菊川 正 醫師、兒島郡
郷内村
菊樂定太郎 醬油鹽造業、
高梁町
祇園輝太郎 裳掛小學校長
邑久郡長濱村
祇園清次郎 東西エナメル
重役、大阪住吉區松崎町
喜多島建彦 縣衛生技師、
岡山市一番町四五
喜多島慎一 醫師、日赤岡
山支部病院
山支部病院長
喜多島直登 無職、赤磐郡
佐伯上村
喜多村棟三 醫師、岡山市
野田屋町二四九
吉川 久雄 醫師、兒島郡
日比町
吉川 忠雄 縣屬、岡山市
上出石町六
吉川 渡 齒科醫、岡山
市難波町六〇
市難波町六〇 公森 太郎 日本興業銀行
入名 一 一、夕の部

理事、東京市豐池池袋

銀羽外治郎 醫師、岡山市
津島二二五六
桐原 稔見 倉敷勞務所員
、文庫、倉敷市昭和町
綿卷 忠 縣議、岡山
市中之町六四
金原 善知 岡山醫林署長
岡山市西中山下一四一
黒瀬 末一 齒科醫、吉備
郡日美村美袋
黒瀬 卓江 濟世常務委員
久米郡鶴田村
黒瀬吉三郎 濟世常務委員
都窪郡倉生村
黒瀬敬太郎 濟世常務委員
久米郡三保村
黒田 幹一 京城帝大教授
京城府東西軒町
黒田 道行 高松農校教諭
吉備郡高松町
黒田 章夫 醫大助教授、
御津郡若田村大字富田
黒田 稻城 中山小學校長
久米郡倭文西村中山手奥
黒田 照太 秀實小學校長
久米郡倭文東村福田下
黒田 節三 齒科醫、御津
郡金川町九八六

澤田静太郎 横濱顧問官、
 東京市大森區田園調布
 國鹽 昌躬 等岡商業學校
 長、岡山市内山下七二
 國鹽 達太、公吏、赤鷲郡
 高陽村大字神田
 國富友次郎 就實實科高女
 校長、岡山市紙屋町一四
 國富幸一郎 玉島警察署長
 淺口郡玉島町
 國富豊太郎 廣戸小學校長
 勝田郡廣戸村
 國光武三郎 下竹莊信購販
 利組長、上房郡下竹莊村
 國光 萬里 縣農林技師、
 岡山市上石井二八五
 國光 龜 和意谷小學校
 長、和氣郡神根村
 國末 林三 驛運轉掛主任
 岡山市上石井鐵道官舎
 國政 治郎 濟世常務委員
 勝田郡植月中
 國司 婿作 濟世常務委員
 英田郡福本村
 國崎 貞一 醫師、岡山市
 八番町一三
 國本 志一 華道客真宗宗
 匠、淺口郡大島村
 國米熊太郎 齒科醫、眞庭
 郡久世町二八七一
 國米 逸郎 西川郵便局長
 久米郡西川村

國安 年治 鷺羽山驛長、
 同驛構内社宅
 楠見忠三郎 講實業、岡山
 市西田町
 楠戸 與平 吳服商、倉敷
 市東町
 楠原馬治郎 濟世常務委員
 和氣郡香登町
 久保 甚吉 商議、岡山市
 古京町
 久保 一正 醫師、岡山市
 西中山下一六
 久保田 敬 醫師、眞庭郡
 二川村
 久保田銀次郎 取引所書記
 長、岡山市上片上町四一
 久山壽太郎 岡山測候所長
 岡山市内山下六〇
 久山猪八郎 商業、津山市
 久山 淳一 素封家、津山
 市二宮
 久山 吉夫 醫師、上道郡
 可知村大字大多羅二二〇
 久山 知之 代議士、東京
 市目黒區自由ヶ丘八二
 久我於菟一郎 資産家、小
 田郡金浦町
 久我 小年 畫家、淺口郡
 玉島町
 久郷 梅松 縣山林課長、
 岡山市二番町二
 久米田利市 中庄驛長、同
 久米郡西川村

驛構内官舎
 久戸瀬九平 道木信販購利
 組長、淺口郡金光町道木
 久代 富治 歩十附少佐矢
 中與中配屬、矢掛町元町
 久留間鯨造 大原社研所員
 兵庫縣武庫郡精道村
 桑原彌壽治 岡山驛助役、
 三石町二九九番地
 桑原 元吉 醫師、小田郡
 新山村
 桑原 良一 醫師、兒島郡
 味野町
 桑原 良馬 醫師、岡山市
 五番町一九
 桑原 透 齒科醫、岡山
 市尾上町
 桑野實代嗣 岡山保線所長
 岡山市上石井鐵道官舎
 桑田 優 醫師、小田郡
 城見村
 桑木 重三 白石小學校長
 小田郡神島外村
 工藤 壯平 内大臣秘書官
 東京市淀橋區下澁谷
 工藤 義雄 陸軍兵器本廠
 附少將、東京市淀橋區下
 落合
 工藤純之介 所得調査員、
 淺口郡金光町
 栗原 虎雄 眞金郵便局長
 吉備郡眞金町

栗原 政治 齒科醫、上道
 郡西大寺町四七六
 栗山 精一 辯護士、岡山
 市東中山下
 栗山 唯一 濟世常務委員
 淺口郡六條院町中區
 栗田 進 岡山市方專賣
 局長、岡山市三番町
 栗栖 大雲 濟世常務委員
 兒島郡郷内村
 栗坂泰三郎 商業、都窪郡
 早島町
 倉橋 文治 信聯監事、後
 月郡井原町
 倉橋 幸夫 醫師、倉敷中
 央病院
 倉田熊太郎 川東小學校長
 眞庭郡川東村
 倉田 勝治 美作千代驛長
 同驛構内官舎
 倉内 嘉也 醫師、英田郡
 檜原村
 倉森 壽太 縣技手、吉備
 郡服部村大字蓬木
 雲井 芳雄 豐國信販購利
 組長、勝田郡豐國村
 雲根 智舟 勝田農林學
 校長、勝田郡勝田町
 萬原 源治 承芳小學校長
 御津郡宇甘西村
 萬山 章 盲啞學校教諭
 岡山市上西川町一四八

汲田 信治 成羽高女校長
 和氣郡本莊村衣笠
 來橋 武一 歩十附大尉金
 光中、玉商配屬、玉島町
 乙島
 來會 加一 矢神驛長、同
 驛構内官舎
 來住 敏夫 片上郵便局長
 和氣郡片上町
 草地 武雄 齒科醫、久米
 郡井原村東井和
 草野 春平 醫師、岡山市
 東田町八三
 熊澤 亨 第二野小學
 校長、兒島郡莊内村長尾
 藏田 忠作 岡山專賣局庶
 務課長、岡山市門田三三
 隈本 繁吉 第六高等學校
 長、第六高等學校内
 藏知 矩 郷土史家、岡
 山市内山下

劍持 聖司 齒科醫、岡山
 市岩田町七六

ケ

小坂 壽 醫大講師、御
 津郡石村玉柏
 小坂 透 佐伯小學校長
 赤鷲郡鳥取上村
 小坂 襄 醫師、淺口郡
 鴨方町
 小坂 保 醫師、上道郡
 古郡村
 小坂 朔逸 黒龍江醫務科
 長、チ、ハル周家胡月公
 館
 小坂 泰輔 醫師、上道郡
 三幡村
 小坂 猛夫 齒科醫、岡山
 市大供八〇ノ二
 小坂 金吾 醫師、赤鷲郡
 鳥取上村山口
 小坂種太郎 醫師、御津郡
 牧石村
 小坂惣三郎 吉岡信組長、
 赤鷲郡吉岡村
 小坂徳太郎 農、川上郡宇
 治村
 小坂田 弘 醫師、勝田郡
 勝田町
 小堀 文哉 醫師、小田郡
 等岡町
 小堀利一郎 醫師、都窪郡
 中洲村
 小池藤太郎 醫大助教授、
 岡山市大供本町
 小池寅治郎 津山市議、津

利組長、後月郡山野上村
 小林 襄一 芝浦製作所員
 東京在原區中延町
 小林 政一 一宮信組長、
 御津郡一宮村
 小林 麒一 葛城小學校長
 赤鷲郡高城村
 小林 逸太 司法書士聯合
 會副長、岡山市東中山下
 小林 順太 濟世常務委員
 邑久郡豊原村
 小林 義太 醫師、和氣郡
 香登町
 小林 砂吉 陸軍法務官、
 東京市杉並區天沼
 小林 平吉 醫師、岡山市
 岩田町九九
 津山市田町
 津山警察署長
 津山市田町
 東京帝大教授
 東京市澁谷區代々木
 小林 快尊 濟世顧問、淺
 口郡船穂村
 小林 戒三 會社員、淺口
 郡黒崎村
 小林 平馬 皆部小學校長
 上房郡皆部町
 小林 健二 岡山市議、岡
 山市上西川町一一一
 小林 英輔 醫師、吾田郡
 神庭村
 小林 道也 醫師、勝田郡

勝加茂村
 小林孫兵衛 赤十字副院長
 岡山市内山下九一番地
 小林健太郎 醫師、上道郡
 高島村
 小林康太郎 津山市議、津
 山市總社町
 小林右太郎 部長判事、岡
 山地方裁判所
 小林益太郎 倉紡重役、大
 阪府豊能郡豊仲町
 小林惣治郎 專賣局玉島出
 張所長、玉島町字阿賀崎
 張所長、玉島町字阿賀崎
 勝加茂村
 小林元治郎 醫師、勝田郡
 京城府大和町
 小林又七郎 辻紡織取締役
 横濱市神奈川區臺町
 小林泰一郎 多額納稅者、
 那覇市西新町
 小林新一郎 草間小學校長
 阿賀郡草間村
 小林猪十郎 濟世常務委員
 勝田郡豊國村
 小林重三郎 歩十附大尉高
 農配屬、岡山市南方幸町
 小林壽美太 東洋製菓重役
 大阪市西區京町堀通
 小山 武夫 醫博待醫、東
 京市麻布區本村町一一六
 小林 薫 南方小學校長

岡山市門田屋敷
 小林 壽 製茶業、英田
 郡巨勢村海田
 小林 廣 醫師、小田郡
 北木島村
 小林 正 宮内小學校
 長、阿賀郡本郷村
 小泉 英一 判事、東京市
 世界谷區上馬町
 小泉品十郎 商業、上道郡
 金田村
 小脇 芳一 辯護士、岡山
 市東中山下
 小寺 全志 郡農會長、後
 月郡縣主村
 小寺 亮一 新山小學校長
 小田郡金浦町
 小寺 市郎 商業、岡山市
 下之町
 小松原猷之介 醫師、都窪
 郡庄村
 小松原卓一 會社重役、倉
 市阿短町
 小松原克巳 齒科醫、倉敷
 市前町三〇八
 小松原隆二 八高校長、名
 古屋市中區戸田町
 小松 武 香々美小學校
 長、吾田郡香々美南村
 小松土岐四郎 兵事大同信
 託課長、西宮市森具前
 田

山市京町
 小池 米治 農、都窪郡妹
 尾町
 小池 博美 醫師、倉敷中
 央病院
 小原千次郎 農、兒島郡粒
 江村
 小原類治郎 醫師、英田郡
 西栗倉村
 小原 應 濟世常務委員
 吉備郡神在村富原
 小原 貞次 勝田小學校長
 勝田郡勝田村
 小原美登四 辯護士、岡山
 市上西川町
 小原左文二 素封家、兒島
 郡福田村
 小原 謙藏 判事、吉備郡
 總社町字總社
 小山 信光 美作江見驛長
 同驛構内官舎
 小山 晴夫 齒科醫、邑久
 郡行幸村服部
 小山 一徳 京城高工教授
 京城府東山宗洞官舎
 小山 一篤 農、岡山市大
 供
 小山 篤 齒科醫、岡山
 市尾屋町六八
 小山 了 市福學、岡山
 市上石井三五五
 小山 寛 高倉小學校長

川上郡高倉村 市西田町一七
 小山 弘 醫師、淺口郡 小島 銀次 打穴信販購利
 寄島町 小島 恭 縣耕種地課技師
 小出 養彦 醫師、上房郡 岡山市門田屋敷二一七
 豐野村 小島文治郎 津山市議、津 小島文治郎 津山市議、津
 川村 山手横山町 小橋藩三衛 日本土地重役
 小出謙一郎 醫師、上房郡 東京小石川高田豊川三七
 豐野村 小橋 廣衛 牛窓町長、呂 久郡朝日村
 小西勝太郎 岡田信販購利 小橋 一男 岡山市議、岡
 組長、吉備郡岡田村 小橋 賢朗 素封家、兒島
 小西柳三郎 宇垣信販購利 小橋 賢朗 素封家、兒島
 組長、御津郡宇垣村 小橋 賢朗 素封家、兒島
 小西治三郎 八濱驛長、同 小橋 賢朗 素封家、兒島
 驛構内官舎 小橋 賢朗 素封家、兒島
 小西 直人 醫師、吉備郡 小玉 末松 岡山市議、岡
 高松町 小西 良次 商業、岡山市 山手旭町九六
 小西 莊造 商業、岡山市 小崎元次郎 濟世常務委員
 古京町 小西 莊造 商業、岡山市 呂久郡長濱村
 上石井 小西 莊造 商業、岡山市 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小西 加濃 齒科醫、吉備 小崎 賢朗 素封家、兒島
 郡真金町一〇七九 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小西 太郎 檢察、津山區 小崎 賢朗 素封家、兒島
 裁判所檢察局 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小西 隆 市土木、都計 小崎 賢朗 素封家、兒島
 課長、岡山市南方面三五四 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小西 謙 六高教授、岡 小崎 賢朗 素封家、兒島
 山市門田本町四四一 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小谷 鳳佐 阿口小學校長 小崎 賢朗 素封家、兒島
 上房郡寄部町 小崎 賢朗 素封家、兒島
 小谷 節夫 代議士、岡山 小崎 賢朗 素封家、兒島

金光 攝胤 金光教訓管長 河本 英雄 農、眞庭郡勝
 淺口郡金光町 山町 河本 直枝 醫師、呂久郡
 兒島 久富 津山市議、津 幸島村
 山市川崎町 河本 舜吾 開成小學校長
 兒島 敬直 齒科醫、岡山 上道郡津田村
 市仁子町六六 河本 眞吾 中正小學校長
 兒島 昂一 濟世顧問、兒 久米郡大倭村
 島郡勝戸町 河本 眞正 岡山縣隊區司
 兒島 善子 齒科醫、上道 令部步兵中佐、岡山市六
 郡金岡村金岡 香町九ノ二 河本種太郎 商業、岡山市
 兒島元三郎 女子職業校長 橋本町
 岡山市廣瀬町二九七 後藤伸太郎 濟世顧問、御
 兒島綾太郎 醫師、赤磐郡 津郡上建部村
 五城村新庄 後藤虎三郎 湯郷信組長、
 兒島 庄藏 檢察、岡山地 勝田郡湯郷村
 方裁判所檢察局 後藤源治郎 醫師、舌田郡
 兒島 泰一 醫師、上房郡 香々美南村
 高梁町 後藤 與治 縣耕種地課技師
 兒島 賴平 醫師、上房郡 岡山市門田一〇九〇
 高梁町 津川小學校長 後藤 長三 濟世常務委員
 兒島 政博 津川小學校長 赤磐郡高城村
 上房郡高梁町 後藤 半二 飛鳥小學校長
 岡本 三郎 西鐵西大寺驛 小田郡神島外村
 長、岡山市北方 後藤 榮治 醫師、舌田郡
 岡本 清一 東加茂小學校 一宮村
 長、舌田郡高野村山西 高祖 松太 商業、呂久郡
 岡本 善一 河内信販購利 牛窓町
 組長、眞庭郡河内村 高祖 三郎 無職、牛窓町
 岡本 敏太 香北小學校長 高祖吉太郎 天神山醸造元
 舌田郡香々美北村 和氣郡和氣町 邑久郡牛窓町

人名錄—コの部

三三九

廿

船倉 小松原卓一 市議、倉敷市
 阿知町 近藤 一雄 齒科醫、岡山
 市大雲寺町五〇 近藤 雅雄 富小學校長、
 近藤 喜一 醫師、岡山市 舌田郡富村
 近藤 正一 市衛生課長、 岡山市上出石町
 近藤 鐵太 醫師、岡山 市青江七六三
 近藤 壽太 今城小學校長 呂久郡太伯村
 近藤 光太 後閑小學校長 兒島郡八濱町是石
 近藤 秀造 平津小學校長 岡山市万成
 近藤 啓市 稅務署直轄課 長、岡山市西春日町三七
 近藤 祝治 栃原小學校長 久米郡坪和中坪和合
 近藤 榮松 前村長、兒島 郡莊内村
 近藤 正信 醫師、御津郡 建部村中田
 近藤 常子 齒科醫、津山 市二階町八
 近藤 政門 濟世常務委員

岡山市出行學區 近藤 里惠 醫師、御津郡 長田村
 近藤 堅介 前小學校長、 眞庭郡勝山町
 近藤 省藏 豊岡小學校長 御津郡圓城村小森
 近藤萬太郎 大原農研所長 農博、倉敷市高砂町
 近藤歡之助 濟世常務委員 兒島郡津立村
 近藤三郎 縣山林課技師 岡山市南方三二七
 近藤勝太郎 南洋貿易信用 重役、東京市芝二本樓町
 近藤甚五郎 無職、岡山市 七軒町
 近藤寛三郎 中帶江信販購 組長、郡津野村中帶江
 近藤敬次郎 醸造業、兒島 郡津立村
 近藤 寛 赤十字事務長 岡山市四番町
 近藤 齊 齒科醫、兒島 郡莊内村長尾
 古武鹿太郎 鶴山小學校長 呂久郡本庄村
 古武福四郎 大阪帝大教授 兵庫縣川邊郡長尾村
 古屋野崎 地主、倉敷市 平田
 古屋野安平 長崎醫大教授

五寶 勳次 濟世常務委員 岡山市岡南學區
 香山 親雅 辯護士會常議 員、岡山市山下新開地
 香山 晴雄 濟世顧問、英 田郡大原町
 香西藤太郎 農、淺口郡玉 島町
 香西 俊雄 國際電話重役 東京市小石川白山御殿町
 越宗 太平 酒造業、赤磐 郡島取上村西窪田
 越宗 利太 齒科醫、都窪 郡妹尾町
 越尾 淺吉 濟世常務委員 久米郡加美村
 頃末 繁雅 濟世顧問、淺 口郡寄島町
 甲田 剛 醫師、勝田郡 廣戸村
 甲田 博信 桑村郵便局長 久米郡桑村
 甲田 憲造 醫師、勝田郡 勝加茂村
 菰口 武夫 醫師、日赤岡 山支部病院
 孝忠 一雄 縣農務課技師 岡山市巖井九四
 郡山 義夫 縣經濟部長、 岡山市天瀬四一
 郡山 辰巳 中國民報主筆 岡山市新西大寺町七七

殊井榮一郎 倭文西信販購 利組長、久米郡倭文西村 黒止 巖 京大教授、京 都市左京區淨土寺石橋町
 佐藤 章 畫家、東京市 中野區高根町一二
 佐藤 廣松 公吏、都窪郡 早島町
 佐藤 林三 六高教授、岡 山市門田一、一六八
 佐藤 金造 金光中學校長 淺口郡金光町
 佐藤 來藏 濟世常務委員 久米郡大坪和村
 佐藤 辰藏 濟世常務委員 上房郡上水田村
 佐藤 敬造 醫師、呂久郡 牛窓町
 佐藤 秋夫 醫師、都窪郡 早島町
 佐藤 敏夫 醫師、和氣郡 伊部町
 佐藤 政夫 赤十字外科醫 長、岡山市内山下七
 佐藤 靜夫 醫師、後月郡 芳井町
 佐藤 恒夫 六條院町長、 淺口郡六條院町
 佐藤 達雄 齒科醫、岡山 市西山下七五
 佐藤 重雄 醫師、川上郡 成羽町
 佐藤 護雄 醫師、淺口郡 玉島町
 佐藤 範雄 金光教習老、 淺口郡金光町
 佐藤 國男 醫師、日本赤 十字社岡山支部病院
 佐藤 保孝 味野鹽信販購 利組長、兒島郡味野町
 佐藤 庄一 齒科醫、兒島 郡福田村呼松三ノ三
 佐藤 總一 矢掛警察署長 小田郡矢掛町
 佐藤 九一 農、川上郡落 合村
 佐藤 豪一 醫師、兒島郡 福田村
 佐藤 春一 醫師、和氣郡 日生町
 佐藤 俊治 茶屋町郵便局 長、都窪郡茶屋町
 佐藤 熊治 西川購販利組 長、久米郡西川村
 佐藤 輝次 英田郡吉野小 學校長、英田郡吉野村
 佐藤 太郎 芳田信販購利 組長、御津郡芳田村
 佐藤 虎吉 濟世常務委員 上道郡高島村
 佐藤 鶴吉 石井小學校長

人名録—サの部

岡山市内山下
 佐藤 重功 芳田小學校長
 岡山市門田
 佐藤 一衛 醫師、兒島郡
 味野町
 佐藤 一英 醫師、邑久郡
 太伯村
 佐藤 正勝 齒科醫、岡山
 市下田町一
 佐藤 吉弘 醫師、兒島郡
 錦立村
 佐藤 重政 岡山辯護士會
 常議員、岡山市西中山下
 佐藤 味明 芳井信販購組
 組長、後月郡芳井町
 佐藤 光則 辯護士、淺口
 郡玉島町
 佐藤 義道 辯護士、小田
 郡等岡町
 佐藤 日柱 不受不施講
 派管長、御津郡金川町
 佐藤 倉助 農、阿哲郡上
 刑部村大字大井野
 佐藤 敬太郎 出部信販購組
 長、後月郡出部村
 佐藤 繁太郎 齒科醫、後月
 郡芳井町與井
 佐藤 健太郎 妻封家、兒島
 郡琴浦町
 佐藤 康太郎 操陽村信販購
 利組長、上道郡操陽村
 佐藤 勝太郎 監警書記、津

山原裁判所検事局
 佐藤 幸太郎 特許局技師、
 東京市世田谷區經堂町
 佐藤 豊太郎 木炭商、川上
 郡成羽町
 佐藤 庄次郎 内燃機關工業
 組合理事、岡山市内山下
 佐藤 喜久治 安田銀行安野
 支店長、兒島郡味野町
 佐藤 馬之丞 濟世顧問、岡
 山市福田
 佐藤 善八郎 二川村購販組
 長、眞庭郡二川村
 佐藤 千萬太 梶重小學校長
 勝田郡梶重村
 佐藤 富三郎 縣議、岡山市
 門田屋敷九七
 佐藤 千代野 社會事業家、
 御津郡今村
 佐藤 喬 醫師、上道郡
 西大寺町
 佐藤 壽 醫師、兒島郡
 琴浦町
 久米郡弓削町
 久米郡弓削町
 持 齒科醫、後月
 郡高屋町八〇二
 早島町
 佐藤 茂 笹尾小學校長
 阿哲郡神代村
 佐々木 孝一 味野警察署長

兒島郡味野町
 佐々木 大一 吉野村信販購
 組長、勝田郡吉野村
 佐々木 良一 控訴院部長、
 東京市牛込區市谷砂土原
 市仁王町二〇
 佐々木 邦夫 齒科醫、岡山
 市仁王町二〇
 佐々木 忠亮 郷小學校長、
 久米郡大井東村
 佐々木 春子 醫師、津山市
 田町
 佐々木 佑二 資産家、東京
 市中野區吉田
 佐々木 達雄 吉川郵便局長
 上房郡吉川村
 佐々木 清作 齒科醫、岡山
 市丸龜町九〇
 佐々木 信次 廣島高師生
 徒主事、廣島市千田町
 佐々木 嘉平治 濟世常務委
 員、久米郡打穴村
 佐々木 達治郎 東大教授、
 東京市世田谷區經堂町三六
 市立天淵診療所
 佐々木 綱太郎 醫師、岡山
 縣立中島病院
 佐々木 柳太郎 醫師、吾田
 郡小田村
 佐々木 喬 岡山專賣局醫
 岡山市岡大學町二二五
 佐々木 繁太郎 商議、倉敷

市榮町
 佐々木 茂 縣警部、岡山
 市石岡町七六
 佐野 公平 齒科醫、岡山
 市内山下相生町
 佐野 誠一 芳井小學校長
 後月郡芳井町
 佐野 實徳 上水田小學校
 長、上房郡上水田村
 佐野 秀雄 步十附中佐藤
 商賣、岡山花畑日置町
 佐治 豊 醫師、岡山市
 東中山下四一
 佐伯 厚仁 濟世常務委員
 兒島郡粒江村
 佐守 銀治 富原驛長、富
 原驛構内官舎
 佐久間 秀次郎 東油野小學
 校長、川上郡湯野村
 佐山 武和 二川村信用組
 合長、眞庭郡二川村
 佐竹 唯四郎 倉敷稅務署長
 倉敷市旭町二五一
 佐武 等 刑部驛長、刑
 部驛構内官舎
 齋藤 義次 醫師、岡山市
 上石井二八五
 齋藤 勸治 岡山市助役、
 岡山市下石井七六
 齋藤 諸平 市社會課長、
 岡山市島田二五六ノ一
 齋藤 喜八 下芳賀信販購組

長、御津郡馬屋下村芳賀
 齋藤 一雄 工兵第十大隊
 附中尉、岡山上伊福東町
 齋藤 武夫 日本郵船倫敦
 支店長、東京赤坂區青山
 齋藤 晴雄 醫師、小田郡
 吉田村
 齋藤 正雄 堺小學校長、
 小田郡堺村
 齋藤 實理 三井物産造船
 所副部長、兒島郡日比町
 齋藤 靜子 醫師、上房郡
 高梁町
 齋藤 榮造 齒科醫、淺口
 郡玉島町上本町
 齋藤 大吉 京都帝大教授
 京都市上京區寺町
 齋藤 俊吉 東京工業大學
 教授、東京牛込北町一五
 齋藤 忠一 早島驛長、早
 島驛構内官舎
 齋藤 武一 濟世顧問、小
 田郡大井村
 齋藤 登一 里見小學校長
 淺口郡大島村
 齋藤 金太郎 濟世常務委員
 後月郡出部村上出部
 齋藤 伊太郎 池の坊宗匠、
 淺口郡大島村
 齋藤 牧次郎 濟世常務委員
 御津郡馬屋下村
 齋藤 清太郎 前東大教授、

神奈川縣高座郡藤澤町
 齋藤 徳太郎 農、御津郡馬
 屋上村
 齋藤 代次郎 醫師、御津郡
 横井村横井上
 齋藤 齊 倉敷商業教諭
 倉敷市阿知町
 齋藤 治 赤十字婦人科
 醫長、岡山市四番町二五
 齋藤 一郎 黃微實業學校
 長、吉備郡岡田村
 齋藤 廣三 農林省技師、
 岡山市大供官舎
 齋藤 太一 農林技師、御
 津郡一宮村大字辛川市場
 齋藤 熊太郎 農、上房郡上
 水田村
 齋藤 多一 市水道課長、
 岡山市富田町一五九
 西藤 末吉 倉敷市議、倉
 敷市白樂市
 坂本 菅二 岡山司法書士
 聯合會長、岡山市弓之町
 坂本 方一 辯護士、岡山
 市西中山下
 坂本 慶一 齒科醫、倉敷
 扇町六五五
 坂本 勇一 齒科醫、小田
 郡矢掛町二六二〇
 坂本 義夫 元代議士、岡
 山市花畑
 阪谷 芳郎 貴族院議員、
 坂見 周二 林野高女教諭

東京市小石川區原町三六
 阪谷 榮一 江原小學校長
 後月郡西江原町
 坂野 鐵次郎 貴族院議員、
 御津郡野谷村野野
 坂野 長夫 步十附二等軍
 醫、岡山市上伊福東町
 坂野 義誠 醫師、御津郡
 野谷村野野
 坂野 常善 豫備役海軍中
 將、御津郡野谷村
 坂田 倫三郎 中電工業重役
 兵庫縣武庫郡精道村
 坂田 滿作 濟世常務委員
 川上郡日里村
 坂手 章一 醫師、吾田郡
 上層原村
 坂手 哲 久田小學校長
 吾田郡久田村久田上原
 坂手 雄登 濟世顧問、吾
 田郡泉村
 坂部 浩 醫師、倉敷市
 本町
 坂部 素太 縣土木課技師
 岡山市總濱一九五
 坂井 勝 檢事、岡山區
 裁判所檢事局
 坂口 馬太郎 畜産、阿哲郡
 上刑部村
 坂西 幹雄 縣視學、岡山
 市門田操山一、二九一
 坂見 周二 林野高女教諭

勝田郡勝岡田町
 坂上 丈三郎 土木技師、岡
 山市内山下九三
 櫻井 二郎 齒科醫、和氣
 郡和氣町
 櫻井 百之千 工兵十大隊附
 大尉、岡山市上伊福東町
 櫻井 喜一郎 製炭、阿哲郡
 千屋村
 櫻井 夢子 妻封家、和氣
 郡日等村
 櫻井 多喜夫 齒科醫、津山
 市神戶
 櫻井 太刀雄 齒科醫、英田
 郡河合村龍宮
 櫻間 靜太 三石郵便局長
 和氣郡三石町
 酒井 龜一郎 齒科醫、小田
 郡等岡町二二一六
 酒井 薫 産科中央金庫
 主事、東京渋谷区神山町三
 酒井 健一郎 齒科醫、小田
 郡等岡町
 酒井 惣一 醫師、久米郡
 稻岡南村
 酒井 鏡造 陸軍少將、久
 米郡西川村
 酒井 榮藏 九州肥筑鐵道
 代表、東京市品川區大井
 眞田 碩郎 醫師、淺口郡
 西阿知町
 眞田 爲一 和氣驛長、和

氣驛構内官舎
 眞田 荒太郎 濟世常務委員
 淺口郡黒崎村黒崎
 榮谷 十郎 商議、岡山市
 東田町
 榮谷 利一 商議、岡山市
 中ノ町
 室田 時四郎 醫師、岡山市
 船頭町一三
 室田 義英 市水道課技師
 岡山市湊二〇七
 定本 六二 濟世常務委員
 邑久郡朝日村
 定本 重之 久米郵便局長
 久米郡久米村
 定兼 壽太 中川南小學校
 長、小田郡中川村
 定金 空恵 大和小學校長
 吉備郡大和村
 定兼 三郎 岡山縣信聯理
 事、勝田郡植月村
 定兼 八恵 金中教師、淺
 口郡金光町
 定金 一正 齒科醫、淺口
 郡金光町二二九
 定金 正恵 玉島第二小學
 校長、淺口郡金光町
 定平 長徳 農、小田郡新
 山村
 笹井 馬之助 濟世常務委員

眞庭郡美和村全野上
 笹井 彌生 醫師、上房郡
 上竹莊村
 笹木 猛 醫師、兒島郡
 山田村
 笹田 五郎 齒科醫、川上
 郡成羽町一〇二
 神原 環 明治小學校長
 川上郡日里村
 神原 亨 醫師、岡山市
 内山下九〇
 更井 久正 商議、岡山市
 西大寺町
 皿井 勝美 井原小學校長
 後月郡井原町
 皿井 立三郎 醫師、大阪市
 東區平野町
 佐賀 玄治 龍川信用組合
 長、久米郡龍川村
 澤原 光輝 醫師、赤磐郡
 佐伯本村
 里見 久松 商議、岡山市
 小橋町
 幸本 一男 工兵十大隊附
 少尉、岡山市北方四二八
 雜賀修二郎 六高教授、岡
 山市北方七一五
 篠山 常太郎 前縣議、兒島
 郡福田村
 貞友 新吾 神根信販購利
 組長、和氣郡神根村
 佐桑 康 植月小學校長

勝田郡植月村
五月女 廣 岡山米穀事務所
所技手、岡山市大供

シ

清水 光治 縣衛生課長、
岡山市門田四、一四二一
清水 二郎 縣經濟衛生課
主事、岡山上伊福二五一
清水 熊次郎 本郷信購販利
組合長、阿哲町本郷村
清水 烈太郎 濟世常務委員
勝田郡飯岡村
清水 多榮 岡山醫大教授
岡山市四番町四三
清水 一雄 允中小學校長
淺口郡六條院町
清水 新一郎 岡山運事電力
掛、岡山市四番町二三
清水 勝 岡山醫大助教
授、岡山市内山下石山三
清水 哲太郎 菅生小學校長
都窪郡庄村松島
清水 泰爾 縣屬兼視學、
岡山市弓之町五一
清水 長郷 白米商組合長
東京市澁谷神山町二五
清水 八百一 總領事、中華
民國湖北宜昌口縣漢口
清水 辰太 海軍軍醫學校
教官、東京世田谷若林町

清水 進一 岡山地方專賣
局技師、岡山市大供七四
清水 道雄 齒科醫、吉備
郡總社町四四一
清水 直記 齒科醫、兒島
郡立村北方
清水 宗治 醫師、上房郡
上水田村
重見 多喜男 井原驛長、井
原驛構内社宅
重松 政夫 五城村信販組
長、赤鷲郡五城村
重政 良一 縣神學、岡山
市北方四二四
重松 悦男 齒科醫、岡山
市内山下三二
重松 當一 醫師、久米郡
大井東村
重實 誠兵治 津賀南小學校
長、御津郡津賀村
重丸 彌太郎 南兩洲製糖常
務、奉天市紅梅町
重徳 敏太 總社小學校長
吉備郡總社町
重徳 準一 黒忠小學校長
川上郡日里村
重本 梅吉 西大寺稅務署
長、上道郡西大寺町三三
重田 泰介 三菱重工業顧
問、東京市小石川丸山町
重田 梯一 大吉小學校長
英田郡大吉村

重見 邦治 縣農會幹事、
岡山市三門一六六二
重見 源一郎 商業、岡山市
上石井
重見 三壽太 醫師、上道郡
津田村
重見 清八 由加驛長、由
加驛構内官舎
重川 亨 檢察、高梁區
裁判所檢察局
島田 憲之助 歩十附大隊長
少佐、岡山市玉江町一一
島田 定持 公證人、岡山
市内山下三二
島 賢太郎 商議、岡山市
小橋町
島崎 貞一 上河内信購組
長、眞庭郡河内村上河内
島崎 峰 齒科醫、淺口
郡西阿和町西原
島崎 正 米來小學校長
眞庭郡河内村
島村 重次 縣庶務課長、
岡山市東河原六五
島村 甚吉 邑久郡農會長
邑久郡國府村
島村 壽男 太伯小學校長
上道郡高島村
島津 勝次 齒科醫、兒島
郡甲浦町一四一五
下村 千代松 玉島高橋長
淺口郡船橋村船橋

下村 飛登志 資石小學校長
赤鷲郡仁振村
下山 貞四郎 高倉信購販組
合長、吾田郡高倉村
下山 元一 日銀調査役、
大阪府豐能郡中町櫻塚
下山 丈夫 醫師、鐘淵紡
績岡山工場醫局
下田 忠 岡山驛改札掛
主任、御津郡津津村
下田 勝久 關東高等法
院檢察官、旅順市一戸町
白神 壽吉 大邱女子普通
學校長、大邱府大邱
白神 壽 新見農林學校
長、岡山市内山下三〇
白神 信太郎 阿曾小學校長
吉備郡總社町
白神 始一 高松青年學校
長、都窪郡加茂村
白神 信太 齒科醫、淺口
郡玉島町相島
白神 種二 商議、倉敷市
福井
白岩 龍平 東亞興業取締
役、東京市澁谷區南平臺
白石 龜雄 齒科醫、倉敷
市濱
白石 功 醫師、英田郡
林野町
白坂 正吉 醫師、岡山市
下田町二二

進藤 誠一 遞信省電務局
長、東京品川大井鹿島町
進藤 芹吉 縣學校衛生課
師、岡山市門田屋敷八七
茂見 義夫 浦和地方裁判
所檢察正、浦和市浦和裁
判所
茂成 福三 仁堀小學校長
赤鷲郡仁堀村
新池 人士 農、上房郡吉
川村
新免 勝 臺灣總督府松
山療養所長、巖北市大正町
新免 殖 粟井小學校長
英田郡西粟倉村
新宅 哲夫 醫師、岡山市
下田町三三
新海 圭一 醫師、都窪郡
中洲村
釋 大空 濟世顧問、後
月郡縣主村
釋 日壽 不受不施派管
長、御津郡金川町
釋 日心 本覺寺住職、
御津郡金川町本覺寺内
孫山 常太郎 素封家、兒島
郡福田村
首尾 木國太郎 倉敷驛長、
倉敷驛構内官舎
敷波 重治郎 岡山醫大教授
岡山市南方中道二四六
志茂 樂一 濟世常務委員

久米郡南南村

志賀 平 社會教育課長
岡山市四番町六六
宋戸 嘉惠次 日本タンカー
代表、東京市澁谷神山町
澁谷 光時 水産試験場長
岡山市北方三六四
柴田 亮克 富原信販購利
組長、眞庭郡富原村
柴田 卓爾 醫師、邑久郡
行幸村
柴田 剛太 醫師、邑久郡
大宮村
柴田 太郎 醫師、眞庭郡
美川村
柴田 博衛 醫師、岡山市
三番町二六
柴田 潤一 醫師、岡山市
大供一九〇
柴田 治 辯護士、津山
市椿高下
柴部 壽男 瀬戸實業學校
長、赤鷲郡瀬戸町
柴原 希祥 畫家、京都市
岡崎法勝寺町一六
正保 千代藏 町長、都窪郡
妹尾町
霜山 淑子 齒科醫、兒島
郡日比町五
霜山 精一 札幌控訴院長
東京市中野沼袋南町
藤野 重 農業、兒島郡

兒島町

神保 泰一 檢察、岡山區
裁判所檢察局
秀 警一 金浦小學校長
小田 陶山 村
所司 靜雄 中山青年學校
長、岡山市上西川浦上
町
庄 要 大旭自動車會
社重役、上房郡有漢村
庄 竹三郎 成羽郵便局長
川上郡成羽町
嶋田 伍一 醫師、小田郡
神島外村
篠井 尚一 醫師、小田郡
等岡町
シスター・メリ・ユスカ 清
心高女學校長、岡山市上井
福二六〇

ス

杉本 亮一 高屋尋常小學
校長、後月郡高屋町
杉本 賢一 吾田郡中谷小
學校長、吾田郡芳野村
杉本 能一 小田販購利組
長、小田郡小田町
杉本 藤一 判事、吉備郡
足守町上足守
杉本 二郎 藤野小學校長
和氣郡藤野村

杉本 金藏 山之上信用組
合長、久米郡吉岡村山之村
杉本 義夫 高梁耕地出張
所長、上房郡高梁町
杉本 信義 醫師、吉備郡
足守町上足守
杉本 榮壽 妙林寺住職、
岡山市上伊福妙林寺
杉本 甫 津賀郵便局長
御津郡津賀村
杉 兼吾 濟世常務委員
阿哲郡美敷村
杉 琢磨 正金銀行監査
役、東京市中野沼袋南
杉 聖太郎 前縣議、阿哲
郡石壁郷村大字石壁
杉 政人 軍令部出仕海
軍中將、東京赤坂青山南町
杉 榮三郎 東京帝博總長
東京市小石川獨龍町
杉山 繁輝 金澤醫大教授
金澤市池田町
杉山 増男 芳野小學校長
津山市院庄
杉山 龜一 井和信販購利
組長、久米郡井和村
杉山 正義 醫師、眞庭郡
久世町
杉山 官平 前縣議、久米
郡弓削町
杉山 勘治 誕生寺信販購
組長、久米郡南南村

鈴木 信太郎 豐野小學校長
上房郡上竹莊村
鈴木 茂一郎 歩十附大尉一
中隊長、岡山市國富
鈴木 竹三郎 商議、岡山市
鷹屋町
鈴木 謙爾 醫師、津山市
川崎
鈴木 孫平 水田小學校長
上房郡水田村
鈴木 定一 農、上道郡高
島村大字藤園一九九
鈴木 重隆 醫師、上房郡
皆郡町
鈴木 貞子 醫師、上房郡
有漢村
鈴木 稔 岡山醫大教授
岡山市弓之町一四四
鈴木 優 醫師、眞庭郡
美川村
鈴木 勇 縣農務課技師
岡山市南方玉江町二
砂川 泰 岡山陸隊區司
令官、歩兵大佐、岡山市南方
砂場兼太郎 酒造業、兒島
郡銘立村
砂田 善平 醫師、津山市
元魚町
砂田 久松 備中高梁驛長
高梁驛構内官舎
砂田 正一 畫家、岡山市
柿屋町

須磨 學之 工兵第十大隊 長大佐、岡山市上伊福 須藤 潔 醫師、上房郡 高梁町 須貝忠治郎 醫師、庭真郡 新庄村 須賀 廣太 市立岡山病院 長、岡山市上伊福三〇二 須々木幾治 浮田村信販購 組長、上道郡浮田村 須山重太郎 農、上房郡吉 川村 須田 武市 縣社寺兵事課 長、岡山市弓之町一三六 須田秋三郎 酒造業、英田 郡巨勢村檉村 菅 秀一 齒科醫、赤警 郡周田村 菅 實 醫師、久米郡 福渡町 菅 一嘉 醫師、後月郡 西江原町 菅 忠芳 醫師、岡山市 野田屋町二二七 菅田 士郎 醫師、阿哲郡 新見町 菅田 越夫 公吏、吾田郡 神庭村 菅原 信二 岡山女師校長 岡山市濱 菅原三郎兵衛 片上驥長、 同驛構内社宅

菅野 一 醫師、倉敷中 央病院 菅形惠三次 高陽信購販利 組長、赤警郡高陽村 菅谷勝太郎 濟世常務委員 吾田郡羽出村羽出上 菅澤武三郎 醫師、東京市 世田谷區玉川 菅村 乙彦 步兵少佐、岡 山市廣瀬町三三三 住本木太郎 工兵第十大隊 附中尉、岡山市北方 角 恭 醫師、岡山市 下西川町八五 角川隆太郎 八束奉公信販 購利組長、眞庭郡八束村 角田 權 醫師、津山市 田町 角野 要平 釀造業、吉備 郡池田村 角南 衛 濟世常務委員 赤警郡周田村 陶山 素一 佐賀百六銀行 重役、佐賀市水ヶ江町 陶浪 歡太 多額納稅者、 郡蓬都帶江村 陶守 熊治 市郡計課技師 岡山市旭町七 陶守三思郎 醫師、岡山市 内山下三〇ノ六 末宗 直夫 西原小學校長 勝田郡豐田村

末宗 親秀 醫師、英田郡 江見町 末廣米次郎 無職、岡山 船着町 村主 一郎 醫師、岡山市 弓之町一三三 周藤 正太 笠岡郵便局長 赤警郡笠岡村 藤長 鷹雄 大井和小學校 長、久米郡大井和村 駿河彌四郎 濟世常務委員 英田郡巨勢村 正太郎 六高教授、岡 山市門田一、一七二 裾分 正雄 辯護士、淺口 郡玉島町 洲脇勝太郎 丁業、兒島郡 琴浦町 居森松治郎 小田村信販購 利組長、吾田郡小田村 七

長、吉備郡真金町 妹尾吟一郎 酒造家、後月 郡西江原町 妹尾 省三 福山小學校長 英田郡土居村 妹尾 鍊一 菅生小學校長 阿哲郡菅生村 妹尾 富太 美山小學校長 小田郡川面村 妹尾 保三 美川小學校長 小田郡川面村 妹尾岸太郎 農、阿哲郡天 神村 妹尾佐太郎 畜産、阿哲郡 天神村 妹尾清一郎 縣視學兼屬、 岡山市國富五八八 妹尾道太郎 箭田郵便局長 吉備郡箭田村 妹尾 熊男 岡山縣官帖學 校長、岡山市西古松 妹尾 徹谷 郷土史家、岡 山市東山鶴卷町 關 幸重 植村商店支配 人、東京市麻布區設町 關 孝次 三和銀行庶務 課長、堺市大湊北町九 關 當純 濟世顧問、津 山市北町 關 正次 岡山醫大助教 授、岡山市東古松一二九 關 滿磨 野馳驛長、野 關 滿磨 野馳驛長、野

組長、淺口郡金光町上竹 瀧戸 慎 齒科醫、岡山 市下石井三〇二 瀧戸 政一 筭女教諭、小 瀧戸等岡町 世良 省三 岡山保線事務 掛、岡山上石井鐵道官舎 世良萬龜男 西大寺小學校 長、上道郡西大寺町 瀨經茂十郎 一宮信購組長 吾田郡一宮村 千原 廉 濟世顧問、英 田郡讀井村 千田 勇 津山市議、津 山市川崎町 千田 要治 醫師、岡山市 桶屋町一二五 仙石 良平 日本麥酒重役 東京市四谷本村町三三四 船石 晋一 滿洲醫大教授 滿洲國奉天市秋町 撰 十三 濟世顧問、小 田郡稻倉村

園村 團次 縣道路技師、 岡山市門田四一八 染川 軍平 備中神代驛長 (兼坂根驛長、備中神代驛 構内官舎) 染谷 寛治 南米拓殖重役 京都市左京區南禪寺 會根崎勝人 歩十附中尉、 岡山市津島土生一五 夕 高橋 寛 濟世常務委員 吾田郡高野村 高橋 寛 醫師、御津郡 津野村上賀茂 高橋 萬作 醫師、川上郡 湯野村 高橋義三郎 齒科醫、英田 郡大原町 高橋 正雄 金光教教監、 淺口郡金光町 高橋 仁作 鎮南浦商議、 朝鮮鎮南浦附三和町 高橋 特 廣島文理大教 授、廣島市白鳥町一二二 高橋 浩 泉小學校長、 吾田郡泉村女原 高橋 節太 義之小學校長 後月郡西江原町 高橋 章 和氣土木出張 所長、和氣郡和氣町

高橋左太郎 RKアナウン サ、岡山市門田四五二 高橋 宇逸 東加茂村信用 組合長、吾田郡東加茂村 高橋 靜雄 矢中教諭、小 田郡矢掛町 高橋 雄吉 倉庫重役、愛 媛縣新居郡新居濱町甲 高橋 彌平 元井原町長、 後月郡井原町 高橋 誠三 元安田銀行井 原支店長、後月郡井原町 高橋 慈本 濟世顧問、小 田郡北川村 高橋 義典 前縣議、小田 郡等岡町 高田 高一 大江小學校長 小田郡大江村 高田 善論 無職、眞庭郡 川東村 高田久米太郎 商業、岡山 市内山下 高田 慎一 住銀牛込支店 長、東京牛込南横町一五 高田 一道 醫師、淺口郡 寄島町 高田 照吉 新庄信販購利 組合長、眞庭郡新庄村 高田利藤治 等岡小學校長 小田郡等岡町 高田 爲美 中銀取締役、 眞庭郡川東村大字田原

高原 重平 修養小學校長 和氣郡日笠村 高原 壽雄 岡山市商教諭 岡山市濱濱十二 高原 又市 高原ゴム會社 社長、岡山市南方 高原 茂 下津井驛長、 下津井驛構内社宅 高原 武雄 齒科醫、上道 郡西大寺町 高原十三治 醫師、岡山市 西中山下五九 高木 龍鑿 濟世常務委員 吉備郡服部村長良 高木純五郎 長崎醫大教授 長崎市夫婦川町 高木宗三郎 等岡警察署長 小田郡等岡町 高木萬太郎 高屋信購販組 合長、後月郡高屋町 高木 謙二 素封家、後月 郡高屋町 高木 三郎 滿洲尙書府祕 書官長、東京中野大和町 高木 倭太 農、小田郡新 山村 高戸 正虎 勝間田驛長、 勝間田驛構内官舎 高戸 郁三 中銀取締役、 岡山市上田石町四〇 高山太三郎 濟世顧問、勝 田郡勝加茂村

ウ

夕

七

人名録一ノセ、ソ、タの部

高山 岡一 濟世常務委員
 高杉 靜一郎 無職、都窪郡
 高杉 一 無職、都窪郡
 高杉 三須村 清輝小學校長
 高杉 國富 高杉大治郎 警部郵便局長
 高杉 晋 日本麥酒重役
 高杉 新一郎 海軍中將、東
 高杉 西大久保五〇四
 高杉 美代藏 前代議士、小
 田郡矢掛町
 高杉 友作 林野警察署長
 高杉 友作 英田郡林野町
 高杉 朴介 小倉石油取締
 役、東京市杉並區天沼一
 高杉 茂久之助 濟世顧問、
 小田郡矢掛町
 高杉 平助 農、小田郡矢
 掛町
 高杉 定次郎 商議、津山市
 二丁目一七
 高杉 嘉一 歩十中佐、
 岡山市廣瀬町一四五
 高杉 輝太郎 醫師、淺口郡
 玉島町
 高杉 懋 醫師、淺口郡
 六條町
 高杉 文子 醫師、兒島郡
 高杉 文子 醫師、兒島郡

高杉 靜一郎 無職、都窪郡
 高杉 一 無職、都窪郡
 高杉 三須村 清輝小學校長
 高杉 國富 高杉大治郎 警部郵便局長
 高杉 晋 日本麥酒重役
 高杉 新一郎 海軍中將、東
 高杉 西大久保五〇四
 高杉 美代藏 前代議士、小
 田郡矢掛町
 高杉 友作 林野警察署長
 高杉 友作 英田郡林野町
 高杉 朴介 小倉石油取締
 役、東京市杉並區天沼一
 高杉 茂久之助 濟世顧問、
 小田郡矢掛町
 高杉 平助 農、小田郡矢
 掛町
 高杉 定次郎 商議、津山市
 二丁目一七
 高杉 嘉一 歩十中佐、
 岡山市廣瀬町一四五
 高杉 輝太郎 醫師、淺口郡
 玉島町
 高杉 懋 醫師、淺口郡
 六條町
 高杉 文子 醫師、兒島郡
 高杉 文子 醫師、兒島郡

高杉 靜一郎 無職、都窪郡
 高杉 一 無職、都窪郡
 高杉 三須村 清輝小學校長
 高杉 國富 高杉大治郎 警部郵便局長
 高杉 晋 日本麥酒重役
 高杉 新一郎 海軍中將、東
 高杉 西大久保五〇四
 高杉 美代藏 前代議士、小
 田郡矢掛町
 高杉 友作 林野警察署長
 高杉 友作 英田郡林野町
 高杉 朴介 小倉石油取締
 役、東京市杉並區天沼一
 高杉 茂久之助 濟世顧問、
 小田郡矢掛町
 高杉 平助 農、小田郡矢
 掛町
 高杉 定次郎 商議、津山市
 二丁目一七
 高杉 嘉一 歩十中佐、
 岡山市廣瀬町一四五
 高杉 輝太郎 醫師、淺口郡
 玉島町
 高杉 懋 醫師、淺口郡
 六條町
 高杉 文子 醫師、兒島郡
 高杉 文子 醫師、兒島郡

高杉 靜一郎 無職、都窪郡
 高杉 一 無職、都窪郡
 高杉 三須村 清輝小學校長
 高杉 國富 高杉大治郎 警部郵便局長
 高杉 晋 日本麥酒重役
 高杉 新一郎 海軍中將、東
 高杉 西大久保五〇四
 高杉 美代藏 前代議士、小
 田郡矢掛町
 高杉 友作 林野警察署長
 高杉 友作 英田郡林野町
 高杉 朴介 小倉石油取締
 役、東京市杉並區天沼一
 高杉 茂久之助 濟世顧問、
 小田郡矢掛町
 高杉 平助 農、小田郡矢
 掛町
 高杉 定次郎 商議、津山市
 二丁目一七
 高杉 嘉一 歩十中佐、
 岡山市廣瀬町一四五
 高杉 輝太郎 醫師、淺口郡
 玉島町
 高杉 懋 醫師、淺口郡
 六條町
 高杉 文子 醫師、兒島郡
 高杉 文子 醫師、兒島郡

田中 完 岡師訓導、岡
 山市三番町
 田中 晴男 下津井小學校
 長、兒島郡下津井町
 田中 朝清 福渡小學校長
 赤鷲郡竹枝村
 田中 晴 農、兒島郡福
 田村
 田中 勝豊 齒科醫、岡山
 市四番町二四
 田中 五六 醫師、赤鷲郡
 瀧瀬村江尻
 田中 剛 内務省技師、
 東京市麻布本村町二二五
 田中 眞一郎 醫師、上道郡
 西大寺町
 田中 誠之 醫師、大阪市
 浪速區惠美須町四
 田中 春治 岡山縣購組聯
 合會主事、御津郡大野村
 野田
 田中 良 農、上房郡吉
 川村
 田中 雄鶴 吹屋郵便局長
 川上郡吹屋町
 田中 常造 辯護士、岡山
 市北町
 田中 常太郎 秀天郵便局
 長、兒島郡莊内村
 田中 於鬼 岡山醫大學長
 岡山市門田一、一五三
 田邊 充一 山田小學校長
 田口勝太郎 醫造製造理

田邊 眞庭郡二川村
 田邊 珠磨 齒科醫、淺口
 郡玉島町二二三
 田邊 忠藏 千屋郵便局長
 阿哲郡千屋村
 田邊 綾雄 妻封家、淺口
 郡長尾町
 田邊 正廣 岡山縣助役、
 岡山市上石井鐵道官舎
 田邊 樹一 阿曾信販購利
 組長、吉備郡阿曾村
 田邊 操 京城帝大教授
 京城府光熙町
 田邊 隆二 京都電燈社長
 京都市右京區木ノ下町
 田邊 榮 總社高女教諭
 吉備郡總社町
 田邊 浩 岡山醫大教授
 岡山市弓之町六四
 田邊 善太郎 備前織物重役
 兒島郡粒江村
 田邊 定 齒科醫、小田
 郡等岡町二〇三
 田口 梁兵 縣議、吾田郡
 香々美南村
 田口 寄文治 濟世顧問、吾
 田郡田邑村
 田口 眞能 濟世顧問、後
 月郡山野上村
 田口 雄一郎 清酒釀造多額
 納稅者、淺口郡方町
 田口勝太郎 醫造製造理

田中 完 岡師訓導、岡
 山市三番町
 田中 晴男 下津井小學校
 長、兒島郡下津井町
 田中 朝清 福渡小學校長
 赤鷲郡竹枝村
 田中 晴 農、兒島郡福
 田村
 田中 勝豊 齒科醫、岡山
 市四番町二四
 田中 五六 醫師、赤鷲郡
 瀧瀬村江尻
 田中 剛 内務省技師、
 東京市麻布本村町二二五
 田中 眞一郎 醫師、上道郡
 西大寺町
 田中 誠之 醫師、大阪市
 浪速區惠美須町四
 田中 春治 岡山縣購組聯
 合會主事、御津郡大野村
 野田
 田中 良 農、上房郡吉
 川村
 田中 雄鶴 吹屋郵便局長
 川上郡吹屋町
 田中 常造 辯護士、岡山
 市北町
 田中 常太郎 秀天郵便局
 長、兒島郡莊内村
 田中 於鬼 岡山醫大學長
 岡山市門田一、一五三
 田邊 充一 山田小學校長
 田口勝太郎 醫造製造理

田邊 眞庭郡二川村
 田邊 珠磨 齒科醫、淺口
 郡玉島町二二三
 田邊 忠藏 千屋郵便局長
 阿哲郡千屋村
 田邊 綾雄 妻封家、淺口
 郡長尾町
 田邊 正廣 岡山縣助役、
 岡山市上石井鐵道官舎
 田邊 樹一 阿曾信販購利
 組長、吉備郡阿曾村
 田邊 操 京城帝大教授
 京城府光熙町
 田邊 隆二 京都電燈社長
 京都市右京區木ノ下町
 田邊 榮 總社高女教諭
 吉備郡總社町
 田邊 浩 岡山醫大教授
 岡山市弓之町六四
 田邊 善太郎 備前織物重役
 兒島郡粒江村
 田邊 定 齒科醫、小田
 郡等岡町二〇三
 田口 梁兵 縣議、吾田郡
 香々美南村
 田口 寄文治 濟世顧問、吾
 田郡田邑村
 田口 眞能 濟世顧問、後
 月郡山野上村
 田口 雄一郎 清酒釀造多額
 納稅者、淺口郡方町
 田口勝太郎 醫造製造理

田中 完 岡師訓導、岡
 山市三番町
 田中 晴男 下津井小學校
 長、兒島郡下津井町
 田中 朝清 福渡小學校長
 赤鷲郡竹枝村
 田中 晴 農、兒島郡福
 田村
 田中 勝豊 齒科醫、岡山
 市四番町二四
 田中 五六 醫師、赤鷲郡
 瀧瀬村江尻
 田中 剛 内務省技師、
 東京市麻布本村町二二五
 田中 眞一郎 醫師、上道郡
 西大寺町
 田中 誠之 醫師、大阪市
 浪速區惠美須町四
 田中 春治 岡山縣購組聯
 合會主事、御津郡大野村
 野田
 田中 良 農、上房郡吉
 川村
 田中 雄鶴 吹屋郵便局長
 川上郡吹屋町
 田中 常造 辯護士、岡山
 市北町
 田中 常太郎 秀天郵便局
 長、兒島郡莊内村
 田中 於鬼 岡山醫大學長
 岡山市門田一、一五三
 田邊 充一 山田小學校長
 田口勝太郎 醫造製造理

田邊 眞庭郡二川村
 田邊 珠磨 齒科醫、淺口
 郡玉島町二二三
 田邊 忠藏 千屋郵便局長
 阿哲郡千屋村
 田邊 綾雄 妻封家、淺口
 郡長尾町
 田邊 正廣 岡山縣助役、
 岡山市上石井鐵道官舎
 田邊 樹一 阿曾信販購利
 組長、吉備郡阿曾村
 田邊 操 京城帝大教授
 京城府光熙町
 田邊 隆二 京都電燈社長
 京都市右京區木ノ下町
 田邊 榮 總社高女教諭
 吉備郡總社町
 田邊 浩 岡山醫大教授
 岡山市弓之町六四
 田邊 善太郎 備前織物重役
 兒島郡粒江村
 田邊 定 齒科醫、小田
 郡等岡町二〇三
 田口 梁兵 縣議、吾田郡
 香々美南村
 田口 寄文治 濟世顧問、吾
 田郡田邑村
 田口 眞能 濟世顧問、後
 月郡山野上村
 田口 雄一郎 清酒釀造多額
 納稅者、淺口郡方町
 田口勝太郎 醫造製造理

築澤芳治郎 牛炭高女校長
眞庭郡落合町中
郡志 太郎 地主、都窪郡中洲村
塚本 準藏 穀物検査所長
岡山市小橋町九二
塚本 準藏 岡山縣穀物検査所長岡山市小橋町九二
妻井 一郎 縣教育會主事
岡山市巖井一三六

テ

上房郡高梁町
寺崎 剛 縣立學業處、岡山市四番町二
寺岡三郎 市議、岡山市上田町二一九
寺山研太郎 會社重役、都窪郡早島町
寺本 數衛 齒科醫、岡山市川崎町六三
寺松國太郎 畫家、京都市東山通二條下ル
出羽 助一 醫師、倉敷中央病院内
醍醐 義等 倉敷勞研所長
醫師、倉敷市白樂市
天羽 馬八 六高郵便局長
岡山市門田文化町
寺松隆太郎 醫師、倉敷市平田

ト

土井 不羈 東京文理天教
授、神奈川縣鎌倉町
土井 雅子 醫師、赤鷲郡瀨戶町
土居 章平 宮崎縣書記官
宮崎市高千穂通一丁目
土井 清 津賀小學校長
御津郡長田村井原
土肥原賢二 陸軍少將、關東軍司令部附
土居 通博 中銀取締役副
頭取、青田郡田島村
土肥 格平 青野小學校長
後月郡高屋町
土井 和清 湯瀨村長、赤鷲郡湯瀨村
土岐 滿知 郵便局長、阿哲郡新郷村
土井 高次 大内小學校長
赤鷲郡湯瀨村
土井 九一 濟世常務委員
御津郡長田村
土岐 知夫 大島西小學校
長、小田郡北川村
土岐卯一郎 新郷村信販購
利社長、阿哲郡新郷村
土井利太郎 水田村信販購
組長、上房郡水田村
土光午次郎 濟世常務委員
御津郡大野村
土光次郎 農、御津郡大野村

土倉光三郎 男爵、岡山市東町一
土井松太郎 商議、津山市元魚町
戶田 穆平 熊谷郵便局長
阿哲郡熊谷村
戶田 章 富原郵便局長
眞庭郡富原村
戶川 直一 日比小學校長
兒島郡日比町日比
戶田彦太郎 濟世顧問、眞庭郡富原村
戶川 專治 前縣議、赤鷲郡五城村新庄
戶井 光雄 阿波村信用組
合長、青田郡阿波村
戶田 伸良 瀬戶稅務署長
赤鷲郡瀬戶町三二
戶田 虎三 濟世顧問、赤鷲郡萬富村
戶川 要平 醫師、赤鷲郡雷岡村小原
戶田 銀三 後樂園縣長、上道郡西大寺町市場町
戶田 軍兵 醫師、後月郡井原町
戶川 卓次 齒科醫、赤鷲郡那珂岡村小原
戶川 恒雄 齒科醫、赤鷲郡仁堀村平山
鳥越 武 神島內信用組
合長、小田郡神島内村

鳥越 一郎 豐野小學校長
英田郡江見町
鳥越嘉平治 大野村信販購
組長、御津郡大野村
鳥越天一郎 元縣議、後月郡出郡村
鳥山 好人 醫師、兒島郡月比町
鳥越 保太 林野高女校長
上道郡雄神村原
鳥越 讓一 齒科醫、淺口郡玉島町二八
鳥越定次郎 醫師、小田郡宇戶村
鳥越 義慶 津山市議、津山市中之町
鳥取 義倫 齒科醫、津山市新職人町二四
鳥取 榮 齒科醫、岡山市三番町二五
鳥越 義重 商議、津山市元魚町
富山 博 吉備郡新本小學校長、吉備郡新本村
富阪 薫 梶原郵便局長
勝田郡梶原村
富岡 清美 成羽警察署長
川上郡成羽町
富岡 靜太 旭東小學校長
岡山市門田屋敷
富部 篤 濟世顧問、阿哲郡上刑部村

富山 二郎 辯護士、神戸市北長狹道
富山順次郎 岡山市議、岡山市下石井
富田辰次郎 商業、岡山市内山下
富岡 諒一 醫師、吉備郡河曾村
富岡 村一 商議、岡山市鷹屋町
富岡 甫一 醫師、吉備郡阿曾村
富山 好一 倉敷高女教諭
倉敷市
富岡 德平 商議、津山市橋本町
富田 秀男 山田村信販購
組長、和氣郡山田村
友澤 昇 醫師、岡山市上西川一七七
友次 彰夫 醫師、岡山市一番町三〇
友保 正雄 醫師、岡山市桶屋町三六
友保 知 木炭同業組長
西田郡奧津村長藤
友金 藤吉 德田小學校長
眞庭郡川上村
友保 雅嗣 興津利用組合
長、西田郡興津村
友道 憲二 芳井青年學校
長、後月郡芳井町

人名録一ツ、ナの部

友重 八郎 信販購利組合
長、久米郡倭文西村
年末 三郎 辯護士、岡山市上之町
年本 義章 齒科醫、津山市福渡町六一
德永 節衛 和氣高女教諭
和氣郡藤野村藤野
德長久間太 縣保安課長、岡山市弓之町八二
徳山勝彌太 六高講師、岡山市弓之町四四
徳田慶之助 濟世常務委員
上房郡津川村
徳毛 卓三 醫師、岡山市内山下九〇
徳田 善之 町長、上房郡高梁町
徳永壯太郎 濟世顧問、兒島郡味野町
豊崎彦治郎 商業、岡山市柿屋町
豊 重二 判事、岡山地方裁判所
豊田 治作 前縣議、西田郡東加茂村
豊福 寛 豊福商店取締役、津山市鐵砲町
豊山 猛 齒科醫、岡山市岩田町二〇
時岡隆太郎 地方技師、山口縣工業試験場内

時松 可一 小田小學校長
小田郡中川村
時實 秋雄 京城日報社長
京城府三坂道一九四
時岡登久惠 濟世顧問、兒島郡上村
道滿 邦政 石相小學校長
赤鷲郡湯取上村
道家齊一郎 專修大學理事
東京市四谷區三光町
東内 熊夫 湯壽青年學校
長、英田郡檉原村檉原上
東條 鐵藏 醫師、吉備郡生石村
時光 誠一 弓削青年學校
長、岡山市南方二七六
時實 賢 齒科醫、岡山市古京町四二
銅前國三郎 商業、岡山市上之町
外山 芳文 篆刻家、後月郡芳井町
富久 力松 工博、大阪市南區瓦屋町三ノ六五
瀧部 亦郎 實合信販購組
長、御津郡管谷村
飛田 晋一 齒科醫、岡山市小畑町六一

ナ

那足守町宇下足守
中田 克夫 齒科醫、兒島郡味野町二九
中田修一郎 呼松郵便局長
兒島郡福田村
中田淺太郎 山田信販購組
長、兒島郡山田村
仲田民三郎 清造農道、川上郡高倉村
仲田 達夫 醫師、川上郡赤合村
仲田 季雄 濟世顧問、川上郡宇治村
仲田 雄一 備中三筆郵便
局長會長、阿哲郡上市村
仲田 寛一 矢神小學校長
阿哲郡矢神村
中野定次郎 旭工業會社代
表、岡山市七日市
中野 一彦 等國議長、同
驛構内官舎
中野 丈平 黒崎金庫理事
長、淺口郡黒崎村
中野 要 黒本小學校長
赤鷲郡山方村
中野 麟 岡山放送局長
術係、岡山市門田六四九
中野 佳一 萬富郵便局長
赤鷲郡萬富村
中山 熊造 一宮郵便局長
御津郡一宮村
中山 久明 三坂小學校長

阿哲郡新郷村
中山榮二郎 明新小學校長
阿哲郡石蟹郷村
中山吉三郎 農、上房郡中津井村
中山治三郎 岡山專賣局事
業課長、岡山市小橋町一
七八
中山 いさ 醫師、倉敷中央病院
中山 正次 醫師、眞庭郡久世町
中山 重男 齒科醫、吉備郡那珂村三三五七
中山 悦治 齒科醫、兒島郡兒島町小川
中山 寅一 林野議長、同驛構内官舎
中山 壽雄 金光小學校長
淺口郡金光町
中山 精治 醫師、岡山市門田一四三
中山 鏡 畫家、東京市外吉祥寺野田北六五〇
中山良太郎 濟世常務委員
上房郡皆郡町
中塚 一郎 郡農會長、淺口郡玉島町
中塚勲次郎 篆刻家、兒島郡兒島町
中村義三郎 監書書記、玉島區裁判所

中村 晋市 田治部小學校 中村 彰二 正藏務取
長 阿哲郡田治部村 役、郡務部茶屋町
中村 禧一 輦部小學校長 中島 喜代治 岡山合貯貸付
赤警郡輦部村 課長、岡山市古京町三
中村 俊雄 醫師、和氣郡 中島 權吉 海軍少將、東
片上町 寄島町 實 醫師、淺口郡 京市大森田園調布三丁目
寄島町 寄島町 豐 醫師、郡務部 張所長、上房郡高梁出
庄村 中村 孝 齒科醫、兒島 中島 信一 六高教授、岡
郡務部下村 中島 重 同志社大學教 山市門田一、〇六八
中村 源吾 齒科醫、津山 授、京都市上京區寺町今
市東町川崎 出町
中村 平 六高教授、岡 中島 三郎 陸軍中將、東
山市上出石町一三一 京市杉並區阿佐ヶ谷
中村 秀次郎 地主、郡務部 中島 正直 醫師、和氣郡
帶江村 三石町
中村 與市 農、郡務部帶 中島 亨馬夫 醫師、御津郡
江村 大野村
中村 純一郎 會社重役、都 中島 琢之 醫師、津山市
窪郡帶江村 田原
中村 孝太郎 社會事業主事 中島 大治郎 醫師、苫田郡
事、岡山市北方九九〇 高野村
中村 博爾 古吉野小學校 中島 要三 齒科醫、岡山
長、勝田郡加茂村 市巖井五七〇
中村 才八 濟世常務委員 中島 吉治郎 商議、津山市
和氣郡伊部町 船頭町四九
中村 孝平 中州小學校長 中島 嘉之吉 工兵十大隊一
倉敷市平田 等主計、岡山市津島新道
中村 正人 茶屋小學校長 中島 長一 商業、津山市
郡務部帶江村 中島 一平 岩山驛長、同
驛構内官舎

中島 政雄 香々美郵便局 大尉、岡山市北富
長、苫田郡香々美村 仲原鹿太郎 濟世常務委員
中島 源太郎 妻封家、兒島 和氣郡藤野村
郡務部町 中島 國惠 醫師、淺口郡
中島 五三郎 商業、岡山市 船穂村
新西大寺町 中島 清忠 前縣議、淺口
中島 文和 濟世常務委員 縣玉島町大字上成
・眞庭郡中和村下和 中原 亨 醫師、倉敷中
仲崎 二郎 金錢貸付業、 央病院
邑久郡行幸村福岡 中西 幸太郎 前縣議、兒島
中川 衛 辯護士會常議 郡下津井町
中川 次郎 KKアナウン 中西 久治 福谷信販驛利
サー、岡山市門田中町 組長、吉備郡福谷村
中川 滿雄 橫井小學校長 中西 熊太 歩十副官少佐
岡山市巖井 岡山市北方大和町
中江 幸平 一宮小學校長 中西 一海 醫師、兒島郡
津山市椿高下八五 赤崎町
中江 一也 辯護士、岡山 中澤 高司 土木出張所長
市内山下 津山市中山下四六一
中永 太郎 高陽小學校長 中澤 直吉 判事、岡山地
赤警郡高陽村 方裁判所
中原 淺吉 肥料商、大阪 中澤 好英 判事、岡山區
市西區鞍上通三ノ二 裁判所
中原 重樹 畜産場技師、 中間 友義 任ヶ瀬足守改
千葉市寒川新宿 修事務所長、岡山市南方
中原 行雄 歩十附小尉、 中道
岡山市上伊福園 中井 良平 醫大助教授、
岡山市上伊福園 岡山市岡一五
中原 健次 勞働者組合執 中井 五二 縣警業試驗場
行委員長、岡山市内田本 長、津山市
中原 信 工兵十大隊附 中桐 圭一 河内小學校長
淺口郡船穂村

中桐政太郎 妻眞田商、 中桐 一雄 中井小學校長
神戸市神戸區加納町 上房郡中井村
中桐 作太郎 商議、倉敷市 阿知町
中尾與一郎 醫師、英田郡 吉野村
中 良一 齒科醫、津山 市川崎
中谷 民江 商議、津山市 川崎町六八二
中塚 一碧樓 俳人、東京市 世田谷區若林町三七三
中上和一郎 醫學士、御津 郡新山村大字尾原
中萬 類治 濟世常務委員 久米郡東栗倉村
久米郡東栗倉村 長尾 清志 維新小學校長
長尾 清志 維新小學校長 眞庭郡二川村
長尾 廣太郎 朝鮮土地重役 呂久郡鹿野町
長毛 見鶴 岡山信驛理事 和氣郡三國村
和氣郡三國村 長尾 俊憲 郡農會長、吉
備郡岩田村
長尾 武市 齒科醫、淺口 郡鴨方町小坂西
尾島時太郎 濟世顧問、上 房郡豐野村
長尾 佐助 濟世顧問、川 上郡吹屋町

長尾 壽重 元縣議、眞庭 難波 要 濟世常務委員
郡久世町 英田郡橋原村
長尾 觀一 濟世常務委員 難波 九一 濟世常務委員
吉備郡岩田村 郡務部庄村
長 哲夫 齒科醫、小田 難波 甚吉 木山信販驛利
郡務部内村内浦 組長、眞庭郡木山村
長 實一 北木島小學校 難波 富三郎 尾上購販信組
長、小田郡北木島村 長、御津郡一宮村尾上
長 毅作 農、小田郡神 難波 健治 今村信販驛利
島内村 組長、御津郡今村
長 眞三郎 岡山市議、岡 難波 五郎 一書籍商、川上
山市新西大寺町二一 郡成羽町
長 智 醫師、上房郡 難波 左馬太 齒科醫、兒島
高梁町 郡味野町三八九九ノ二
長 孝一 醫師、邑久郡 難波 辰三郎 齒科醫、兒島
呂久村 郡琴浦町一五五八
長 田松五郎 醫師、淺口郡 難波 晴太郎 庄小學校長、
金光町 郡務部庄村下庄
長 健次郎 醫師、吉備郡 難波 保 高倉小學校長
服部村 西田郡高倉村
長 春利 醫師、阿哲郡 難波 敏逸 醫大講師、御
美殿村 津郡今村五九九
長 俊郎 齒科醫、兒島 難波 武太郎 齒科醫、上房
郡宇野町七二六七 郡務部野村野野
長 徹定 安養寺住職、 難波 謙治 醫師、吉備郡
郡務部養生村 庭瀬町
長 征章 福田實業學校 難波 益太 醫師、兒島郡
長、岡山市西河原 灘崎村
長 日應 濟世常務委員 難波 經男 醫師、御津郡
吉備郡大和村 金川町金川
長 森繁一郎 香谷實業校長 難波 元弘 旭硝子試驗所
和氣郡香谷町大内 長、東京市赤坂青山南町

難波 康一 資産家、東京 難波 康一 資産家、東京
市四谷區仲町三ノ三九 難波 幸一 九州帝大教授
難波 幸一 九州帝大教授 福岡市草香江町
難波 土郎 一宮郵便局長 難波 土郎 一宮郵便局長
西田郡一宮村 西田郡一宮村
難波 儀市 製炭、阿哲郡 難波 儀市 製炭、阿哲郡
新郷村 新郷村
難波 泰一 農、上房郡巨 難波 泰一 農、上房郡巨
瀬村 瀬村
難波 敬治 農、上房郡上 難波 敬治 農、上房郡上
有漢村 有漢村
難波 傳治郎 米穀商、高梁 難波 傳治郎 米穀商、高梁
町 町
難波 要平 農、上房郡吉 難波 要平 農、上房郡吉
川村 川村
難波 季一 高倉小學校長 難波 季一 高倉小學校長
御津郡圓城村高富 御津郡圓城村高富
難波 鐵太郎 岡山市議、岡 難波 鐵太郎 岡山市議、岡
山市津島二八一 山市津島二八一
難波 清人 代議士、東京 難波 清人 代議士、東京
市大森區新井宿一丁目二 市大森區新井宿一丁目二
二九五 二九五
難波 彌一郎 吳服商、倉敷 難波 彌一郎 吳服商、倉敷
市東町 市東町
難波 鶴義 市議、倉敷市 難波 鶴義 市議、倉敷市
川西町 川西町
永田 古雄 讀甘小學校長 永田 古雄 讀甘小學校長
英田郡大原町 英田郡大原町
永田 直則 蠶業取締所長 永田 直則 蠶業取締所長
岡山市上伊福六二七 岡山市上伊福六二七
永田 正史 川邊小學校長 永田 正史 川邊小學校長

吉備郡久代村 英田郡大原町
永山卯三郎 郷土史家、兒 内藤仙太郎 農業、郡務部
島郡粒江村 常務村
永山 久吉 下津井鐵道重 内藤 壽吉 農業、倉敷市
役、兒島郡下津井町 四十瀬
永山 久平 酒造組合長、 内藤 清太郎 富福信販驛利
兒島郡下津井町大島 組長、倉敷市
永井 甲治 齒科醫、和氣 内藤 七郎 醫師、兒島郡
郡和氣町和氣 味野町
永井 林治 醫師、邑久郡 内藤 正剛 代議士、大阪
牛窓町 市東區五ノ八
永井 秀太 結核研究所長 内藤 雋輔 六高教授、岡
東京麹町九段四ノ三ノ三 山市門田文化町一〇六八
永井恒三郎 酒造組合長、 内藤 喜一 織物業、兒島
上房郡高梁町南町 郡琴浦町
永光 曉 齒科醫、淺口 内藤 章一 江見小學校長
郡六條院町二九三五 英田郡江見町
永瀬 正夫 醫師、岡山市 内藤 昇 黒丸郵便局長
東中山下四 眞庭郡二川村
永瀬 又七 倉紡重役、岡 名和 剛 辯護士、岡山
山市上伊福 市西中山下
永瀬 寛一 醫師、郡務部 名島 道生 郵便局長、淺
福田村 口郡玉島町
永原 伸雄 三菱理事、東 名畑 一夫 岡山市議、岡
京市小石川篤籠町二一八 山市南方二七五
永島 猛 醫師、岡山市 名越 照夫 蚊家小學校長
日赤病院 阿哲郡新砥村
永岡 三郎 刑務所看守長 名和 里治 富原小學校長
岡山市旭町宮舎 眞庭郡勝山町
永守甚太郎 農林主事補、 名越省一郎 足立小學校長
岡山市門田三〇〇 阿哲郡神代村
内藤 繁雄 大原小學校長 名越 三郎 眞鍋小學校長
三四二

人名録—ナ、ニの部

小田郡真鍋島村 名越 治良 上竹莊小學校長、上房郡上竹莊村、名越 州平 醫師、阿哲郡萬歲村、名越 一六 齒科醫、阿哲郡新見町一三三、直原 清志 大戸信販購組長、久米郡吉岡村、直原 清太郎 山方信販購組長、赤磐郡山方村、直原 覺 大戸郵便局長、久米郡吉岡村、直原 放壽 畫家、大阪府北河内郡三郷村、成川 忠夫 文房具商、大阪府東區高麗橋、成松 清雄 土木出張所長、真野郡勝山町三田、成田十四市 岡山高女教授、岡山市門田鶴巻町七、奈良眞三郎 醫師、岡山市内田一七八、南條 泰助 川東南信販購利新長、眞野郡川東村、嶋坂 増造 鹿忍信販購利組長、邑久郡鹿忍町、細三郎 農、阿哲郡野馳村、苗村 和夫 齒科醫、御津郡長田村井原、並川 孝隆 縣學務部長、

二

岡山市石關町一四八 尙原 廉 濟世常務委員、赤磐郡野馳村、奈須 要 歩十附中尉、岡山市津島新道(中村) 那須 四郎 醫師、兒島郡日比町、那須 忠雅 手莊小學校長、川上郡手莊村、那須 信俊 日牛郵便局長、和氣郡日生町、那須 正俊 濟世常務委員、和氣郡日生町、那須 澤吉 中國民報工務局長、岡山市下之町、檜崎 孝 齒科醫、倉敷市市萬町四三二、檜崎 淺太郎 東京文理大教授、東京市板橋橋馬南町、檜崎 操一 矢掛中學校長、岡山市門田一三九八、檜崎 宣弘 濟世顧問、小田郡大江村、西村丹治郎 代議士、岡山市上西川町一三六、西村伊勢松 日赤耳鼻喉科醫、岡山市東中山下九三三、西村 敏也 醫師、岡山市下石井三〇五、

三四

仁科俊一郎 監督書記、岡山區裁判所檢事局、仁科 數一 富岡小學校長、淺口郡里庄村、仁木 純一 農林技手、岡山市上伊福津倉一、三、仁科 耕二 無職、小田郡今井村、新田 貞作 農、上房郡水田村、二宮 晋一 憲兵司令部總務部長、東京市田谷北澤、二宮 力 岡縣司令部職業輔導部主事、岡山市北方四〇四、二宮 政吉 縣警部、岡山市八番町一、二宮 治重 在鄉陸軍中將、東京市麹町九段借行社、西岡 實太 勸業銀行課長、東京市牛込區砂土原町、西岡 謙次 獸肉組合理事、岡山 市萬町八〇、西岡 幸治郎 醫師、川上郡成羽町、西岡 雪雄 齒科醫、岡山市富田町一七、西山 九右衛門 醫師、邑久郡那美和村、西山 龍輔 自動車會社社長、上房郡上竹莊村、西山富佐太 内山下小學校

長、岡山市内田 西山七太郎 濟世顧問、小田郡吉田村、西山 武雄 農、小田郡吉田村、西山 英一 濟世常務委員、淺口郡富田村富、西川 米二 津山市議、津山市南社座町、西川 賢一 北書野小學校長、勝田郡尾村、西川 浩 特許局課長、東京市大森區山王町一、二八五、西本六兵衛 新山小學校長、御津郡新山村尾原、西本 實 判事、岡山地方裁判所、西本 佐平 齒科醫、小田郡矢掛町二六二〇、山下 經一 六高教授、岡山市門田一、一四九、山下武次郎 醫師、久米郡倭文西村、山下 騰馬 醫師、眞庭郡津田村、西森 肇 縣視學、岡山市巖井昭和町二〇九〇、西森 元 眞備高女校長、岡山市津島三三六八、西森 猷太郎 北海道拓殖重役、札幌南二條西十丁目、

西田 義一 總社警務局長、吉備郡總社町、西田 保三郎 前大阪機械重役、大阪住吉區住吉町、西井 弘之 醫師、小田郡金浦町、西井 鹿二 醫師、淺口郡大島村、西江 瀧 農、川上郡吹屋町、西島芳太郎 本郷郵便局長、阿哲郡本郷村、西尾 保平 下津井郵便局長、兒島郡下津井町、西尾元次郎 岡山新聞社長、岡山市東山、西尾 三郎 伊島小學校長、岡山市門田屋敷、西松 定雄 醫師、久米郡大井西村、西浪又太郎 湯野信販購利組長、川上郡湯野村、西林太一郎 玉川信販購利組長、川上郡玉川村、西門 義一 大原農研所員、農博、倉敷市高砂町、西 茂樹 濟世常務委員、川上郡玉川村、西山 昌明 取引所理事、岡山市下田町三一、西田 泰介 運動家、英田郡大原町古町、

ネ

根岸 博 醫大教授、岡山市一番町一二、根岸 正一 高松高商教授、高知市四番町二八、根本 光 醫師、倉敷中央病院、野崎 壽太郎 濟世常務委員、邑久郡行幸村、野崎 茂平 前縣議、兒島郡味野町、野崎 慶四郎 味野郵便局長、兒島郡味野町、野崎 勇吉 商業、上道郡西天寺町、野崎 正衛 縣視學、岡山市大供九三、野崎 三郎 陸軍少佐、東京市杉並區上荻窪、野崎 丹麥太郎 素封家、兒島郡味野町、野崎 廣太 鐘紡重役、吉備郡味野町、野崎 文明 實業家、和氣郡英保村、野崎 勝輝 素封家、兒島郡味野町、野上 隆 福渡高女教授、上道郡西天寺町掛之町、野上 義止 東栗倉小學校

三四五

長、英田郡東栗倉村、野田 眞雄 地方視學官、岡山市五番町二五、野田清一郎 旅順工大教授、旅順工科大学内、野田 傳造 醫師、兒島郡甲浦村、野田 一 前縣立二二商校長、岡山市門田、野田 淨隆 六高教授、岡山市門田八三三、野田千代野 女師教諭、岡山市五番町二五、野一色 益知 足立驛長、同驛構内官舎、野村 交止 醫師、岡山市野村 完六 津山高女教諭、津山市上之町、野上 富田 醫師、都窪郡菅生村、野上 利男 齒科醫、岡山市上石井二六〇、野中 留藏 那是製絲久世工場長、眞庭郡久世町、野口士太郎 西阿知郵便局長、淺口郡西阿知町、野間 喜八 横井上信販購組長、御津郡横井村、野間 五造 岡山業、東京市牛込區下谷仲之町、野村 恭道 少林寺住職、